New2016F51HyperMonster 製品使用マニュアル

＜目次＞

１．はじめに・・・

Ⅰ．はじめに
New2016F51HyperMonsteFile 製品は、
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
　　～
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.50.xlsm
の 50 個データファイルと
　New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
のメインファイルの計 51 個のファイルから構成されてます。これら 51 個のファイル全体を一つのシステムと捉えてご利用頂く製品です。
51 個のファイルは、ファイル
2016CV-DataBaseAdvance16000Ver1（コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
をもとに作成されたもので、機能や構造的にはこのファイルとほとんど変わりがありません。
これらの 51 個のファイルにはそれぞれ 80 枚の入力シートがあり、１枚の入力シートには 200 のフィールドがあり、デフォルトでは５０ レコード入力のかたちですが、最大 1,000,000 レコードまで増加させることができます。
そして、50 個のデーターファイルのシート「４結合ファイル作成コピー用」とファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
のシート「５１結合ファイル作成コピー用」はそれぞれのファイル内の 80 枚の入力シートの内容を表示させることができます。そして更にファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
のシート「５１結合ファイル作成コピー用」は、50 個のデーターファイルのシート「４結合ファイル作成コピー用」と関数でリンクされており、50 個のデーターファイルのシート「４結合ファイル作成コピー用」の内容を表示させることができます。つまり、ファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
のシート「５１結合ファイル作成コピー用」は、最大 1,000,000 レコード 816,000 フィールドの内容を表示することができ、最大 1,000,000 レコード 816,000 フィールドのデーターの中から必要なデーターを取り出してシステムに組み込まれたマクロ機能を用いて、データーを次々変更しながら、印刷したり、また、印刷フォームの印刷範囲を PDF の添付ファイルとして該当者または該当組織にメール送信する処理を行うことが可能です。
上で述べたように New2016F51HyperMonsteFile 製品の 51 個のファイルは、ファイル
2016CV-DataBaseAdvance16000Ver1（コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
機能や構造的にはこのファイルとほとんど変わりがありませんが、ファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
や
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
　　～
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.50.xlsm
の 50 個データーファイルにはファイル
2016CV-DataBaseAdvance16000Ver1（コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
とはワークシートの種類やユーザーフォームの機能に若干違いがあります。これらの違いを中心に下の２、３で説明させて頂きます。

なお、ファイル
2016CV-DataBaseAdvance16000Ver1（コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
と全く同じ構造・機能を持っているファイル
2016CV-DataBaseAdvance16000Ver1 試用版.xlsm
を私どものホームページのページ「２０１６試用版ファイルダウンロード」の『PARTⅢ　「２０１６試用版ファイル」のダウンロード』からダウンロードしてご覧頂くことができます。また、ファイル
2016CV-DataBaseAdvance16000Ver1（コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
には極めて多くの機能があり、その全てを解説するには 5,000 ページ以上の解説が必要でほとんど不可能です。
そのため、ファイルの使用から印刷までの作業を行っていく上で、頻繁に利用される必要最小限知っていただきたいマクロの利用方法や、また知っていると大変便利なマクロの利用方法、能率的なシステムの構築するためのマニュアルを私どものホームページのページ「使用マニュアルダウンロード」からダウンロードしてご覧いただけます。
ページ「使用マニュアルダウンロード」の次の部分をダウンロードしてご覧ください。
Ⅰ新しいマニュアルのダウンロード

準備　pdf ファイルの保存方法.pdf のダウンロード
１.CV-excel database ファイルの使用から印刷までの基本的な流れ.pdf のダウンロード
２.基本的なシート.pdf のダウンロード
３.ファイル名の変更、ファイルの上書き保存マニュアル.pdf のダウンロード
４.シート名変更マクロ処理マニュアル.pdf のダウンロード
５.項目表示作成マニュアル.pdf の ダウンロード
６.入力シートの行数追加に関するマクロ処理マニュアル.pdf のダウンロード
７.「印刷編集シート」の編集領域色塗り替え処理マクロマニュアル のダウンロード
８.入力シートデーターのシート「印刷フォームソートデーター」等への複写マクロマニュアル.pdf のダウンロード
９.シート「ファイル作成コピー用」のシート「印刷フォーム」等への複写マクロマニュアル.pdf のダウンロード
10.「印刷フォーム」シート等の印刷部分の様式設計マニュアル.pdf のダウンロード
11.印刷マクロ命令入力シートであるシート「一覧表付ファイル作成入力設定」の入力と印刷マニュアル.pdf のダウンロード
12.入力シート間の列単位複写マクロマニュアル.pdf のダウンロード
13.追加ワークシート名設定マクロマニュアル.pdf のダウンロード
14.編集シートから入力シートへの表データー複写マクロマニュアル pdf のダウンロード
15.システムの初期化，シートデーターの削除・消去等マクロマニュアル.pdf のダウンロード
16.一覧表付ファイル作成入力設定の連続印刷マニュアル.pdf のダウンロード
17. セルの値を利用したメールの送信者ごとの見易いメール本文の作成の仕方.pdf のダウンロード

２．2016CV-DataBaseAdvance16000Ver1（コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm に追加したシートと異なるシート:

（１）ファイル New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm の場合:

追加したシートは「CallDataFile の登録」です。
このシートは、ファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
およびファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
～
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.50.xlsm
の 50 個データファイルのドライブ、フォルダー名、ファイル名の管理、ファイルの開閉状況を管理するためのシートです。ファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm

を開いていき、ユーザーフォーム「シート選択・一覧表付ファイル設定印刷処理」のタブ DataFile開閉等 を選択すると次の[図１]の画面ようになります。

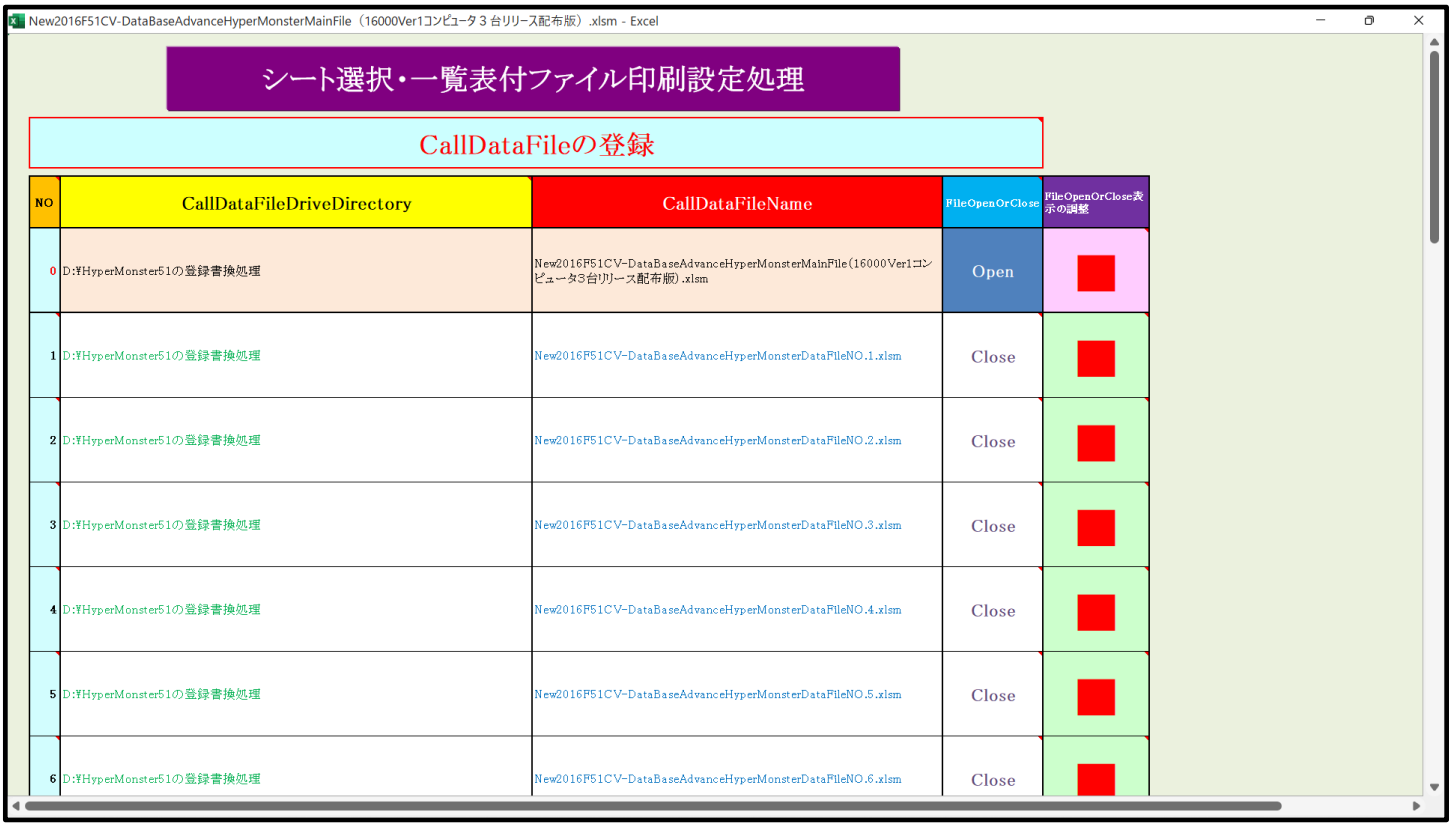
[図1]

上の[図１]の画面のコマンドボタン

CallDataFileの登録シート選択

をクリックすると、次の[図２]の画面のようになりシート「CallDataFile の登録」が選択できます。

[図２]



また、変更したシートはシート「ファイル作成コピー用５１結合」です。

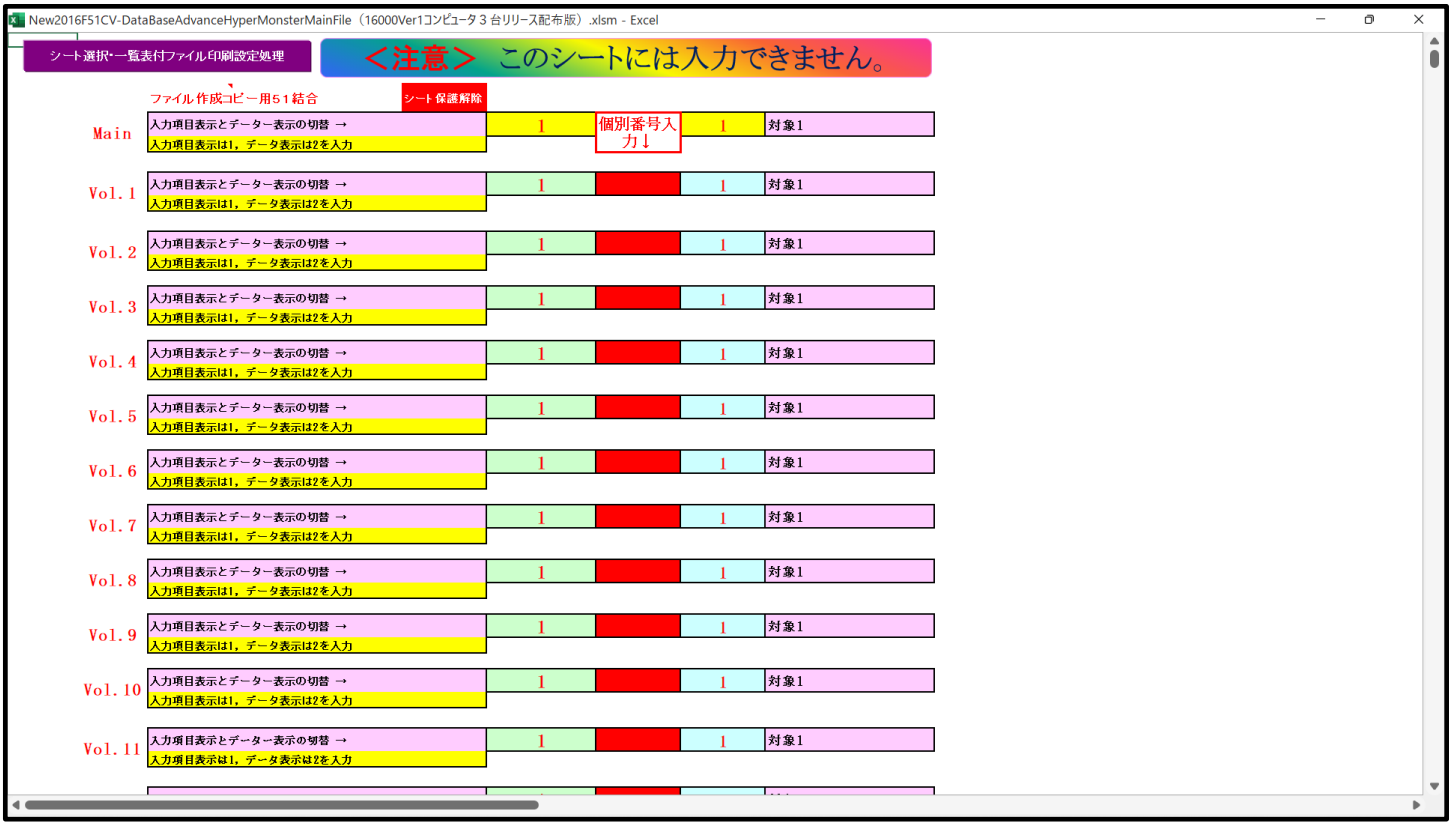
ファイル
2021CV-DataBaseAdvance16000Ver1（コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
のシート「４結合ファイル作成コピー用」を改造しシート「ファイル作成コピー用５１結合」としました。このシートは５０個のデータファイルの各シート「４結合ファイル作成コピー用」と関数でリンクされており、リンク先管理をおこなうシートです。

ユーザーフォーム「シート選択・一覧表付ファイル設定印刷処理」のタブ シート選択，処理呼出1 を選択すると次の[図３]の画面ようになります。

[図３]

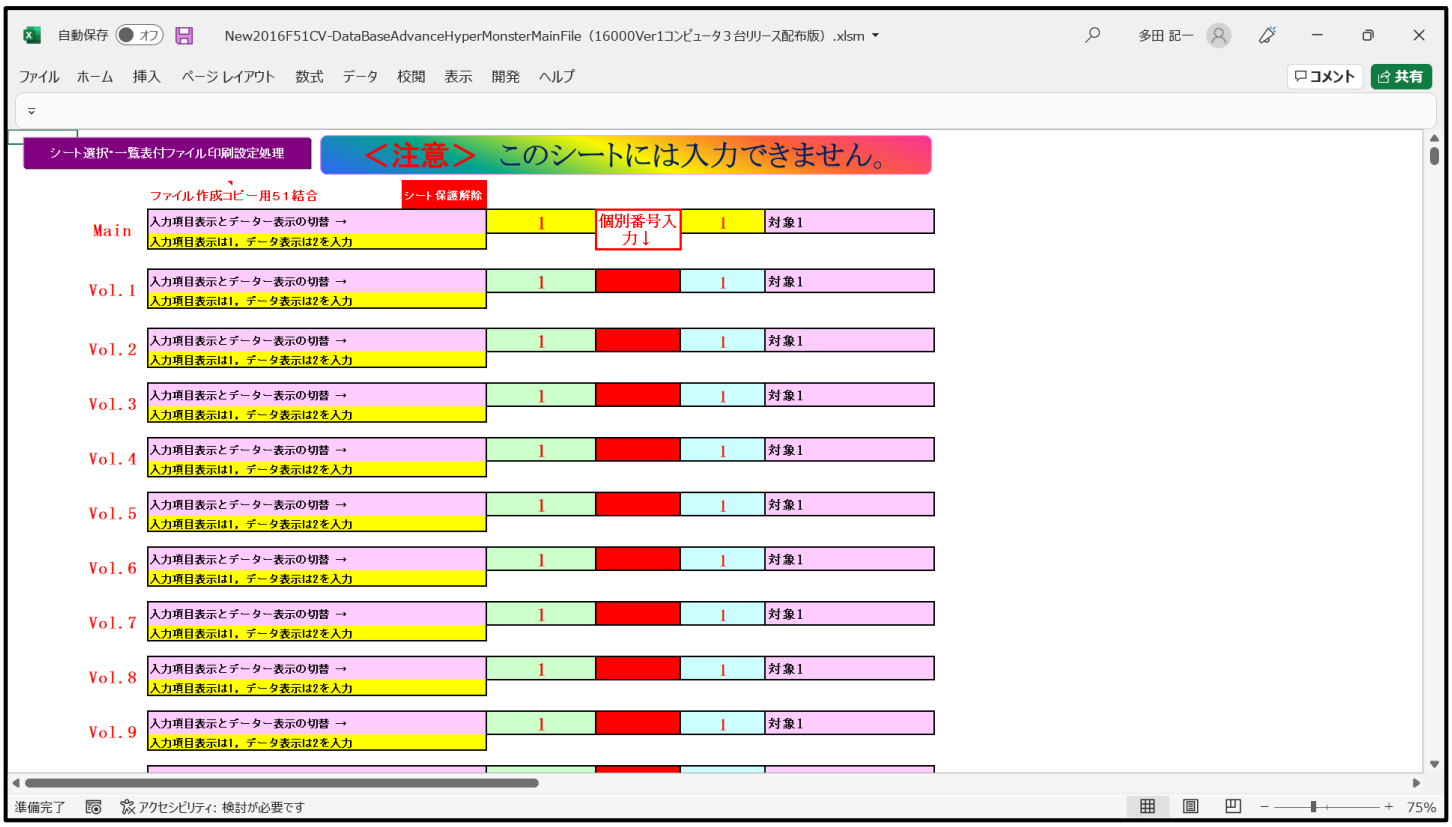
上の[図３]の画面のコマンドボタン ファイル作成コピー用51結合 をクリックすると、次の[図４]の画面のようになりシート「ファイル作成コピー用５２結合」が選択できます。

[図４]



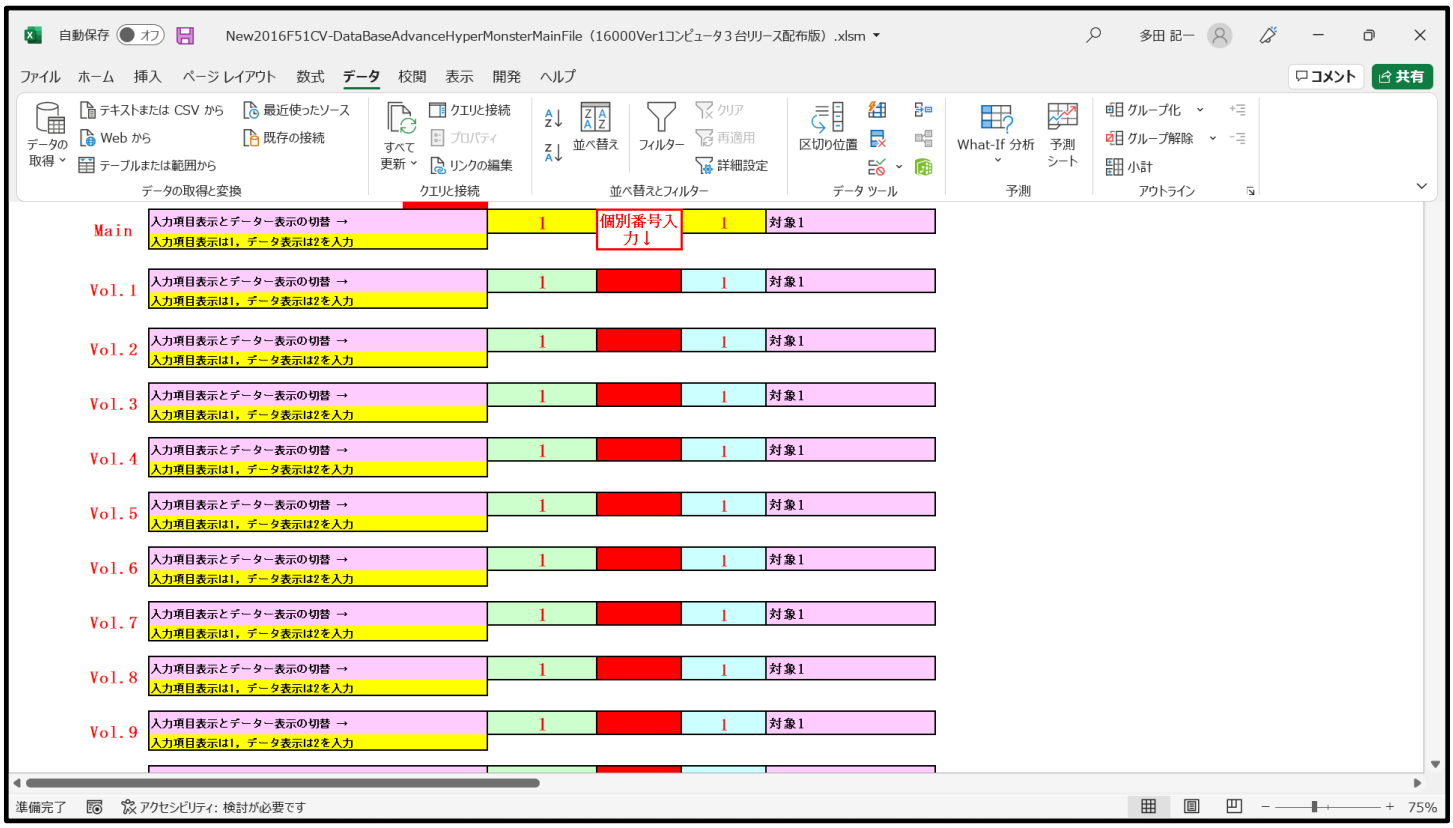
上の[図４]の画面でコマンドボタン **標準画面表示** をクリックして標準画面表示に切り替え、セル **シート保護解除** の部分をダブルクリックするとシートの保護が解除されリンクの編集が可能となり、次の[図５]の画面ようになります。

[図５]



上の[図５]の画面の上側の」データの部分をクリックすると次の[図６]の画面のようになります。

[図６]



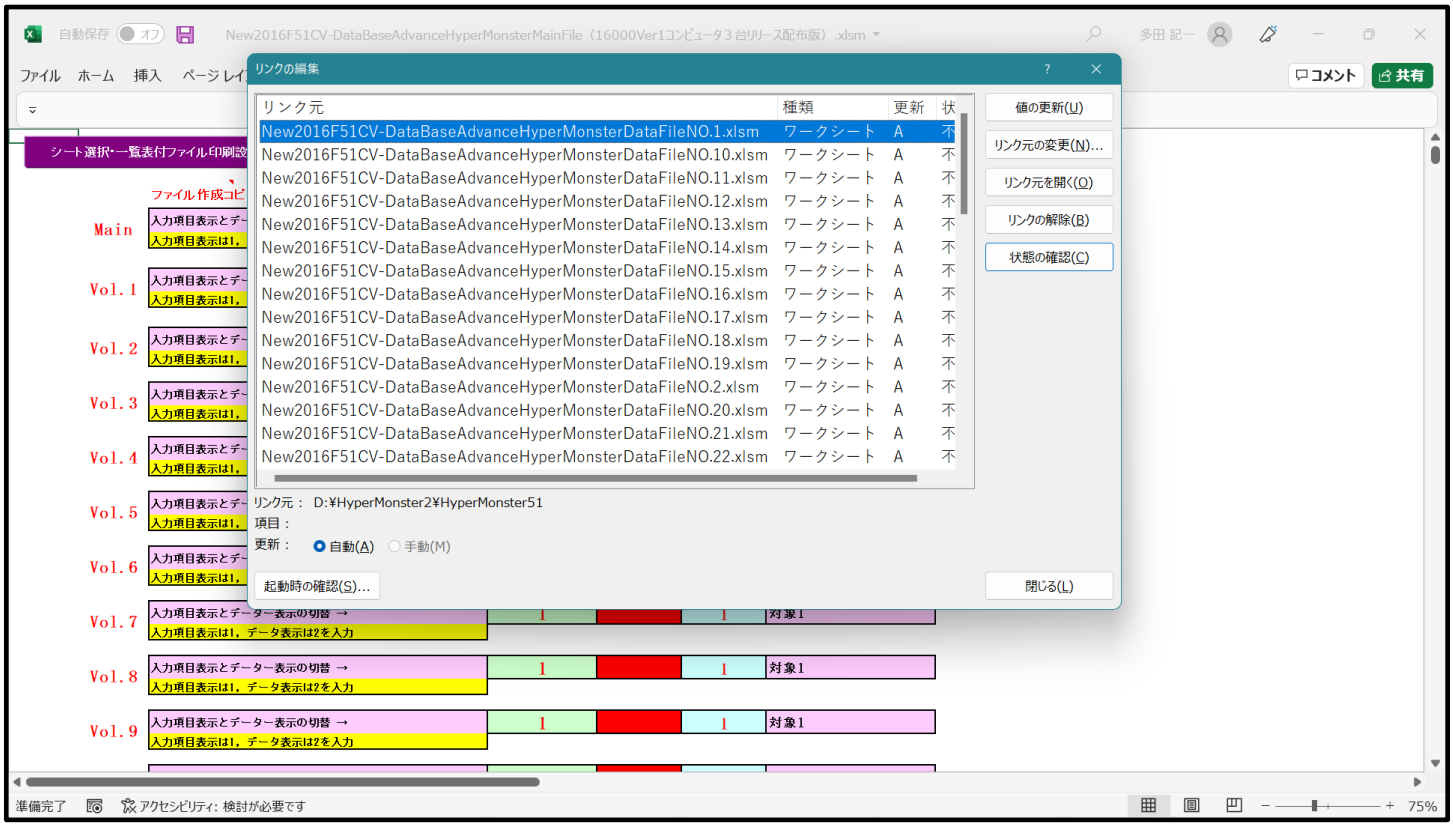
上の[図６]の画面のリンクの編集をクリックすると次の[図７]の画面のようになり、リンクの編集をすること等が可能となります。
先ずファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
を開いたら、[図７]の画面の
各ファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
～
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.50.xlsm

に対して、リンク元の部分でそれぞれファイルを選択し、次の[図７]の画面のコマンドボタンリンク元を開く(O)をクリックしてリンク元を開いてください。そして、データーファイルを開いたらファイルを保存して閉じてください。この操作をデーターファイルの個数の 50 回繰り返してください。そして最後に、ファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
を保存して閉じてください。
すると次回以降ファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
を開いて、ファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
に備わっているマクロ機能を用いて、各データーファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm

～
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.50.xlsm
を開いて編集場合、ファイル
New2016F11CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
に対しての各リンク元のファイルとして容易に各データーファイルができます。リンク元を開き上の一連の操作が完了したら必ず上の[図５]の画面のセル ファイル作成 の部分をダブルクリックしてとシート「ファイル作成コピー用５１結合」を保護してください。

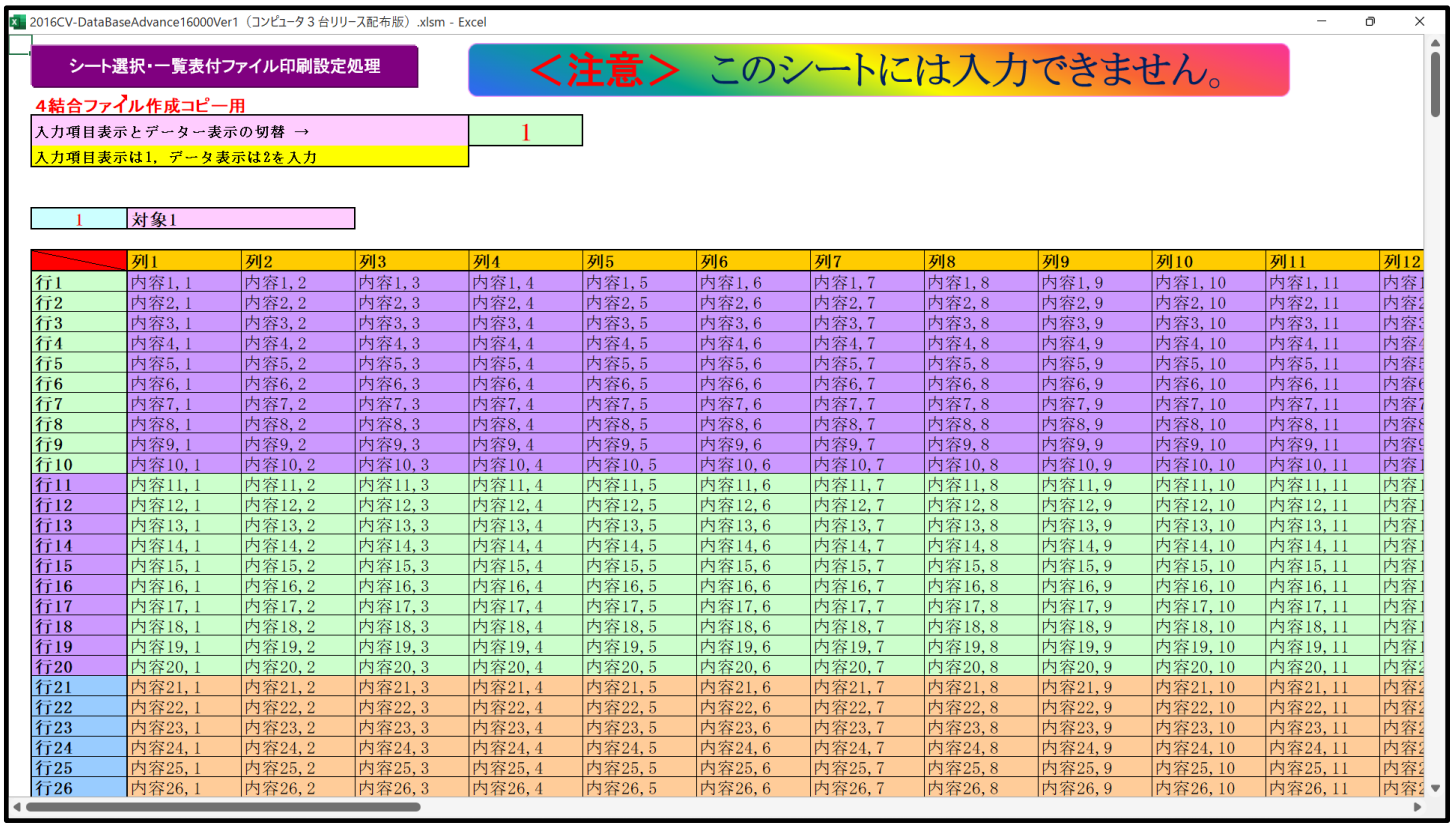
但し、リンク元の変更をする必要はほとんどありません。ファイルのマクロ機能を用いデーターファイルを呼び出し、そのファイル名を変更すると、元のファイル名のリンク先が自動的にファイル名変更先のリンクに変更されます。例えば、ファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
をメインファイルのマクロ機能を用いて呼び出し、ファイル名を
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1 変更テスト.xlsm
とすると、ファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
のリンク先が自動的に
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1 変更テスト.xlsm
に変更されます。
リンク先を変更する操作はどうしても必要な場合に限っておこなってください。なおその場合、リンク元の変更処理が済んだら、必ず上の[図５]の画面のセル ファイル作成 の部分をダブルクリックしてとシート「ファイル作成コピー用５２結合」を保護してください。
特にご注意いただきたいことは、シート「ファイル作成コピー用５１結合」において、行列やセルの削除は絶対やらないでください。もともとシート「ファイル作成コピー用５１結合」は、メインファルに備わったマクロ機能を用い、「印刷フォーム」シートに複写し、「印刷フォーム」シート上で編集するものです。シート「ファイル作成コピー用５１結合」を複写した「印刷フォーム」シート上では行列やセルの削除を編集のためにおこなうことはできます。ですが、シート「ファイル作成コピー用５１結合」において、行列やセルの削除は絶対やらないでください。重ねてご注意申しあげます。

[図７]



因みにファイル
2016CV-DataBaseAdvance16000Ver1（コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
のシート「４結合ファイル作成コピー用」を示すと次の[図８]の画面のようになります。
これと比較して、シート「ファイル作成コピー用５２結合」は見かけ上も機能の面でも大きく変更されています。

[図８]



（２）ファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm～
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.50.xlsm の場合：

これらの５０個のデーターファイルは全て同じですので、
ファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm～
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.50.xlsm
のうち、代表してファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
を用いて説明させていただきます。

ファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
を開いてユーザーフォーム「シート選択・一覧表付ファイル設定印刷処理」のタブ
Fileの登録シート選択・ファイル名のMainFileへの登録を選択すると次の[図９]の画面ようになります。

[図９]

上の[図９]の画面のコマンドボタン

Fileの登録シート選択

をクリックすると、次の[図１０]の画面のようになりシート「File の登録」が選択できます。
このシートは、ファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
およびファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
のデータファイルのドライブ、フォルダー名、ファイル名の管理、ファイルの開閉状況を管理するためのシートです。

[図１０]

３. 2016CV-DataBaseAdvance16000Ver1（コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm と異なるユーザーフォームの部分

（１）ファイル New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile
（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm の場合:

ファイル New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm

を開いていき、ユーザーフォーム「シート選択・一覧表付ファイル設定印刷処理」のタブ DataFile開閉等 を選択すると次の[図１１]の画面ようになります。

[図11]

ユーザーフォーム「シート選択・一覧表付ファイル設定印刷処理」のタブ DataFile開閉等 を選択した上の[図１１]の画面の部分がファイル
2016CV-DataBaseAdvance16000Ver1（コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
と異なるユーザーフォームの部分です。タブ DataFile開閉等 の右側の全てのタブは、ファイル
2016CV-DataBaseAdvance16000Ver1（コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
と全く同じユーザーフォームで機能も全く同じです。

タブ DataFile開閉等 で表示されているコマンドボタン

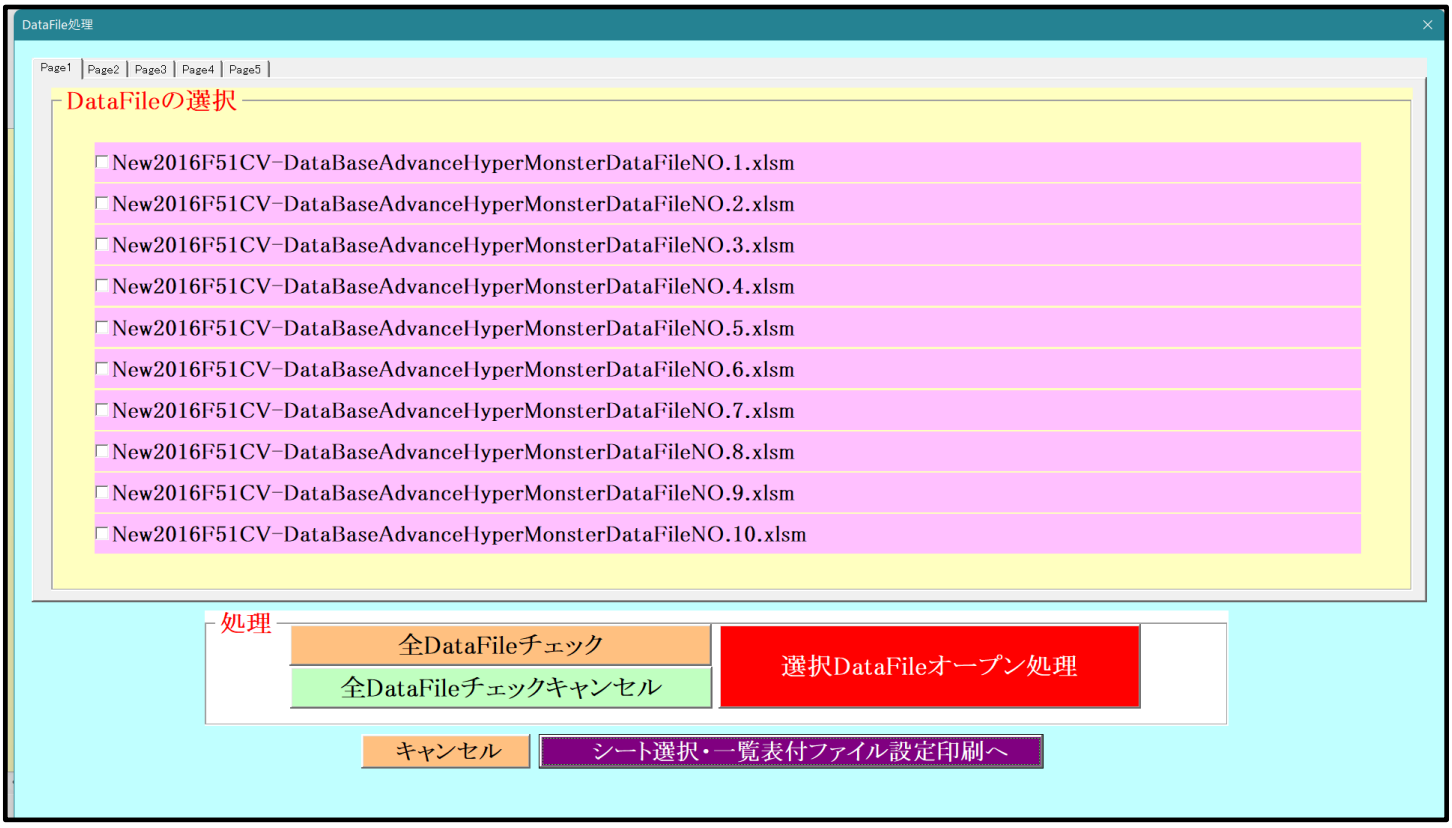
CallDataFileの登録シート選択

については既に説明済みですので、これ以外のタブ DataFile開閉等 のユーザーフォームのコマンドボタンの機能等について説明してまいります。
上ののコマンドボタン

選択DataFileOpen処理呼出

をクリックすると次の[図１２]の画面になります。

[図１２]



上のユーザーフォーム[図１２]の画面はデーターファイルを呼び出すためのもので、タブが

Page1 Page2 Page3 Page4 Page5 の５個あり、そのうちのファイル

New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm～
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.10.xlsm

のファイルを呼び出すことができるタブ Page1 が選択されている状態です。

New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2.xlsm
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.3.xlsm
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.4.xlsm
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.5.xlsm
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.6.xlsm
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.7.xlsm
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.8.xlsm
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.9.xlsm
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.10.xlsm

の部分で呼び出したいファイルにチェックを入れて、例えば、

☑ New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
☐ New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2.xlsm
☐ New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.3.xlsm
☐ New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.4.xlsm
☐ New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.5.xlsm
☐ New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.6.xlsm
☐ New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.7.xlsm
☐ New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.8.xlsm
☐ New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.9.xlsm
☐ New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.10.xlsm

としてコマンドボタン

をクリックすると、ファイル

New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
の呼び出しが開始されます。呼び出しが開始されると、次の立ち上がり画面である[図１３]の画面が表示されます。

[図１３]

上の[図１３]の画面のコマンドボタン

をクリックすると次の[図１４]の画面が表示された後その次の[図１５]の画面のが表示されます。

[図１４]

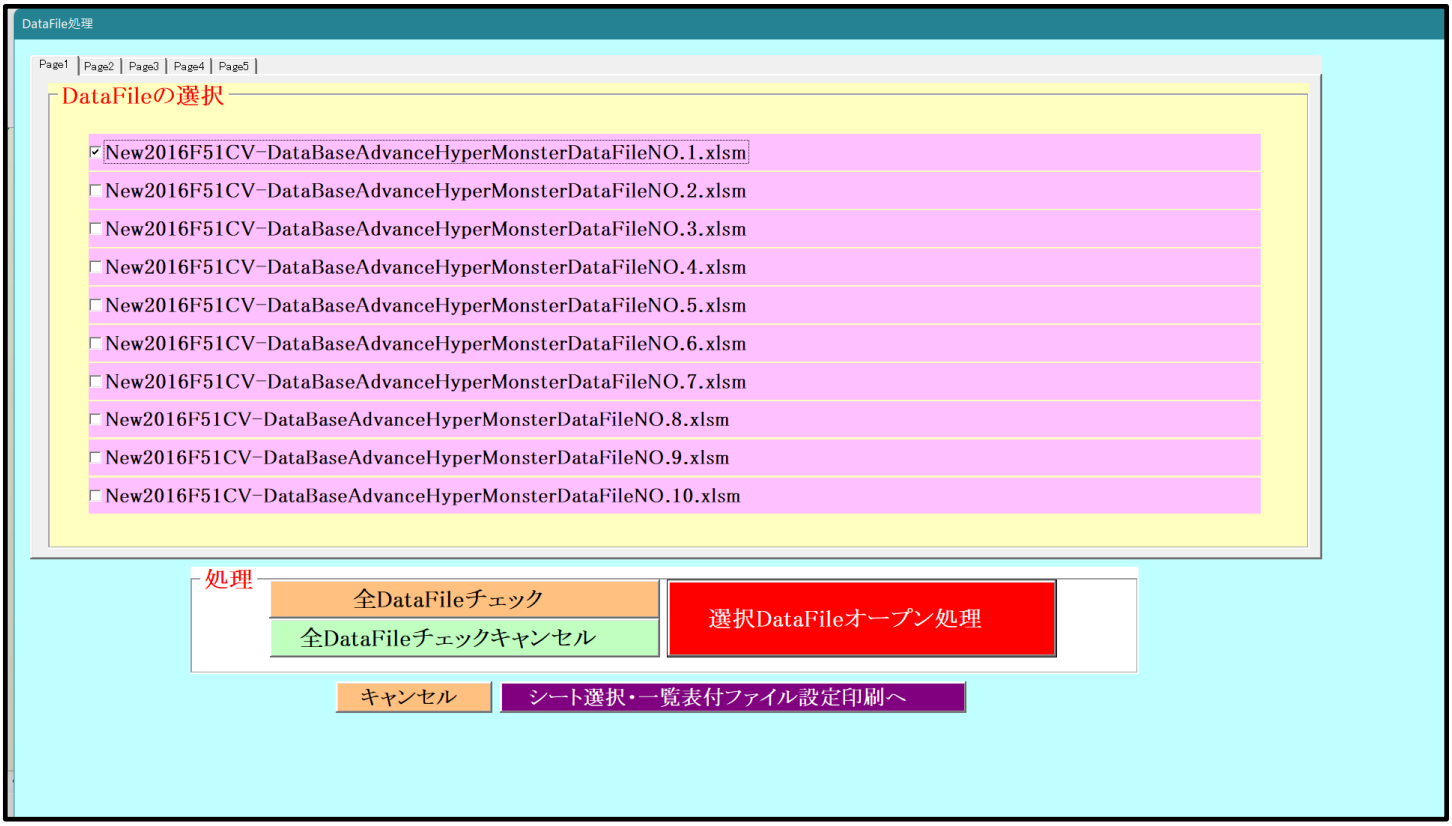
[図１５]

そして上の [図１５]の画面のコマンドボタン

Fileの登録シート選択

をクリックすると引き続き次の[図１６]の画面が表示されます。

[図１６]



そしたら[図１６]の画面のコマンドボタン **シート選択・一覧表付ファイル設定印刷へ** をクリックすると次の[図１７]の画面になり、ファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
の呼び出しが完了と「なります。

[図１７]

なお、このユーザーフォームでは、５０個のデーターファイルにチェックを入れて５０個のデーターファイルを同時に呼び出すことような形も可能なようにも思いますが、それは今の PC のスペックでは不可能です。私どもの PC は基本速度 2.8GB、最高速度 4.7GB の CPU 搭載で 32GB のメモリー搭載の PC で呼び出し処理のテストをしましたが、入力シートのレコードがデフォルトの 50 でデーターを何も入力していない全く初期状態でデーターファイルを呼び出す場合、せいぜい 20 個を同時に呼び出すのが限界でした。ましてや入力シートのレコード数を増やし、また、実際にデーターを入力した場合は、同時にデーターファイルを呼び出す個数はもっともっと制限されてしまいますのでご承知おきください。

次に[図１１]の画面のコマンドボタン

選択DataFileClose処理呼出

をクリックすると次の[図１８]の画面になります。

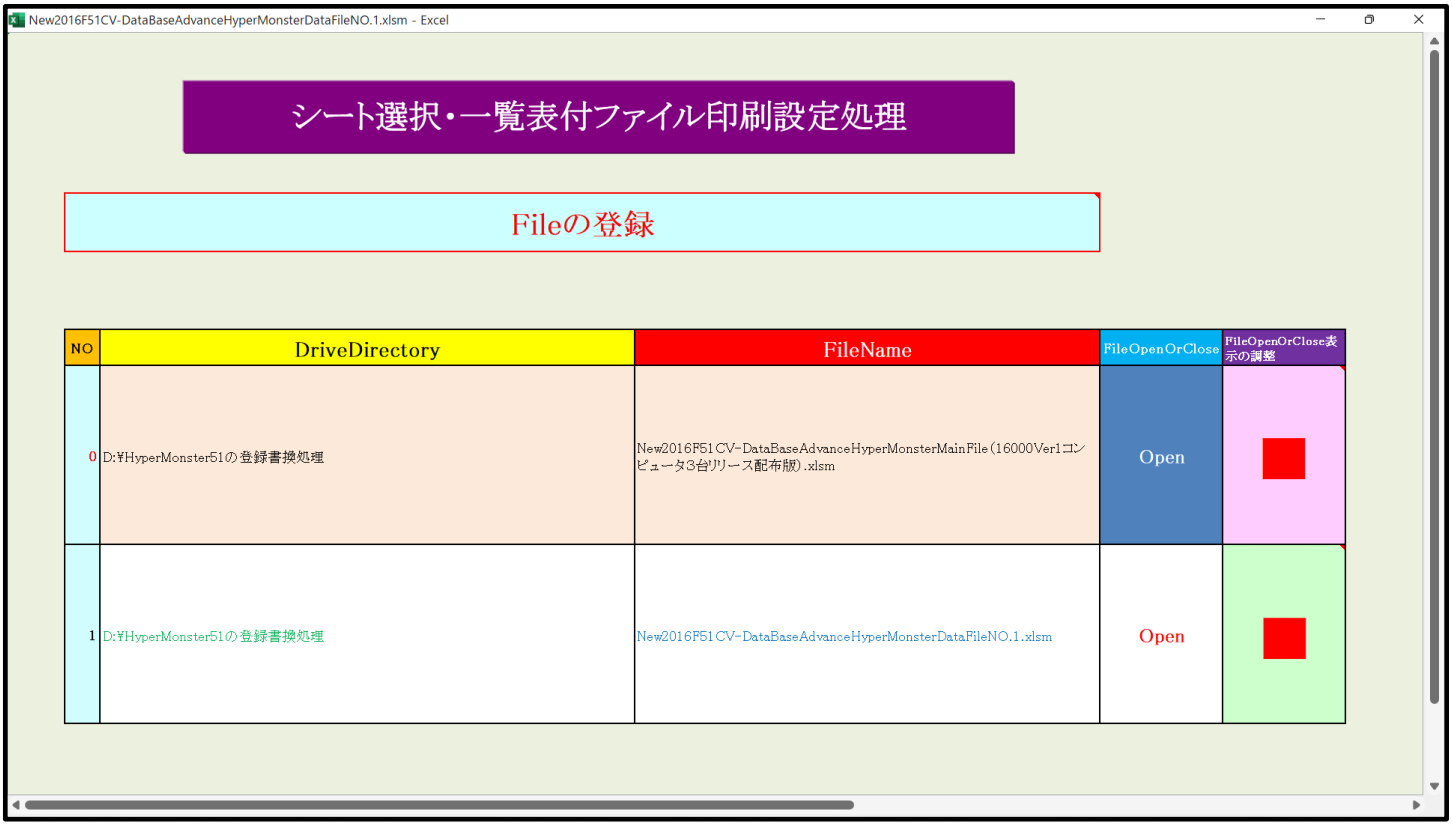
[図１８]

上の[図１８]の画面のユーザーフォームは、ファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
に備わったデーターファイルを呼び出すマクロによって開かれているデーターファイルを閉じる処理をおこなうマクロです。この画面ではデーテーファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
が開かれた状態です。
デーテーファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
を閉じるには、[図１８]の画面のコマンドボタン DataFileNO.1を閉じる をクリックするとファイルを保存して閉じることができます。なお、ファイルを保存しないで閉じるには、先ず、[図１１]の画面のコマンドボタン データーファイルへ移動呼出 をクリックし、次の[図１９]のユーザーフォームの画面を表示させます。

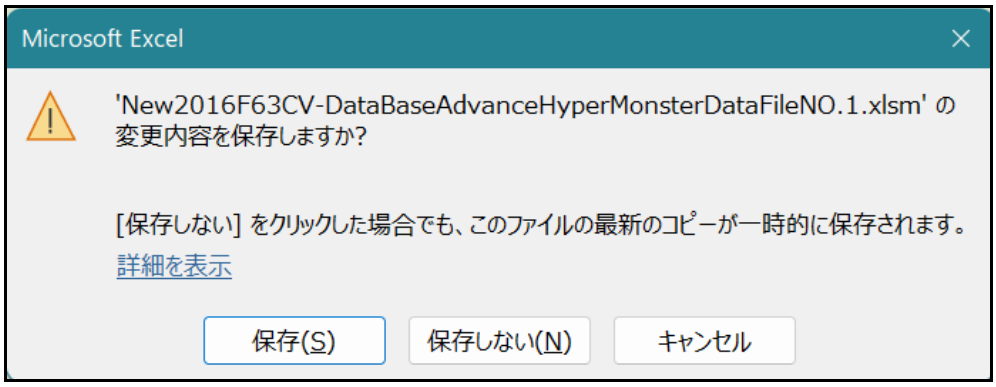
[図１９]

そして、上の[図１９]の画面のコマンドボタン DataFileNO.1へ移動 をクリックして、
次の[図２０]の画面のように
ファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
のシート「File の登録」を表示させます。

[図２０]

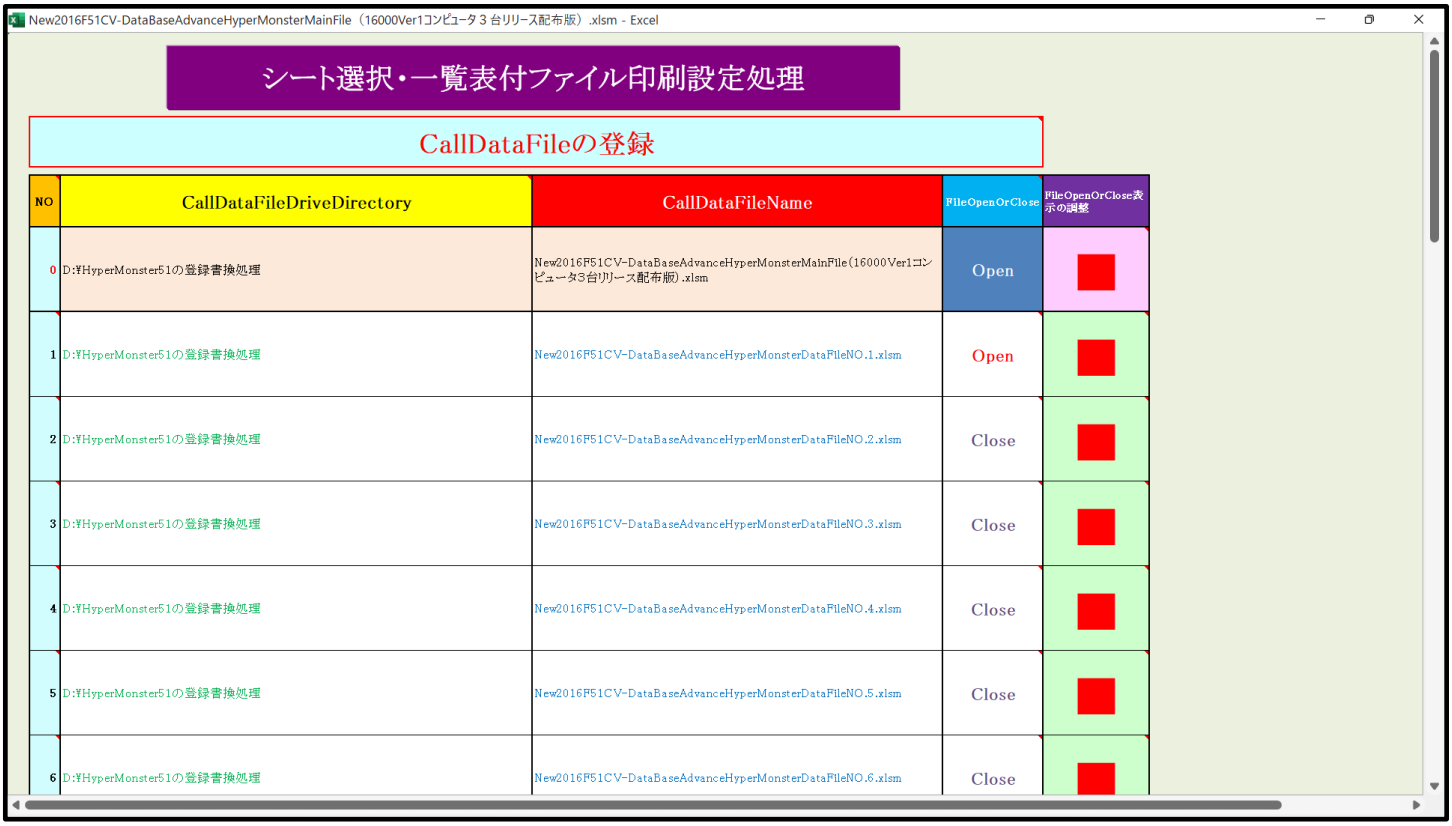


そしたら、[図２０]の画面の右上の[×]の部分をクリックすると、メッセージ

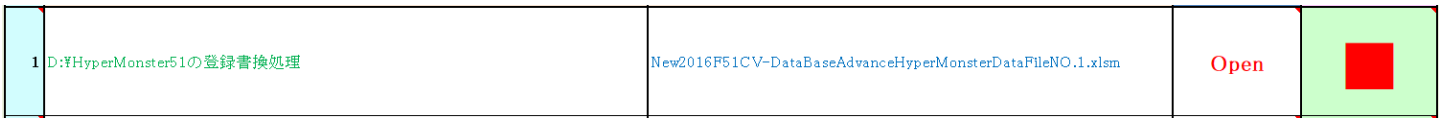


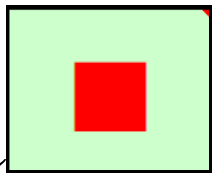
が表示されますので[保存しない(N)]をクリックしてファイルを閉じてください。
更にファイル
　New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
のシート「CallDataFile の登録」を表示させて次の[図２１]の画面のようにします。

[図２１]

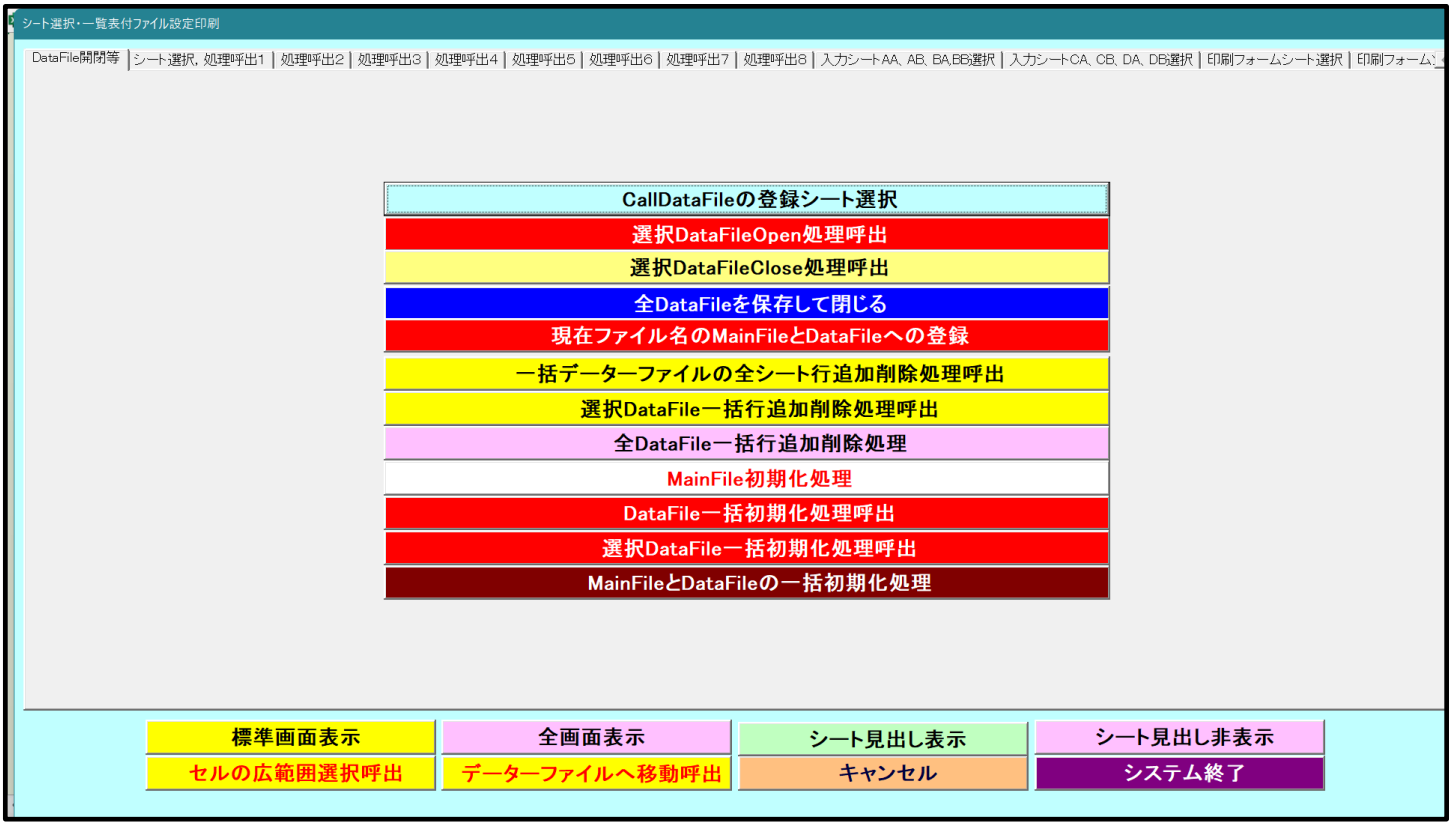


そして、上の[図２１]の画面の



の部分の最も右側のセル  をダブルクリックして、シート「CallDataFile の登録」の状況を上の[図２１]の画面の状況から次の[図２２]の画面の状況に必ず変更してください。

[図２２]



次に[図１１]の画面のコマンドボタン

全DataFileを保存して閉じる

をクリックすると、ファイル

New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm

に備わっているマクロを通して開いているデーターファイルがある場合、開いているデーターファイルを全て保存して閉じることができます。

次に[図１１]の画面のコマンドボタン

現在ファイル名のMainFileとDataFileへの登録

をクリックすると、ファイル

New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm

に備わっているマクロを通して開いているデーターファイルがある場合、それらの全てのデーターファイルのシート「File の登録」とファイル

New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm

のシート」「CallDataFile の登録」に現在のファイル名を登録することができ、今後改めてファイル

New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm

を立ち上げた場合、登録したファイルを呼び出して開くことができます。

次に[図１１]の画面のコマンドボタン

一括データーファイルの全シート行追加削除処理呼出

をクリックすると、次の[図２３]の画面になります。

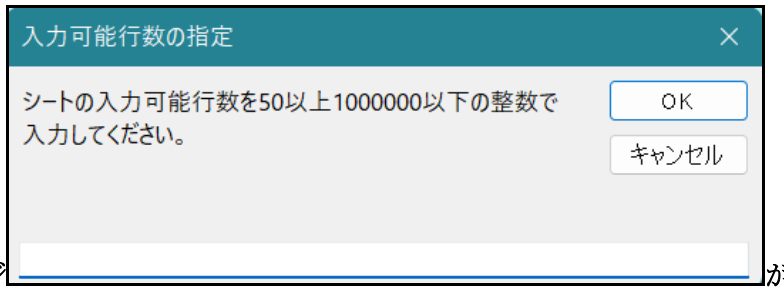
この場合、ファイル

New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布

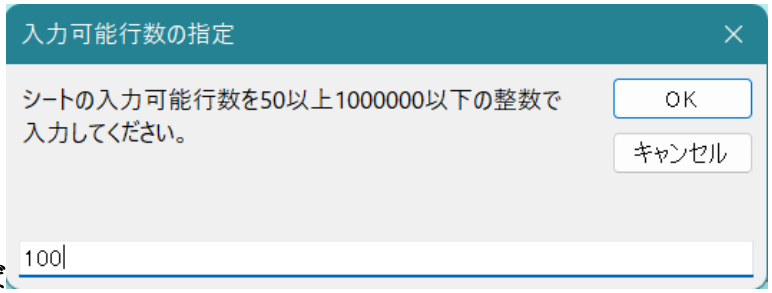
版）.xlsm
に備わったマクロ機能によって２つのデーターファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
と
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2.xlsm
が呼び出されファイルが開かれています。

[図２３]

上の[図２３]の画面ののコマンドボタン DataFileNO.1の行追加削除処理 をクリックするとメッセージ



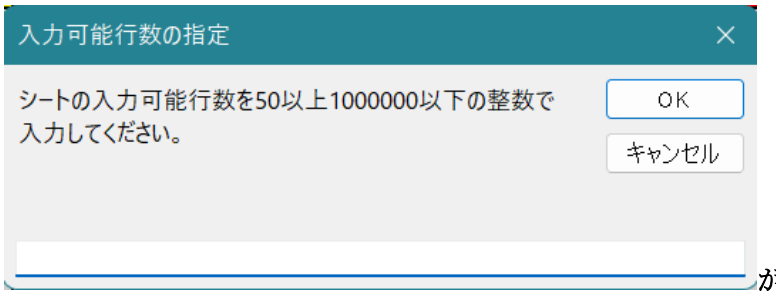
が表示されますが入力シートの行数を下側に入力し例えば



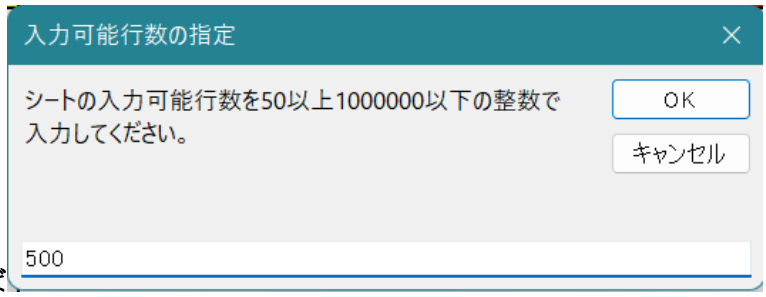
と入力してボタン OK をクリックすると DataFileNO.1 の 80-枚の全ての入力シートの入力可能行数が 100 に設定されます。

コマンドボタン DataFileNO.2の行追加削除処理 をクリックして、同様にして DataFileNO.2 の 80 枚の全ての入力シートの入力行数を設定できます。

また、コマンドボタン 全DataFile一括行追加削除処理 をクリックするとメッセージ



が表示されますが、下側に入力シートの入力行数を入



力して例えば と入力してボタン OK をクリックすると DataFileNO.1 と DataFileNO.2 のそれぞれのデーターファイルの 80 枚全ての入力シートの入力可能行数が 500 行に設定されます。

次に[図１１]の画面のコマンドボタン

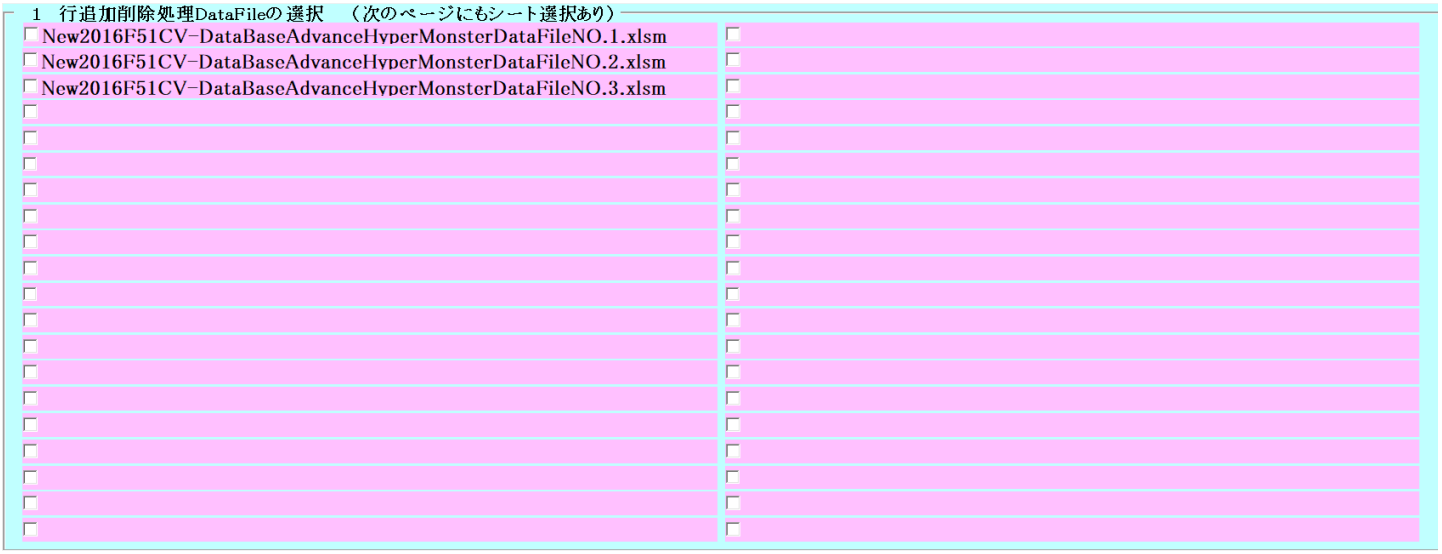
選択DataFile一括行追加削除処理呼出

をクリックすると、次の[図２４]の画面になります。

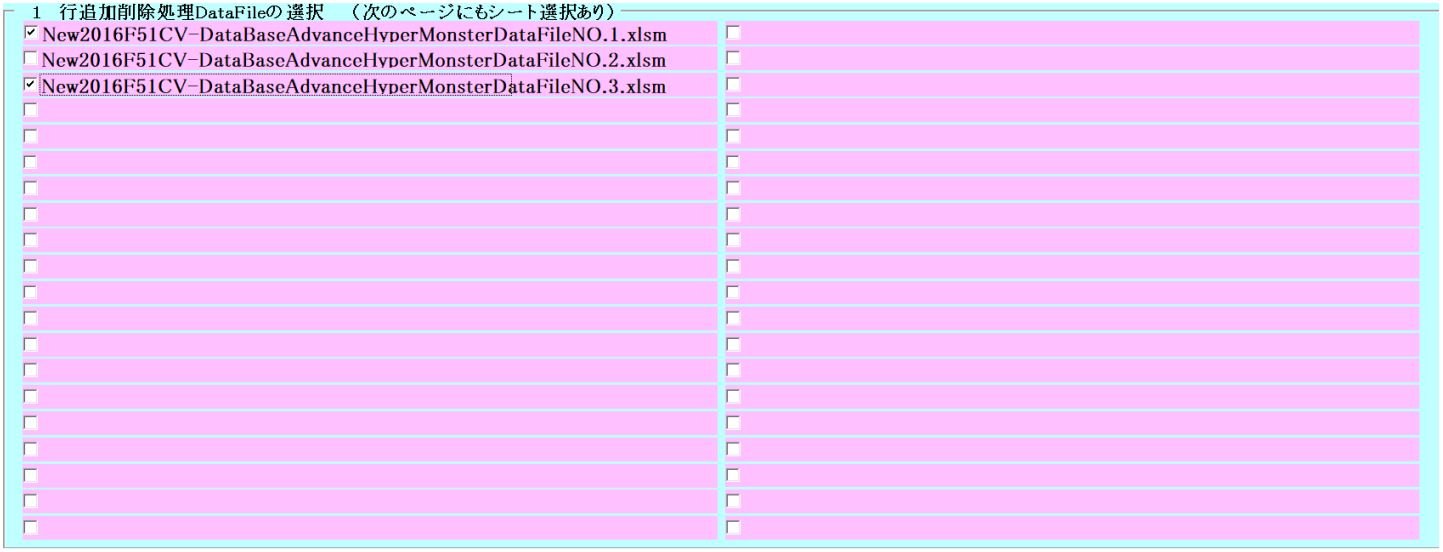
[図２４]

今の状況で３個のデーターファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2.xlsm

New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.3.xlsm
がファイル
　New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile
（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
に備わったマクロ機能によって開かれています。



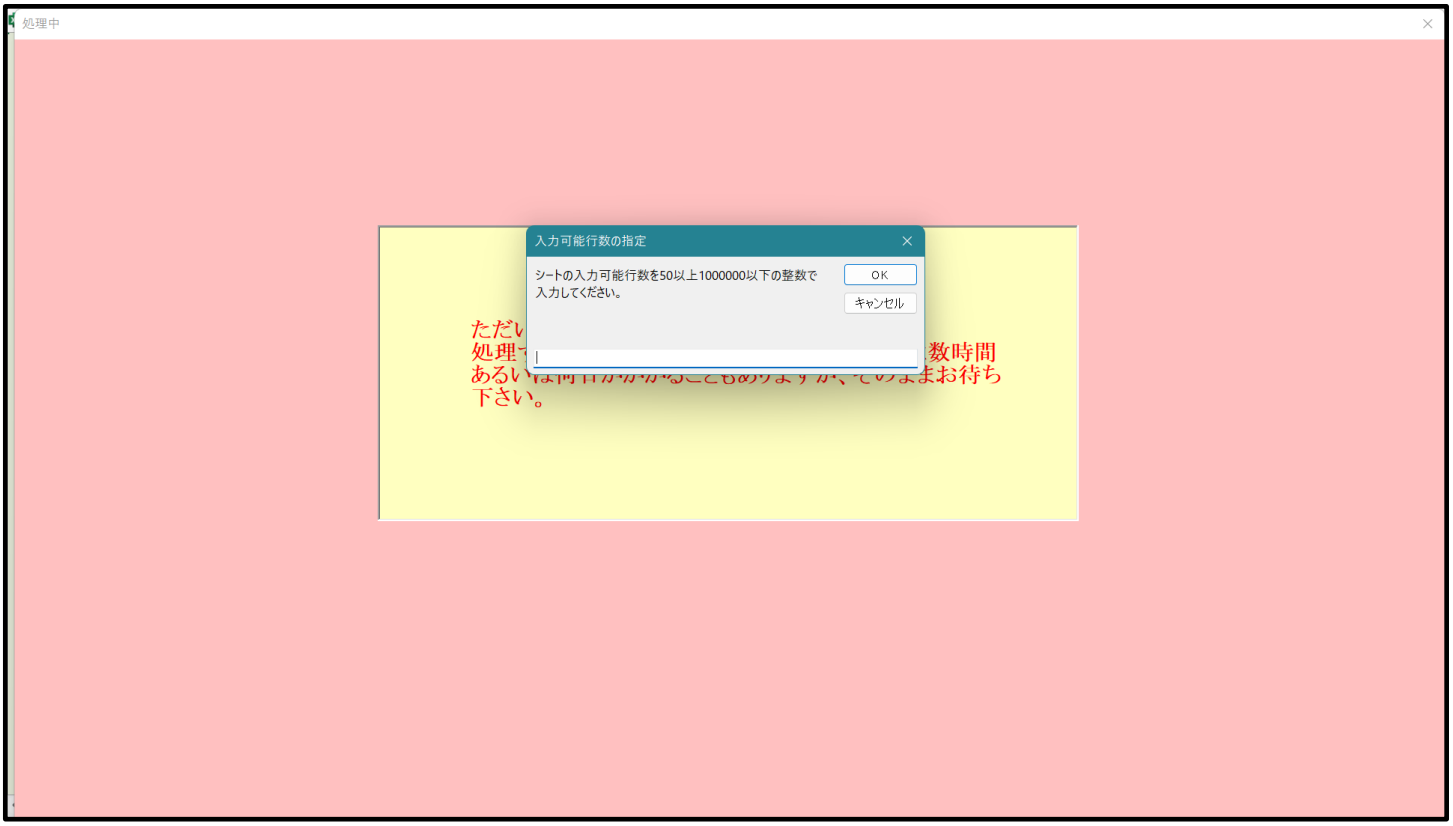
で入力シートの入力可能行数そ設定をおこないたいファイルにチェックを入れて、



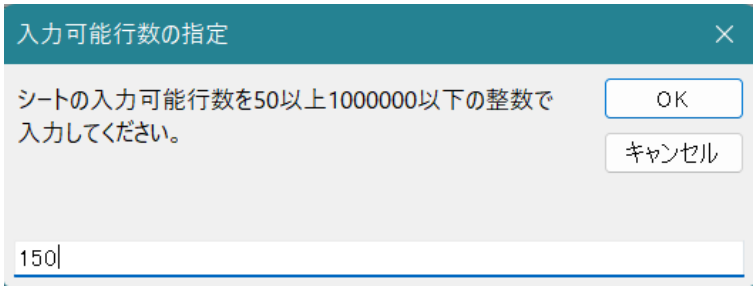
として上の次の[図２４]の画面のコマンドボタン

をクリックすると次の[図２５]の画面のようにメッセージが表示されます。

[図２５]



上の[図２５]の画面のでメッセージの入力欄に



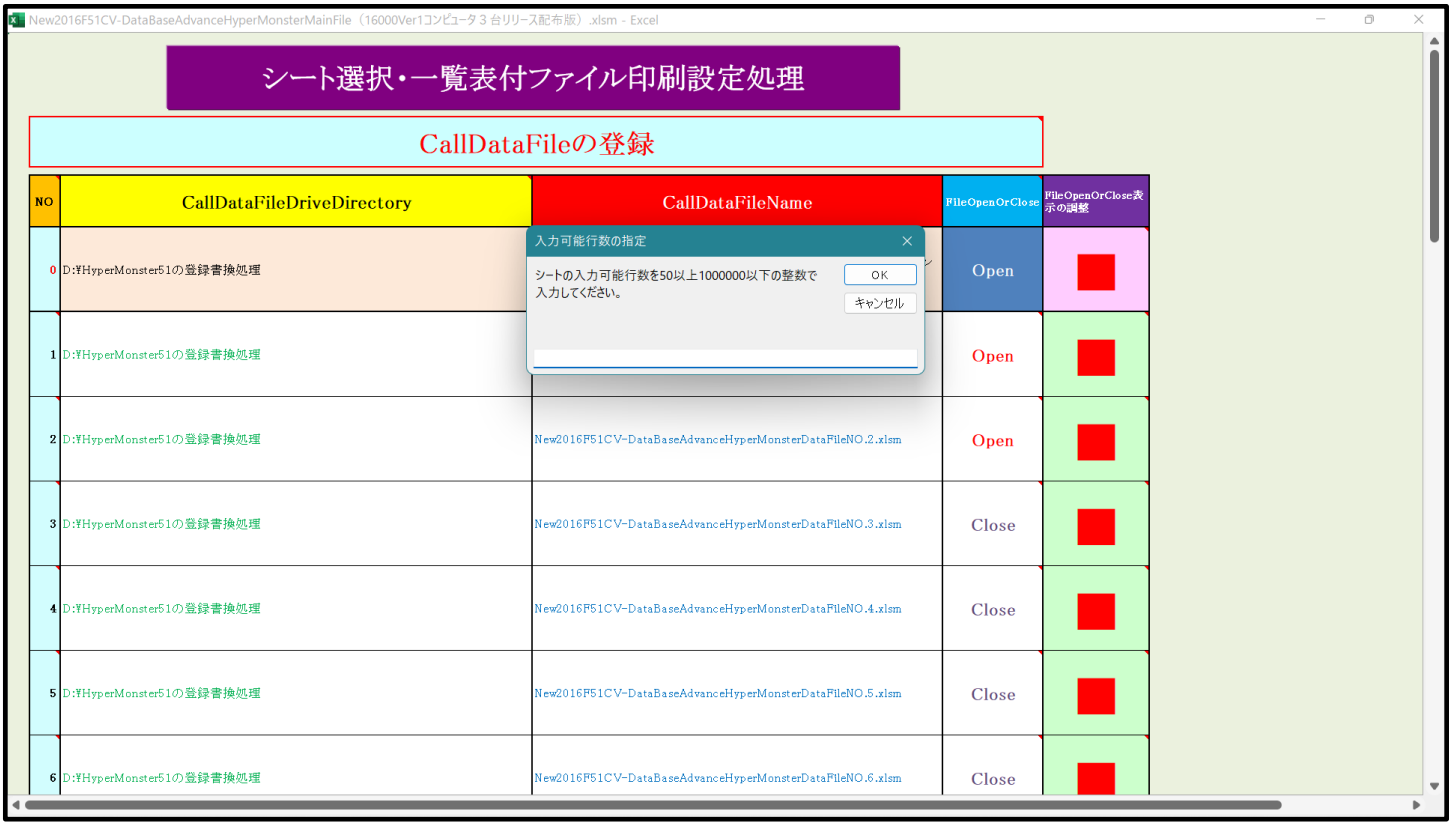
と入力し、ボタン OK をクリックするとファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.3.xlsm
の 80 枚の全ての入力シートの入力可能行数を 150 行に設定できます。

次に[図１１]の画面のコマンドボタン

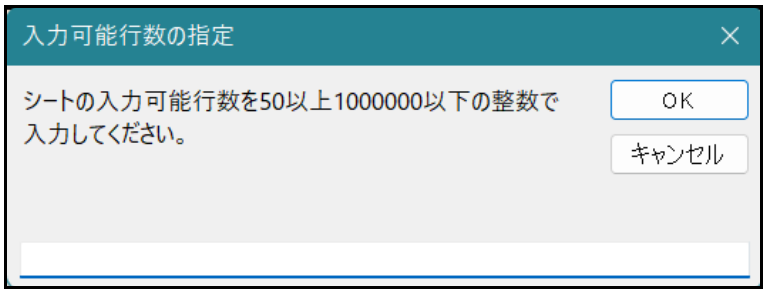
全DataFile一括行追加削除処理

をクリックすると、次の[図２６]の画面のようにメッセージが表示されます。

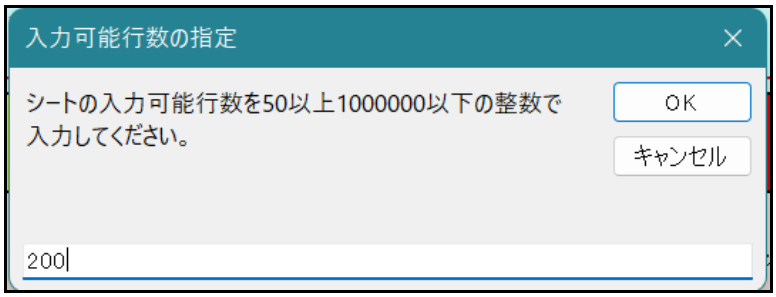
[図２６]



メッセージ



の下側の入力欄に



と入力してボタン OK をクリックすると
開かれている全てのデーターファイルの 80 枚全て入力シートの入力可能行数を 200 に設定できます。
今データーファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2.xlsm
が開かれているので、この２つのデーターファイルの 80 枚全て入力シートの入力可能行数を 200 に設定されます。

次に[図１１]の画面のコマンドボタン

MainFile初期化処理

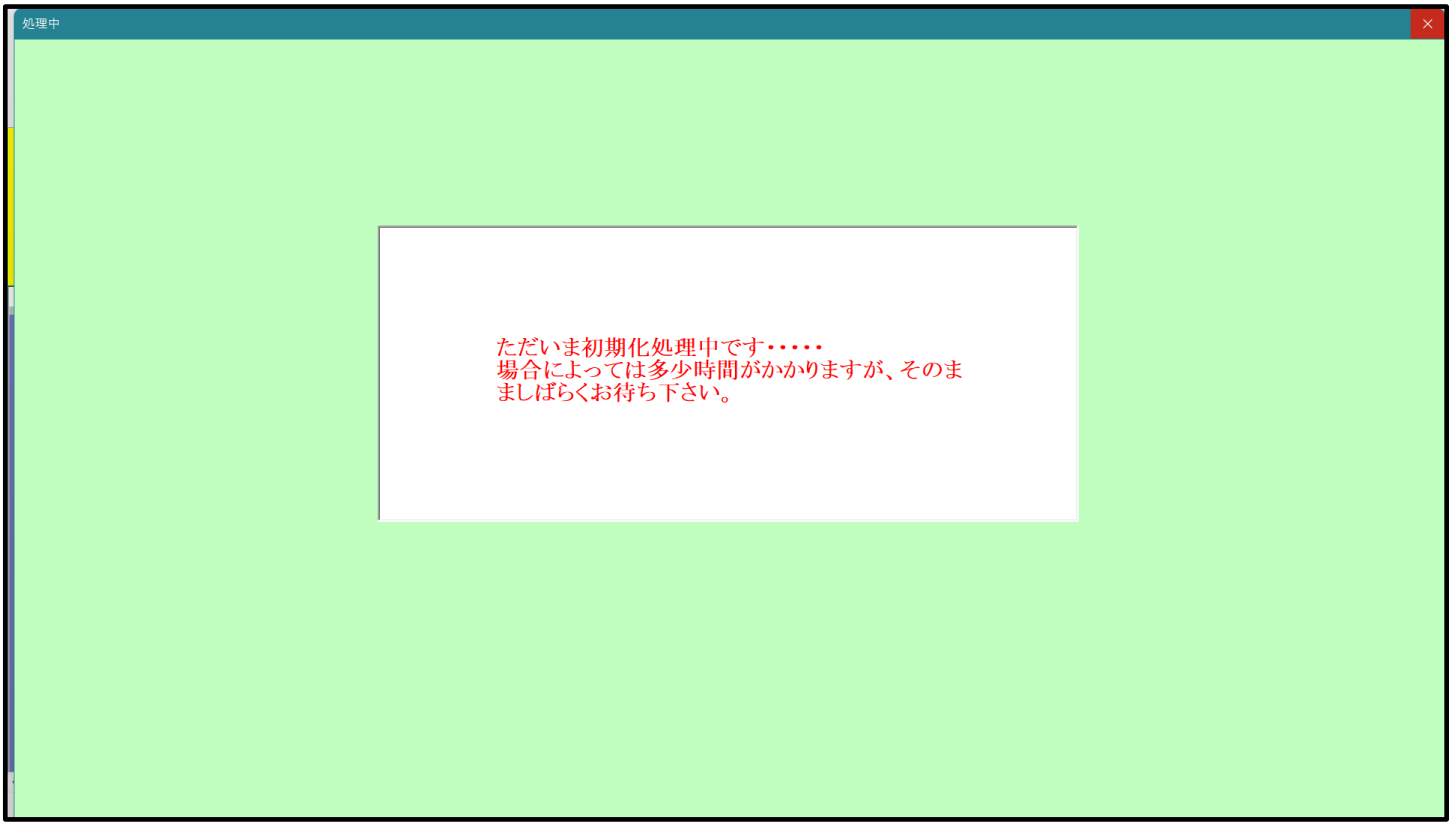
につて説明します。

メインファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
のファイル名を変更し、
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（テスト用）.xlsm
とし、様々な編集をおこなったとします。
コマンドボタン

MainFile初期化処理

をクリックすると下の[図２７]の画面が表示され、ファイル名
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（テスト用）.xlsm
をこのファル名の初期設定
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
のファイル名に変更するとともに、様々な編集をおこなった状態も、購入したときの状態に戻す処理が実行されます。処理が完了すると、その下の[図２８]の画面が表示されます。

[図２７]



[図２８]

なお、この処理が完了したら、上のコマンドボタン

現在ファイル名のMainFileとDataFileへの登録

をクリックして、必ずメインファイルと関連するデーターファイルへ、ファイル名の登録をおこなってください。

ファイル名
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（テスト用）.xlsm
をこのファル名の初期設定
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
のファイル名に変更するとともに、様々な編集をおこなった状態も、購入したときの状態に戻ります。

次に[図１１]の画面のコマンドボタン

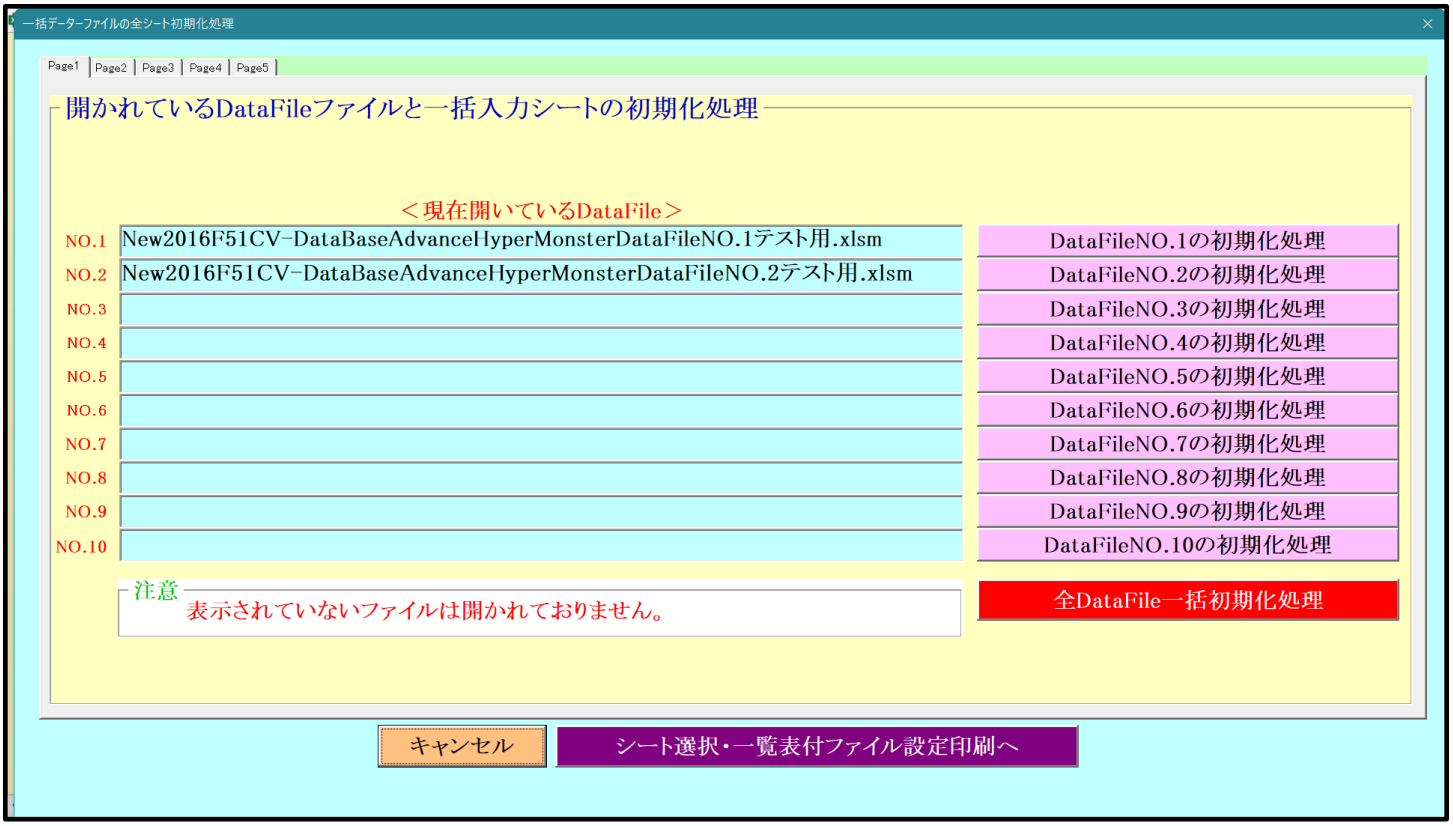
DataFile一括初期化処理呼出

につて説明します。
データーファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2.xlsm
のファイル名を変更し、それぞれ
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1 テスト用.xlsm
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2 テスト用.xlsm
のファイル名になっており、このファイル名で様々なファイルの編集をおこなったとします。
そしてメインファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
に備わっているマクロ機能によって２つのデーターファイルが開かれているとします。
この状況でコマンドボタン

DataFile一括初期化処理呼出

をクリックすると次の[図２９]の画面が表示されます。

[図２９]



上の[図２９]の画面のコマンドボタン DataFileNO.1の初期化処理 をクリックすると、
データーファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1 テスト用.xlsm
の初期化がおこなわれ、ファイル名が
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
に変更されるとともに、編集されたファイルの状況が購入された時点の状況に初期化処理されます。

また、上の[図２９]の画面のコマンドボタン DataFileNO.2の初期化処理 をクリックすると、
データーファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2 テスト用.xlsm
の初期化がおこなわれ、ファイル名が
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2.xlsm
に変更されるとともに、編集されたファイルの状況が購入された時点の状況に初期化処理されます。

更にデーターファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2.xlsm
のファイル名を変更し、それぞれ
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1 テスト用.xlsm
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2 テスト用.xlsm
のファイル名になっており、このファイル名で様々なファイルの編集をおこなったとします。
そしてメインファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
に備わっているマクロ機能によって２つのデーターファイルが開かれているとします。

この状況で上の[図２９]のコマンドボタン 全DataFile一括初期化処理 をクリックすると、

２つのデーターファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1 テスト用.xlsm

New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2 テスト用.xlsm
の初期化がおこなわれ、ファイル名がそれぞれ
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2.xlsm
に変更されるとともに、編集されたファイルの状況が購入された時点の状況に初期化処理されます。

次に[図１１]の画面のコマンドボタン

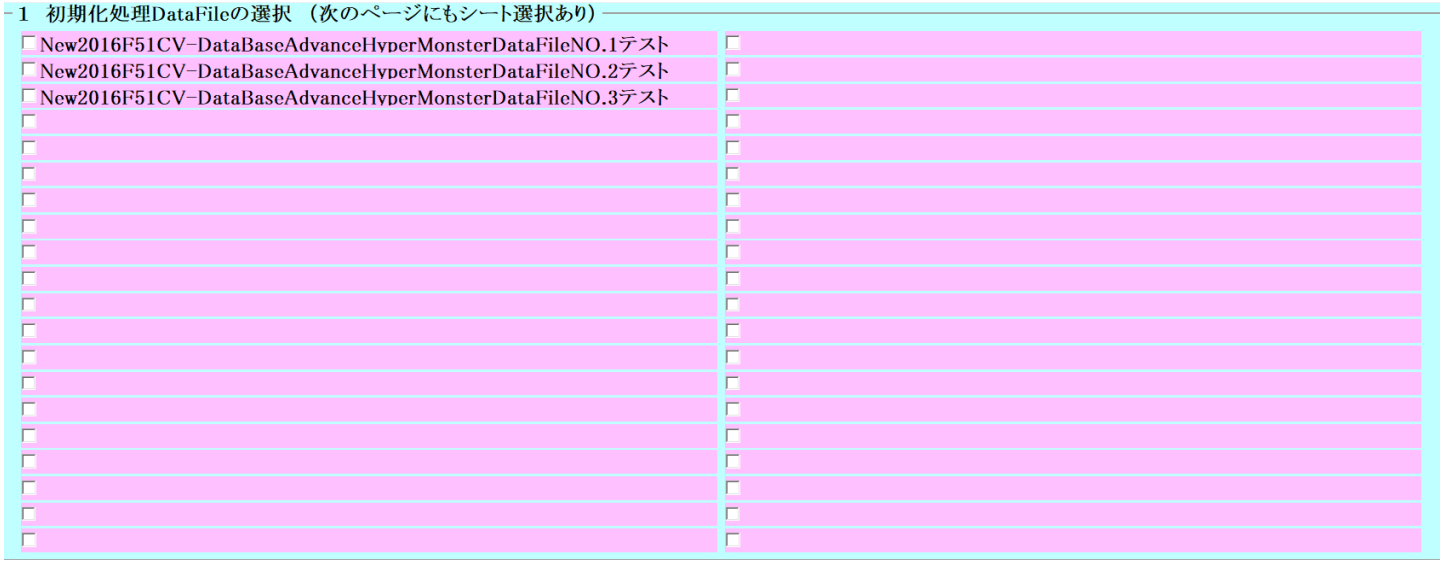
選択DataFile一括初期化処理呼出

につて説明します。
データーファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2.xlsm
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.3.xlsm
のファイル名を変更し、それぞれ
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1 テスト用.xlsm
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2 テスト用.xlsm
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.3 テスト用.xlsm
のファイル名になっており、このファイル名で様々なファイルの編集をおこなったとします。
そしてメインファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
に備わっているマクロ機能によって３つのデーターファイルが開かれているとします。
上の[図１１]の画面のコマンドボタン

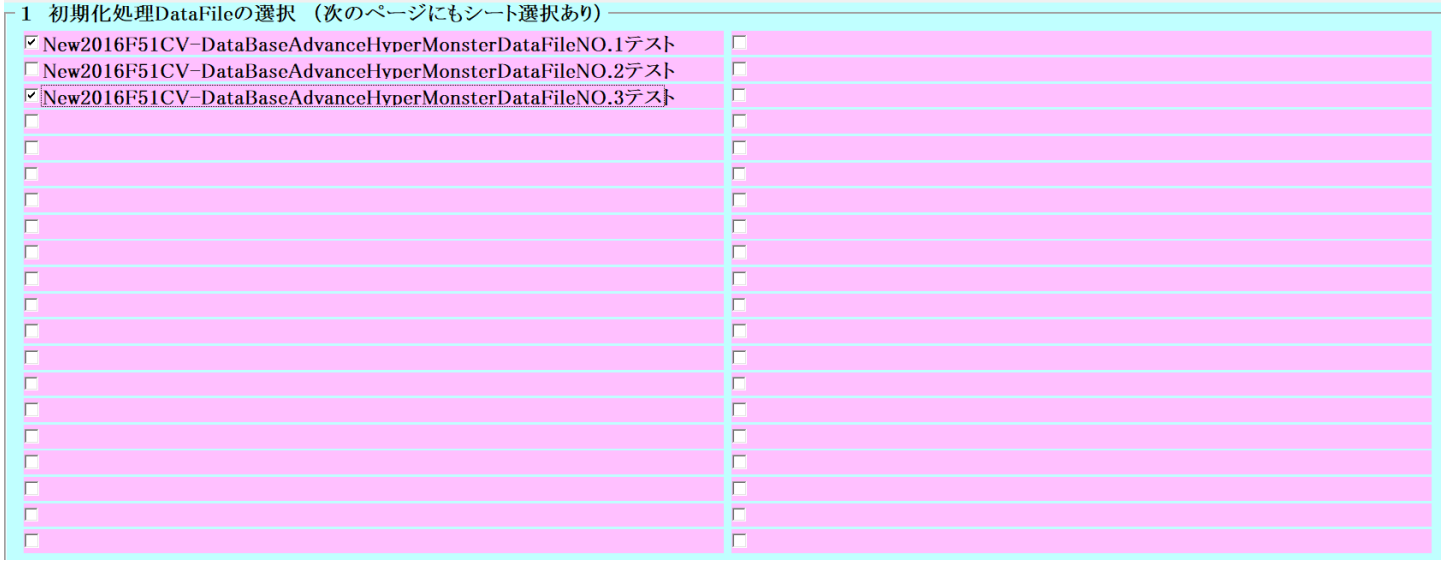
選択DataFile一括初期化処理呼出

をクリックすると次の[図３０]の画面になります。

[図３０]



の部分で初期化をしたいデーターファイルにチェックをいれますが、例えば



とチェックをいれて、上の[図３０]の画面のコマンドボタン

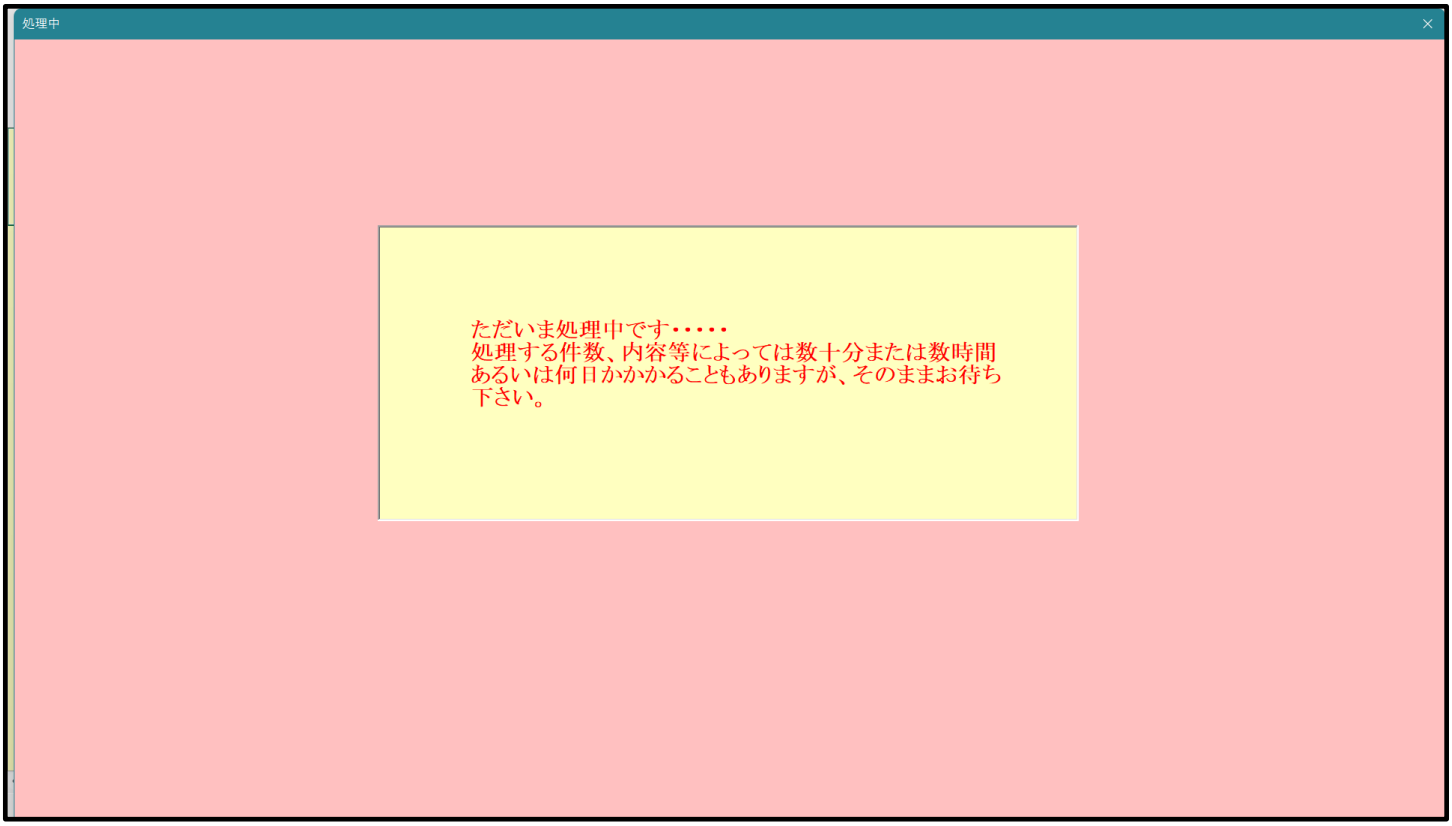
をクリックすると、２つのデーターファイル

New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1 テスト用.xlsm
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.3 テスト用.xlsm

の初期化が実行されます。

次の[図３１]の画面が表示された後、その次の[図３２]の画面が表示されたらデーターファイルの初期化が完了となります。

[図３１]



[図３２]

この初期化によって、２つのデーターファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1 テスト用.xlsm
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.3 テスト用.xlsm
のファイル名が、それぞれ
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.3.xlsm

に変更されるとともに、このファイル名で様々なファイルの編集をおこなっていたら、編集されたファイルの状況を購入された時点の状況に初期化処理されます。

最後に[図１１]の画面のコマンドボタン

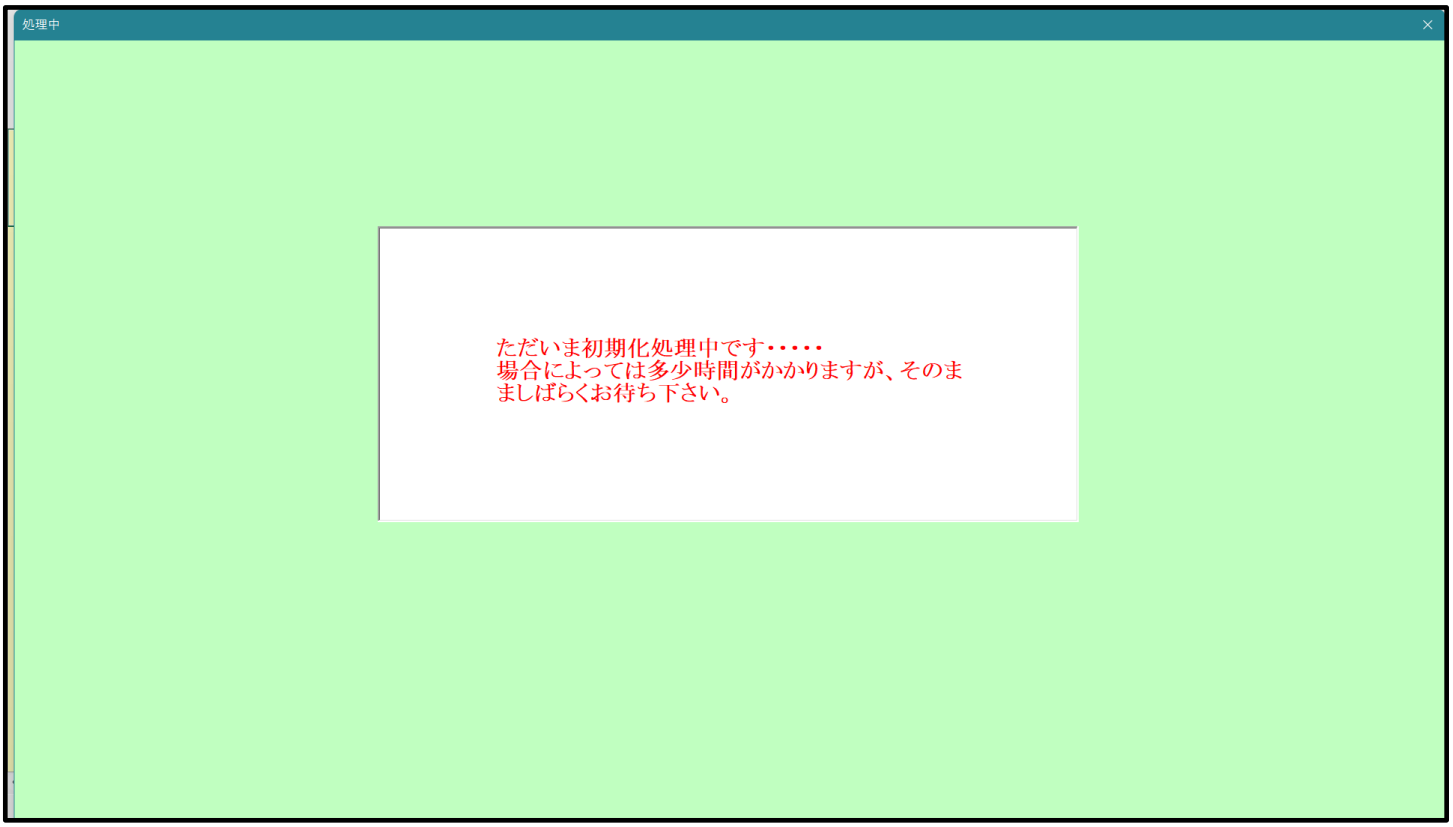
MainFileとDataFileの一括初期化処理

につて説明します。
このコマンドボタンをクリックすると、メインファイルとファイルに備わったマクロ機能で呼び出されている全てのデーターファイルの初期化がおこなわれます。
例えば、メインファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
のファイル名を変更して
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）テスト用.xlsm
として様々な編集をおこない、また、この変更したメインファイルに備わってるマクロ機能を用いて２つのデーターファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1 テスト用.xlsm
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2 テスト用.xlsm
を呼び出して、この２つデーターファイルでも様々な編集をおこなっていたとします。
このような状況のもとで、コマンドボタン

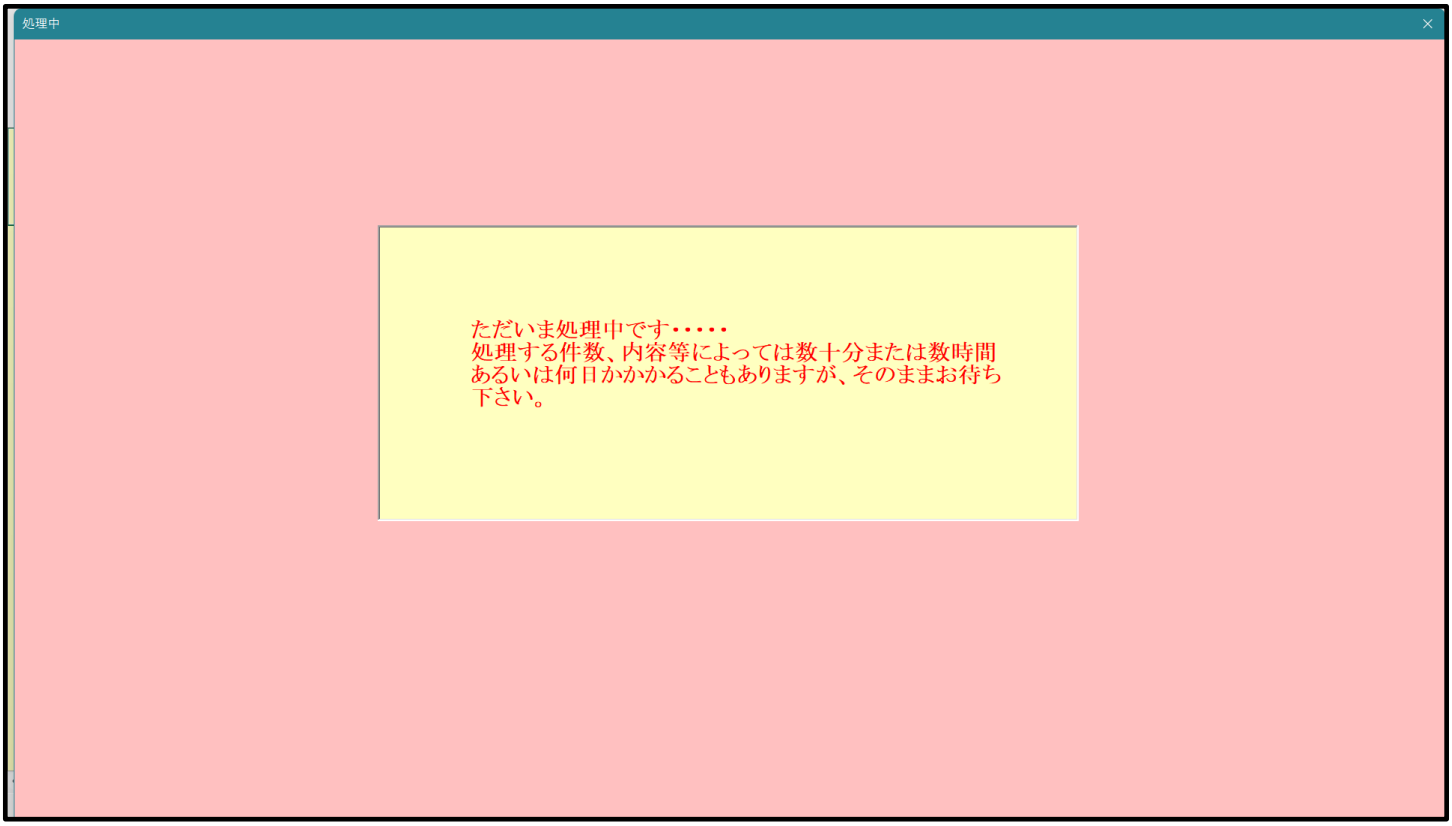
MainFileとDataFileの一括初期化処理

をクリックするとメインファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）テスト用.xlsm
および２つのデーターファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1 テスト用.xlsm
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2 テスト用.xlsm
の初期化が開始されます。開始されると、次の[図３３]の画面が表示された後、[図３４]の画面が表示され、更にその次の[図３５]の画面が表示されたら初期化が完了となります。

[図３３]



[図３４]



[図３５]

この初期化によって、メインファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile
（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）
テスト用.xlsm
のファイル名は
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（

16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
に
データーファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1 テスト用.xlsm
のファイル名は
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
に
データーファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2 テスト用.xlsm
のファイル名は
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2.xlsm
にそれぞれ変更されるともに、これらのファイル名で様々なファイルの編集をおこなっていたら、編集されたファイルの状況を購入された時点の状況に初期化処理されます。

（２）ファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm～
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.50.xlsm の場合：

ファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm～
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.50.xlsm
のどのデーターファイルについても同じなので、ファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
を用いて説明いたします。

ファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
はもともと原則的にはメインファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
に備わったマクロ機能用いて開くべきファイルです。メインファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
に備わったマクロ機能用いてファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
開いていき、ユーザーフォーム「シート選択・一覧表付ファイル設定印刷処理」のタブ
Fileの登録シート選択・ファイル名のMainFileへの登録 を選択すると次の[図３６]の画面ようになります。

[図３６]

ユーザーフォーム「シート選択・一覧表付ファイル設定印刷処理」のタブ

Fileの登録シート選択・ファイル名のMainFileへの登録を選択した上の[図３６]の画面の部分がファイル

2016CV-DataBaseAdvance16000Ver1（コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
と異なるユーザーフォームの部分です。

タブFileの登録シート選択・ファイル名のMainFileへの登録の右側の全てのタブは、ファイル

2016CV-DataBaseAdvance16000Ver1（コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
と全く同じユーザーフォームで機能も全く同じです。

タブFileの登録シート選択・ファイル名のMainFileへの登録で表示されているコマンドボタン

Fileの登録シート選択

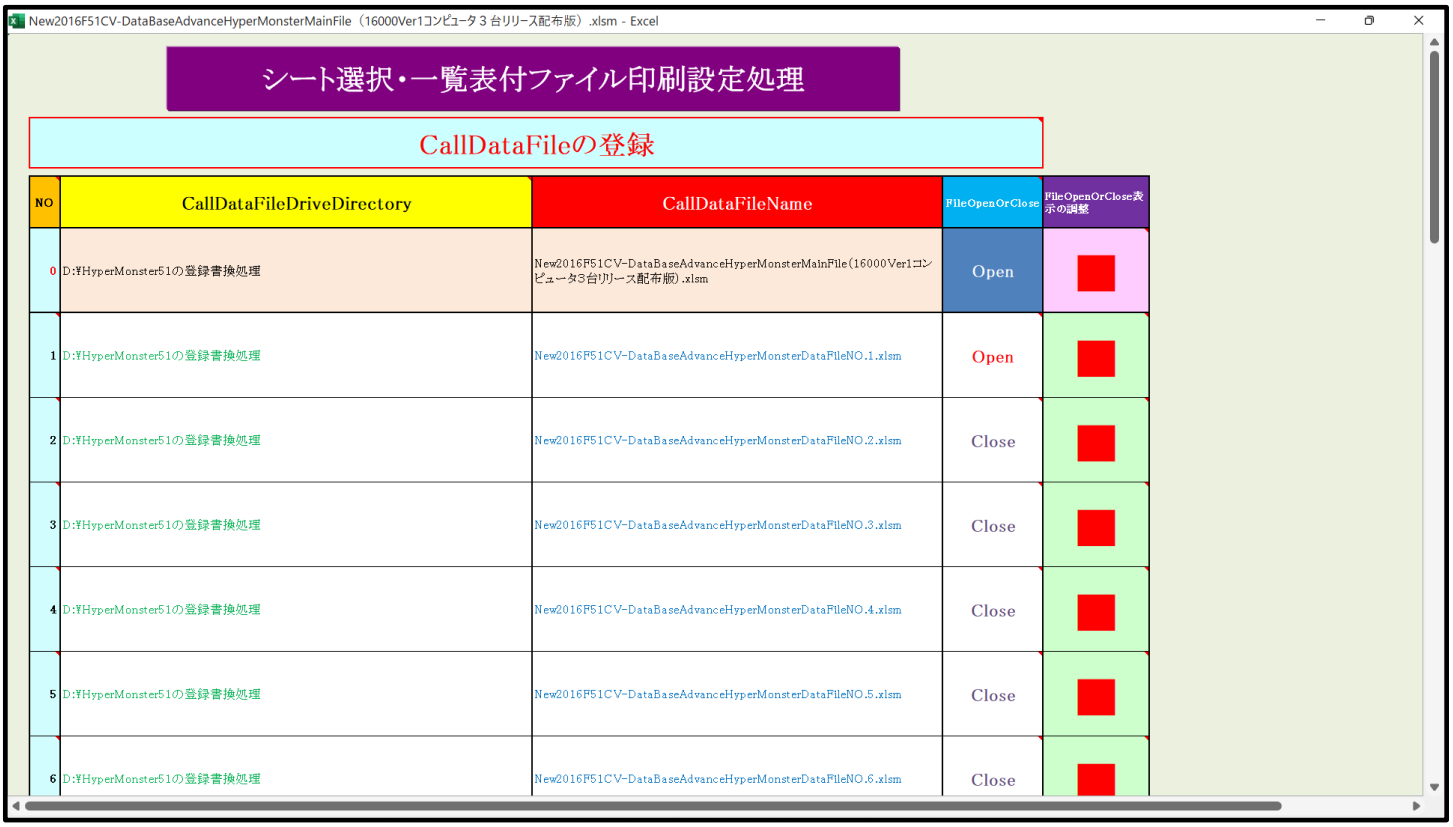
については既に説明済みですので、上のコマンドボタン

現在ファイル名のMainFileとDataFileへの登録

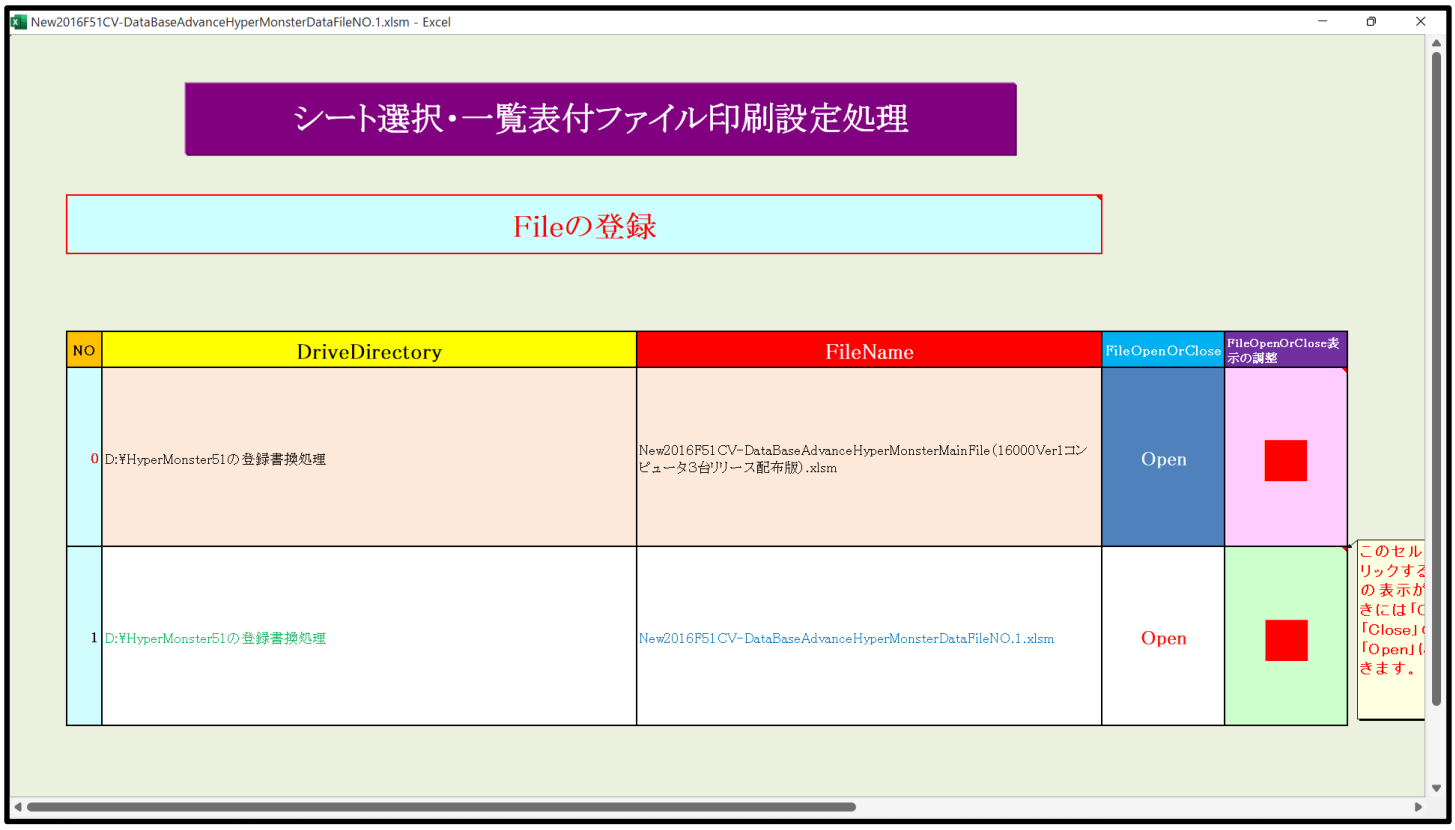
について説明いたします。
このコマンドボタンは、ファイル
　New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
またはこのフェイル名を変更した場合、そのファイル名をメインファイルおよびそのデーターファイルに登録して、今後改めて、メインファイルを通してそのデーターファイルを呼び出しをおこなうことができるようにするためのものです。
例えば、メインファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
に備わったマクロ機能用いてファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
呼び出し、データーファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
のファイル名を

New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1 テスト用.xlsm
と変更した場合、ファイルを一旦閉じて再びメインファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
に備わったマクロ機能用いてファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1 テスト用.xlsm
を呼び出して開くにはメインファイルとデーターファイルに登録が必要で、そのための登録用のマクロボタンです。
メインファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
のシート「CallDataFile の登録」
と
データーファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
のシート「File の登録」の状況がそれぞれ次の[図３７]、[図３８]の画面のようになっていたとします。

[図３７]



[図３８]



そして今度は、データーファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
のファイル名を
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1 テスト用.xlsm
に変更してコマンドボタン

現在ファイル名のMainFileとDataFileへの登録

をクリックすると、メインファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
のシート「CallDataFile の登録」
と
データーファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1 テスト用.xlsm
のシート「File の登録」の状況はそれぞれ次の[図３９]、[図４０]の画面のようになります。

[図３９]

New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm - Excel

シート選択・一覧表付ファイル印刷設定処理

CallDataFileの登録

NO	CallDataFileDriveDirectory	CallDataFileName	FileOpenOrClose	FileOpenOrClose表示の調整
0	D:¥HyperMonster51の登録書換処理	New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile(16000Ver1コンピュータ3台リリース配布版).xlsm	Open	
1	D:¥HyperMonster51の登録書換処理	New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1テスト用.xlsm	Open	
2	D:¥HyperMonster51の登録書換処理	New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2.xlsm	Close	
3	D:¥HyperMonster51の登録書換処理	New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.3.xlsm	Close	
4	D:¥HyperMonster51の登録書換処理	New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.4.xlsm	Close	
5	D:¥HyperMonster51の登録書換処理	New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.5.xlsm	Close	
6	D:¥HyperMonster51の登録書換処理	New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.6.xlsm	Close	

[図４０]

New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1テスト用.xlsm - Excel

シート選択・一覧表付ファイル印刷設定処理

Fileの登録

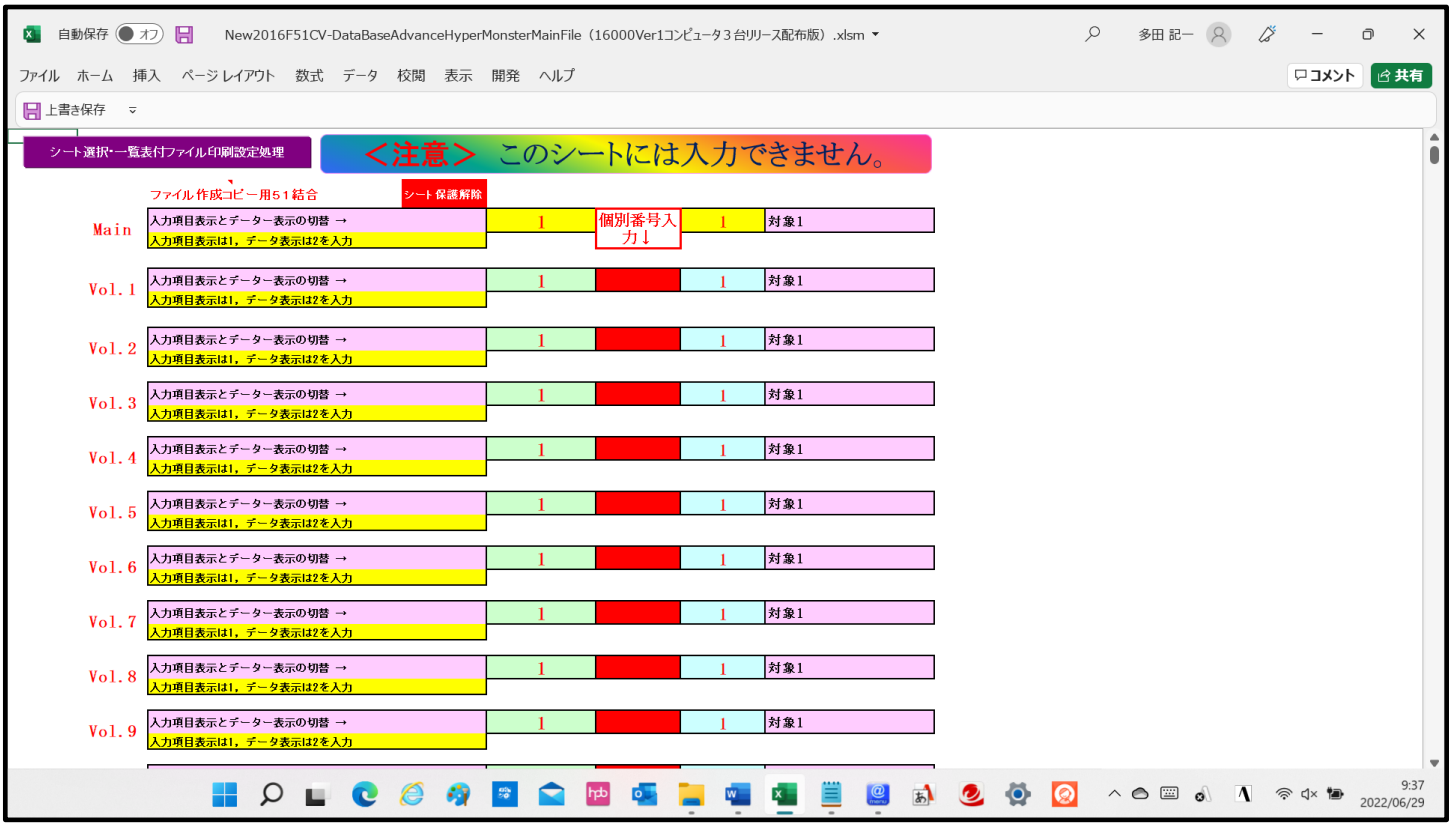
NO	DriveDirectory	FileName	FileOpenOrClose	FileOpenOrClose表示の調整
0	D:¥HyperMonster51の登録書換処理	New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile(16000Ver1コンピュータ3台リリース配布版).xlsm	Open	
1	D:¥HyperMonster51の登録書換処理	New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1テスト用.xlsm	Open	

4. ファイル New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile
（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
のシート「ファイル作成コピー用５１結合」を用いて、最大 1,000,000 レコード 816,000 フィールドのデーターの中から必要なデーターを取り出してシステムに組み込まれたマクロ機能を用いて、データーを次々変更しながら、印刷したり、また、印刷フォームの印刷範囲を PDF の添付ファイルとして該当者または該当組織にメール送信するシステムを構築する方法:

ここでは、単票形式の印刷、印刷範囲を PDF の添付ファイルとしてメール送信する「一学期中間考査個票」と
「入力シート」における表の複数の行を、「入力シート」の 1 行当たりを「印刷フォームシート」上で複数行に配置して「入力シート」における表の複数の行を同時に表示しながら印刷、印刷範囲を PDF の添付ファイルとしてメール送信する「修正前期募集校長宛合否通知書」
を作成して説明してまいります。

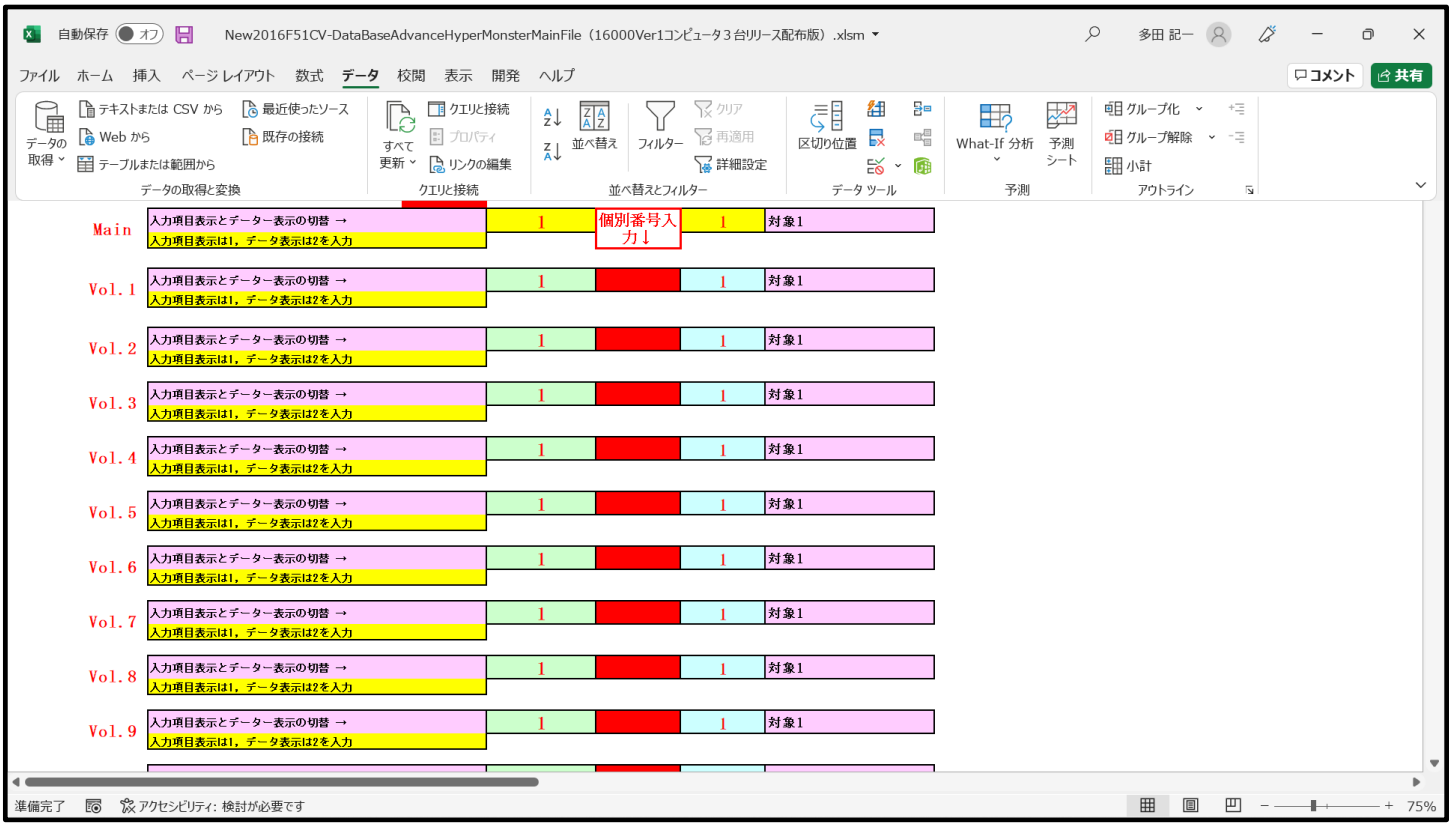
（1） データーファイルのデーターの入力等について：
「一学期中間考査個票」を作成するためにデーターファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
のデーターの入力等について次のように行います。
先ず、ファイル New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile
（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）
を立ち上げ、シート「ファイル作成コピー用５１結合」を選択します。そして Esc を押すと標準画面となり、次の[図４１]の画面のようになります。

[図４１]



そして更に、上の[図４１]の画面のセル シート保護解除 を選択してダブルクリックしてシートの保護を解除し、 データ を選択すると、次の[図４２]の画面のようになります。

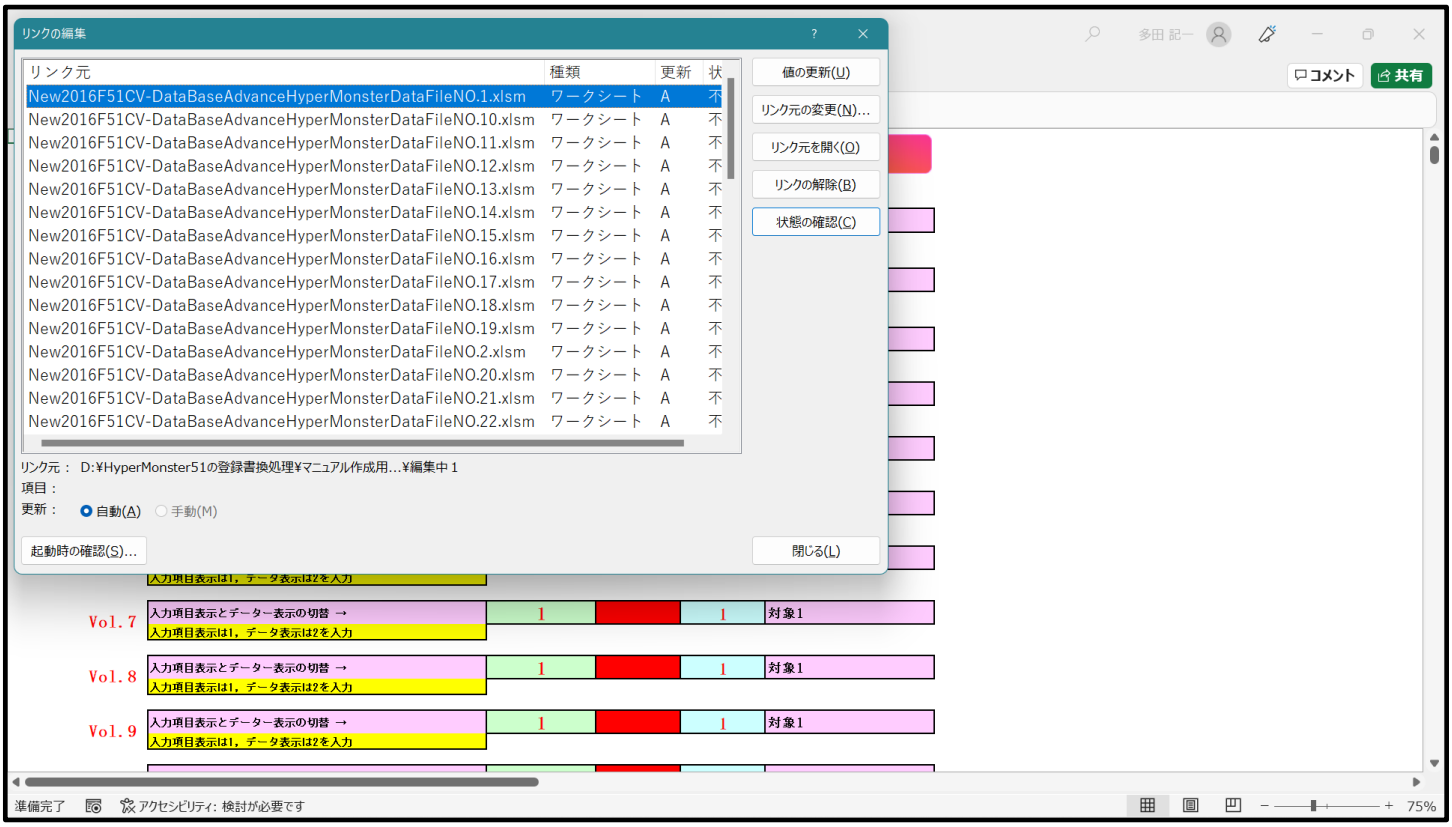
[図４２]



更に上の[図４２]の画面の

の部分を選択すると次の[図４３]の画面のようになります

[図４３]

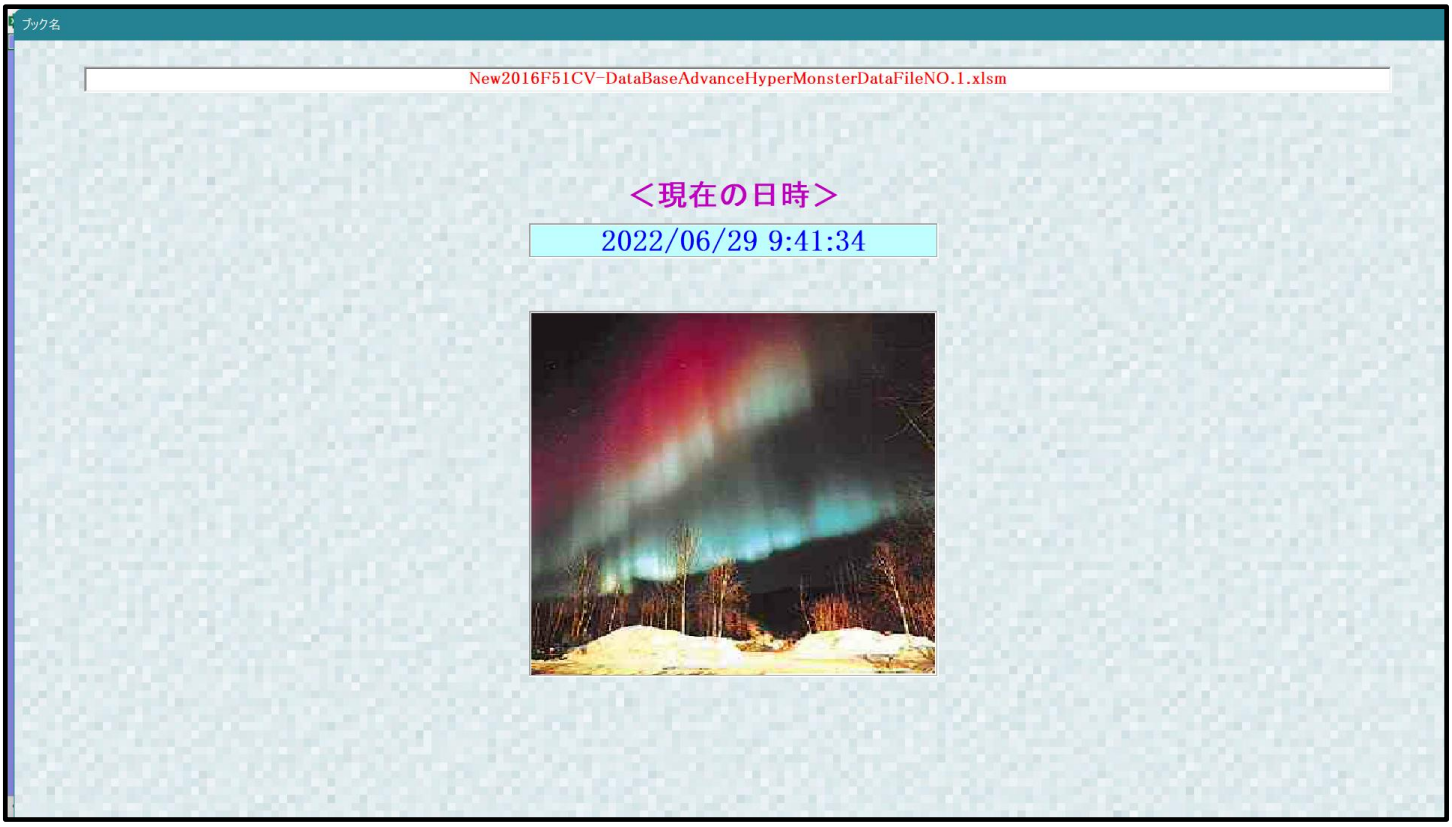


上の[図４３]の画面のボタン リンク元を開く(O) をクリックするとリンク元のファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
開かれてまいりますが、最初に次の[図４４]の画面が表示されます。

[図４４]

上の[図４４]の画面のコマンドボタン 使用開始 をクリックすると次の[図４５]の画面が表示された後、その次の[図４６]の画面が表示されます。

[図４５]



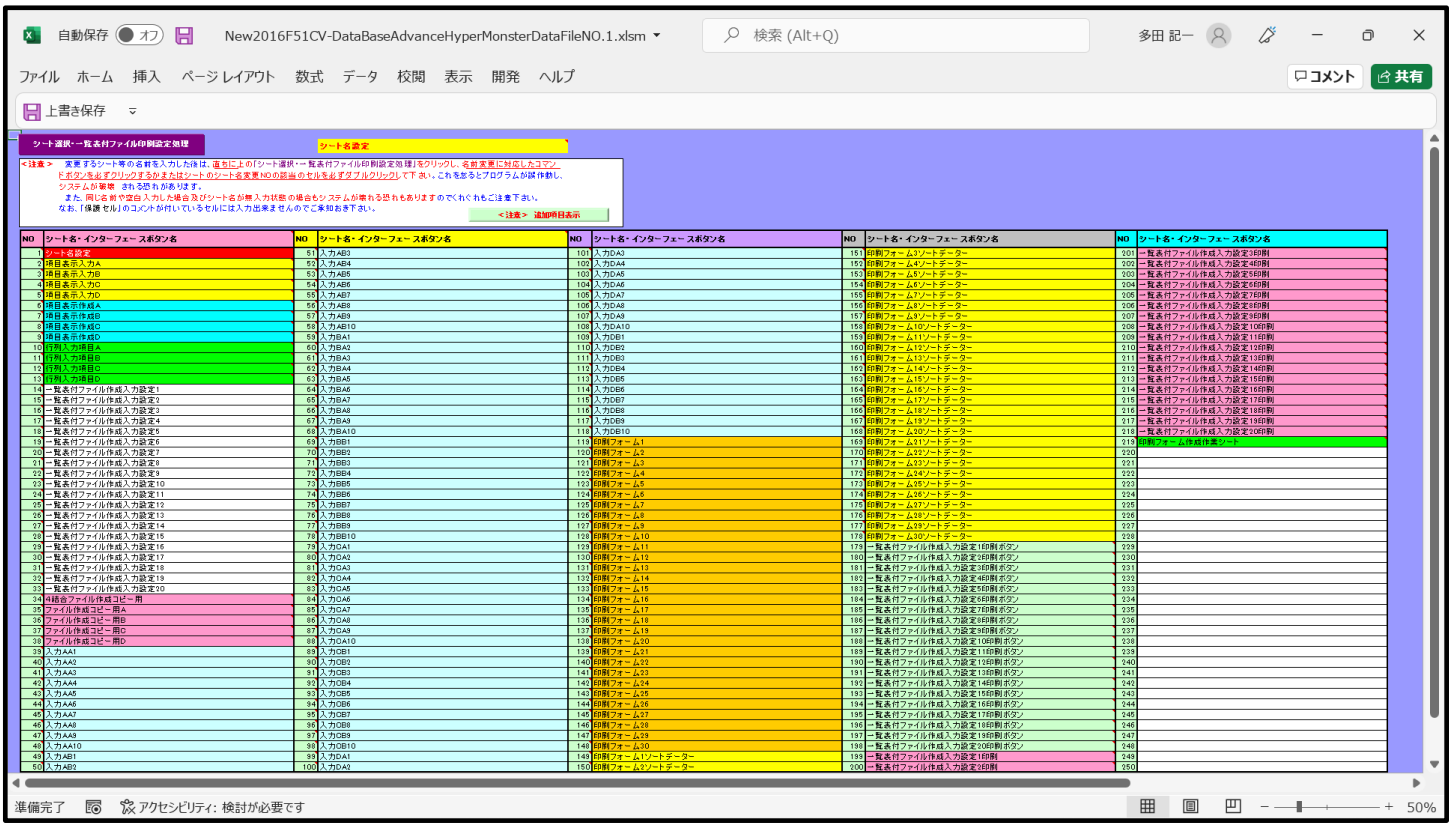
[図４６]

上の[図４６]の画面のタブ シート選択，処理呼出1 を選択すると次の[図４７]の画面になります。

[図４７]

上の[図４７]の画面のコマンドボタン **シート名設定** をクリックすると次の[図４８]の画面になります。但し[図４８]の画面は表示倍率が 50%のものです。

[図４８]

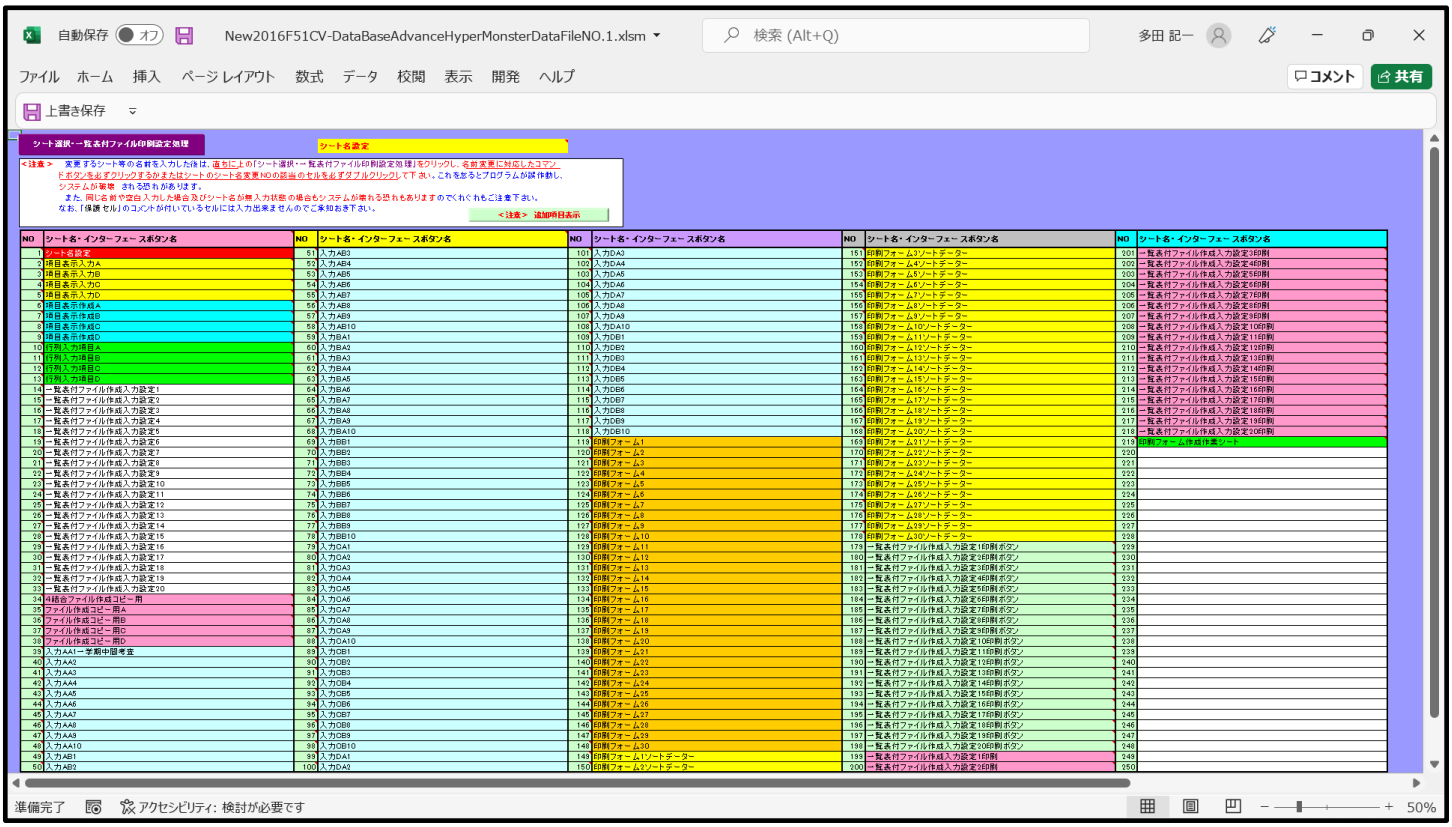


そして次の[図４９]の画面のように

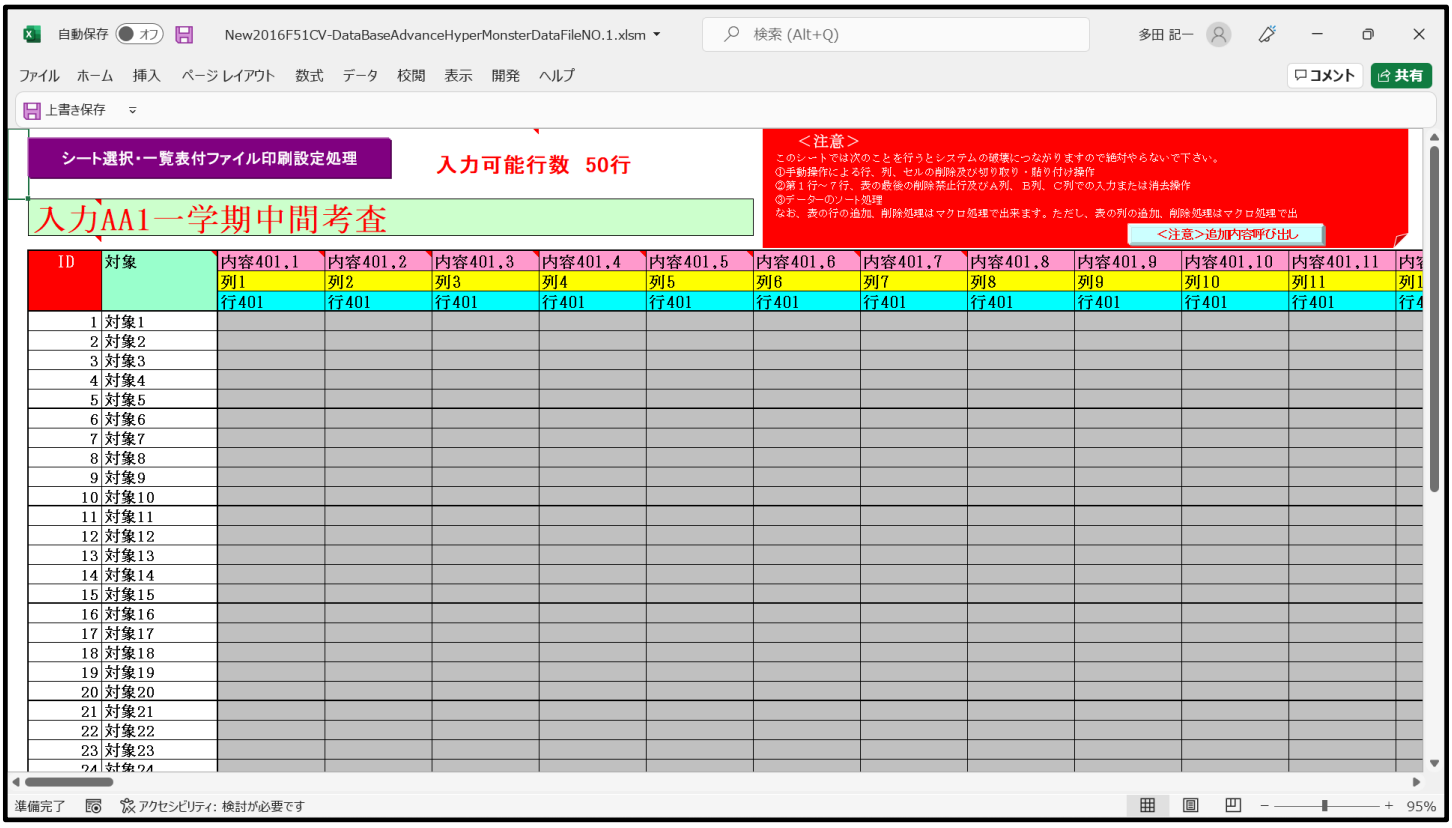
39	入力AA1ー学期中間考査

の部分の右側のセルの値を変更し、セル 39 をダブルクリックすると入力シート「入力 AA1」のシート名が「入力 AA1 一学期中間考査」に変更され入力シート「入力 AA1 一学期中間考査」が選択され、下の[図５０]の画面のようになります。

[図４９]



[図５０]



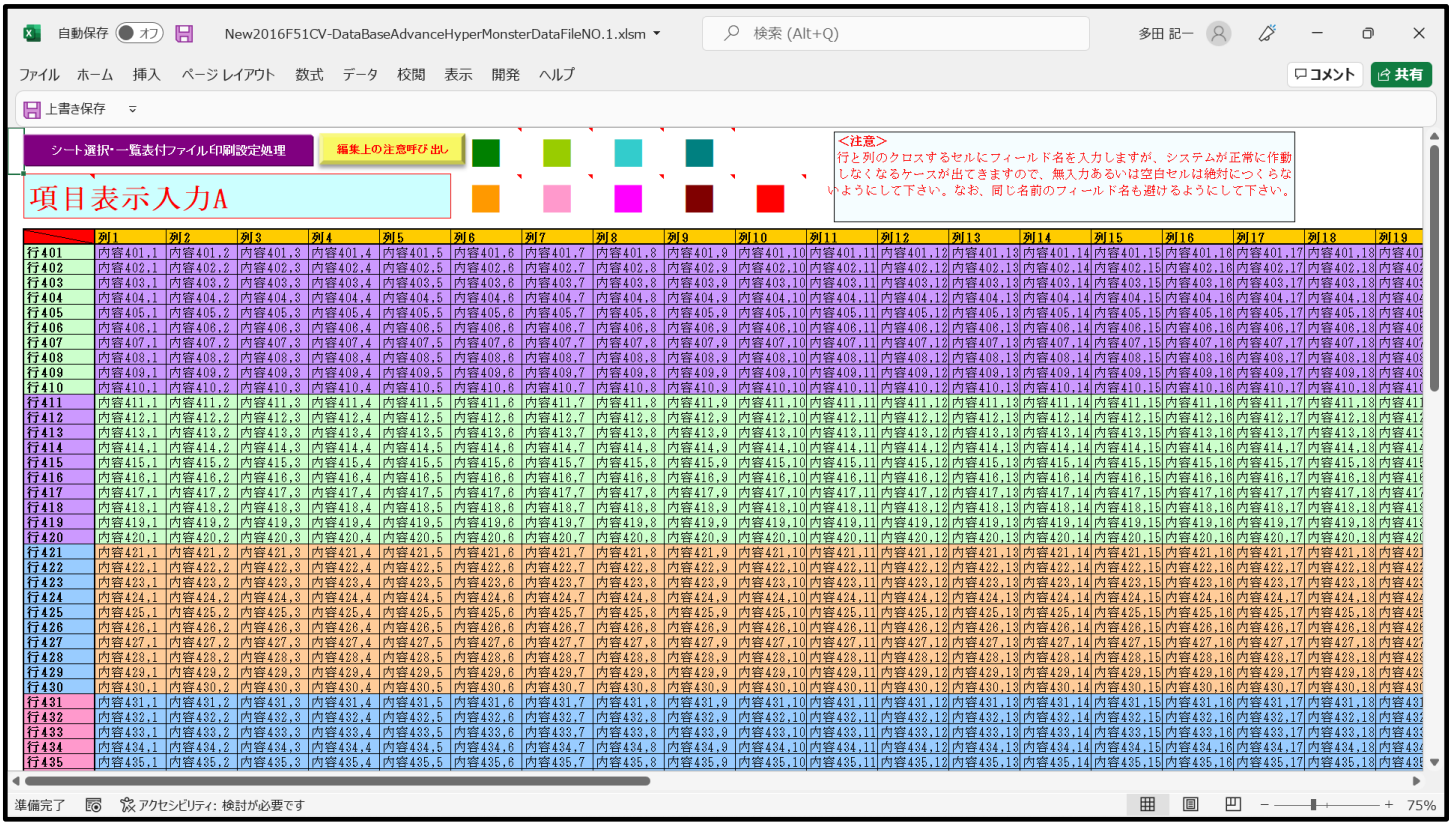
引き続いて上の[図５０]の画面のコマンドボタン

をクリックすると、次の[図５１]の画面のようになります。

[図５１]

上の[図５１]の画面のコマンドボタン **項目表示入力A** をクリックすると次の[図５２]の画面のようになりますが、入力シート「入力 AA1 一学期中間考査」の表の項目表示を設定します。

[図５２]

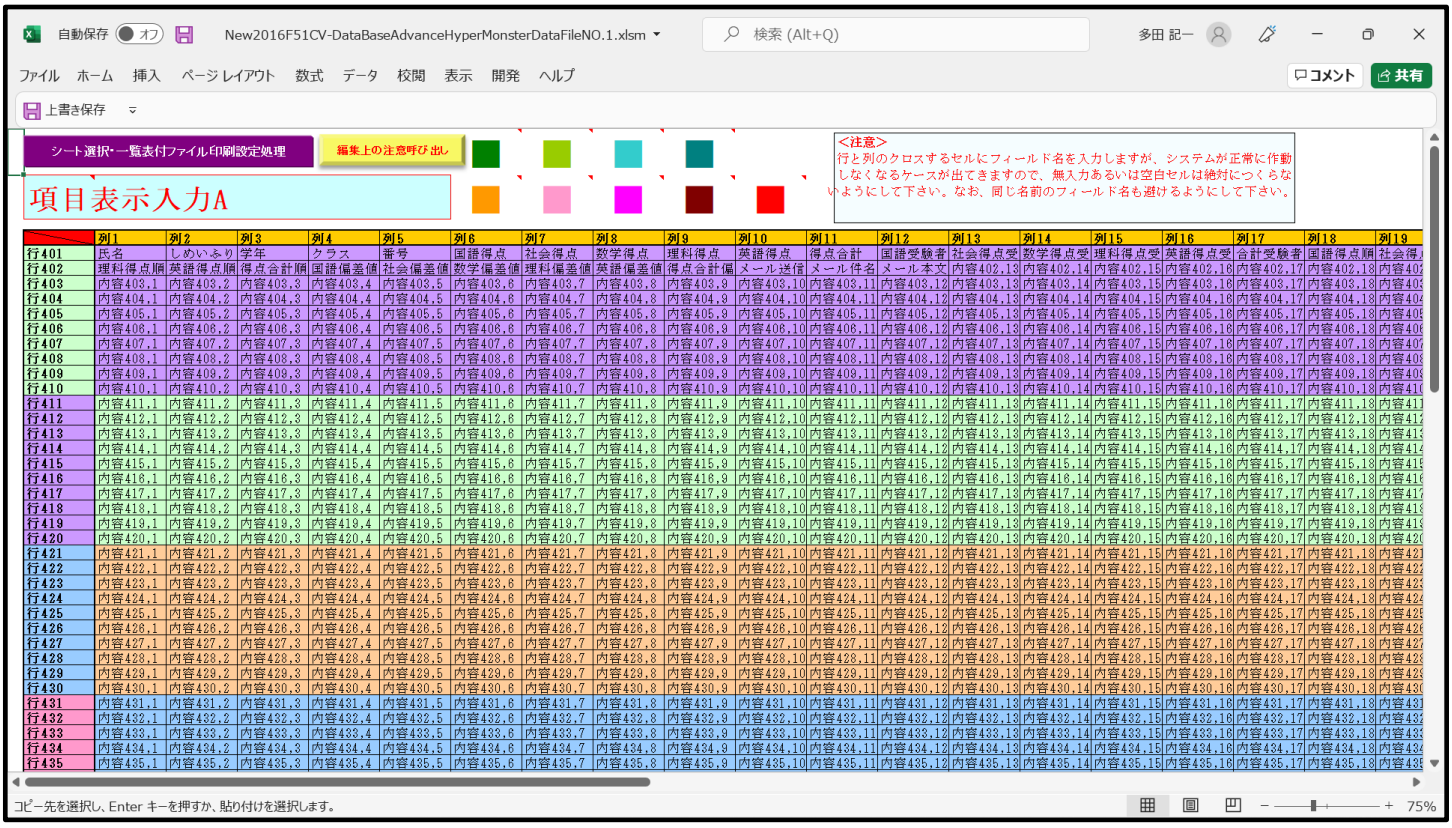


上の[図５２]の画面の

	列1	列2	列3	列4	列5	列6	列7	列8	列9	列10	列11	列12	列13	列14	列15	列16	列17	列18	列19	列20
行401	内容401,1	内容401,2	内容401,3	内容401,4	内容401,5	内容401,6	内容401,7	内容401,8	内容401,9	内容401,10	内容401,11	内容401,12	内容401,13	内容401,14	内容401,15	内容401,16	内容401,17	内容401,18	内容401,19	内容401,20
行402	内容402,1	内容402,2	内容402,3	内容402,4	内容402,5	内容402,6	内容402,7	内容402,8	内容402,9	内容402,10	内容402,11	内容402,12	内容402,13	内容402,14	内容402,15	内容402,16	内容402,17	内容402,18	内容402,19	内容402,20

の部分に次の[図５３]の画面のように入力します。

[図５３]



そして、上の[図５３]の画面のコマンドボタン シート選択･一覧表付ファイル印刷設定処理 をクリックすると次の[図５４]の画面になります。

[図５４]

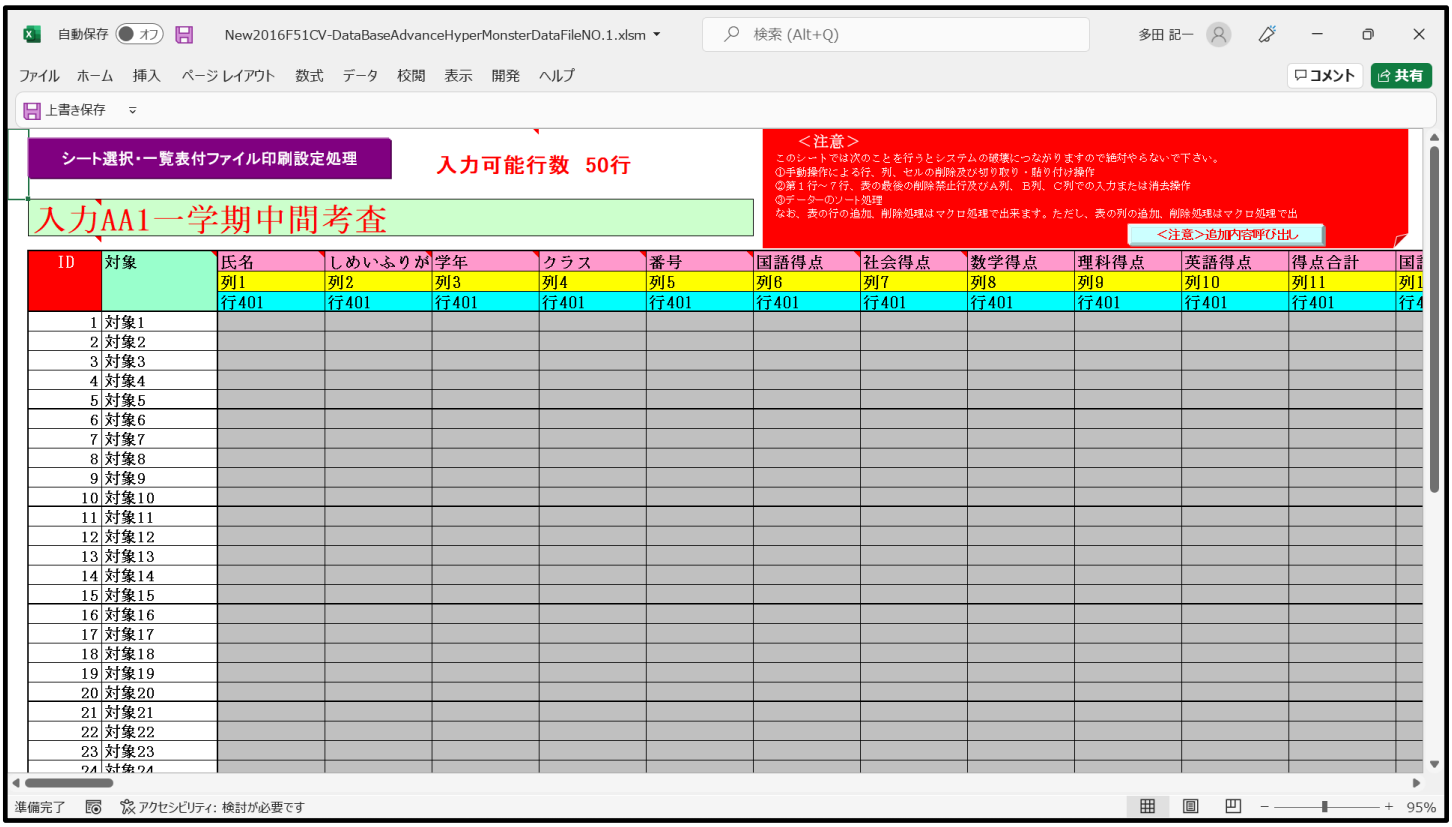
上の[図５４]の画面のタブ 入力シートAA、AB、BA,BB選択 を選択すると次の[図５５]の画面なりますが、[図５５]の画面のコマンドボタン

入力AA1一学期中間考査

をクリックすると入力シート「入力 AA1 一学期中間考査」が選択され下の[図５６]の画面のようになります。

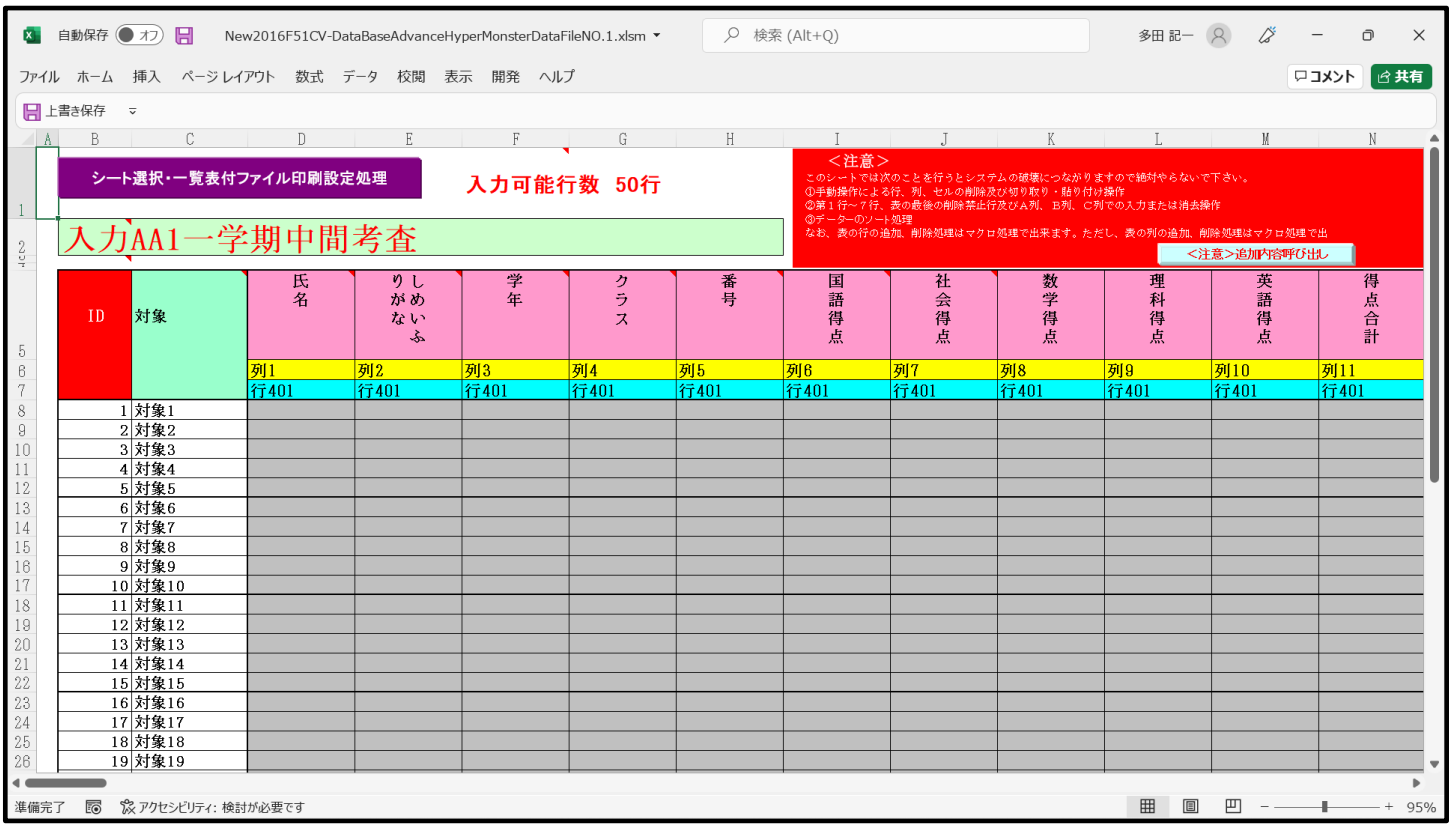
[図５５]

[図５６]



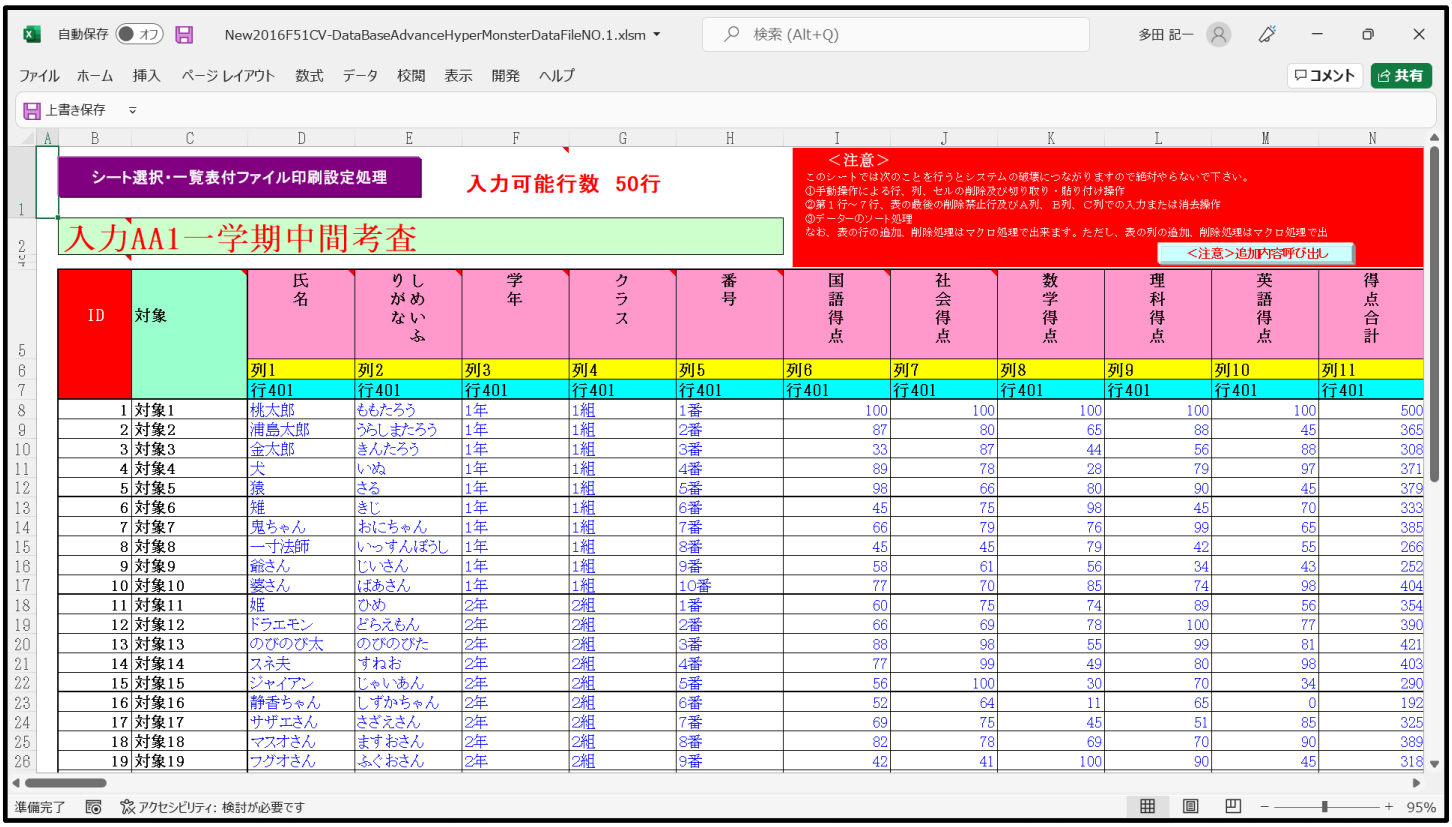
上の[図５６]の画面でシートの保護を槐樹押し項目表示を縦型に編集し直したのが次の[図５７]の画面です。

[図５７]



そして、[図５７]の画面の表にデーターを入力したのが次の[図５８]の画面です。ただし、この入力データーはテスト用のものです。

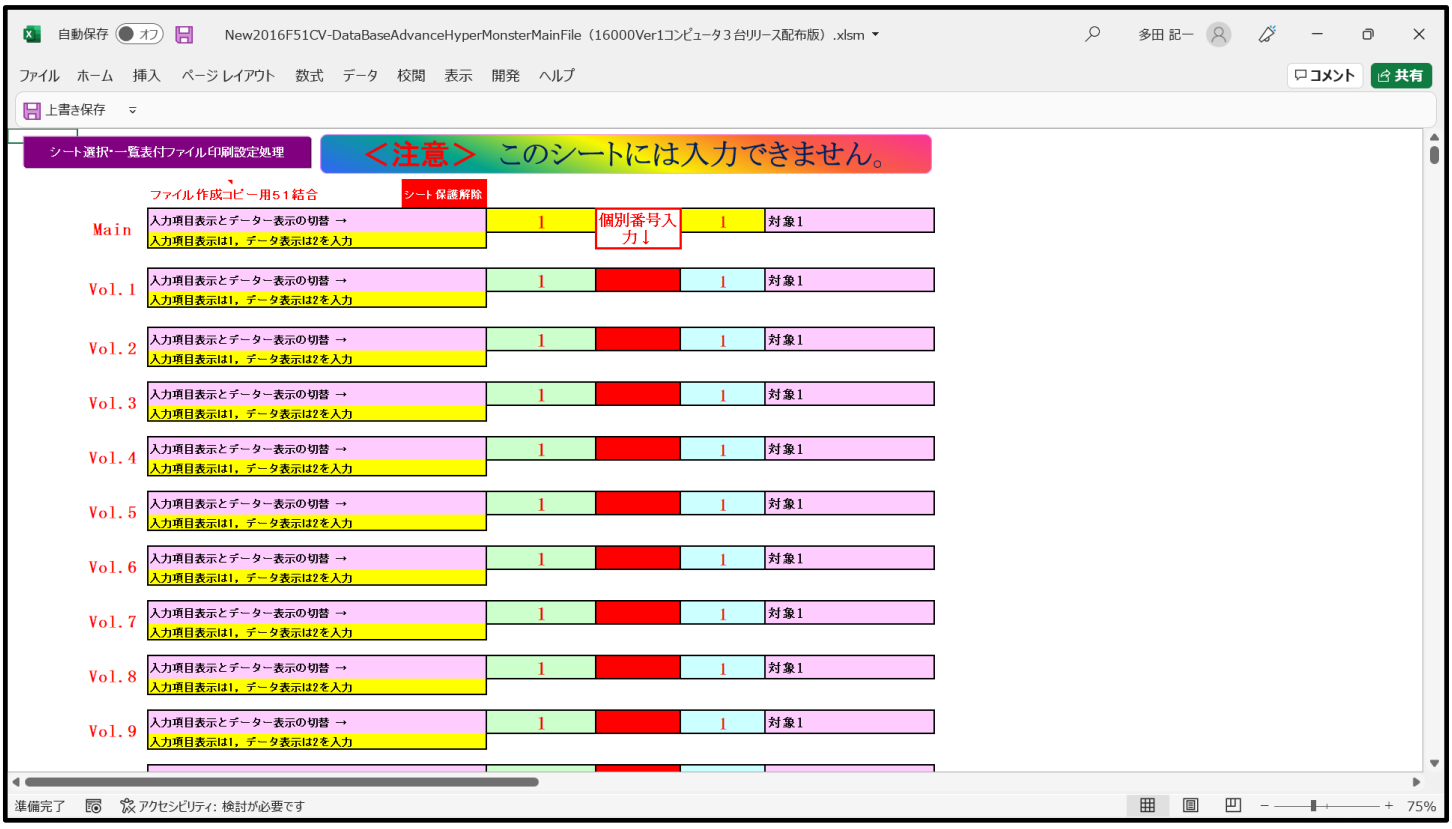
[図５８]



ID	対象	氏名	りしがめないふ	学年	クラス	番号	国語得点	社会得点	数学得点	理科得点	英語得点	得点合計
		列1	列2	列3	列4	列5	列6	列7	列8	列9	列10	列11
		行401	行401	行401	行401	行401	行401	行401	行401	行401	行401	行401
1	対象1	桃太郎	ももたろう	1年	1組	1番	100	100	100	100	100	500
2	対象2	浦島太郎	うらしまたろう	1年	1組	2番	87	80	65	88	45	365
3	対象3	金太郎	きんたろう	1年	1組	3番	33	87	44	56	88	308
4	対象4	犬	いぬ	1年	1組	4番	89	78	28	79	97	371
5	対象5	猿	さる	1年	1組	5番	98	66	80	90	45	379
6	対象6	雉	きじ	1年	1組	6番	45	75	98	45	70	333
7	対象7	鬼ちゃん	おにちゃん	1年	1組	7番	66	79	76	99	65	385
8	対象8	一寸法師	いっすんぼうし	1年	1組	8番	45	45	79	42	55	266
9	対象9	爺さん	じいさん	1年	1組	9番	58	61	56	34	43	252
10	対象10	婆さん	ばあさん	1年	1組	10番	77	70	85	74	98	404
11	対象11	姫	ひめ	2年	2組	1番	60	75	74	89	56	354
12	対象12	ドラエモン	どらえもん	2年	2組	2番	66	69	78	100	77	390
13	対象13	のびのび太	ののびた	2年	2組	3番	88	98	55	99	81	421
14	対象14	スネ夫	すねお	2年	2組	4番	77	99	49	80	98	403
15	対象15	ジャイアン	じゃいあん	2年	2組	5番	56	100	30	70	34	290
16	対象16	静香ちゃん	しずかちゃん	2年	2組	6番	52	64	11	65	0	192
17	対象17	サザエさん	さざえさん	2年	2組	7番	69	75	45	51	85	325
18	対象18	マスオさん	ますおさん	2年	2組	8番	82	78	69	70	90	389
19	対象19	フグオさん	ふぐおさん	2年	2組	9番	42	41	100	90	45	318

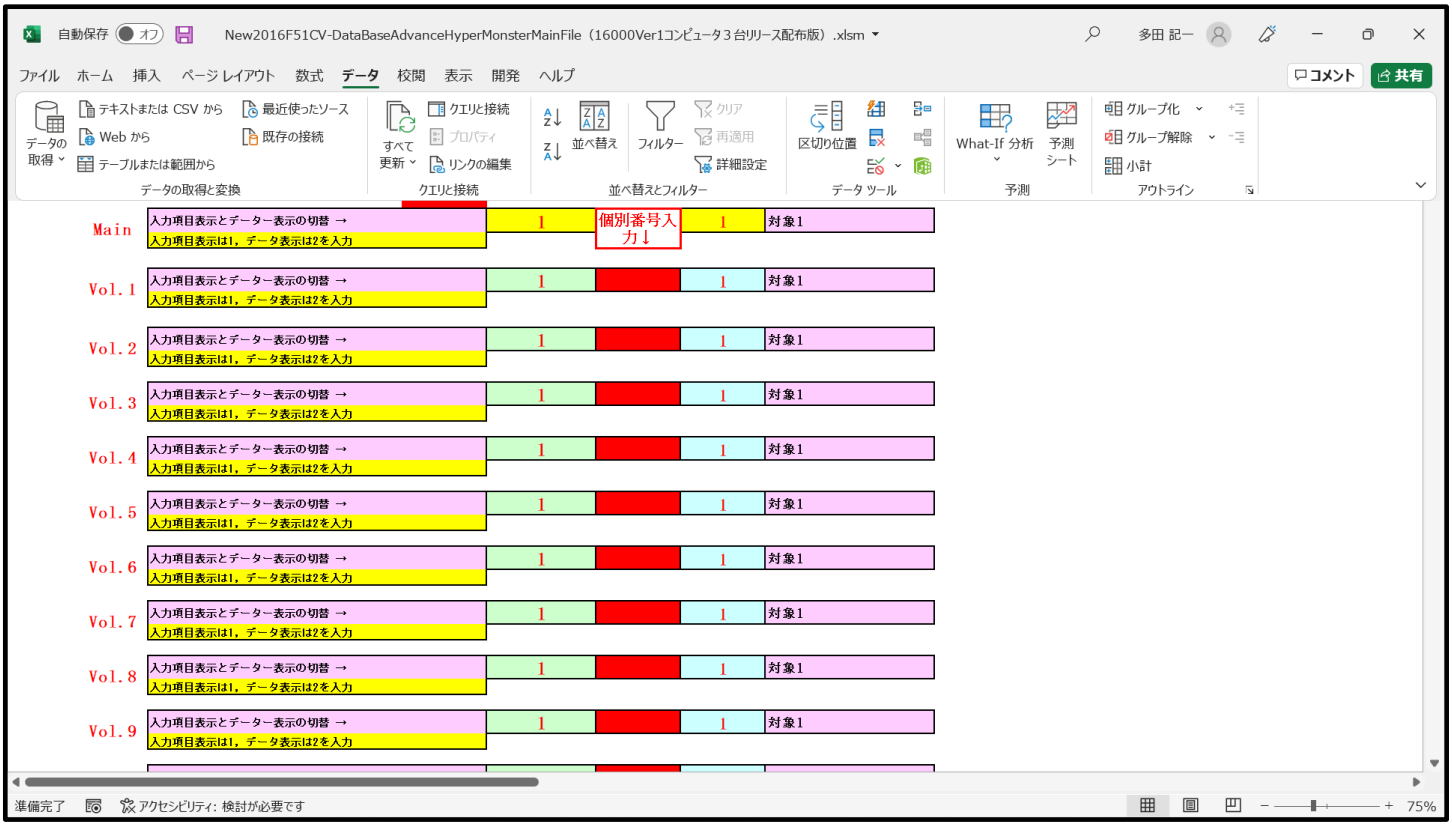
次に「修正前期募集校長宛合否通知書」を作成するためにデーターファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2.xlsm
のデーターの入力等について次のように行います。
先ず、ファイル New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile
（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）
を立ち上げ、シート「ファイル作成コピー用５１結合」を選択します。そして Esc を押すと標準画面となり、次の[図５９]の画面のようになります。

[図５９]



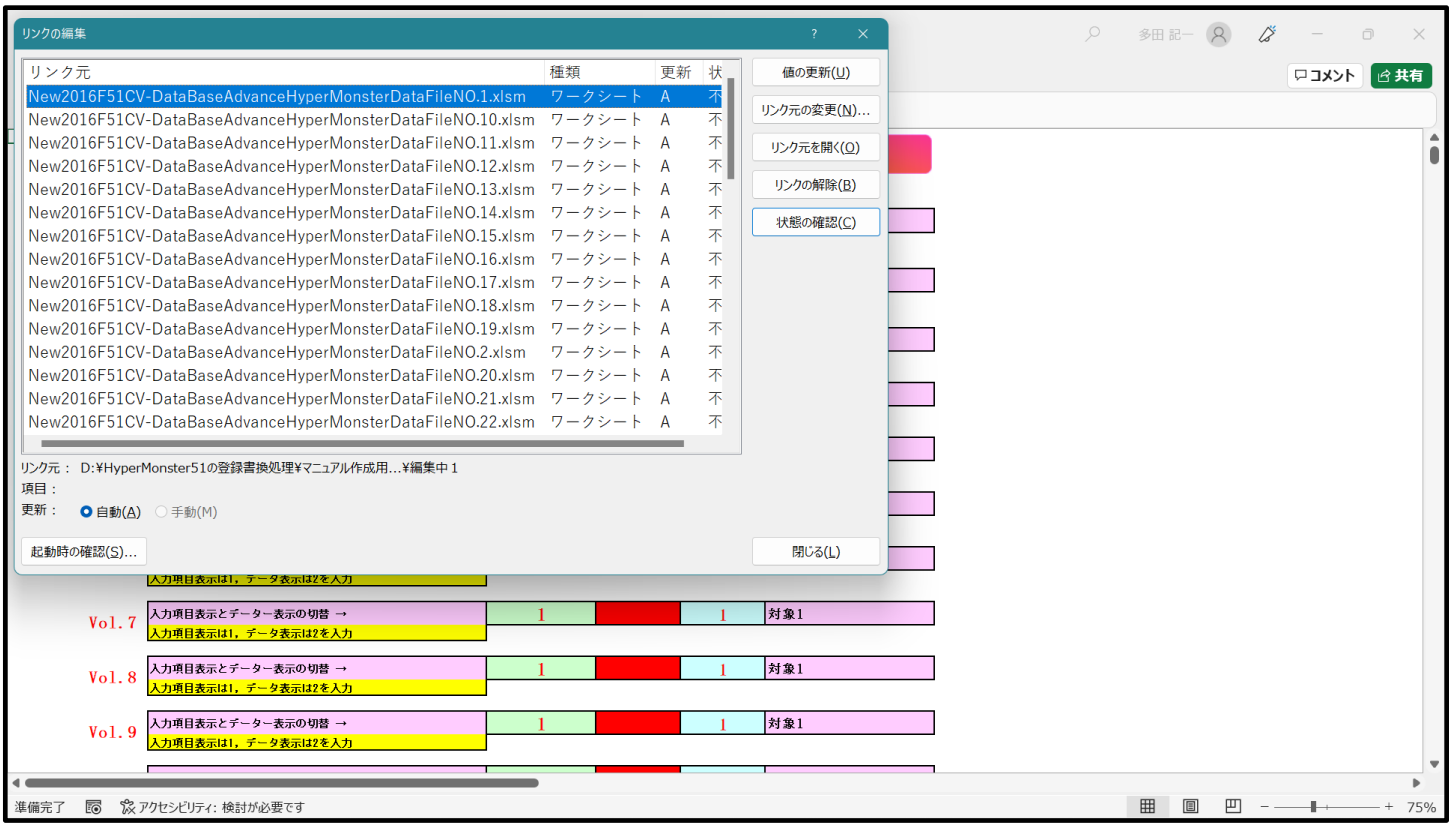
そして更に、上の[図５９]の画面のセル**シート保護解除**を選択してダブルクリックしてシートの保護を解除し、データを選択すると、次の[図６０]の画面のようになります。

[図６０]



更に上の[図６０]の画面のリンクの編集の部分を選択すると次の[図６１]の画面のようになります

[図６１]

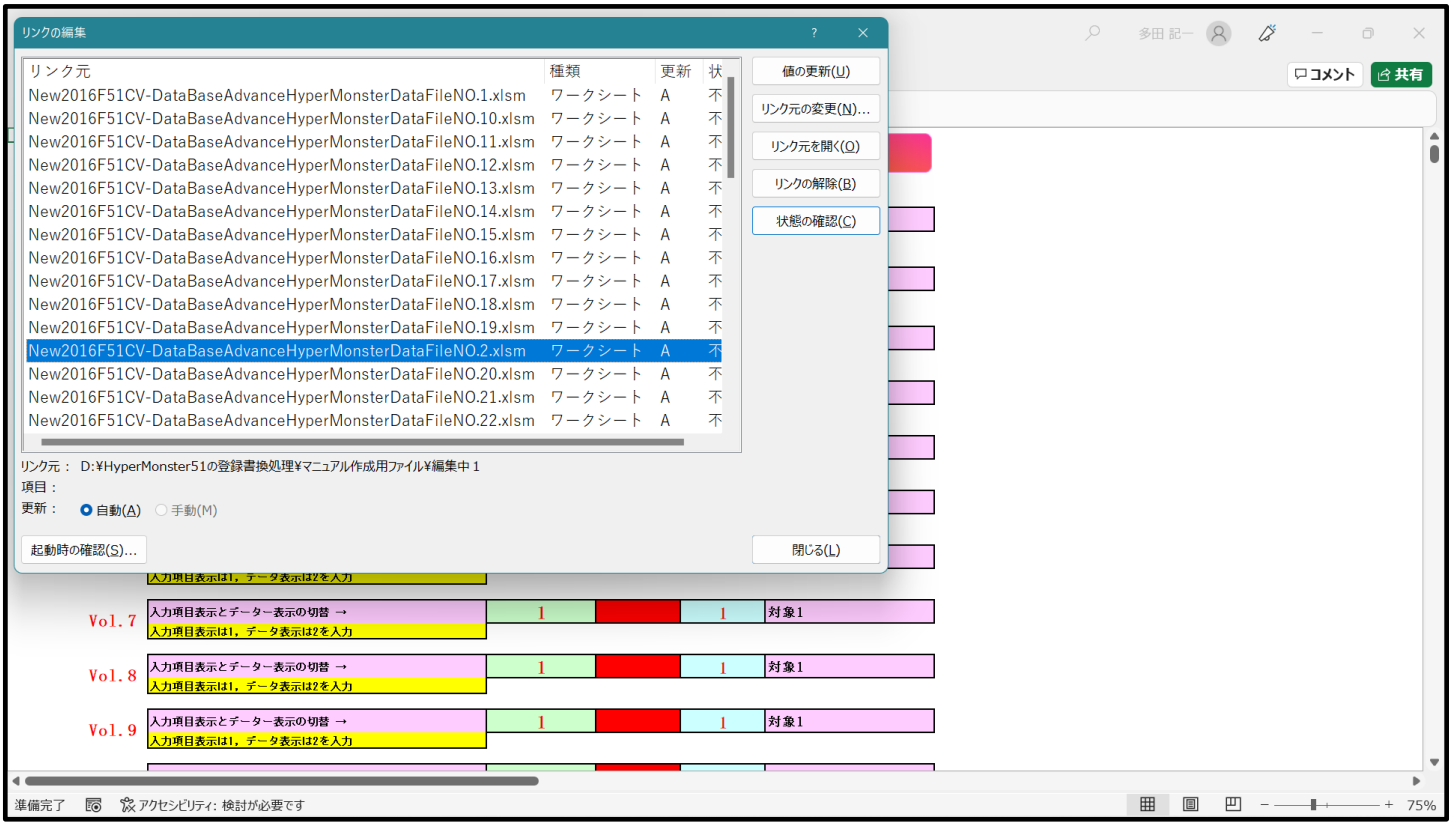


上の[図６１]の画面のリンク元の部分で

New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2.xlsm　ワークシート　A　不

を選択して次の[図６２]の画面のようにします。

[図６２]



そして上の[図６２]の画面のボタン リンク元を開く(O) をクリックするとリンク元のファイル

New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2.xlsm
開かれてまいりますが、最初に次の[図６３]の画面が表示されます。

[図６３]

上の[図６３]の画面のコマンドボタン

をクリックすると次の[図６４]の画面が表示された後、その次の[図６５]の画面が表示されます。

[図６４]

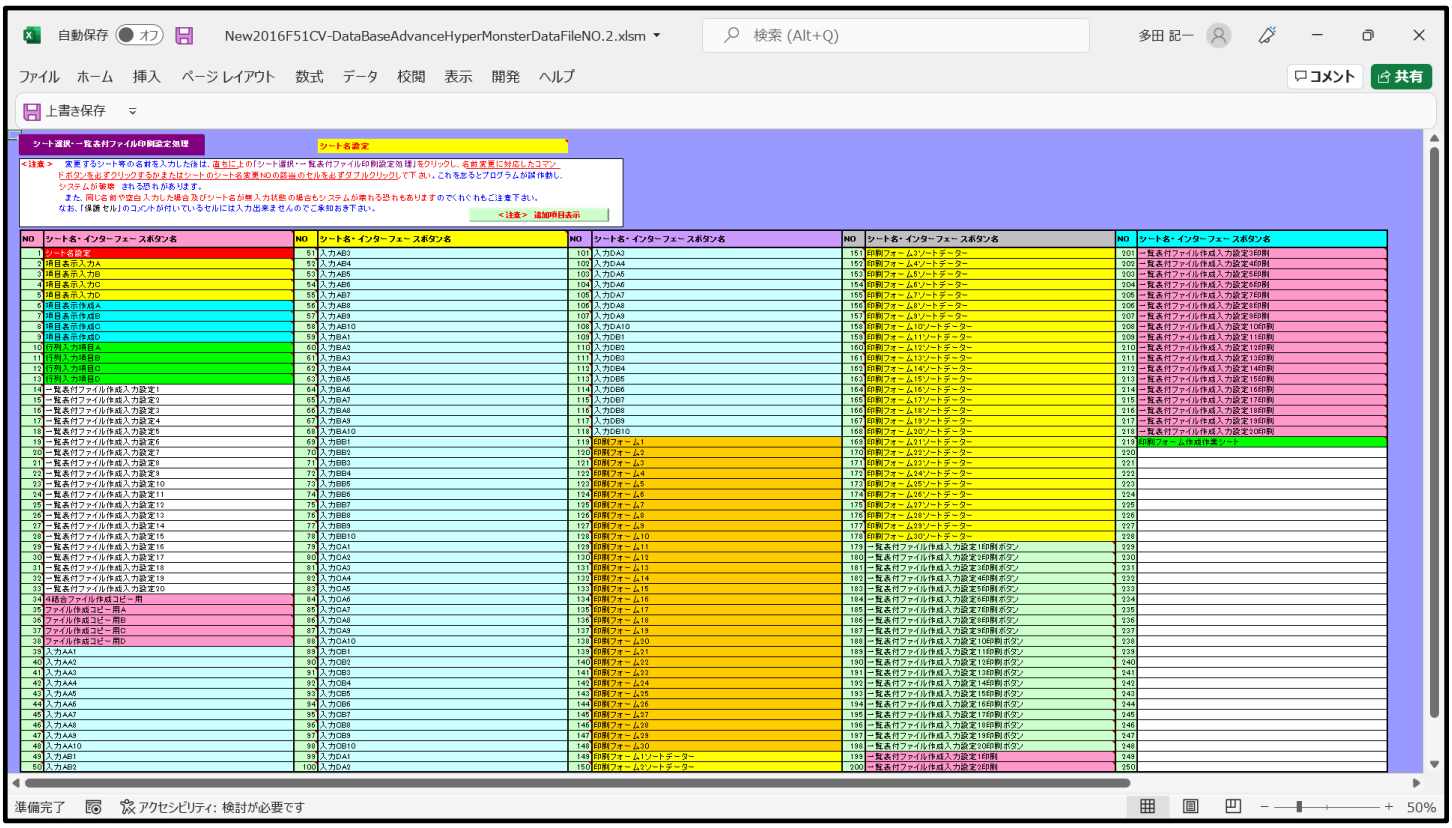
[図６５]

上の[図６５]の画面のタブ シート選択，処理呼出1 を選択すると次の[図６６]の画面になります。

[図６６]

上の[図６６]の画面のコマンドボタン **シート名設定** をクリックすると次の[図６７]の画面になります。但し[図６７]の画面は表示倍率が 50%のものです。

[図６７]

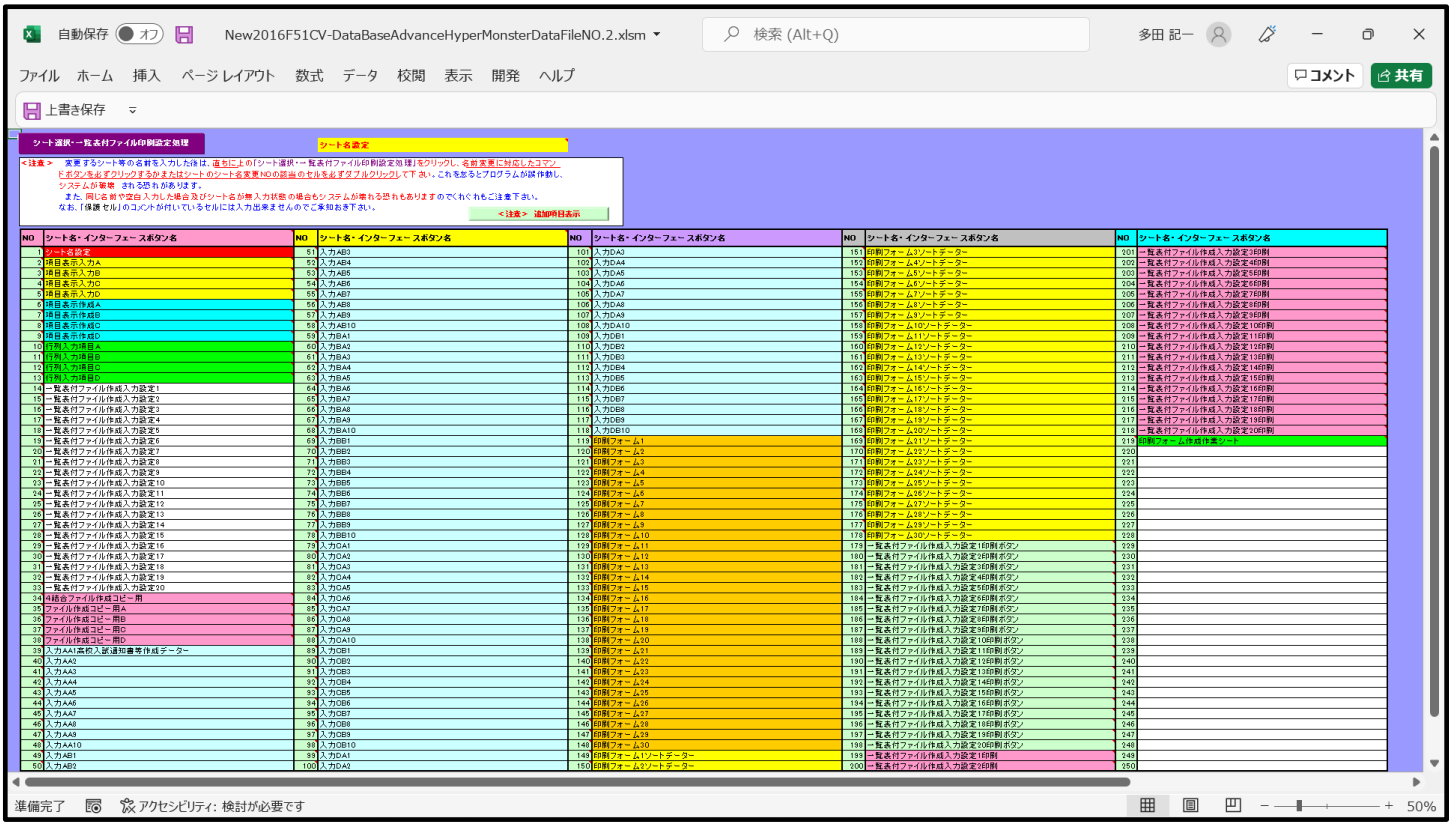


そして次の[図６８]の画面のように

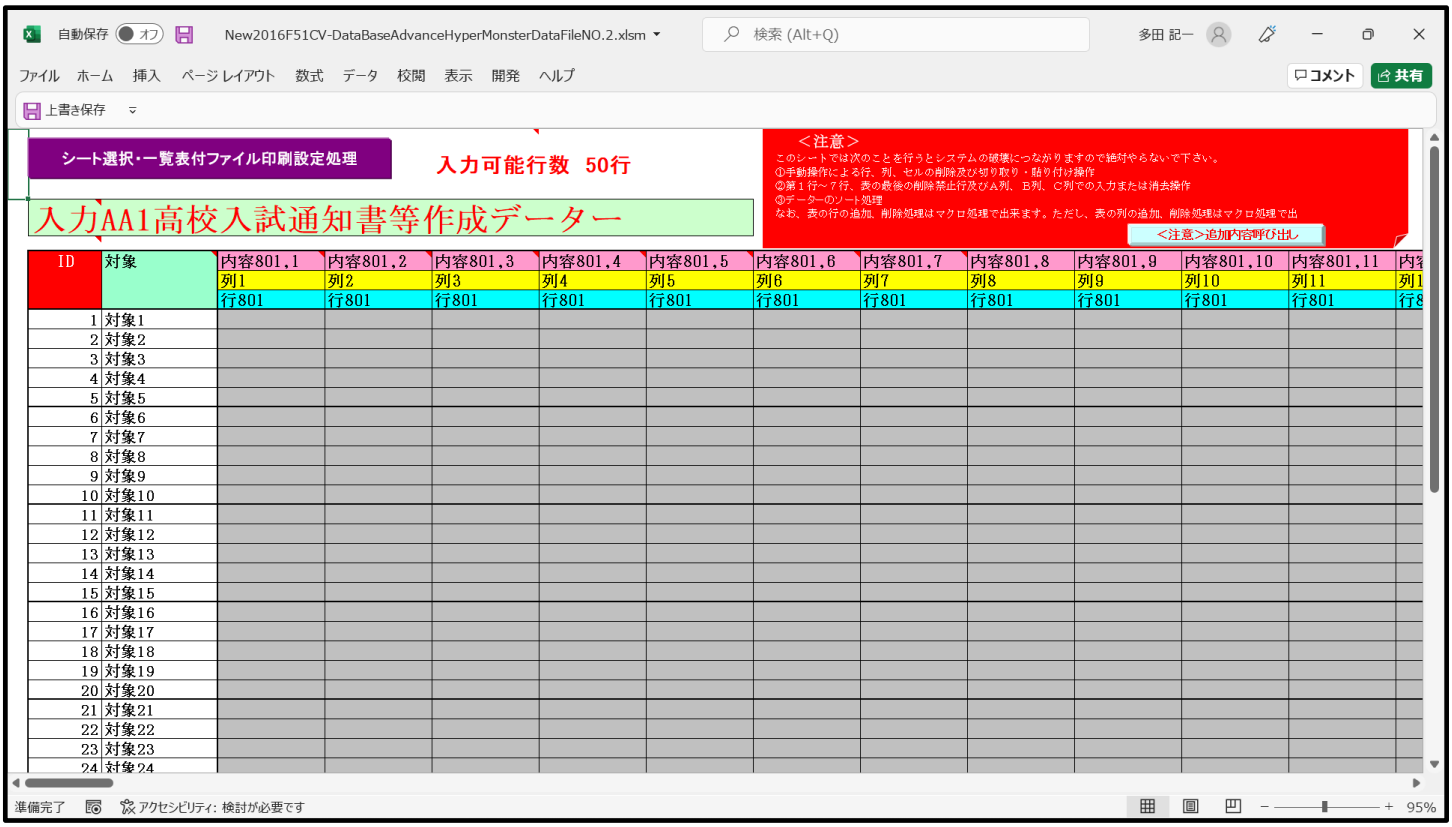
39	入力AA1（高校入試通知書等作成データー）

の部分の右側のセルの値を変更し、セル 39 をダブルクリックしると入力シート「入力 AA1」のシート名が「入力 AA１（高校入試通知書等作成データー)」に変更され入力シート「入力 AA１（高校入試通知書等作成データー)」が選択され、下の[図６９]の画面のようになります。

[図６８]



[図６９]

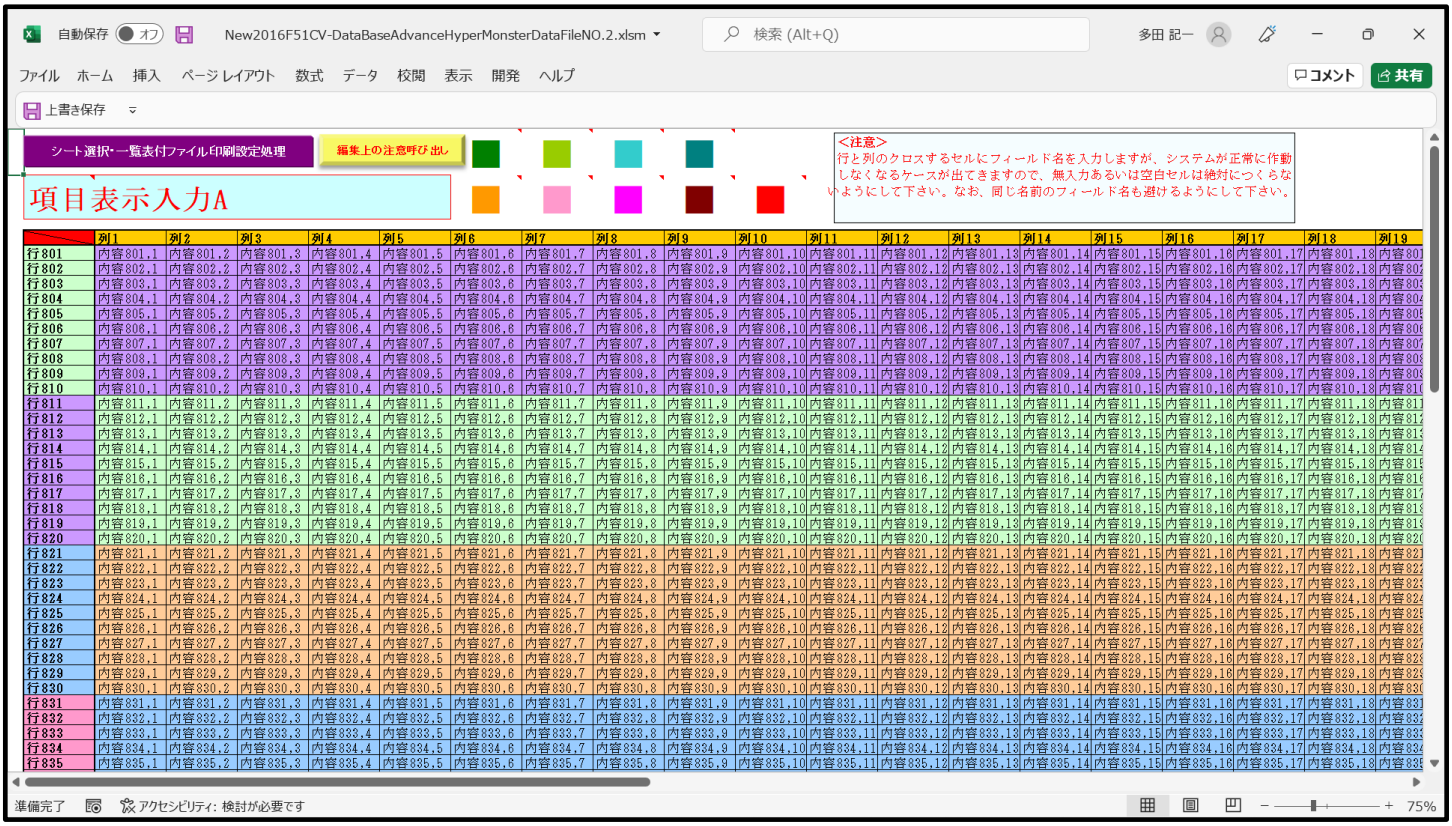


引き続いて上の[図６９]の画面のコマンドボタン **シート選択・一覧表付ファイル印刷設定処理** をクリックすると、次の[図７０]の画面のようになります。

[図７０]

上の[図７０]の画面のコマンドボタン **項目表示入力A** をクリックすると次の[図７１]の画面のようになりますが、入力シート「入力 AA１（高校入試通知書等作成データー）」の表の項目表示を設定します。

[図７１]

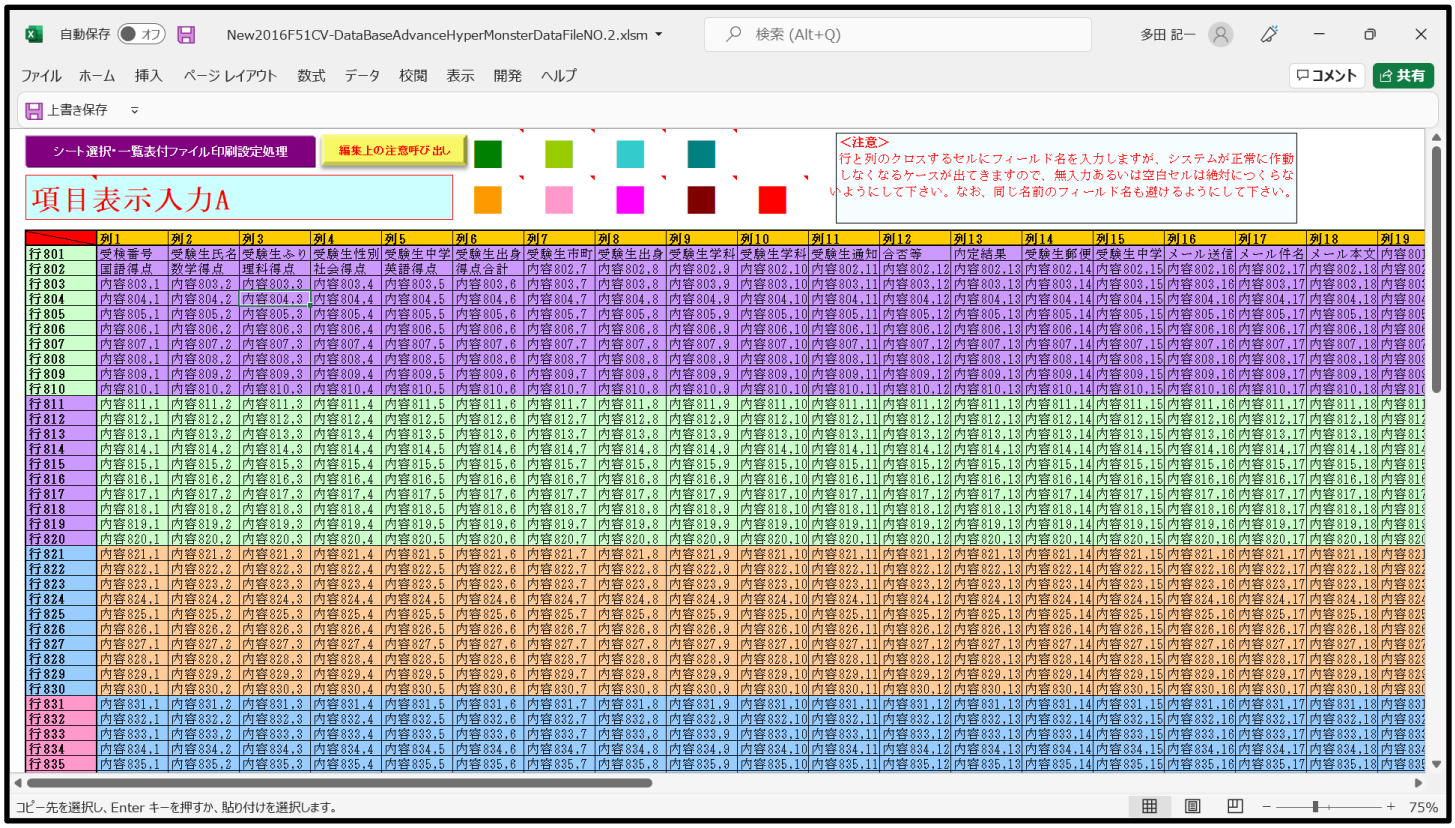


上の[図７１]の画面の

	列1	列2	列3	列4	列5	列6	列7	列8	列9	列10	列11	列12	列13	列14	列15	列16	列17	列18	列19	列20
行401	内容401,1	内容401,2	内容401,3	内容401,4	内容401,5	内容401,6	内容401,7	内容401,8	内容401,9	内容401,10	内容401,11	内容401,12	内容401,13	内容401,14	内容401,15	内容401,16	内容401,17	内容401,18	内容401,19	内容401,20
行402	内容402,1	内容402,2	内容402,3	内容402,4	内容402,5	内容402,6	内容402,7	内容402,8	内容402,9	内容402,10	内容402,11	内容402,12	内容402,13	内容402,14	内容402,15	内容402,16	内容402,17	内容402,18	内容402,19	内容402,20

の部分に次の[図７２]の画面のように入力します。

[図７２]



そして、上の[図７２]の画面のコマンドボタン シート選択･一覧表付ファイル印刷設定処理 をクリックすると次の[図７３]の画面になります。

[図７３]

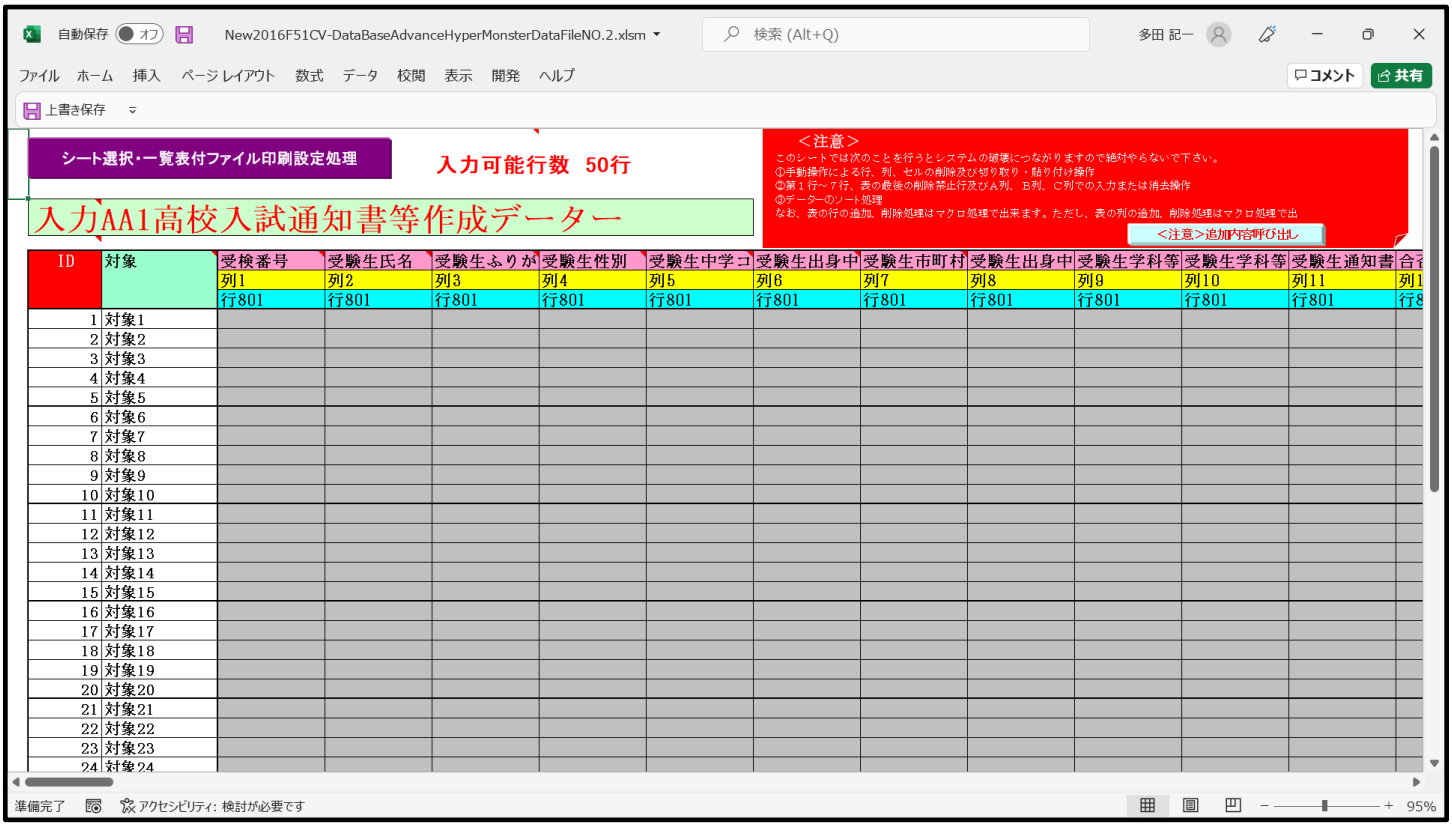
上の[図７３]の画面のタブ 入力シートAA、AB、BA,BB選択 を選択すると次の[図７４]の画面なりますが、[図７４]の画面のコマンドボタン

入力AA1（高校入試通知書等作成データー）

をクリックすると入力シート「入力 AA１（高校入試通知書等作成データー）」が選択され下の[図７５]の画面のようになります。

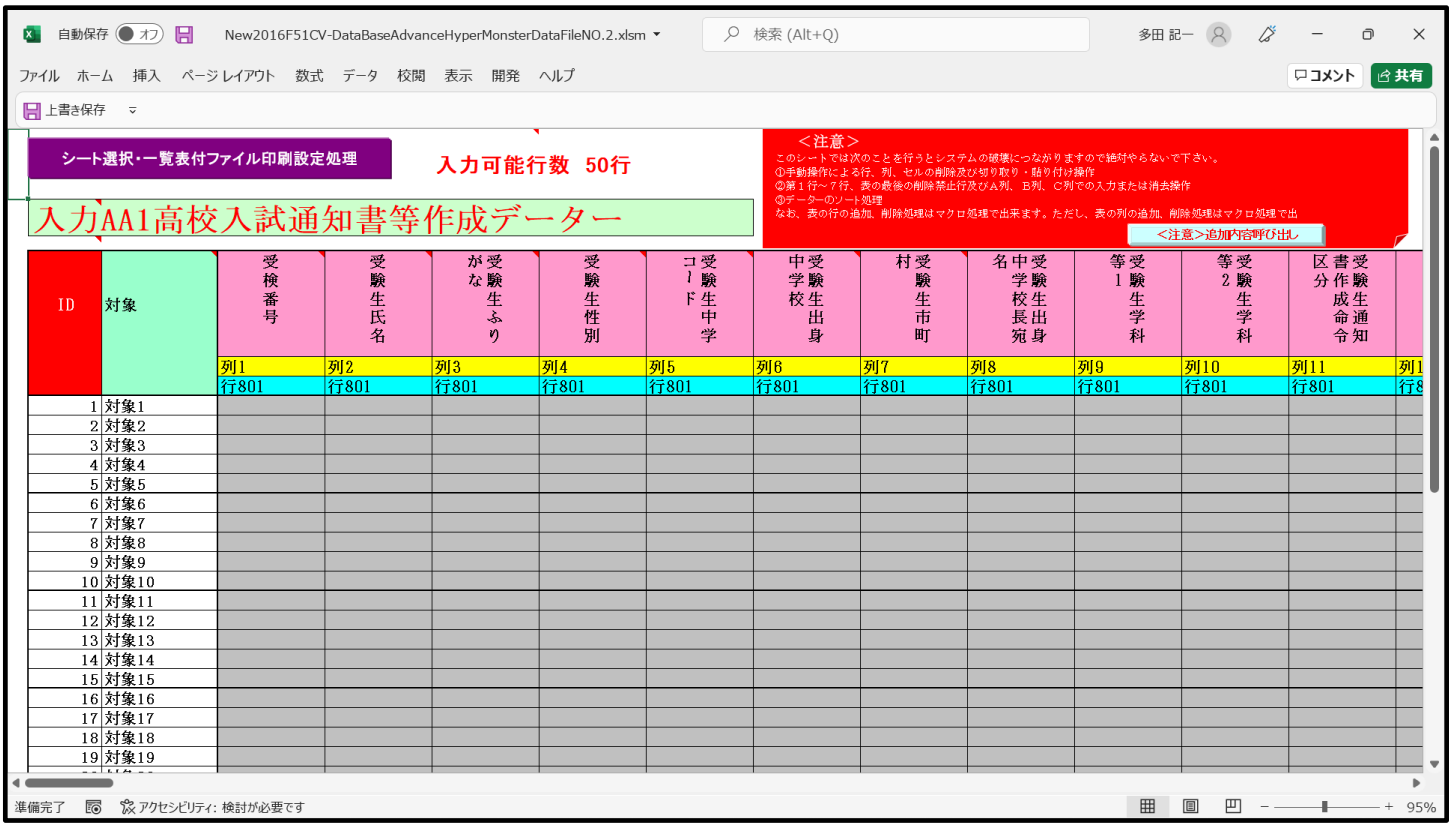
[図７４]

[図７５]



上の[図７５]の画面でシートの保護を解除し、項目表示を縦型に編集し直したのが次の[図７６]の画面です。

[図７６]



上の[図７６]の画面の表にデーターを入力していきたいのですが、入力する前に、表の入力可能行数が５０行と少ないので、表の入力可能行数が５００行に増加したいと思います。これからその手順を説明いたします。

上の[図７６]の画面のコマンドボタン **シート選択・一覧表付ファイル印刷設定処理** をクリックすると次の[図７７]の画面になります。

[図７７]

上の[図７７]の画面のタブ 処理呼出6 を選択すると次の[図７８]の画面になります。

[図７８]

上の[図７８]の画面のコマンドボタン

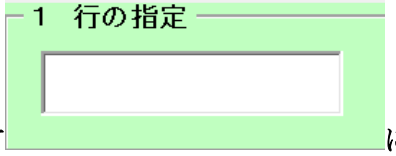
選択入力シート行追加削除処理呼出

をクリックすると次の[図７９]の画面になります。

[図７９]

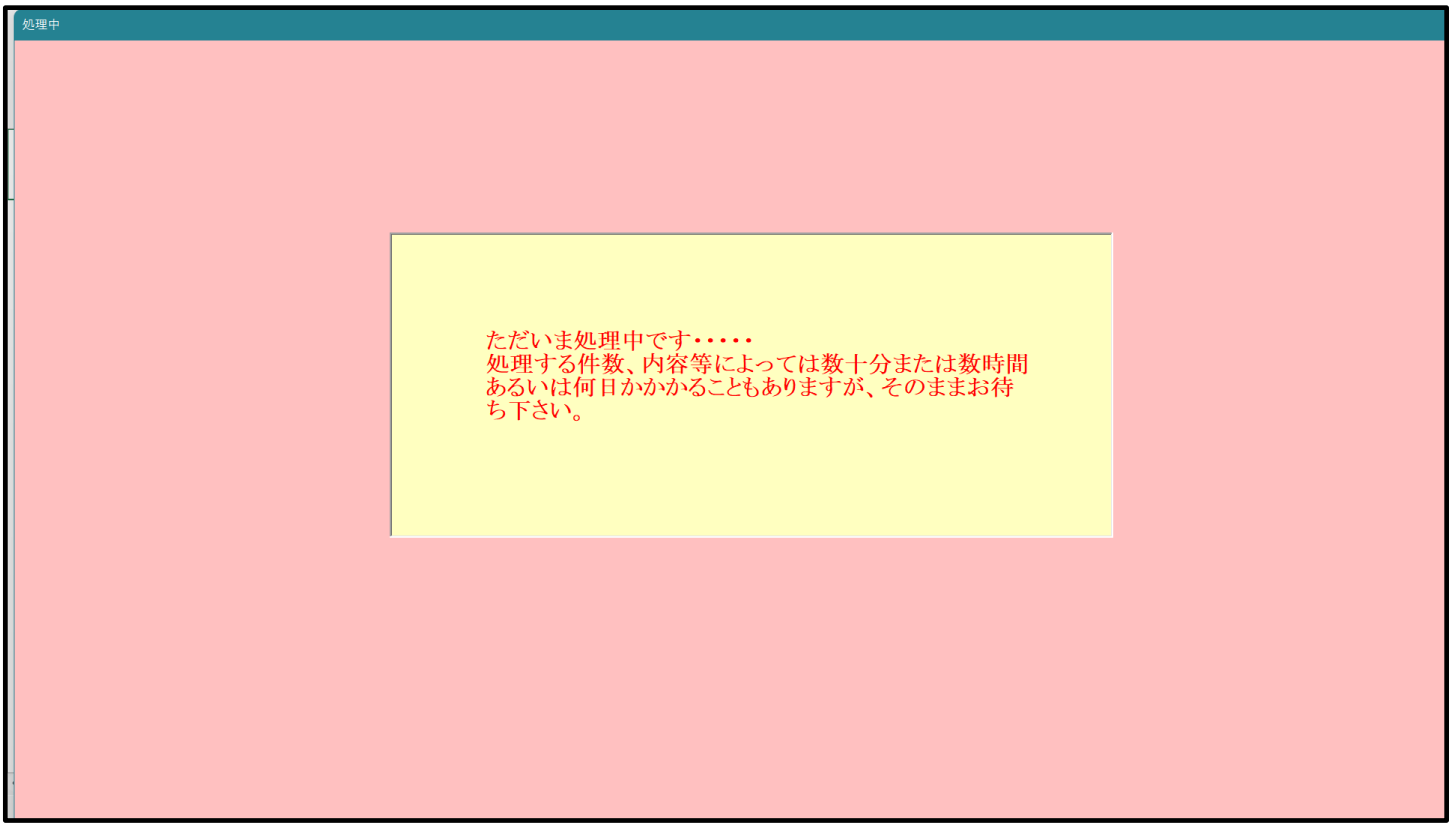
上ののチェックボックス

にチェックを入れて

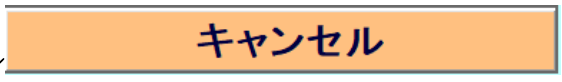
として、そして  に と入力し、コマンドボタン

をクリックすると表の入力可能行数の追加処理が開始されます。表の入力可能行数の追加処理が開始されると次の[図８０]の画面が表示され、追加処理が終了するとその下の[図８１]の画面が表示されます。

[図８０]

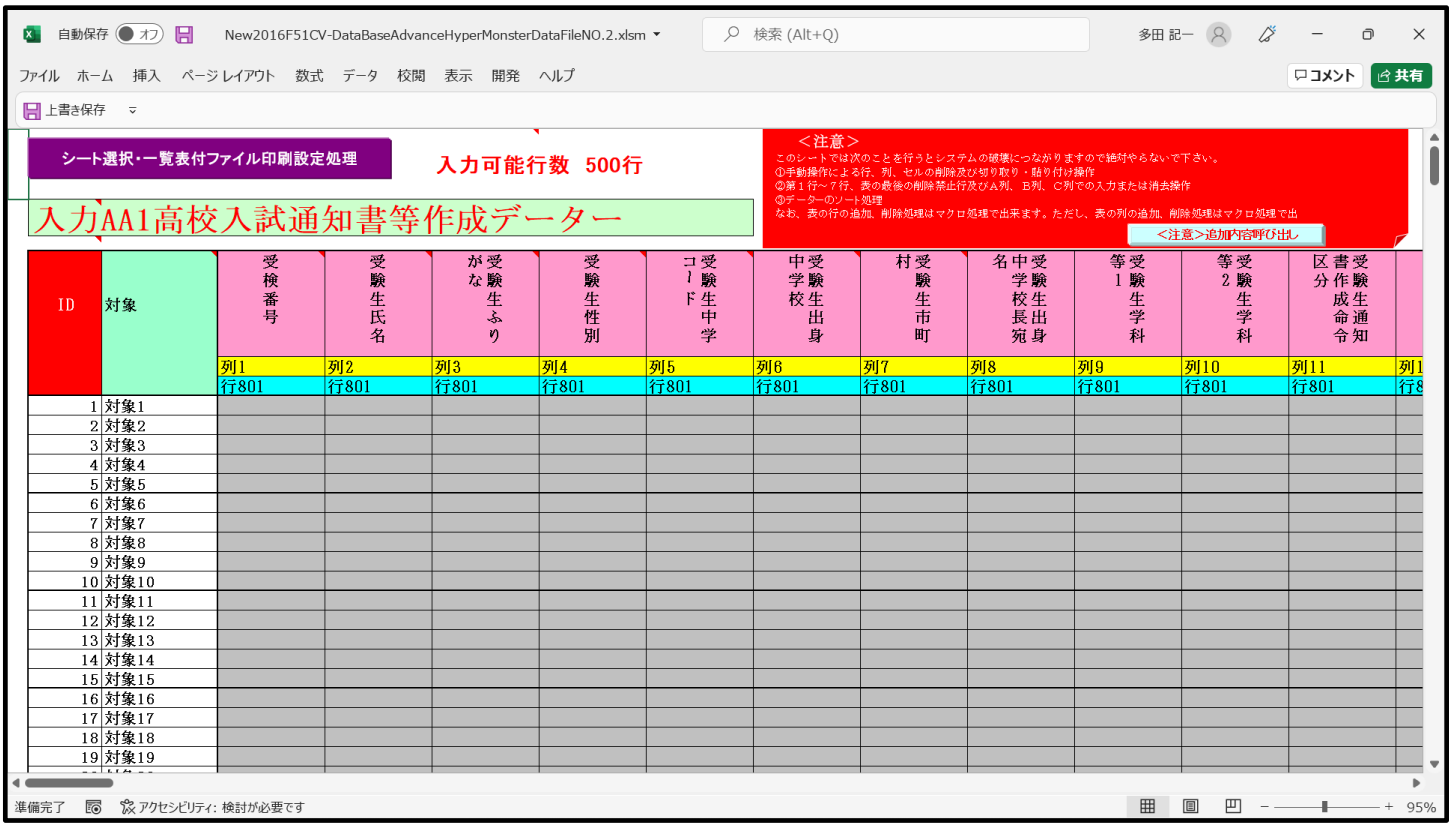


[図８１]

そして、上の[図８１]の画面のコマンドボタン 

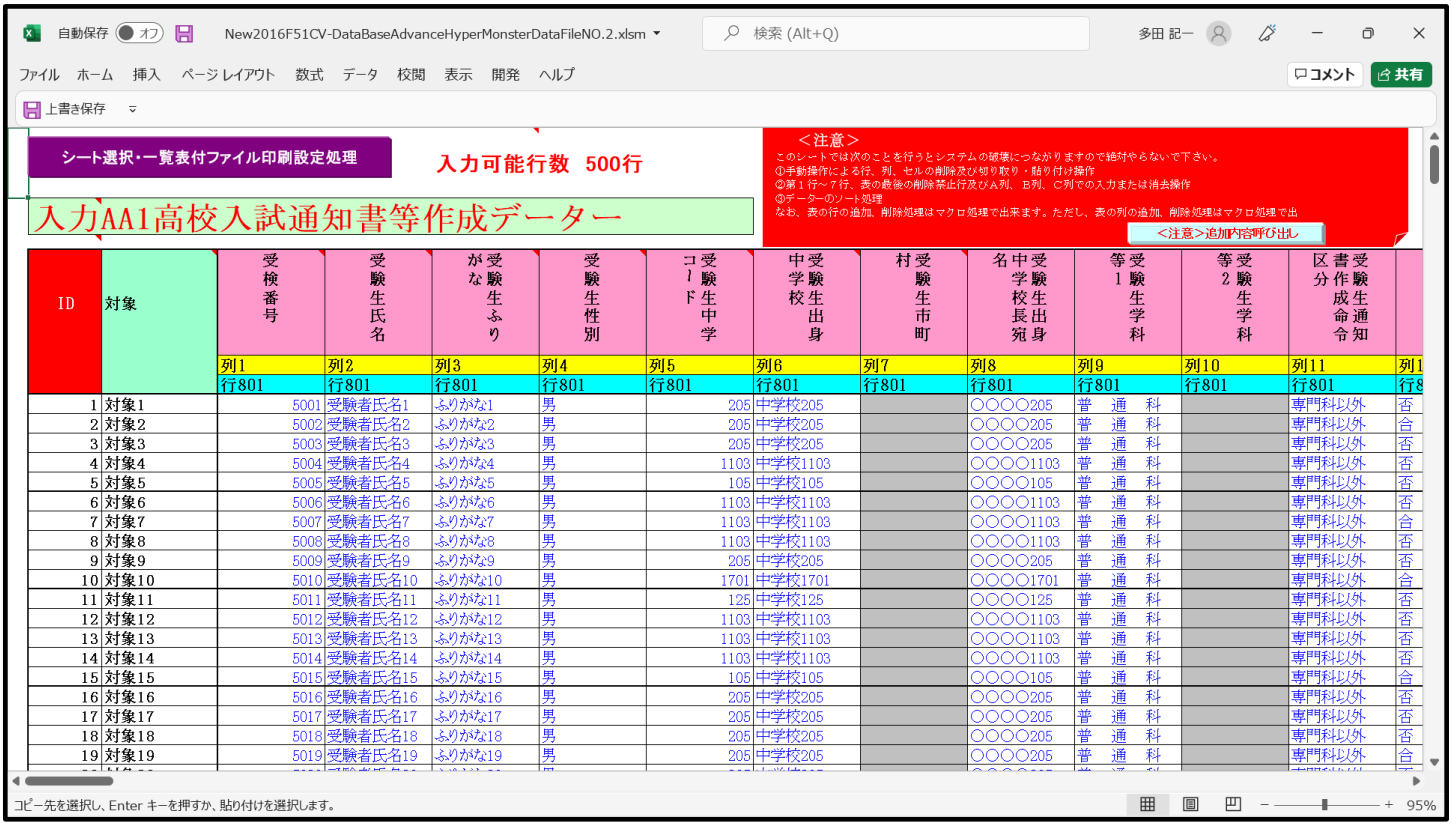
をクリックすると、次の上の[図８２]の画面のようになり、入力シート「入力 AA１（高校入試通知書等作成データー)」の表の入力可能行数が５００行になっていることが確認できます。

[図８２]



これで、入力シート「入力 AA１（高校入試通知書等作成データー)」の表の入力可能行数を５００行に追加する手順についての説明は終了します。
そして、[図８２]の画面の表にデーターを入力したのが次の[図８３]の画面です。ただし、この入力データーはテスト用のものです。

[図８３]

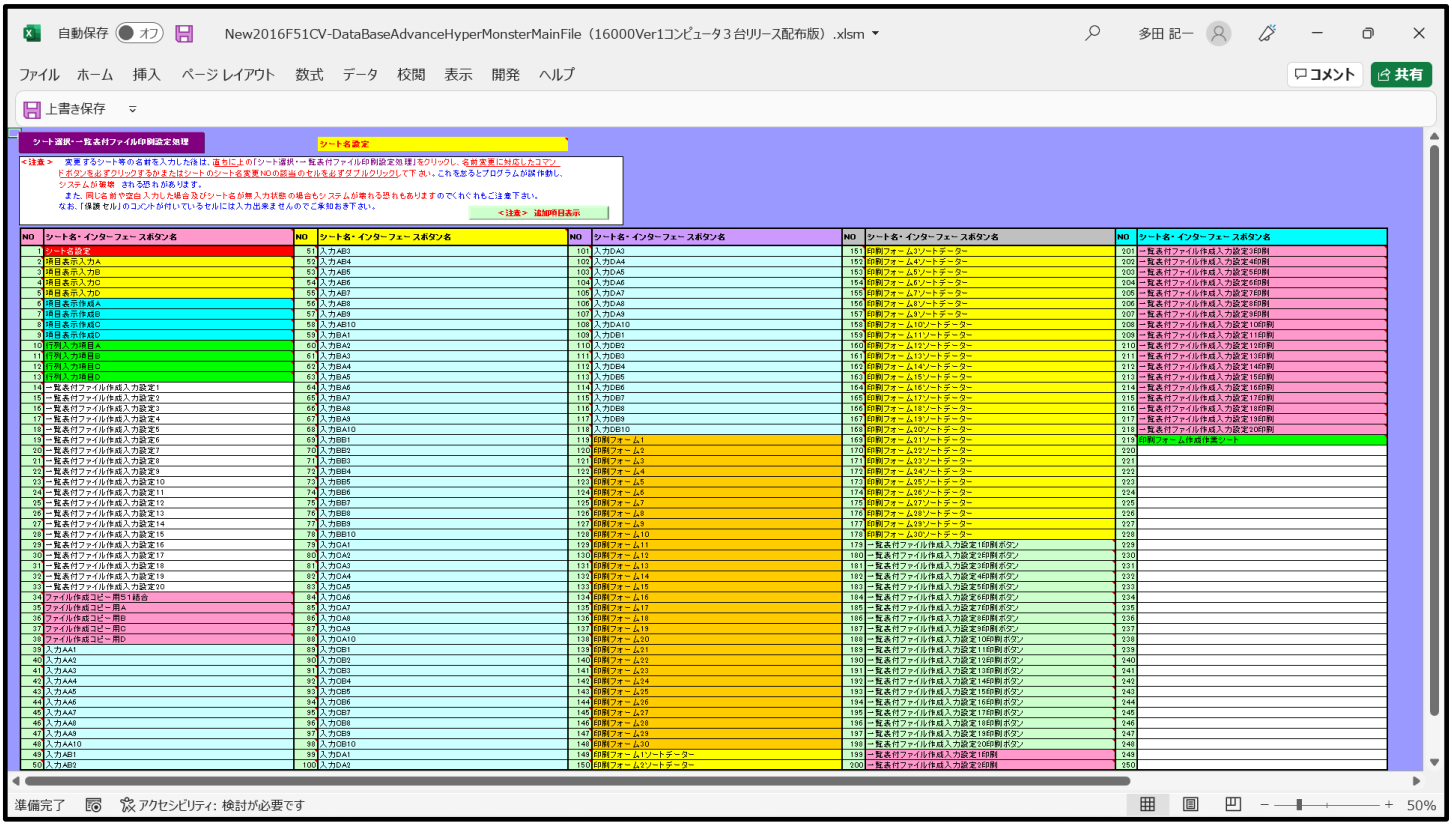


（２）　ファイル New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile

（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm のシートの設定:

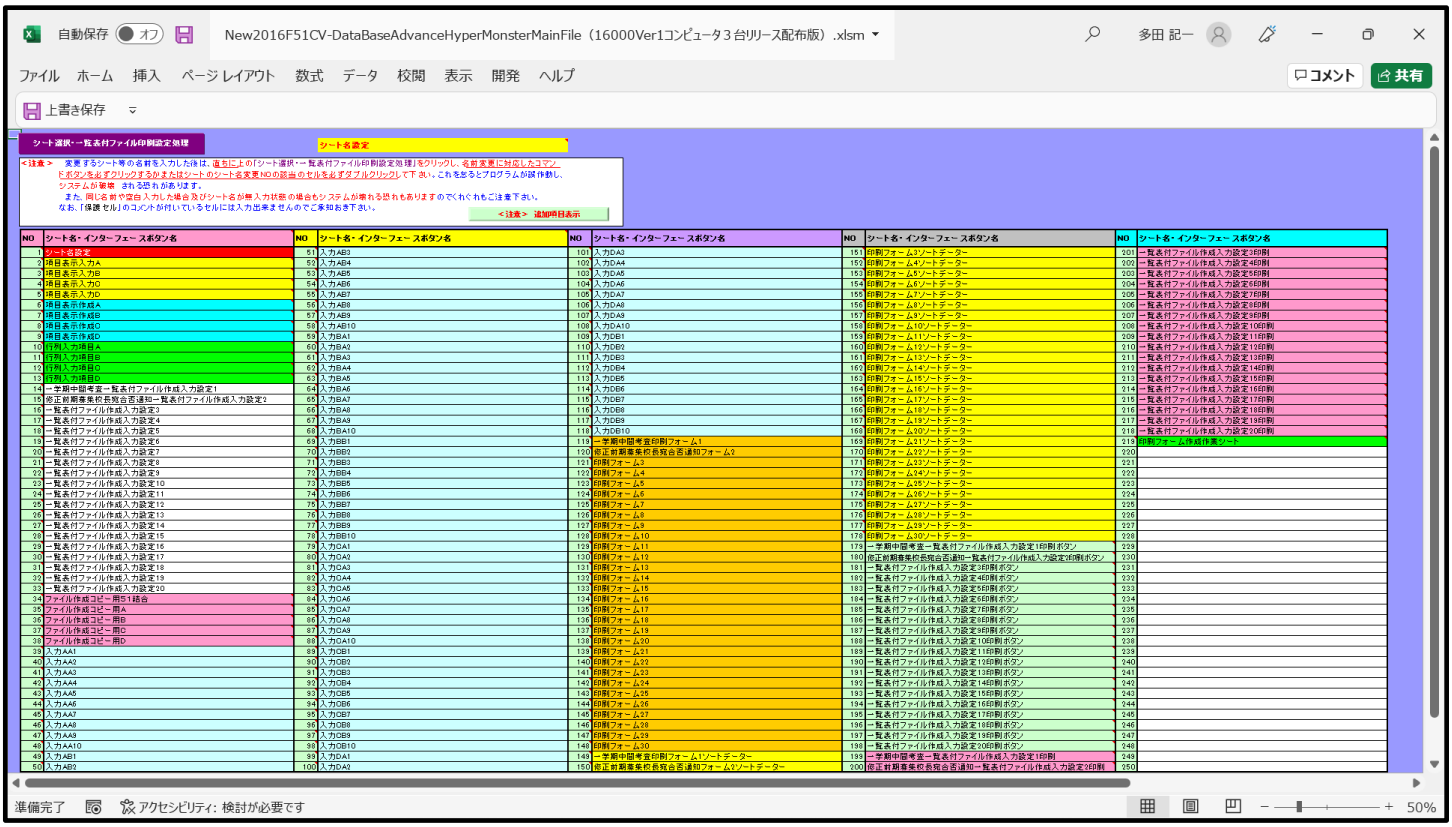
ファイル New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile
（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
を立ち上げシート「シート名設定」を選択すると次の[図８４]の画面のようになります。但し画面の表示倍率は５０％です。

[図８４]



上の[図８４]の画面でセルの値を次の[図８５]の画面のように変更します。

[図８５]



つまり

14	一覧表付ファイル作成入力設定1
15	一覧表付ファイル作成入力設定2

の部分を

14	一学期中間考査一覧表付ファイル作成入力設定1
15	修正前期募集校長宛合否通知一覧表付ファイル作成入力設定2

に、

119	印刷フォーム1
120	印刷フォーム2

の部分を

119	一学期中間考査印刷フォーム1
120	修正前期募集校長宛合否通知フォーム2

に、

149	印刷フォーム1ソートデーター
150	印刷フォーム2ソートデーター

の部分を

149	一学期中間考査印刷フォーム1ソートデーター
150	修正前期募集校長宛合否通知フォーム2ソートデーター

に、それぞれ変更します。そして、右側のセルのように値を変更した後、左側の数値のセルの部分をダブルクリックするとシート名が変更されて変更されたシート選択がされます。
たとえば、

14	一覧表付ファイル作成入力設定1

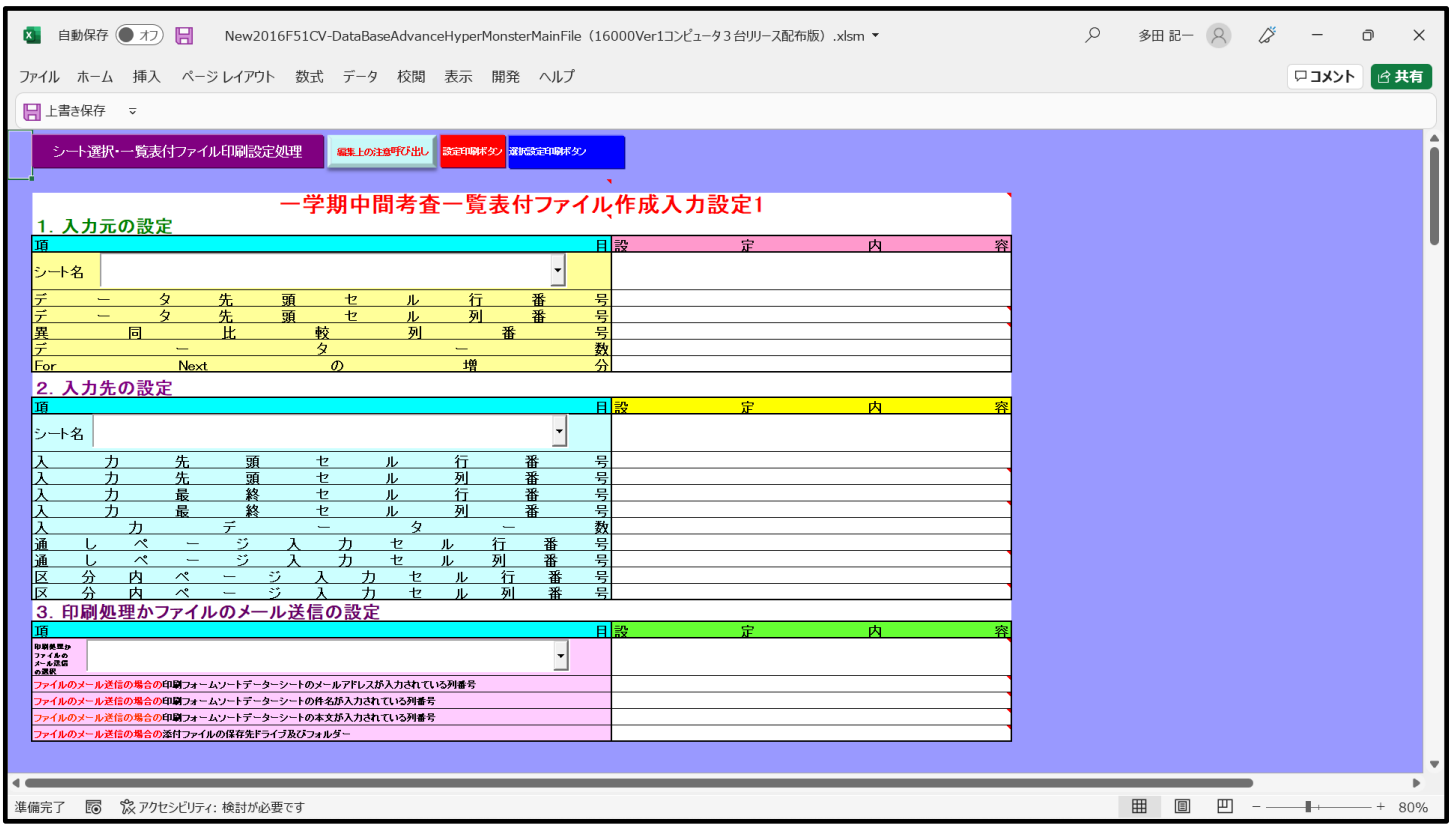
の右側のセルの値を

14 一学期中間考査一覧表付ファイル作成入力設定1

と変更し、左側のセル 14 をダブルクリックするとシート

「一学期中間考査一覧表付ファイル作成入力設定１」が選択されて次の[図８６]の画面のようになります。他のケースについても同様です。シート名を変更した全ての部分について、同様の操作を行ってください。

[図８６]



（３）ファイル New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）のシート「ファイル作成コピー用５１結合」の印刷フォームシートへの複写について：

この複写処理をおこなう前に、以後の処理を比較的やりやすくするために複写先のシート等の背景色を設定したいと思います。但しこの背景色の設定は必ずやる必要はありません。

それでは背景色の設定の仕方について説明いたします。

各シートに配置されているコマンドボタン シート選択･一覧表付ファイル印刷設定処理 をクリックすると、ユーザーフォーム「シート選択・一覧表付ファイル設定処理」が表示され、次の[図８７]の画面が表示されます。但し[図８７]の画面はタブ シート選択, 処理呼出1 が選択されている状態です。

[図８７]

上の[図８７]の画面のタブ

を選択すると次の[図８８]の画面になります。

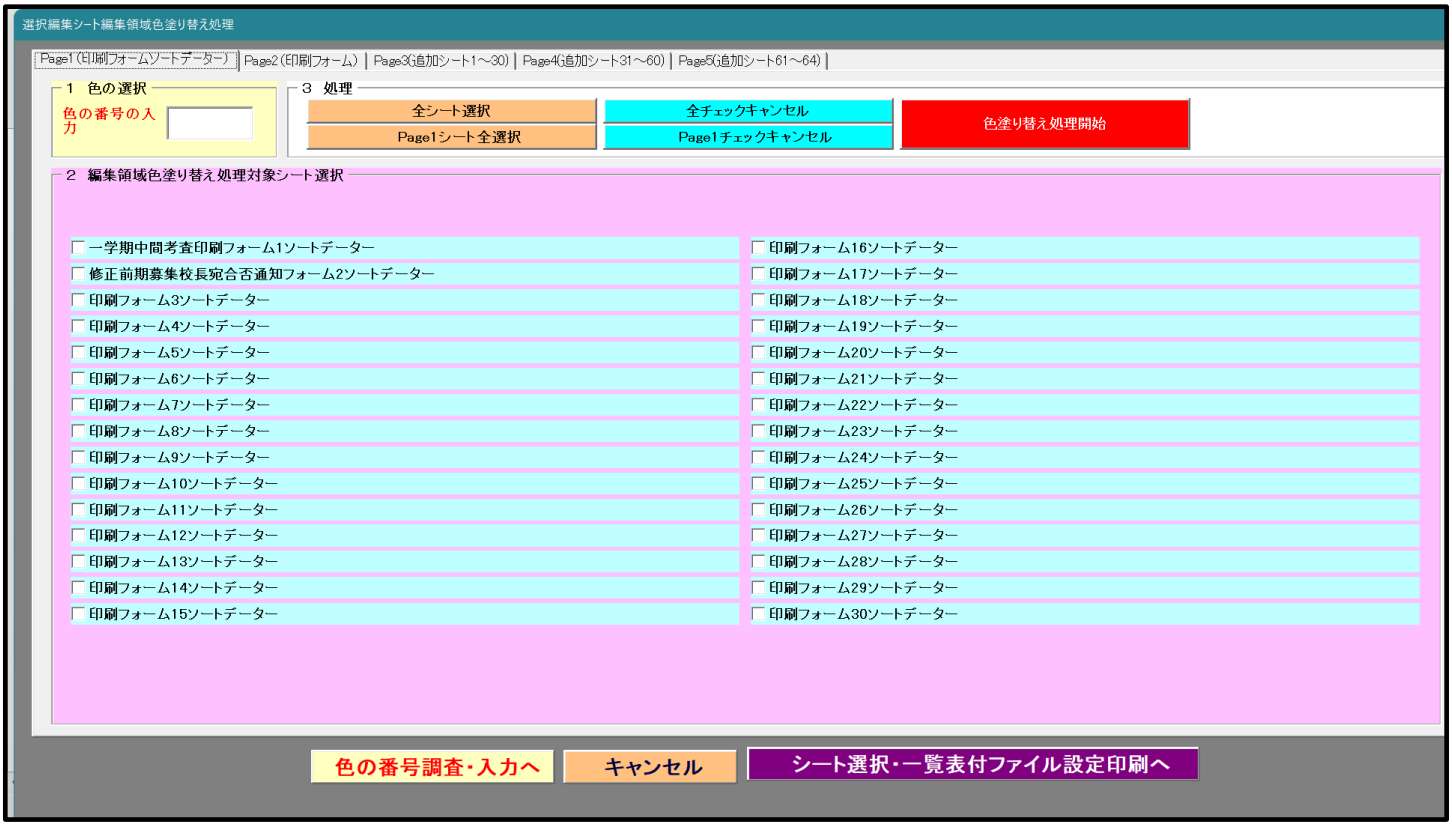
[図８８]

上の[図８８]の画面のコマンドボタン

選択編集シート編集領域色塗り替え処理呼出

をクリックすると次の[図８９]の画面になります。

[図８９]



そして、上の[図８９]の画面のコマンドボタン **色の番号調査・入力へ** をクリックすると次の[図９０]の画面になります。

[図９０]

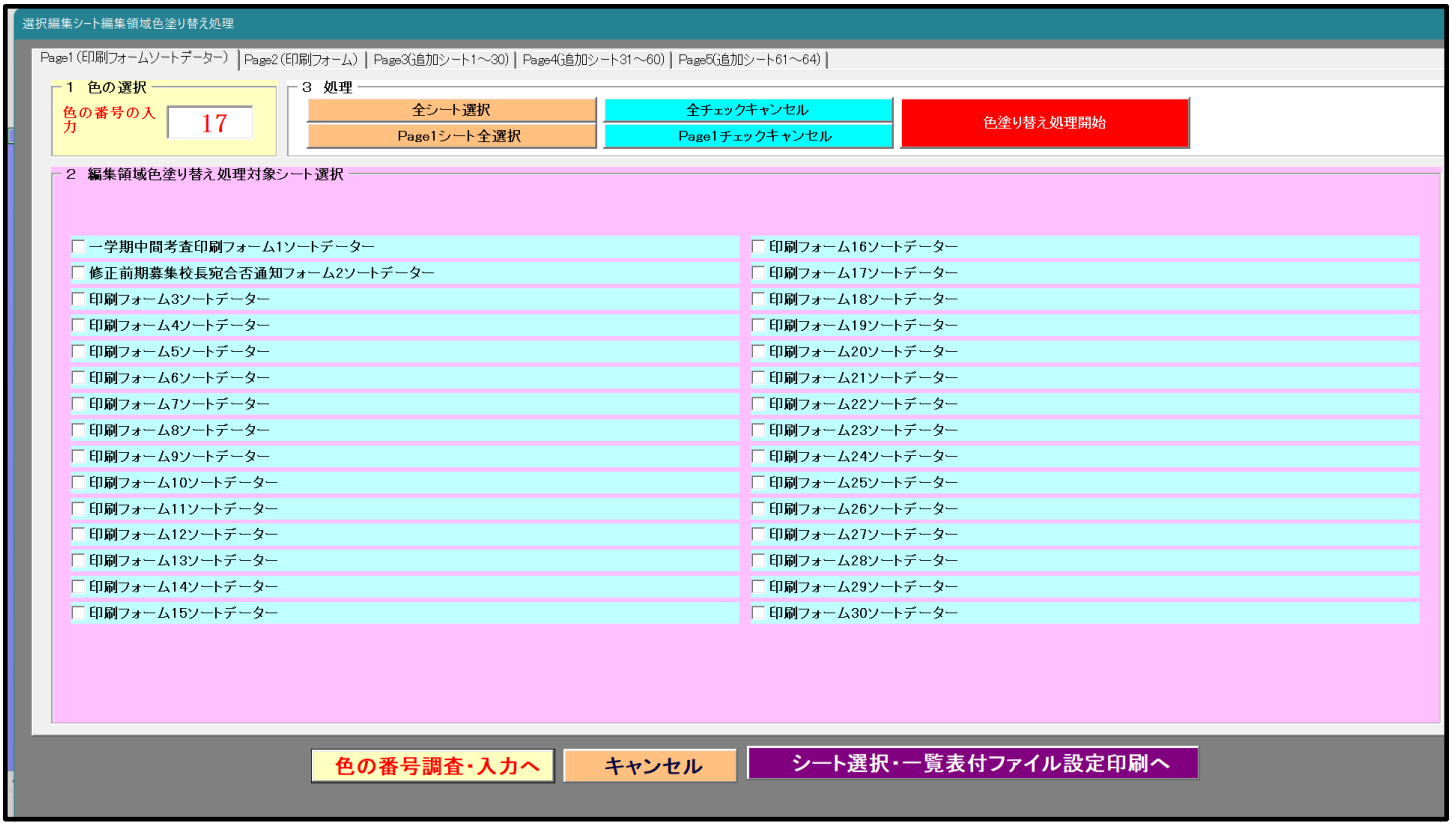
上の[図９０]の画面の右側の色のサンプル

のうち の色を背景色として設定したいので上の[図９０]の画面の左側の

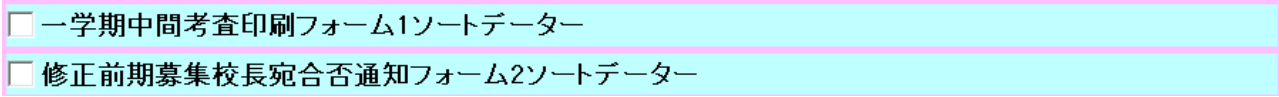
中から と相対的に同じ位置にある

の部分をクリックすると次の[図９１]の画面が表示されます。

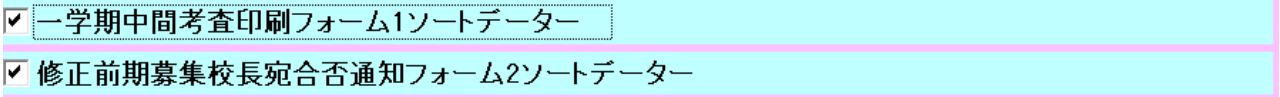
[図９１]

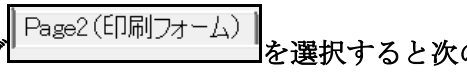


上の[図９１]の画面で

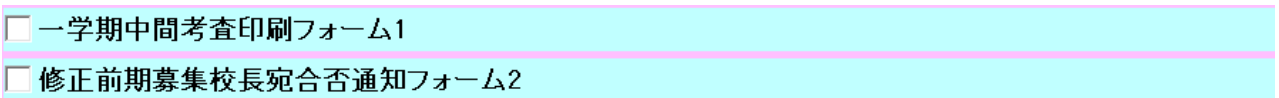


の部分にチェックを入れて

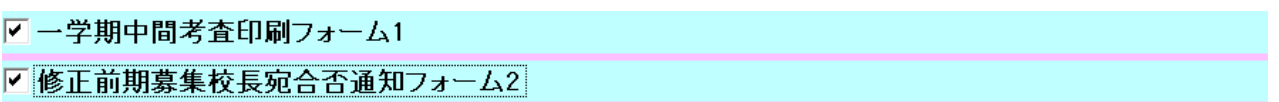


とし、また上の[図９１]の画面でタブ 

を選択すると次の[図９２]の画面になりますが、[図９２]の画面の



の部分にもチェックを入れて

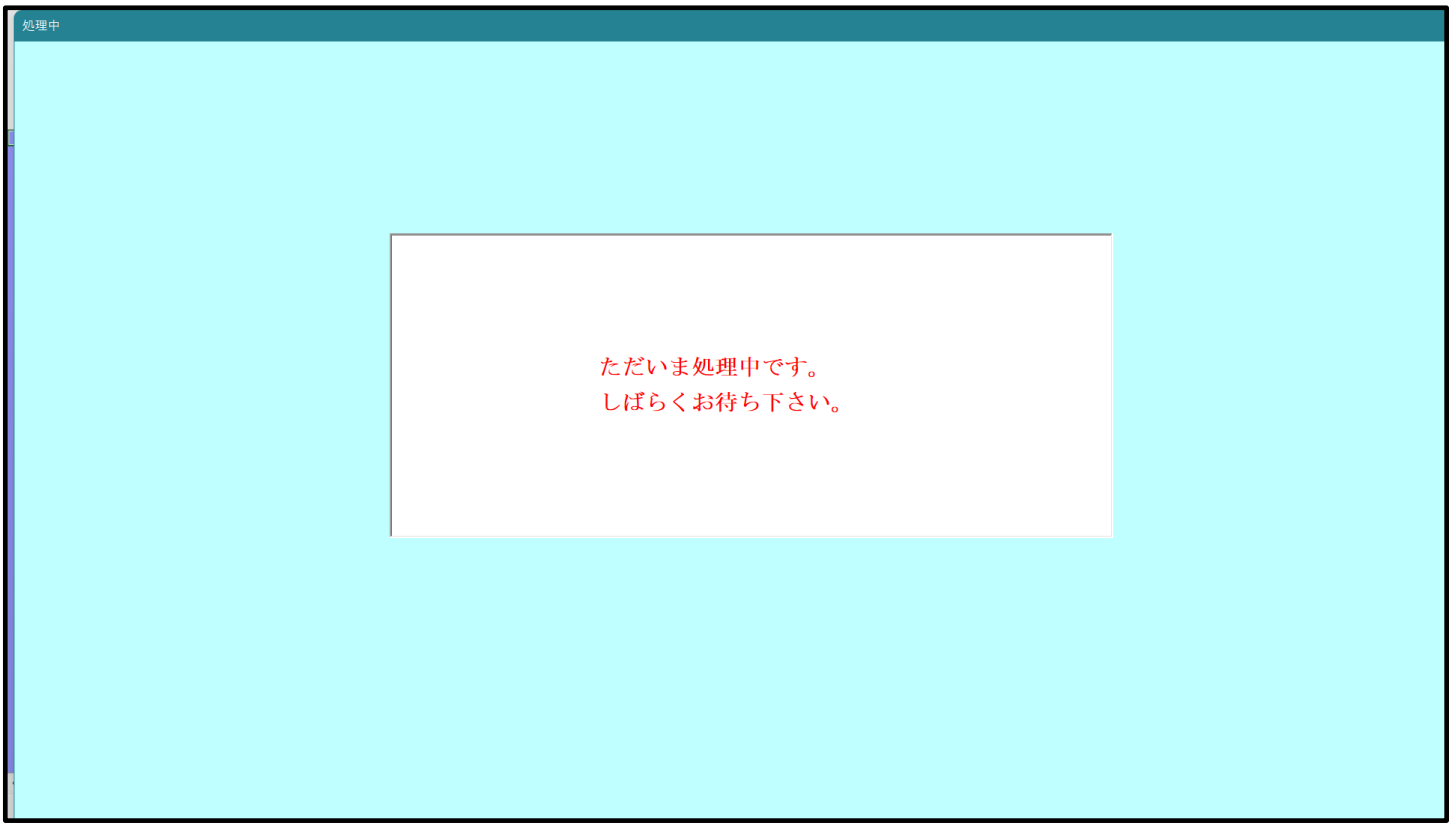


とします。

[図９２]

そしたら、[図９２]の画面のコマンドボタン **色塗り替え処理開始** をクリックするとチェックを入れた４個のシートの背景色の設定が開始されます。途中下の[図９３]の画面が表示され、[図９４]の画面が表示されたら処理は完了となります。

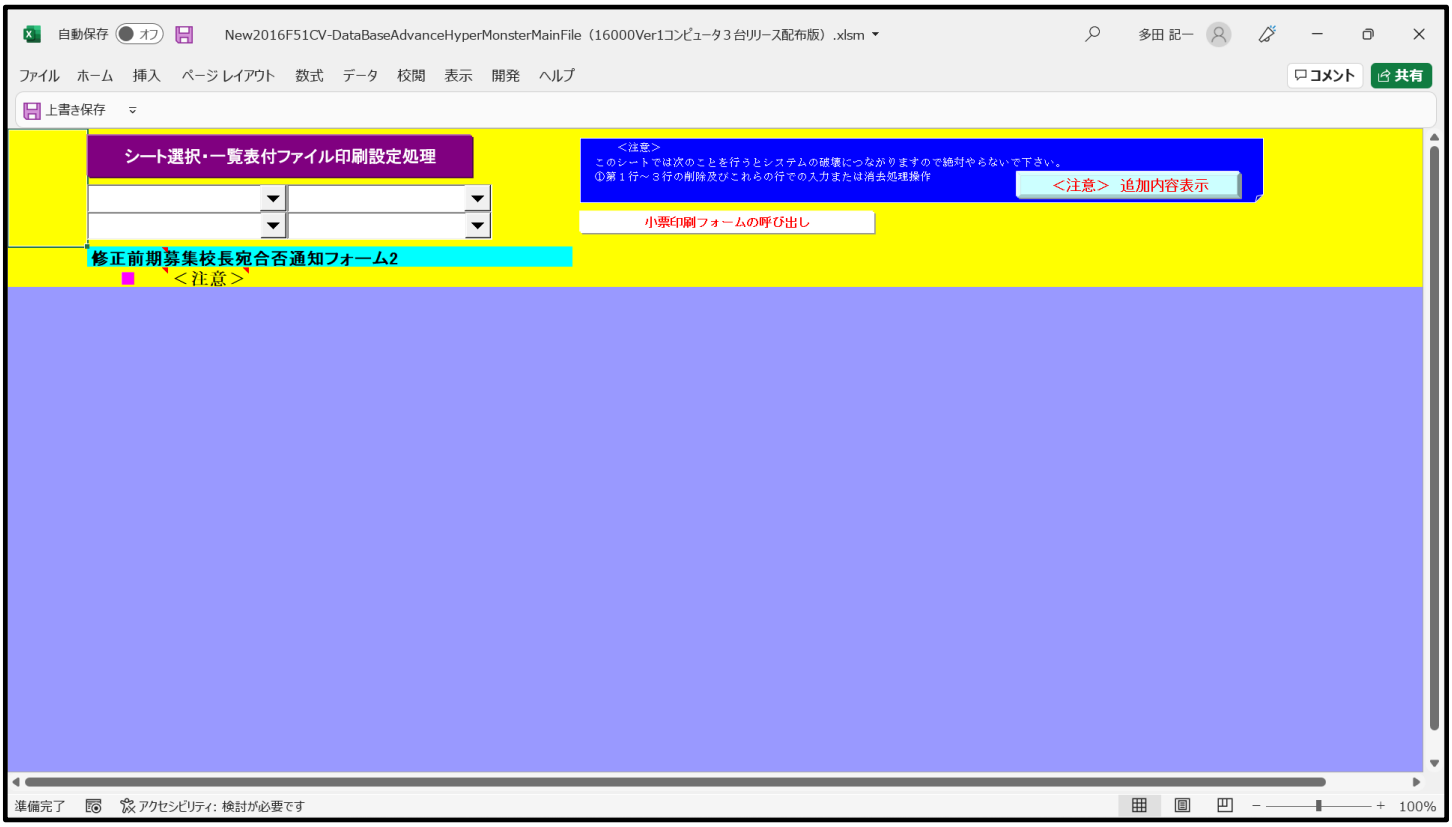
[図９３]



[図９４]

因みに、上の[図９４]の画面のコマンドボタン キャンセル をクリックすると、シート「修正前期募集校長宛合否通知フォーム２ソートデーター」が表示され、次の[図９５]の画面のようになっていることが確認できます。

[図９５]



これでシートの背景色の設定の説明は終了いたします。

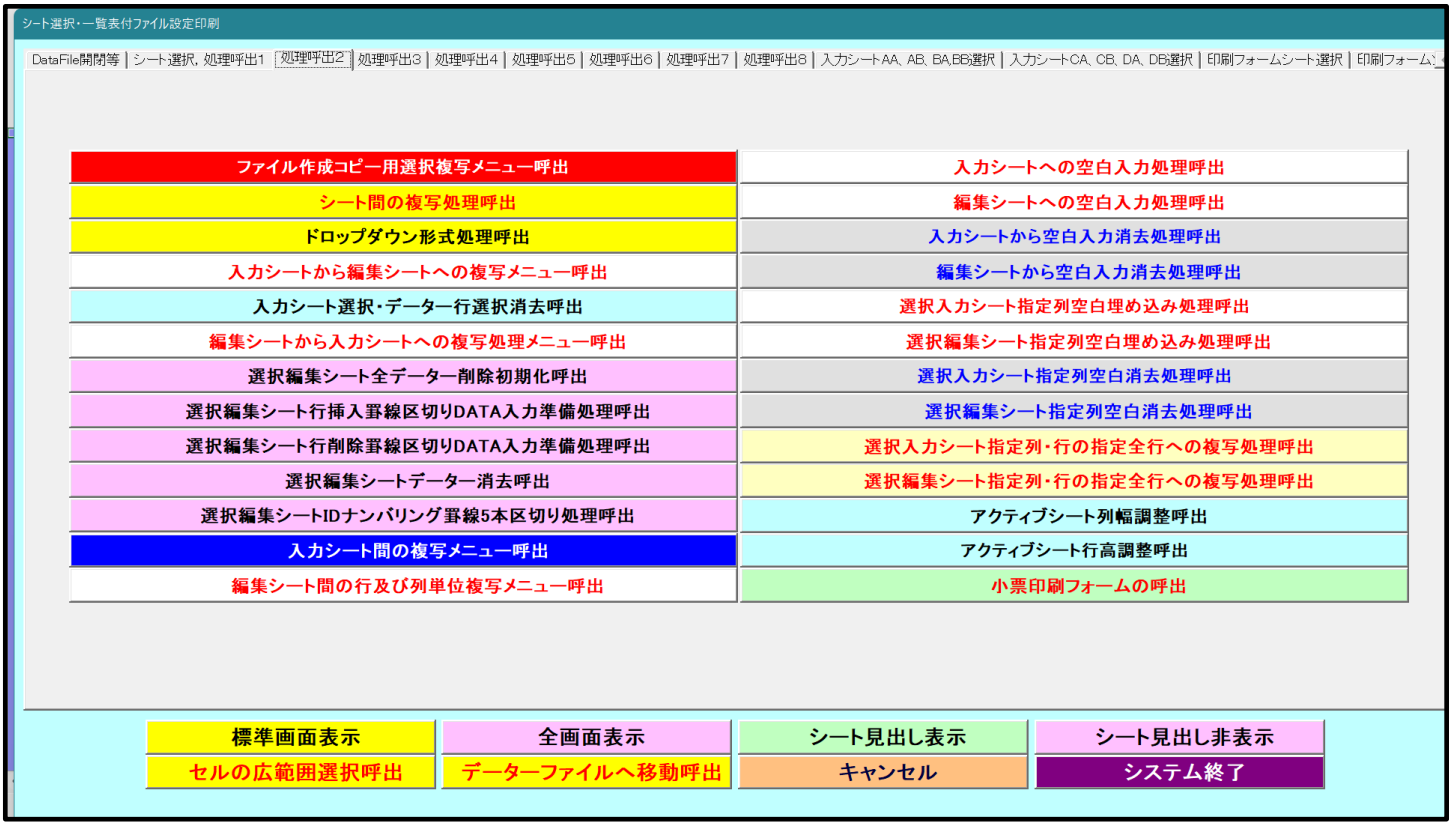
それでは、これからファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile
（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）
のシート「ファイル作成コピー用５１結合」の印刷フォームシートへの複写の仕方について説明いたします。

各シートに配置してあるコマンドボタン シート選択･一覧表付ファイル印刷設定処理 をクリックすると、ユーザーフォーム「シート選択。一覧表付ファイル印刷設定処理」が表示され、次の[図９６]の画面が表示されます。但し[図９６]の画面はタブ DataFile開閉等 が選択されている状態のものです。

[図９６]の画面のタブ 処理呼出2 を選択すると［図９７]の画面になります。

[図９６]

[図９７]

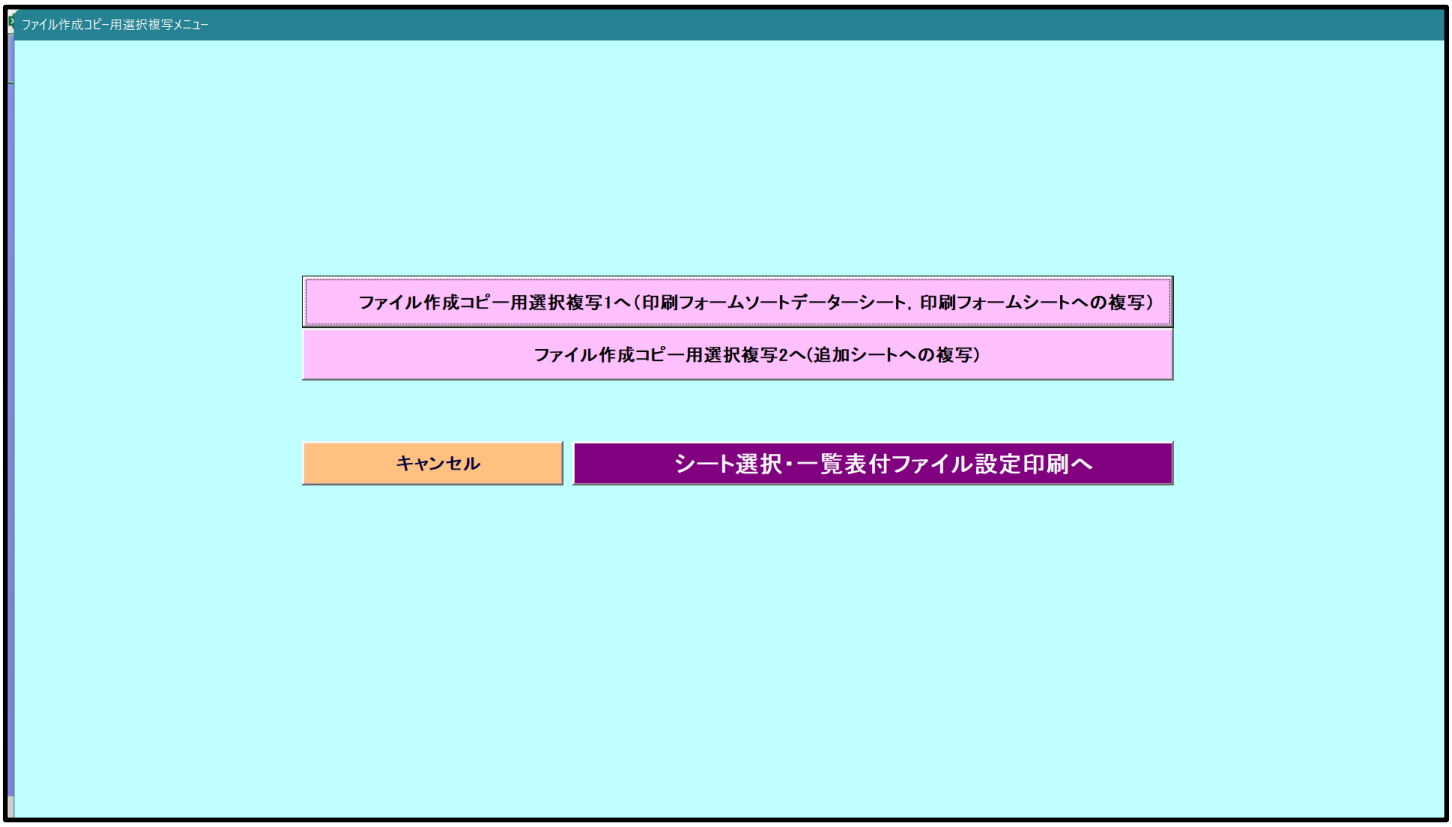


上の[図９７]の画面のコマンドボタン

ファイル作成コピー用選択複写メニュー呼出

をクリックすると次の[図９８]の画面になります。

[９８]

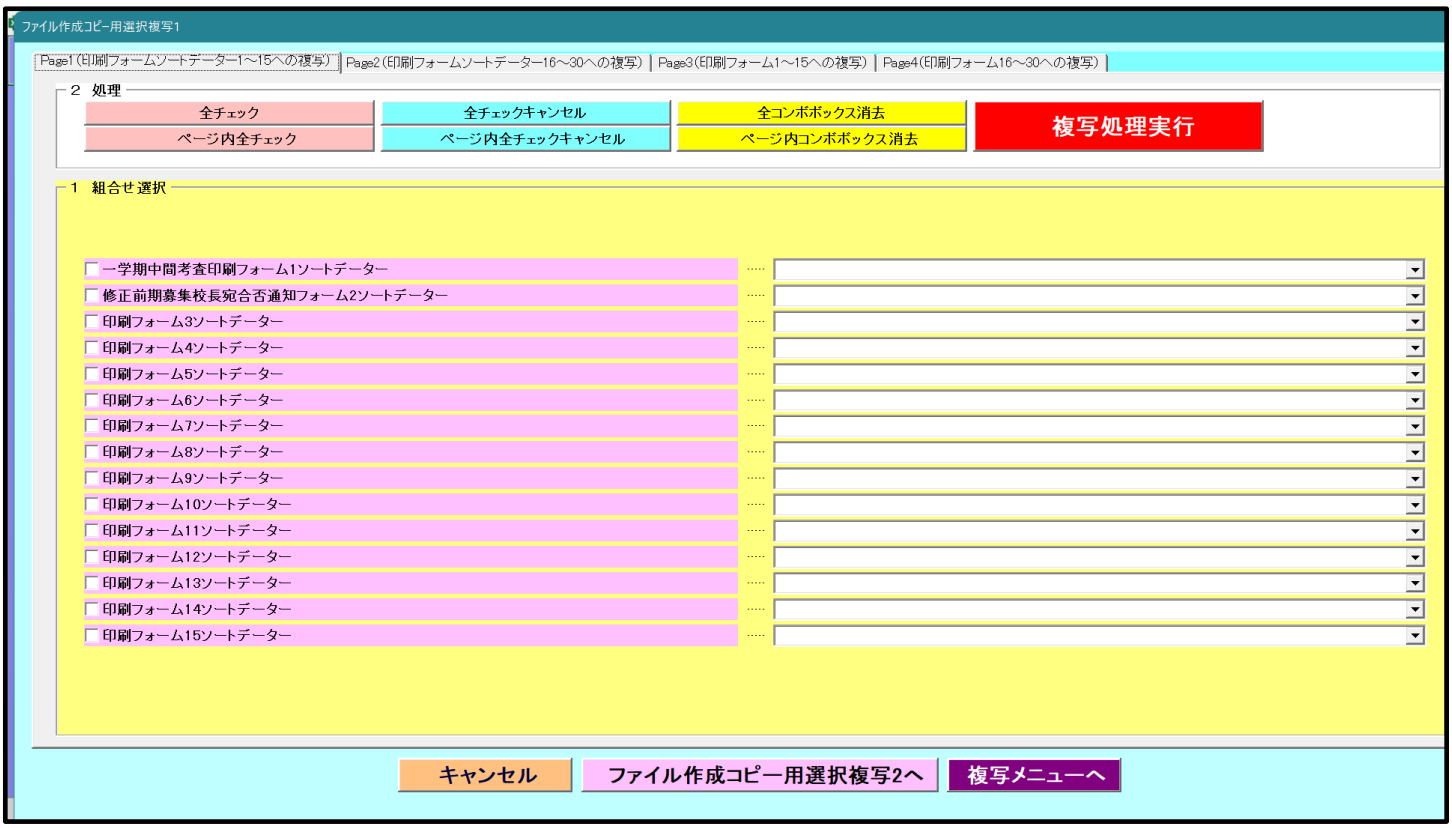


上の[図９８]画面のコマンドボタン

ファイル作成コピー用選択複写1へ（印刷フォームソートデーターシート，印刷フォームシートへの複写）

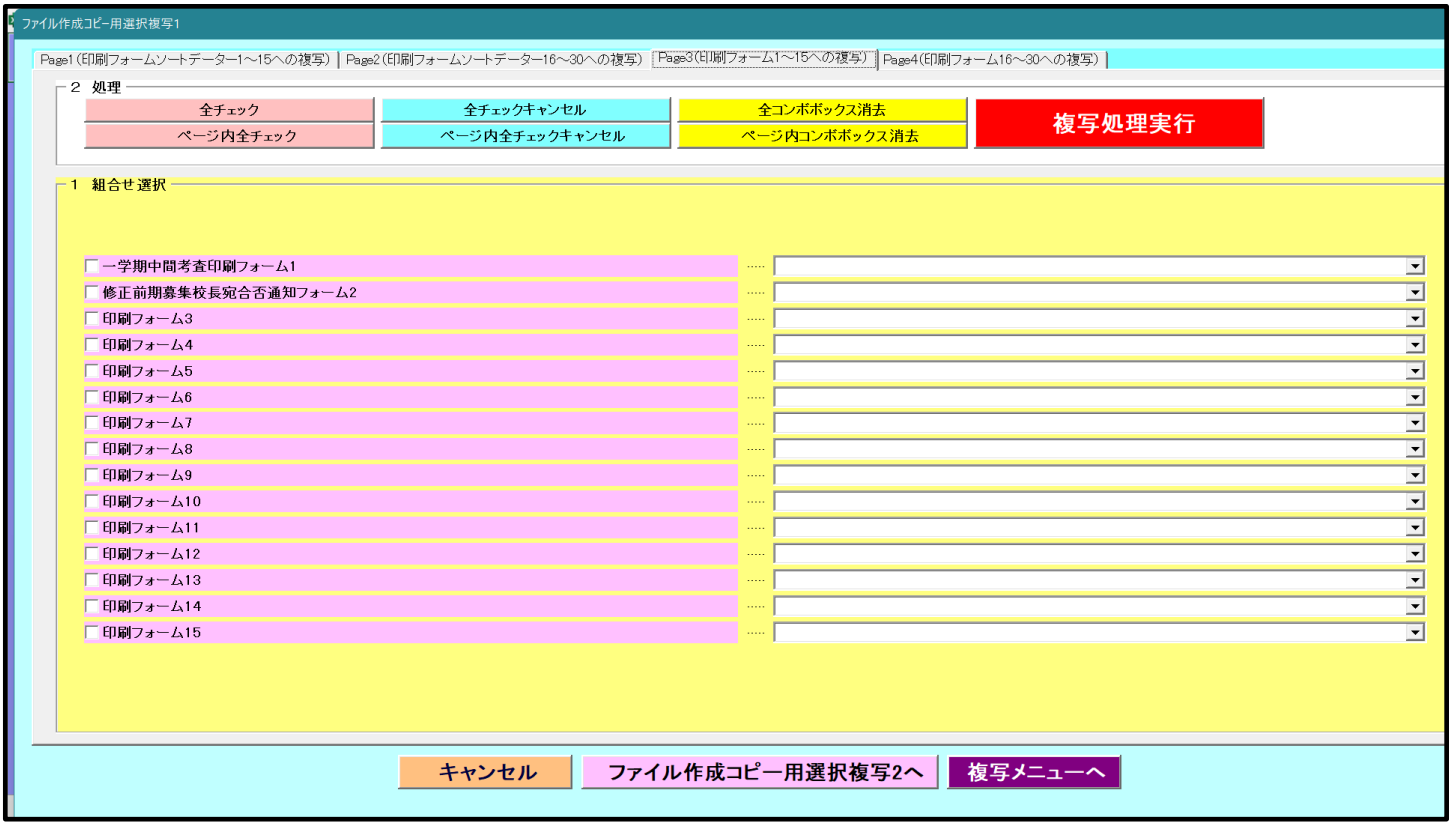
をクリックすると次の[図９９]画面になります。

[図９９]



そして、上の[図９９]画面のタブ Page3(印刷フォーム1～15への複写) を選択すると次の[図１００]画面になります。

[図１００]

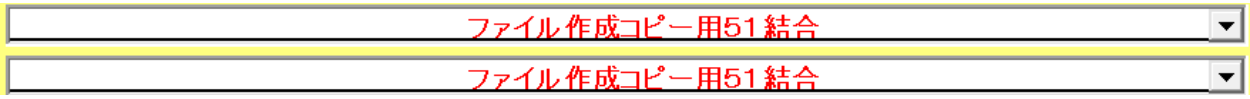


上の[図１００]の画面の

の部分にチェックを入れて

とし、そしてこれらのチェックボックスの右側のコンボボックス

でそれぞれ

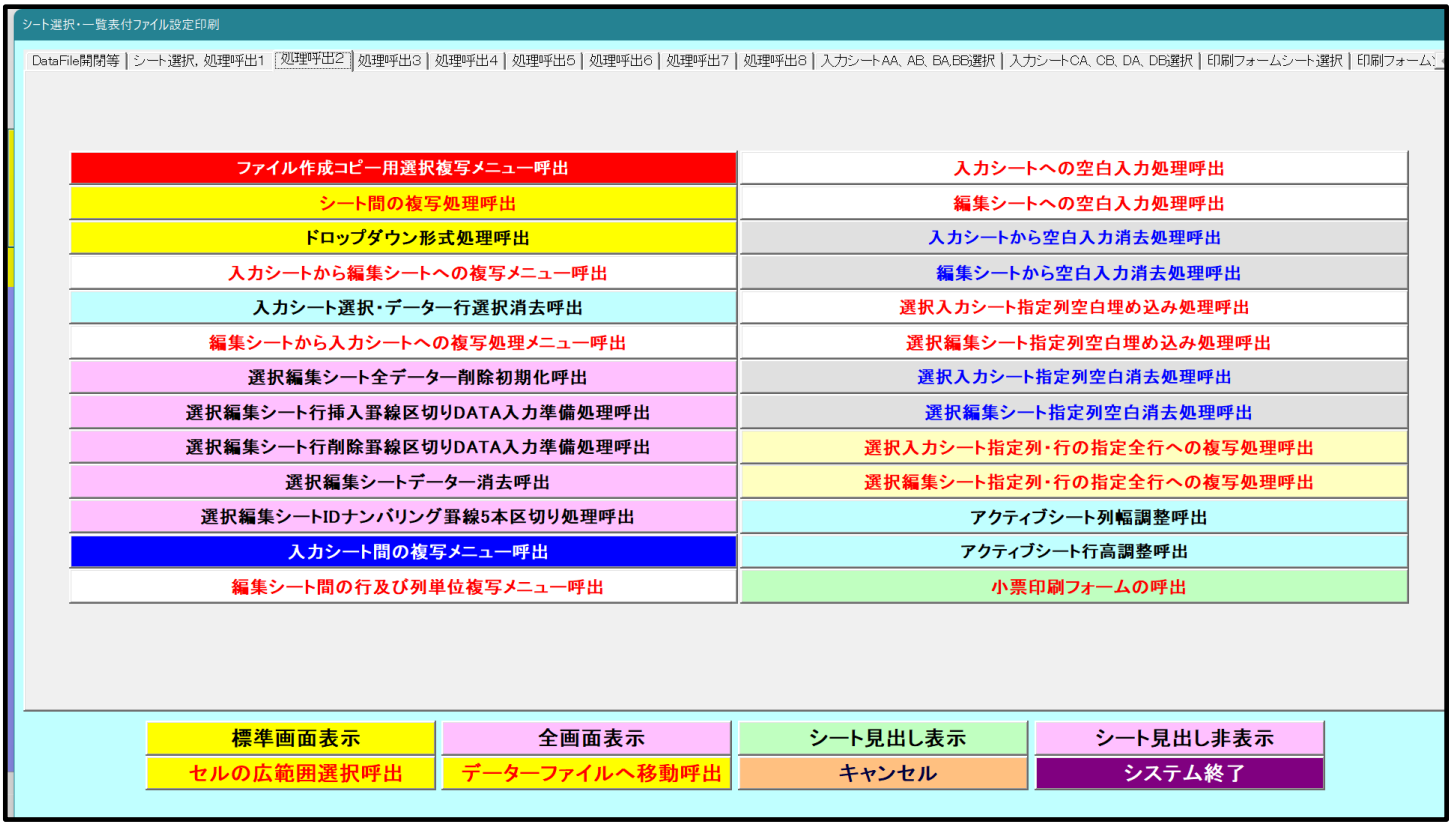


と選択し、[図１００]の画面のコマンドボタン

をクリックすると、シート「ファイル作成コピー用５１結合」が２つの「印刷フォーム」シート
「一学期中間考査印刷フォーム 1」
「修正前期募集校長宛合否通知フォーム 2」
へ複写処理が開始されます。複写処理が開始されと、途中[図１０１]の画面が表示され、[図１０２]の画面が表示されたら複写は完了となります。ただ、シート「ファイル作成コピー用５１結合」には複雑な関数が 40 列×25,000 行ほど入力されており、複写処理にはかなりの時間が必要です。

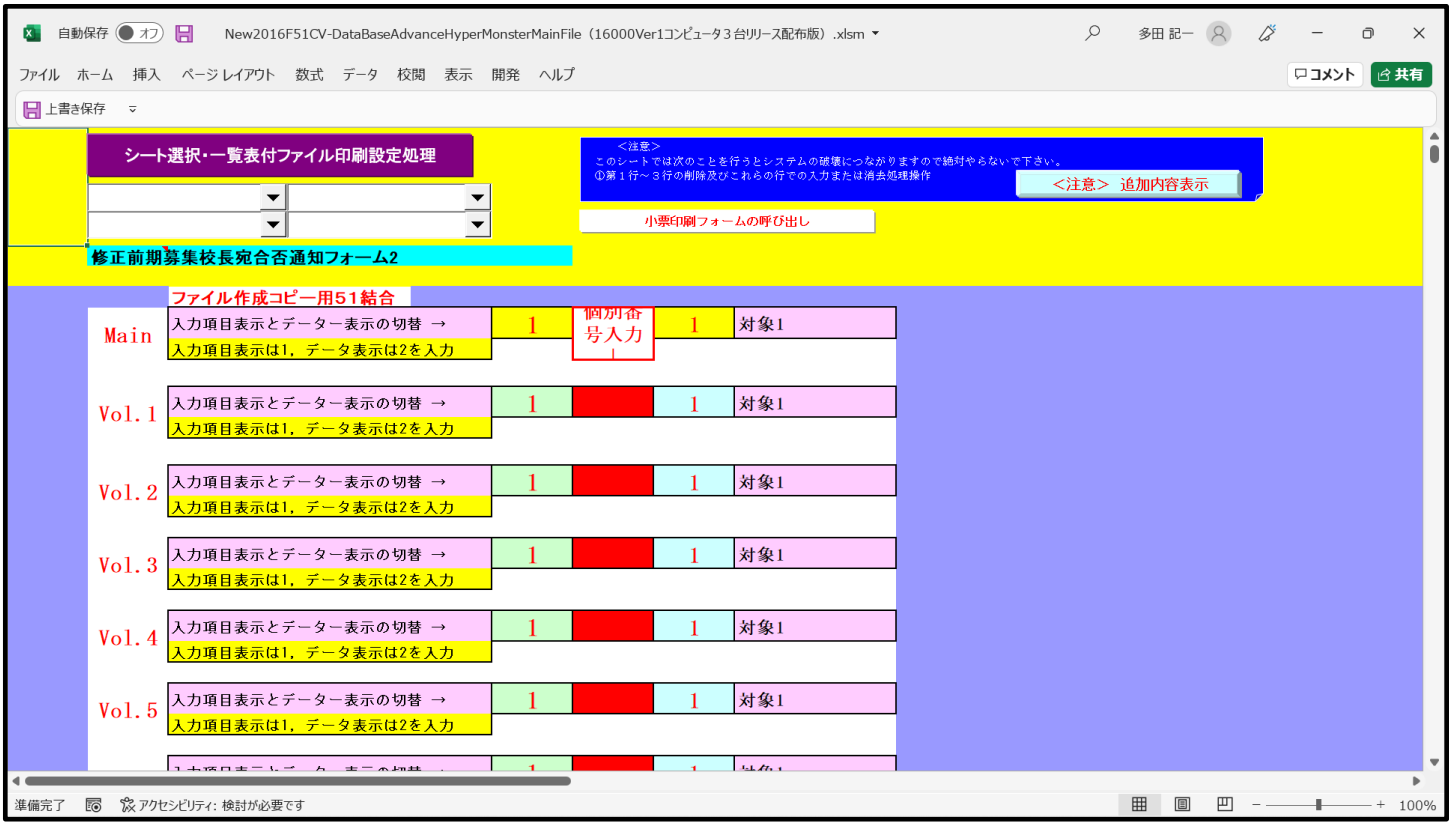
[図１０１]

[図１０２]



なお、上の[図１０２]の画面のコマンドボタン キャンセル をクリックすると複写先のシート「修正前期募集校長宛合否通知フォーム２」が表示され次の[図１０３]の画面のようになっていることが確認できます。

[図１０３]



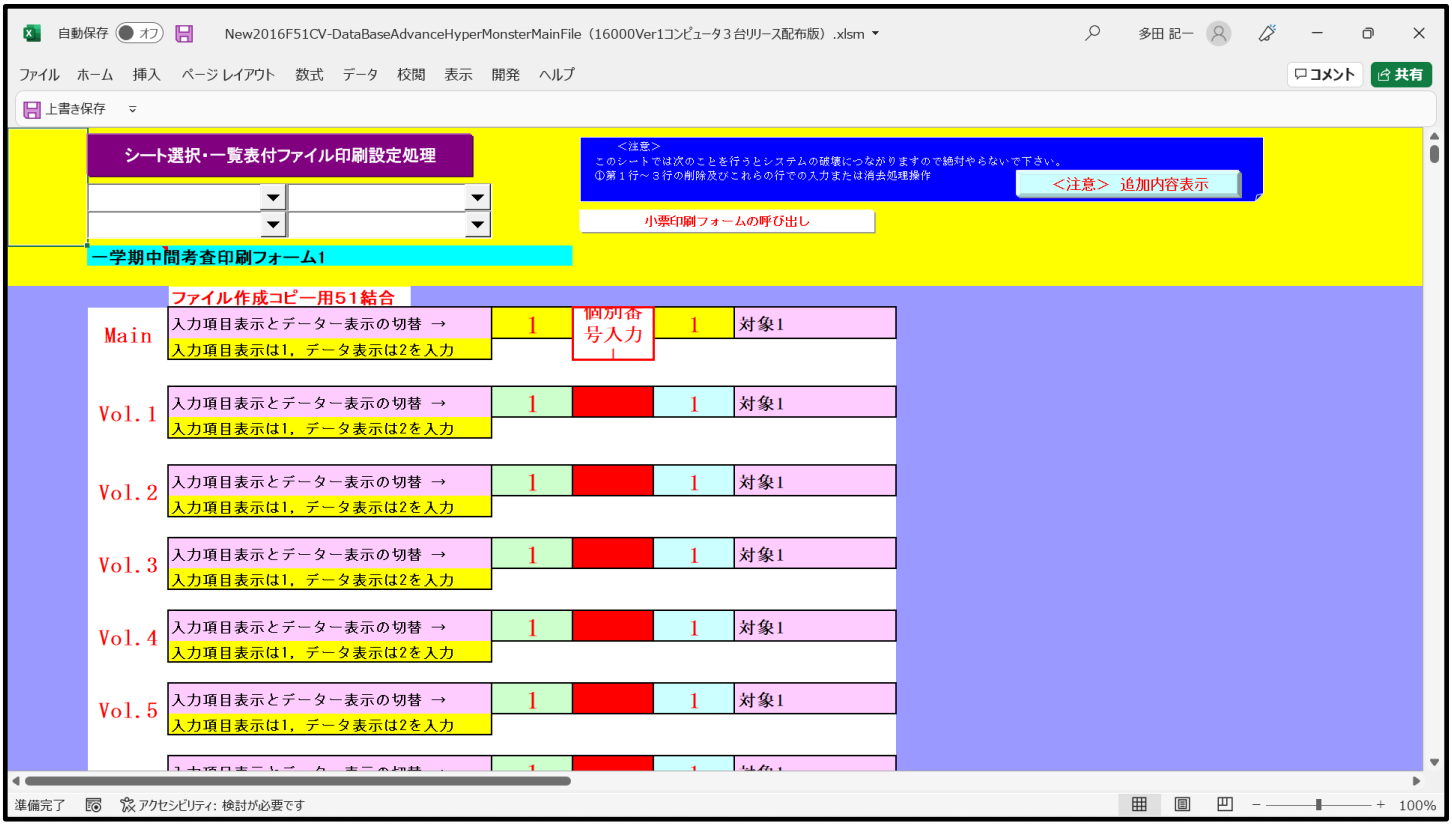
(4) 印刷フォームの様式作成について：

ここでは、印刷フォーム作成の仕方について印刷フォームシート「一学期中間考査印刷フォーム 1」、「修正前期募集校長宛合否通知フォーム 2」を例に説明してまいります。

① 単票形式の印刷、印刷範囲を PDF の添付ファイルとしてメール送信するための「印刷フォーム」シート等の印刷部分の設計：

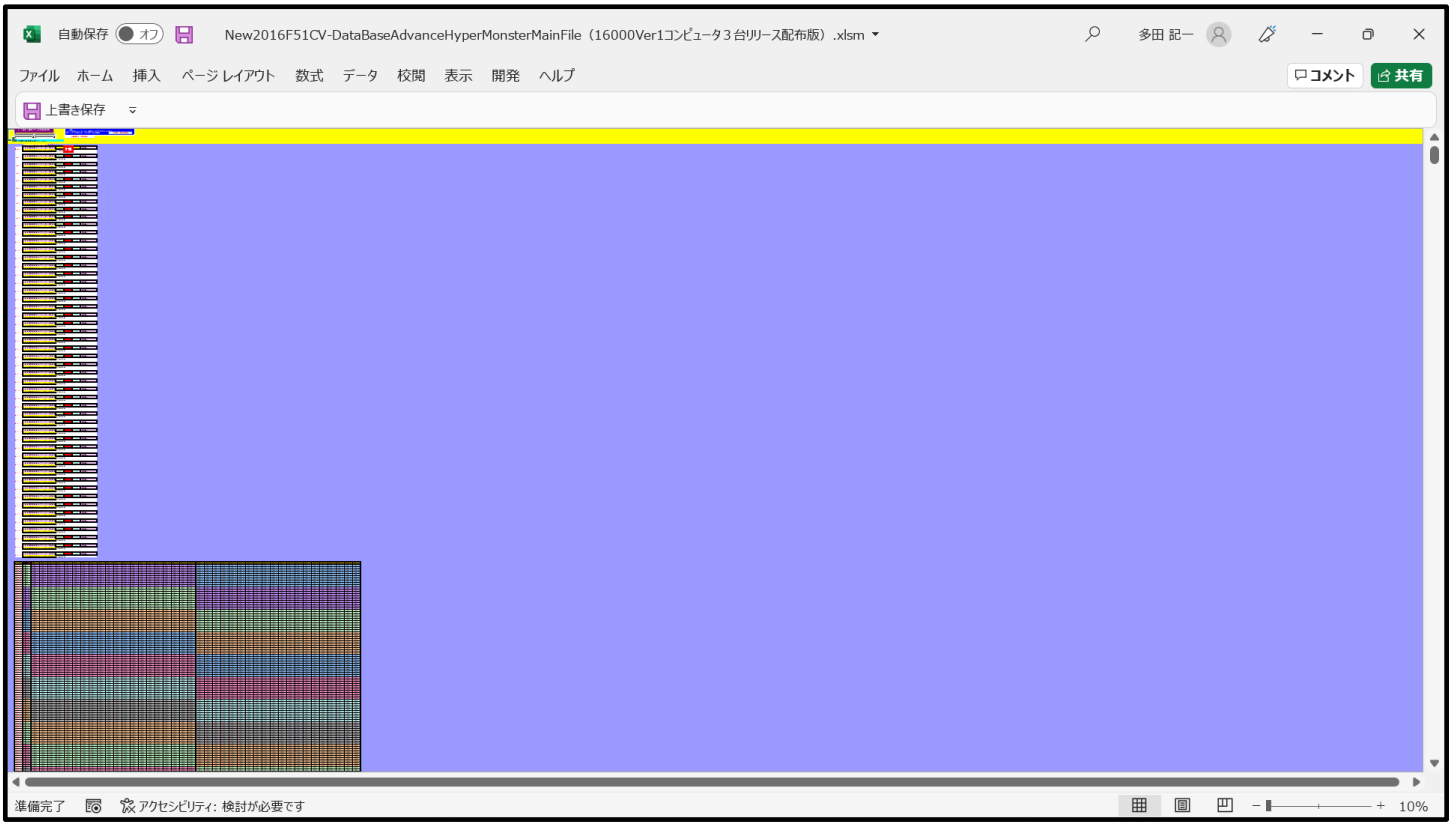
ここでは、印刷フォームシート「一学期中間考査印刷フォーム 1」の印刷部分の設計を例に説明してまいります。
一学期中間考査のデーターは、データーファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
のシート「入力 AA1 一学期中間考査」において作成しました。
また、ファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile
（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）
のシート「ファイル作成コピー用５１結合」の印刷フォームシートへの複写の際、このファイルの２つの印刷フォームシート「一学期中間考査印刷フォーム 1」と「修正前期募集校長宛合否通知フォーム 2」に複写しましたが、このうち印刷フォームシート「一学期中間考査印刷フォーム 1」を加工して、印刷フォームシート「一学期中間考査印刷フォーム 1」の印刷部分の設計をおこなってまいります。
さて、ファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile
（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）
のシート「ファイル作成コピー用５１結合」を印刷フォームシート
「一学期中間考査印刷フォーム 1」へ複写した印刷フォームシート
「一学期中間考査印刷フォーム 1」の状況は次の[図１０４]の画面のようになっています。

[図１０４]



上の[図１０４]の画面である程度のシートの全体の様子がつかめるように表示倍率を 10%まで下げたのが次の[図１０５]の画面です。

[図１０５]



ここで、上の[図１０４]の画面で印刷フォームシート「一学期中間考査印刷フォーム 1」に関係のない部分つまりデーターファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm のシート

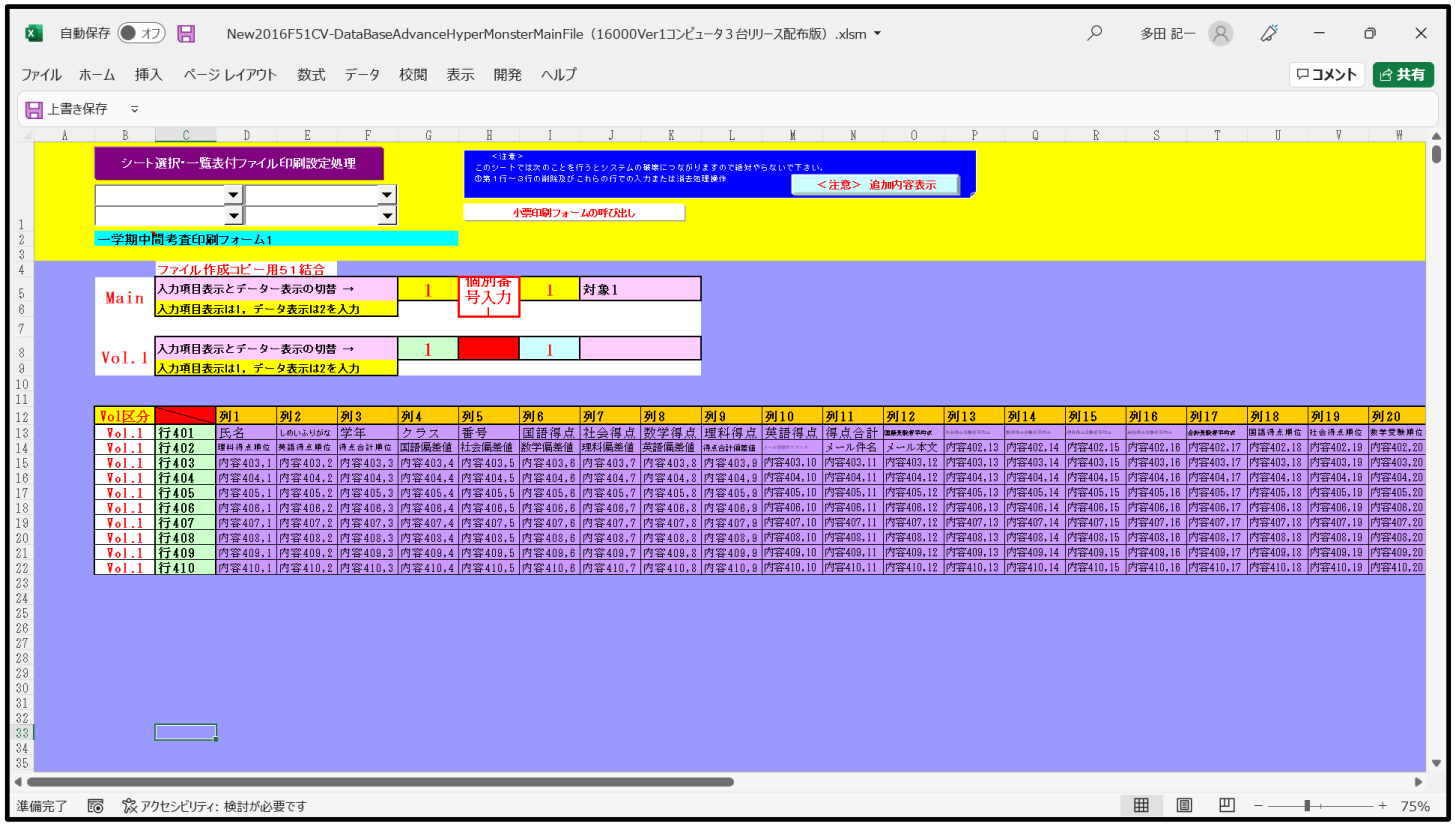
「入力 AA1 一学期中間考査」の表示に関係のない部分を全て削除していきます。

具体的には、Main や Vol.1 が表示されていない行、および画面をどんどん下側にスクロールしながら Vol.1 と表示されていない行および Vol.1 と表示されていても

Vol.1	行401	氏名	しめいふりがな	学年	クラス	番号	国語得点	社会得点	数学得点	理科得点	英語得点	得点合計	国語受験者平均点	社会得点受験者平均点	数学得点受験者平均点	理科得点受験者平均点	英語得点受験者平均点	合計受験者平均点	国語得点順位	社会得点順位	数学受験順位
Vol.1	行402	理科得点順位	英語得点順位	得点合計順位	国語偏差値	社会偏差値	数学偏差値	理科偏差値	英語偏差値	得点合計偏差値	メール送信先アドレス	メール件名	メール本文	内容402,13	内容402,14	内容402,15	内容402,16	内容402,17	内容402,18	内容402,19	内容402,20
Vol.1	行403	内容403,1	内容403,2	内容403,3	内容403,4	内容403,5	内容403,6	内容403,7	内容403,8	内容403,9	内容403,10	内容403,11	内容403,12	内容403,13	内容403,14	内容403,15	内容403,16	内容403,17	内容403,18	内容403,19	内容403,20
Vol.1	行404	内容404,1	内容404,2	内容404,3	内容404,4	内容404,5	内容404,6	内容404,7	内容404,8	内容404,9	内容404,10	内容404,11	内容404,12	内容404,13	内容404,14	内容404,15	内容404,16	内容404,17	内容404,18	内容404,19	内容404,20
Vol.1	行405	内容405,1	内容405,2	内容405,3	内容405,4	内容405,5	内容405,6	内容405,7	内容405,8	内容405,9	内容405,10	内容405,11	内容405,12	内容405,13	内容405,14	内容405,15	内容405,16	内容405,17	内容405,18	内容405,19	内容405,20
Vol.1	行406	内容406,1	内容406,2	内容406,3	内容406,4	内容406,5	内容406,6	内容406,7	内容406,8	内容406,9	内容406,10	内容406,11	内容406,12	内容406,13	内容406,14	内容406,15	内容406,16	内容406,17	内容406,18	内容406,19	内容406,20
Vol.1	行407	内容407,1	内容407,2	内容407,3	内容407,4	内容407,5	内容407,6	内容407,7	内容407,8	内容407,9	内容407,10	内容407,11	内容407,12	内容407,13	内容407,14	内容407,15	内容407,16	内容407,17	内容407,18	内容407,19	内容407,20
Vol.1	行408	内容408,1	内容408,2	内容408,3	内容408,4	内容408,5	内容408,6	内容408,7	内容408,8	内容408,9	内容408,10	内容408,11	内容408,12	内容408,13	内容408,14	内容408,15	内容408,16	内容408,17	内容408,18	内容408,19	内容408,20
Vol.1	行409	内容409,1	内容409,2	内容409,3	内容409,4	内容409,5	内容409,6	内容409,7	内容409,8	内容409,9	内容409,10	内容409,11	内容409,12	内容409,13	内容409,14	内容409,15	内容409,16	内容409,17	内容409,18	内容409,19	内容409,20
Vol.1	行410	内容410,1	内容410,2	内容410,3	内容410,4	内容410,5	内容410,6	内容410,7	内容410,8	内容410,9	内容410,10	内容410,11	内容410,12	内容410,13	内容410,14	内容410,15	内容410,16	内容410,17	内容410,18	内容410,19	内容410,20

と表示されていない全ての行を削除していきます。全て削除した結果の状況は、次の[図１０６]の画面のようになります。

[図１０６]

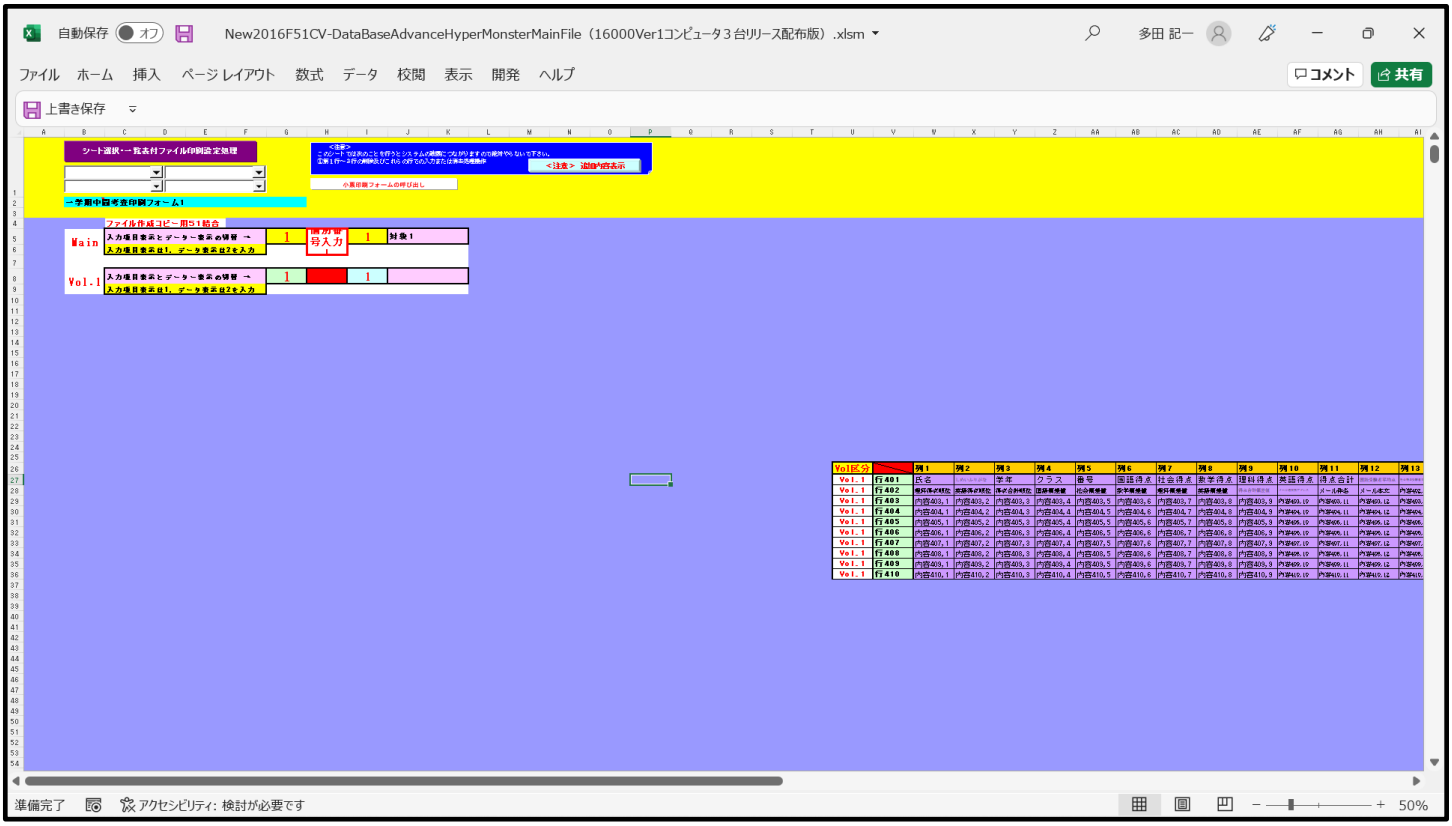


それではこれから単票形式の印刷、印刷範囲を PDF の添付ファイルとしてメール送信するための「印刷フォーム」シート等の印刷部分の設計をおこなってまいります。
先ず、設計をおこなうための編集部分を確保する必要があります。
[図１０６]の画面の

Vol区分		列1	列2	列3	列4	列5	列6	列7	列8	列9	列10	列11	列12	列13	列14	列15	列16	列17	列18	列19	列20
Vol.1	行401	氏名	しめいふりがな	学年	クラス	番号	国語得点	社会得点	数学得点	理科得点	英語得点	得点合計	国語受験者平均点	社会得点受験者平均点	数学得点受験者平均点	理科得点受験者平均点	英語得点受験者平均点	合計受験者平均点	国語得点順位	社会得点順位	数学受験順位
Vol.1	行402	理科得点順位	英語得点順位	得点合計順位	国語偏差値	社会偏差値	数学偏差値	理科偏差値	英語偏差値	得点合計偏差値	メール送信先アドレス	メール件名	メール本文	内容402,13	内容402,14	内容402,15	内容402,16	内容402,17	内容402,18	内容402,19	内容402,20
Vol.1	行403	内容403,1	内容403,2	内容403,3	内容403,4	内容403,5	内容403,6	内容403,7	内容403,8	内容403,9	内容403,10	内容403,11	内容403,12	内容403,13	内容403,14	内容403,15	内容403,16	内容403,17	内容403,18	内容403,19	内容403,20
Vol.1	行404	内容404,1	内容404,2	内容404,3	内容404,4	内容404,5	内容404,6	内容404,7	内容404,8	内容404,9	内容404,10	内容404,11	内容404,12	内容404,13	内容404,14	内容404,15	内容404,16	内容404,17	内容404,18	内容404,19	内容404,20
Vol.1	行405	内容405,1	内容405,2	内容405,3	内容405,4	内容405,5	内容405,6	内容405,7	内容405,8	内容405,9	内容405,10	内容405,11	内容405,12	内容405,13	内容405,14	内容405,15	内容405,16	内容405,17	内容405,18	内容405,19	内容405,20
Vol.1	行406	内容406,1	内容406,2	内容406,3	内容406,4	内容406,5	内容406,6	内容406,7	内容406,8	内容406,9	内容406,10	内容406,11	内容406,12	内容406,13	内容406,14	内容406,15	内容406,16	内容406,17	内容406,18	内容406,19	内容406,20
Vol.1	行407	内容407,1	内容407,2	内容407,3	内容407,4	内容407,5	内容407,6	内容407,7	内容407,8	内容407,9	内容407,10	内容407,11	内容407,12	内容407,13	内容407,14	内容407,15	内容407,16	内容407,17	内容407,18	内容407,19	内容407,20
Vol.1	行408	内容408,1	内容408,2	内容408,3	内容408,4	内容408,5	内容408,6	内容408,7	内容408,8	内容408,9	内容408,10	内容408,11	内容408,12	内容408,13	内容408,14	内容408,15	内容408,16	内容408,17	内容408,18	内容408,19	内容408,20
Vol.1	行409	内容409,1	内容409,2	内容409,3	内容409,4	内容409,5	内容409,6	内容409,7	内容409,8	内容409,9	内容409,10	内容409,11	内容409,12	内容409,13	内容409,14	内容409,15	内容409,16	内容409,17	内容409,18	内容409,19	内容409,20
Vol.1	行410	内容410,1	内容410,2	内容410,3	内容410,4	内容410,5	内容410,6	内容410,7	内容410,8	内容410,9	内容410,10	内容410,11	内容410,12	内容410,13	内容410,14	内容410,15	内容410,16	内容410,17	内容410,18	内容410,19	内容410,20

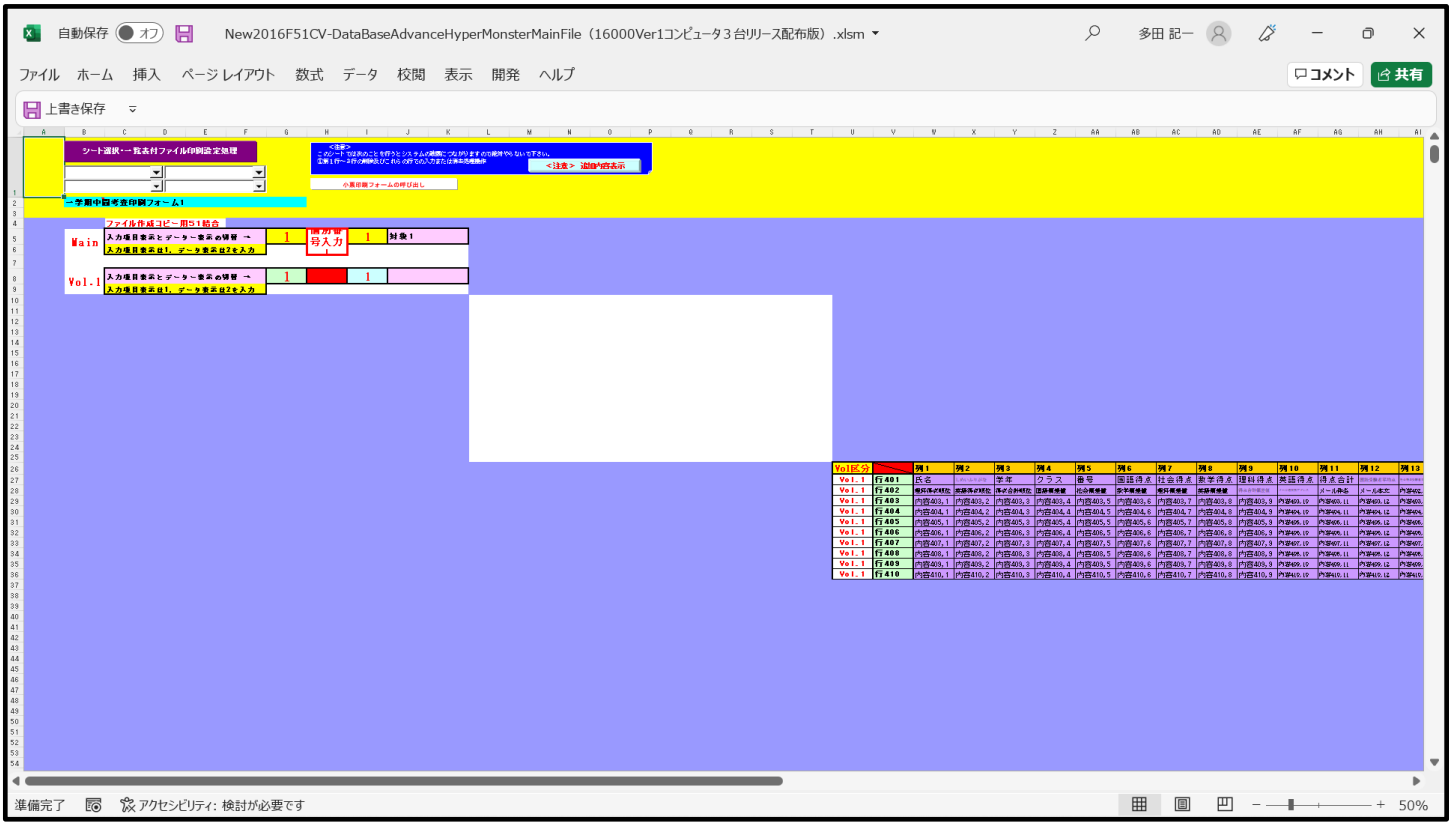
部分を切り取り、次の[図１０７]の画面の位置にとりあえず貼り付けておきます。

[図１０７]



そして[図１０７]の画面のにおいて、部分的に背景色を色抜きにしますが、色抜きにしたものを次の[図１０８]の画面に表示させます。色抜きにする範囲は後からいくらでも調整できますので、適当に範囲は選択して結構です。

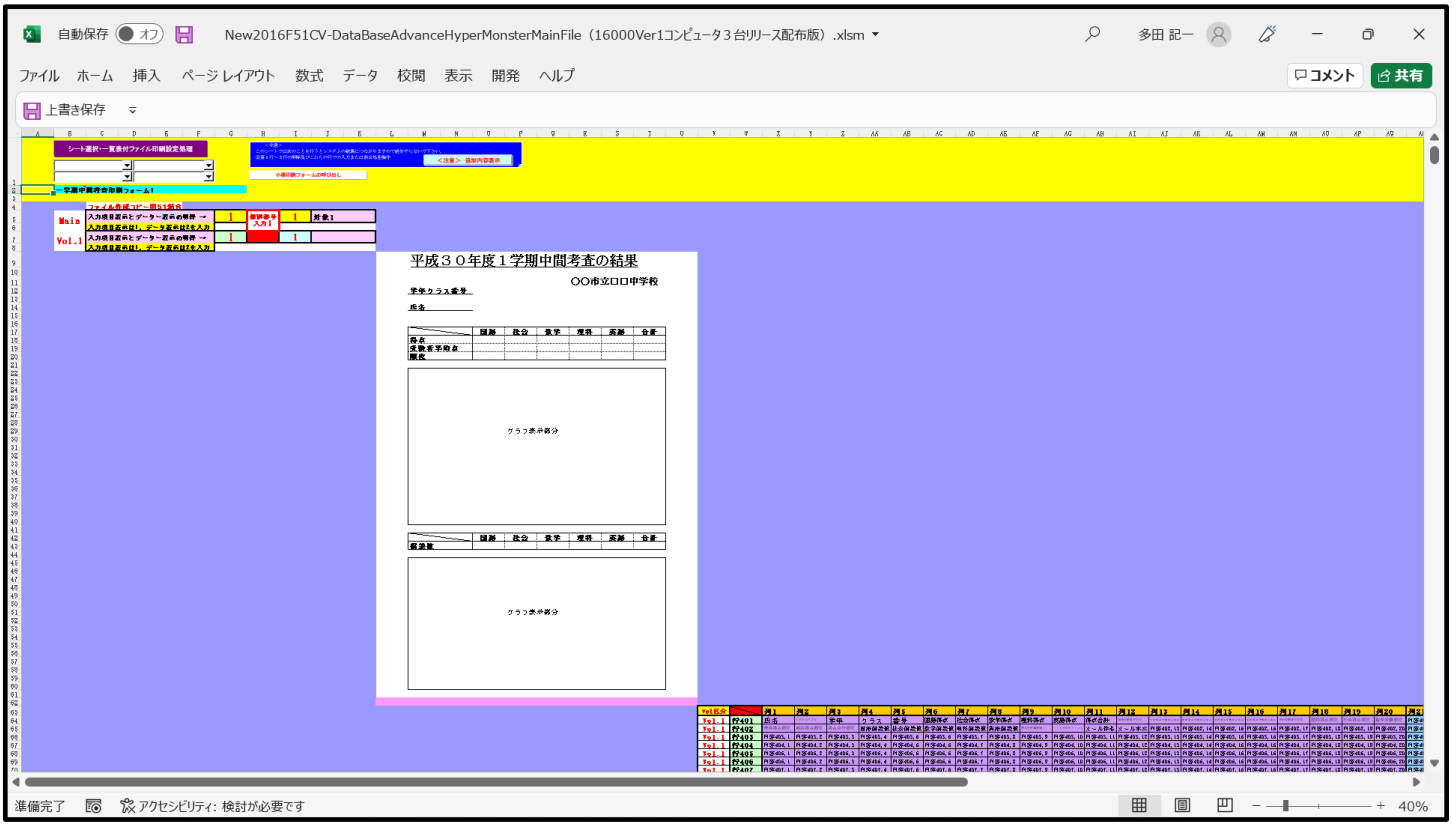
[図１０８]



上の[図１０８]の画面の背景色を色抜きにした部分に、どのような様式に設計していくのかその
アウトラインを作成しておきます。アウトラインを作成したのが次の[図１０９]の画面」です。但し、

表示倍率を 40%としています。

[図１０９]



そして、上の[図１０９]の画面の

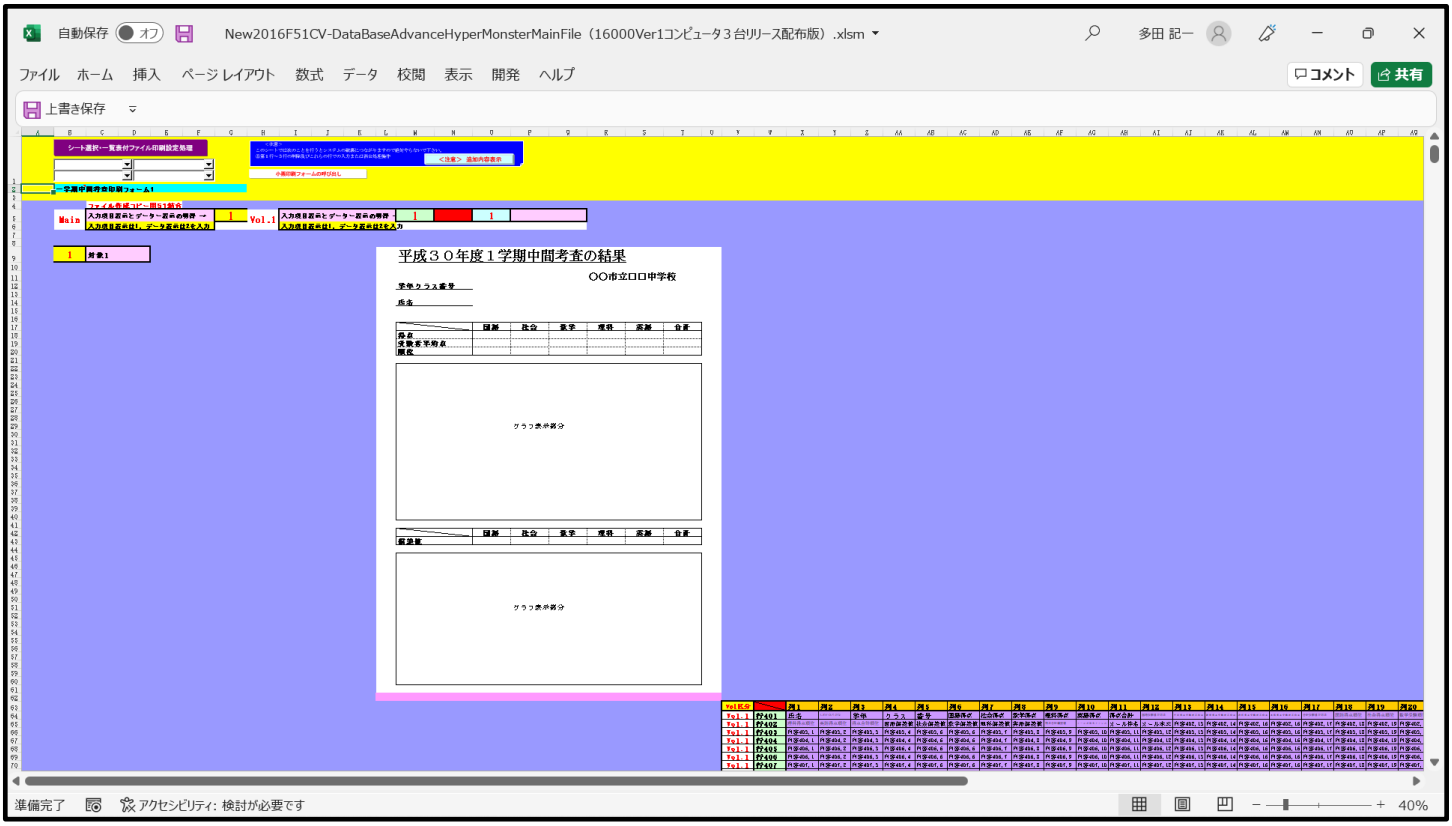
1	対象1

部分および

Vol. 1	入力項目表示とデータ一表示の切替 →	1		1	対象1
	入力項目表示は1，データ表示は2を入力				

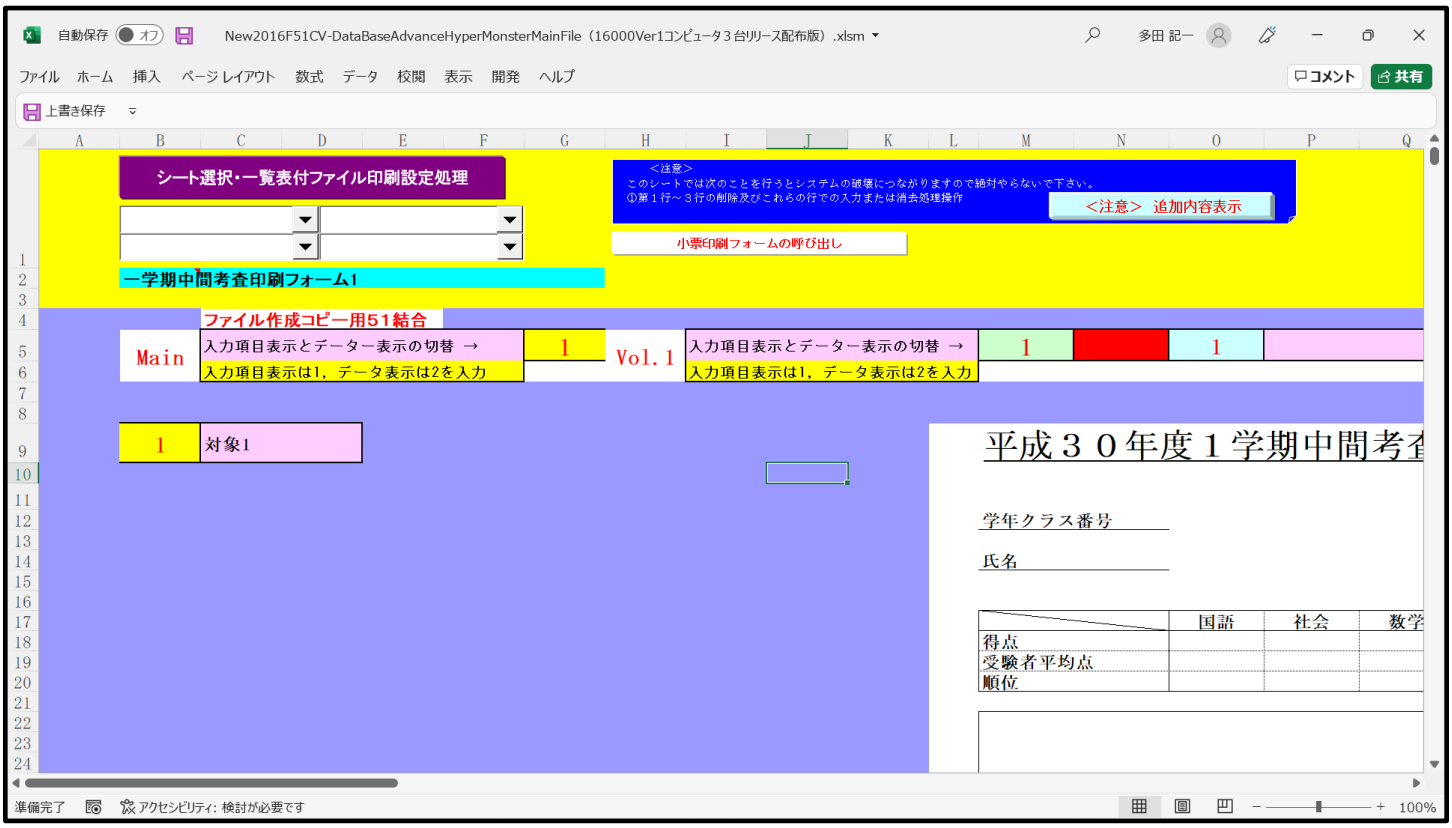
の部分を切り取って貼り付け、シートの行および列の削除も行い、次の[図１１０]の画面のようにします。

[図１１０]



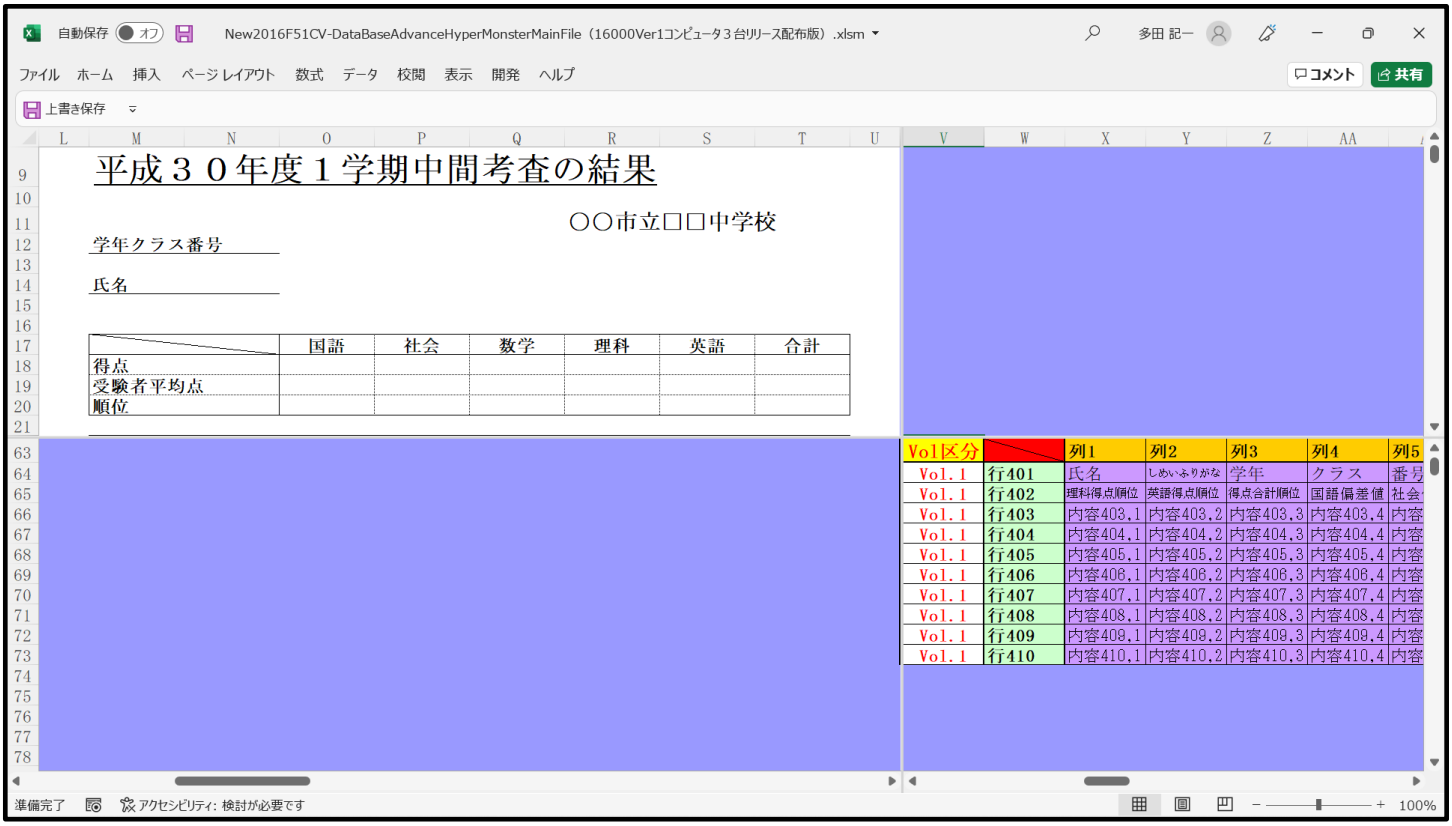
次に上の図１１０]の画面の表示倍率を 100%上げたのが次の[図１１１]の画面です。

[図１１１]



上の[図１１１]の画面で画面分割をおこない、次の[図１１２]の画面のように設定します。

[図１１２]



上の[図１１２]の画面の左上の画面の学年クラス番号と表示されているセルを選択し、=を入力し右下の画面のセル学年を選択して&と入力し、右下の画面のセルクラスを選択して&と入力し、更に右下の画面のセル番号を選択して&と入力して Enter キーを押します。

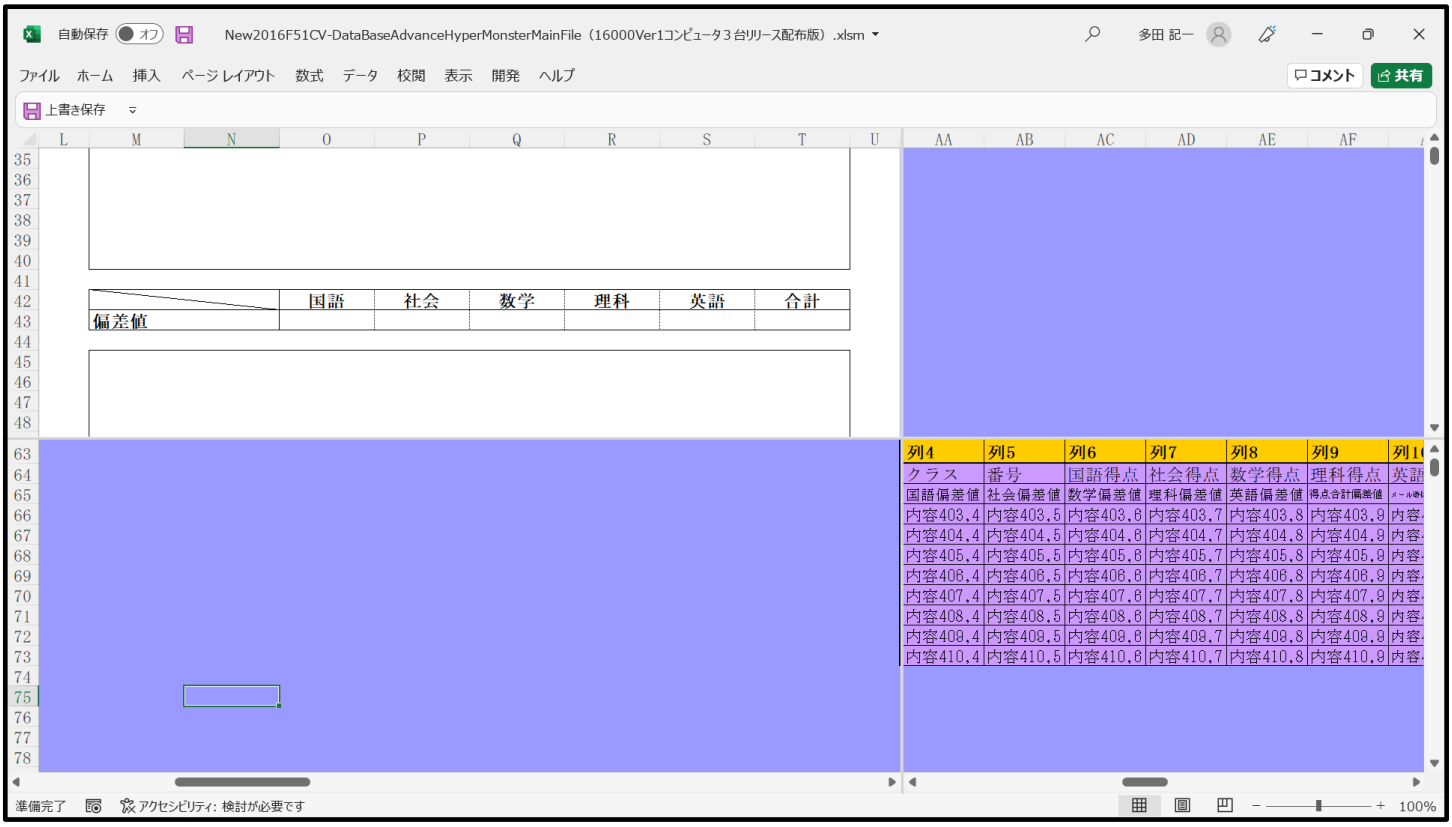
つまり、左上の画面の学年クラス番号と表示されているセルには式「=Z65&AA65&AB65」が入力されて学年クラス番号表示されます。そして、[　　]と表示されているセルを選択し、=を入力し右下の画面のセル氏名を選択して Enter キーを押します。つまり氏名と表示されているセルには式「=X65」が入力されて氏名と表示されます。

次に左上の国語の得点を表示するセルを選択し、=を入力したら右下の画面を右にスクロールさせてセル国語得点を選択します。つまり、左上の画面の国語の得点を表示するセルには式「=AC65」が入力され、セルは国語得点と表示されます。以下社会、数学、理科、英語，得点合計を表すセルについても同様な操作を行っていきます。また、国語、社会、数学、理科、英語，得点合計の受験者平均点および国語、社会、数学、理科、英語，得点合計の順位を表す各セルについても同様な操作で式を入力していきます。

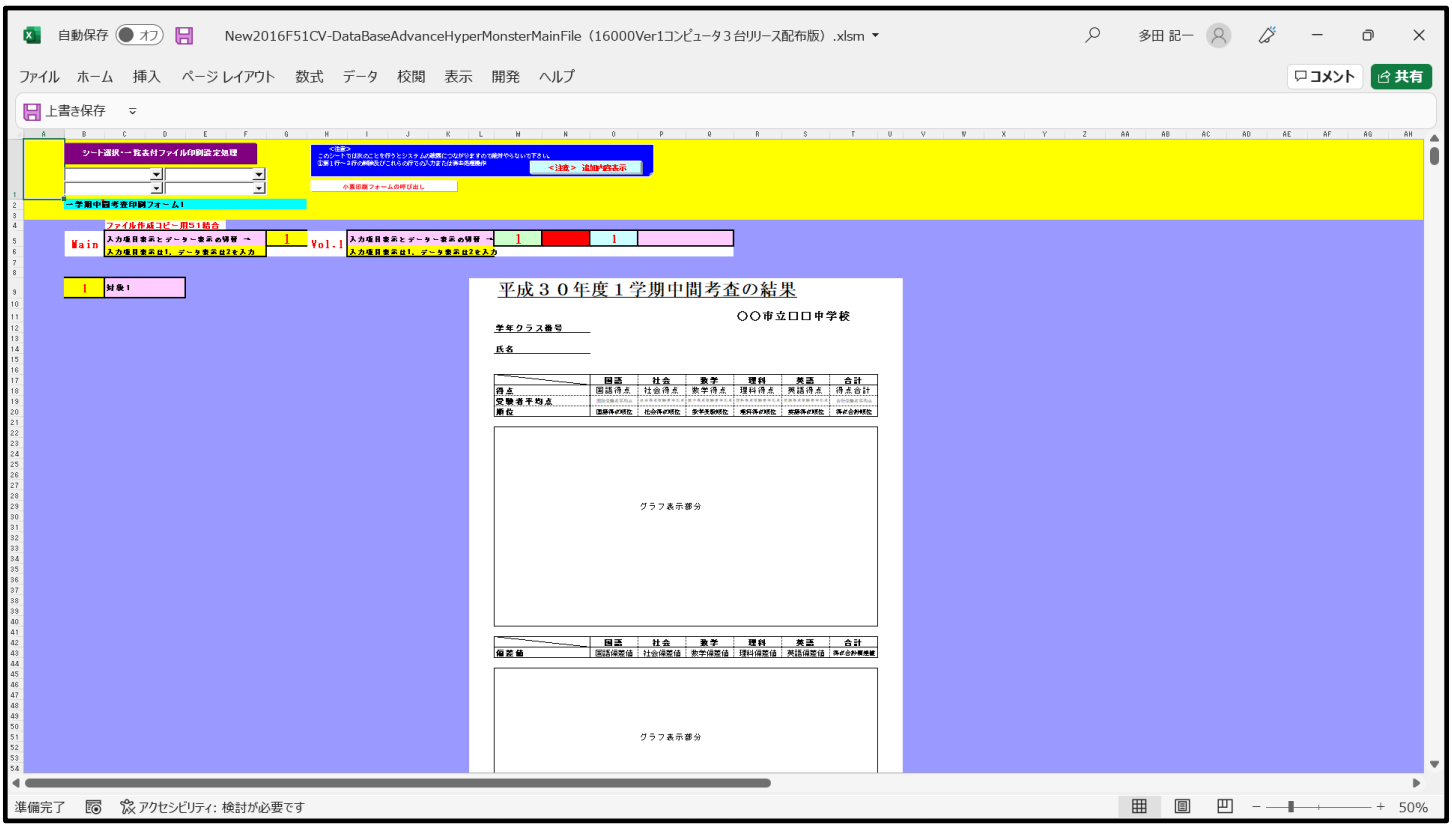
上のこれらのセルの式の入力が済んだら、分割画面を上下左右にスクロールさせて次の[図１１３]の画面のように設定して、国語、社会、数学、理科、英語，得点合計の偏差値を表すセルに同様に式を入力していきます。これらの式の入力が済んだ後画面分割を解除し表示倍率を 50%で表示したのが次の[図１１４]の画面です。但し、表示内容がわかるように、式を入力した各セルは縮小して全体を表示する

ように設定してあります。

[図１１３]



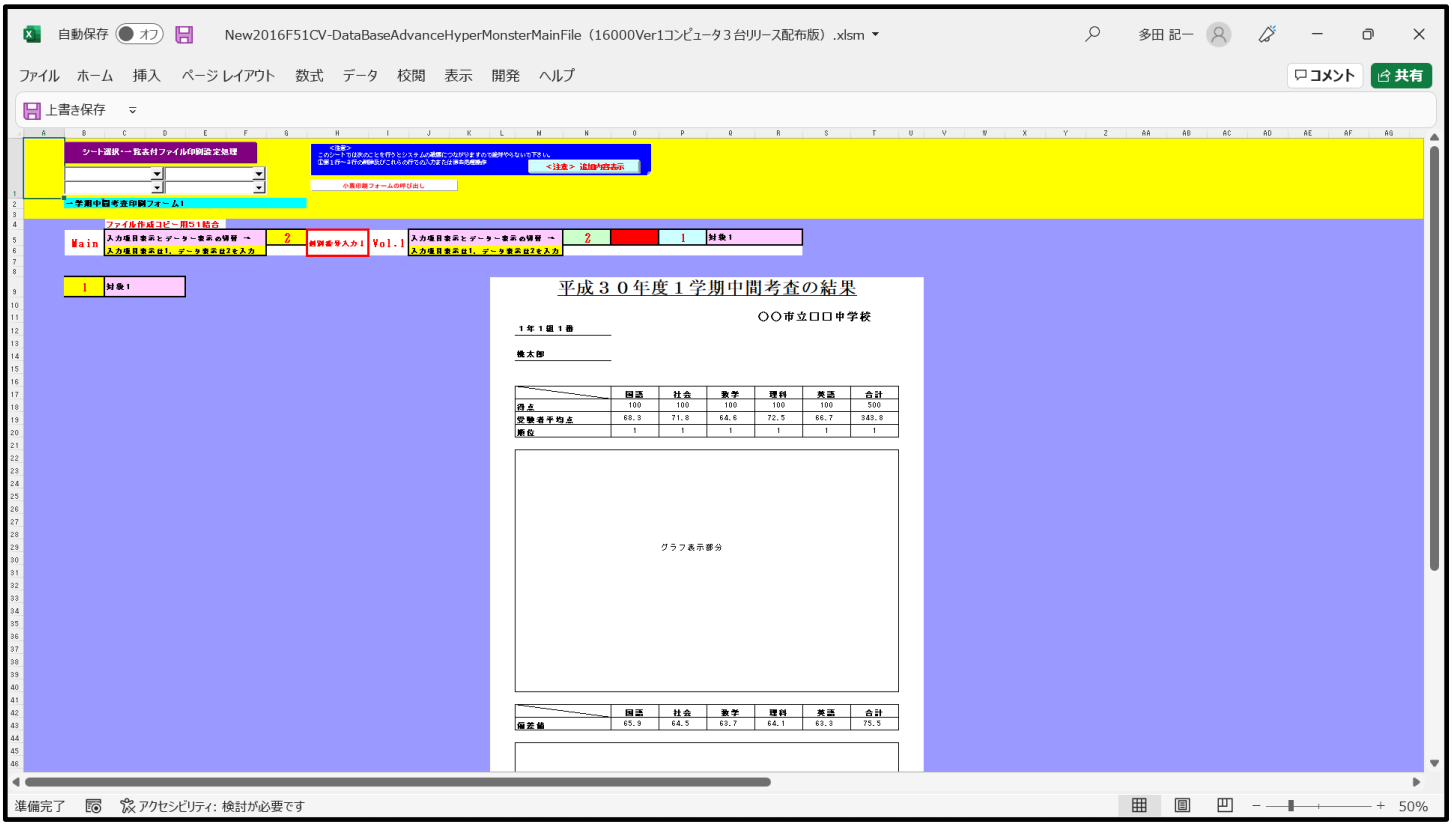
[図１１４]



なお、上の[図１１１]の画面のセル 1 の値を 2 と入力すると、データーファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
の入力シート「入力 AA1 一学期中間考査」の表の第１行目が表示されて、次の[図１１５]の画面のよう

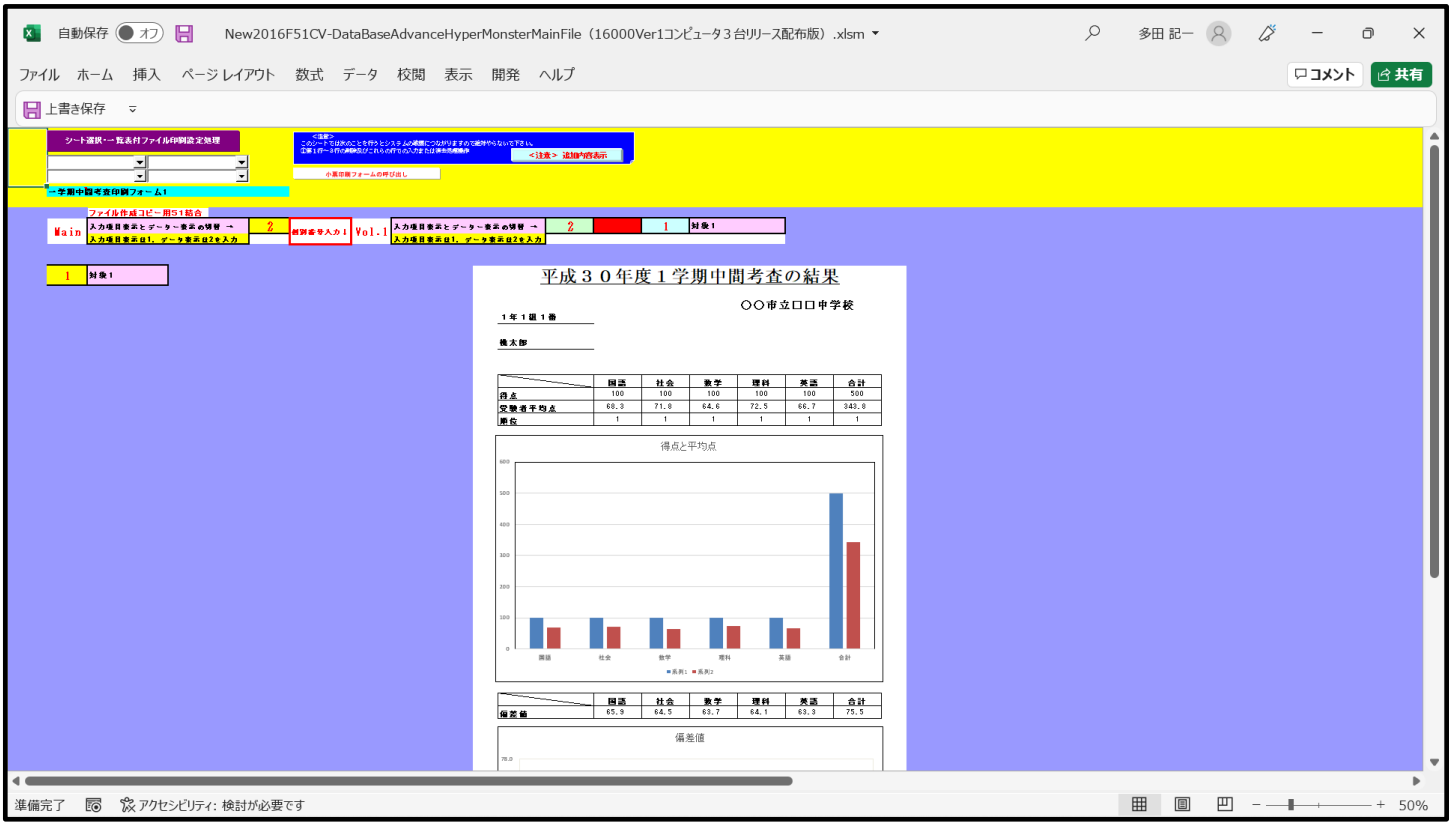
になります。但し表示倍率は５０％です。

[図１１５]



上の[図１１５]の画面に対してグラフを作成して表示したのが次の[図１１６]の画面です。

[図１１６]

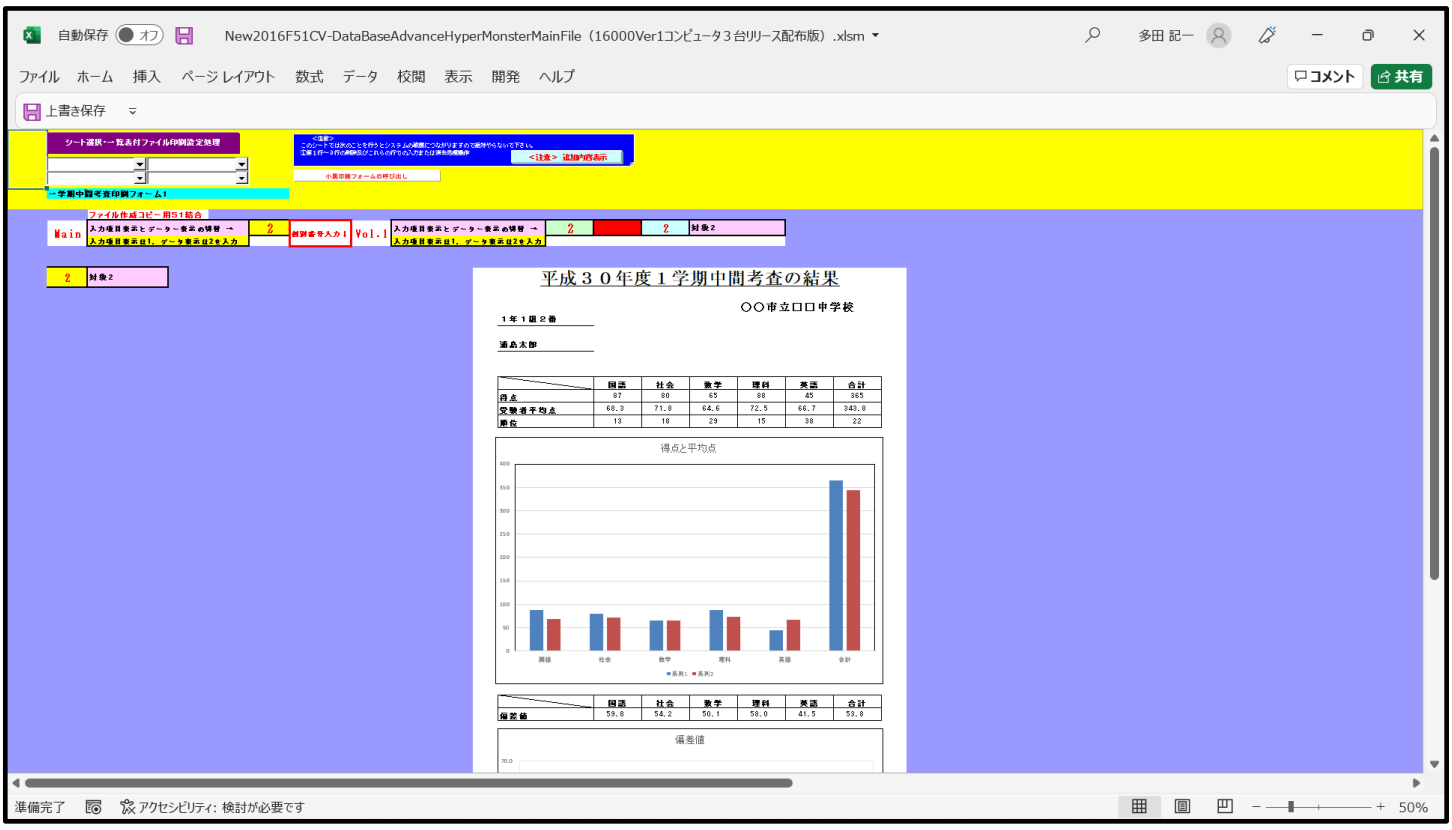


また、上の[図１１６]の画面でセル 1 の値を 2 にしたままで、

1 対象1 の部分で左側のセル 1 の値を 2 に変更すると

データーファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
の入力シート「入力 AA1 一学期中間考査」の表の第２行目が表示されて、次の[図１１７]の画面のようになります。

[図１１７]

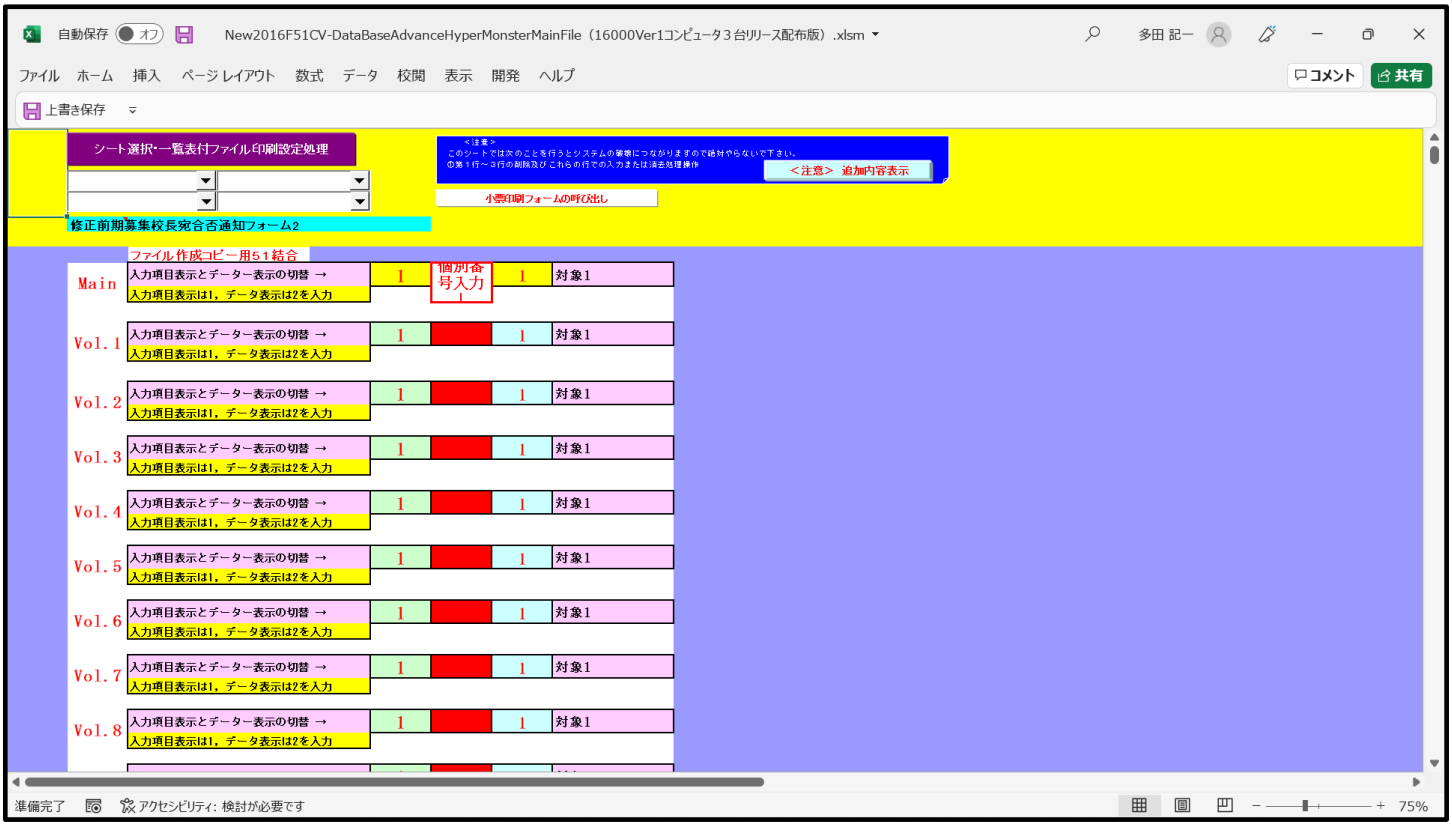


② 「入力シート」における表の複数の行を、「入力シート」の １ 行当たりを「印刷フォームシート」上で複数行に配置して「入力シート」における表の複数の行を同時に表示しながら印刷、印刷範囲を PDF の添付ファイルとしてメール送信する場合の「印刷フォーム」シート等の印刷部分の様式設計:

ここでは、印刷フォームシート「修正前期募集校長宛合否通知フォーム 2」の印刷部分の設計を例に説明してまいります。
高校入試通知書等作成データーは、データーファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2.xlsm
の入力シート「入力 AA1 高校入試通知書等作成データー」において作成しました。
また、ファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile
（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）
のシート「ファイル作成コピー用５１結合」の印刷フォームシートへの複写の際、このファイルの２つの印刷フォームシート「一学期中間考査印刷フォーム 1」と「修正前期募集校長宛合否通知フォーム 2」に複写しましたが、このうち印刷フォームシート「修正前期募集校長宛合否通知フォーム 2」を加工して、印刷フォームシート「修正前期募集校長宛合否通知フォーム 2」の印刷部分の設計をおこなってまいります。
さて、ファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile

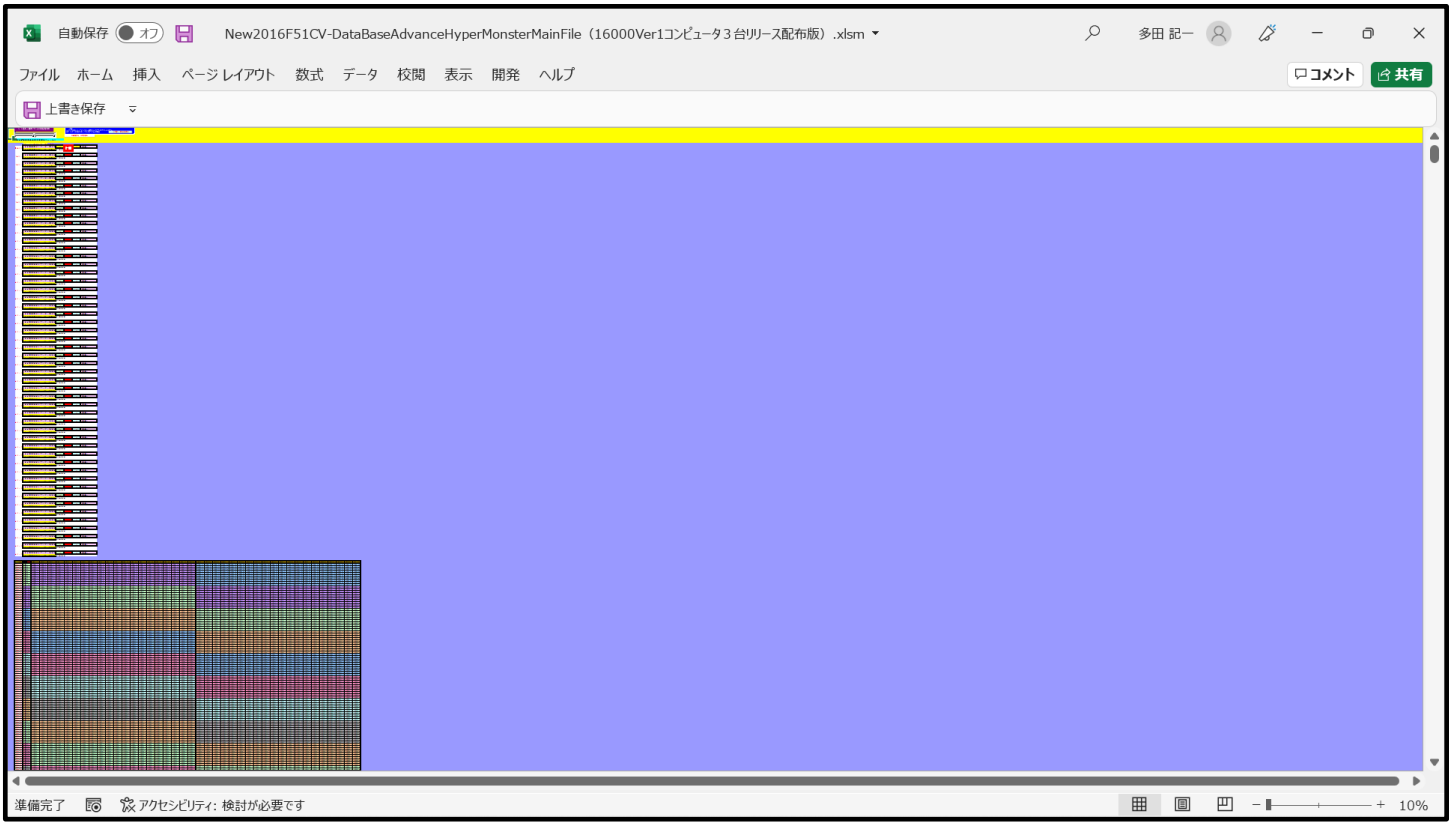
（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）
のシート「ファイル作成コピー用５１結合」を印刷フォームシート
「修正前期募集校長宛合否通知フォーム 2」へ複写した印刷フォームシート
「修正前期募集校長宛合否通知フォーム 2」の状況は次の[図１１８]の画面のようになっています。

[図１１８]



上の[図１１８]の画面である程度のシートの全体の様子がつかめるように表示倍率を 10%まで下げたのが次の[図１１９]の画面です。

[図１１９]



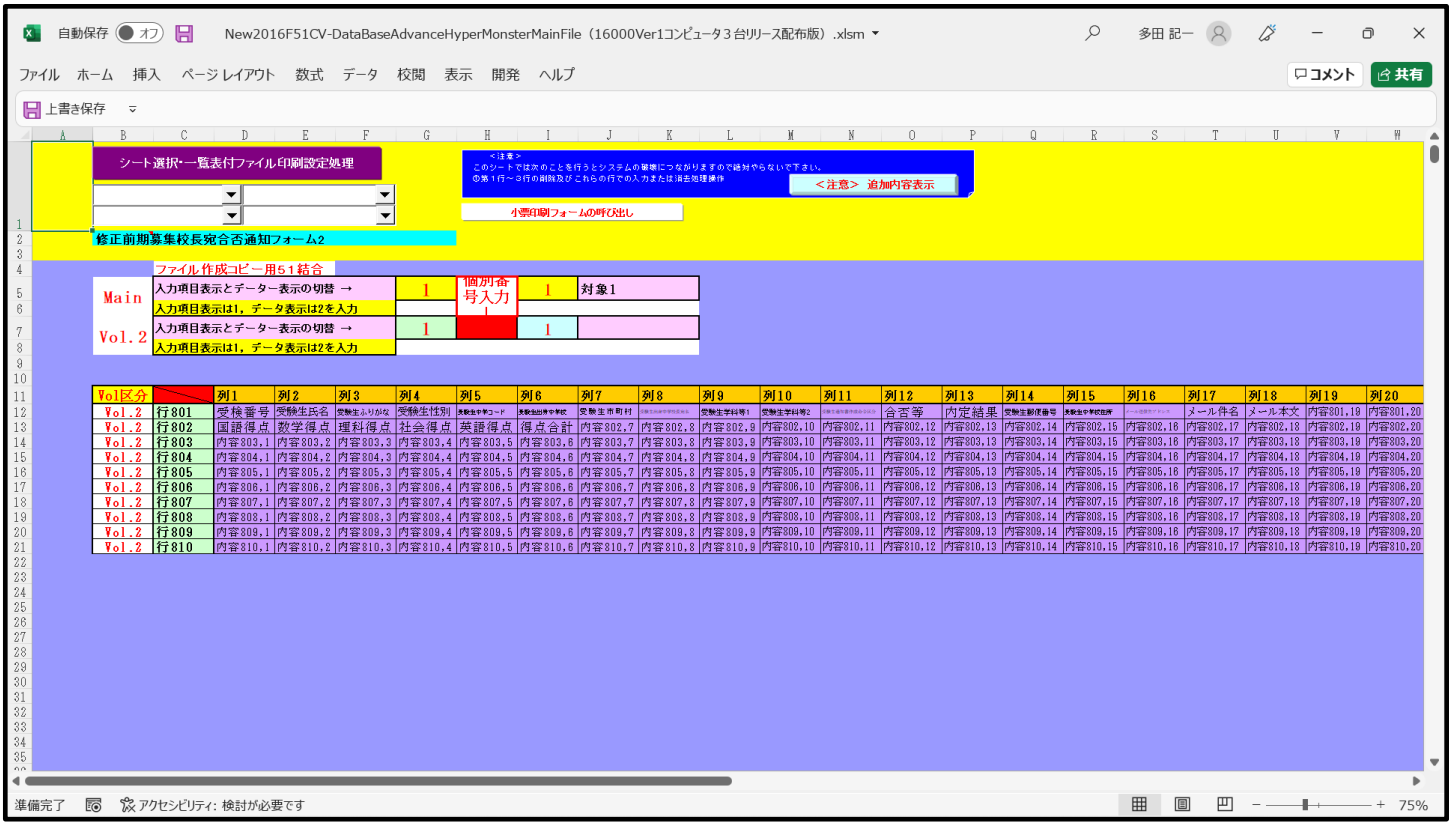
ここで、上の[図１１８]の画面で印刷フォームシート「修正前期募集校長宛合否通知フォーム２」に関係のない部分つまりデーターファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2.xlsm のシート
「入力 AA1 高校入試通知書等作成データー」の表示に関係のない部分をシートの保護を解除して全て削除していきます。

具体的には、Main や Vol.2 が表示されていない行、および画面をどんどん下側にスクロールしながら Vol.2 と表示されていない行および Vol.2 と表示されていても

Vol.2	行801	受検番号	受験生氏名	受験生ふりがな	受験生性別	受験生中学コード	受験生出身中学校	受験生市町村	受験生中学所在地	受験生学科等1	受験生学科等2	受験生通知書作成合否区分	合否等	内定結果	受験生郵便番号	受験生中学校住所	受験生中学校電子アドレス	メール件名	メール本文	内容801,19	内容801,20
Vol.2	行802	国語得点	数学得点	理科得点	社会得点	英語得点	得点合計	内容802,7	内容802,8	内容802,9	内容802,10	内容802,11	内容802,12	内容802,13	内容802,14	内容802,15	内容802,16	内容802,17	内容802,18	内容802,19	内容802,20
Vol.2	行803	内容803,1	内容803,2	内容803,3	内容803,4	内容803,5	内容803,6	内容803,7	内容803,8	内容803,9	内容803,10	内容803,11	内容803,12	内容803,13	内容803,14	内容803,15	内容803,16	内容803,17	内容803,18	内容803,19	内容803,20
Vol.2	行804	内容804,1	内容804,2	内容804,3	内容804,4	内容804,5	内容804,6	内容804,7	内容804,8	内容804,9	内容804,10	内容804,11	内容804,12	内容804,13	内容804,14	内容804,15	内容804,16	内容804,17	内容804,18	内容804,19	内容804,20
Vol.2	行805	内容805,1	内容805,2	内容805,3	内容805,4	内容805,5	内容805,6	内容805,7	内容805,8	内容805,9	内容805,10	内容805,11	内容805,12	内容805,13	内容805,14	内容805,15	内容805,16	内容805,17	内容805,18	内容805,19	内容805,20
Vol.2	行806	内容806,1	内容806,2	内容806,3	内容806,4	内容806,5	内容806,6	内容806,7	内容806,8	内容806,9	内容806,10	内容806,11	内容806,12	内容806,13	内容806,14	内容806,15	内容806,16	内容806,17	内容806,18	内容806,19	内容806,20
Vol.2	行807	内容807,1	内容807,2	内容807,3	内容807,4	内容807,5	内容807,6	内容807,7	内容807,8	内容807,9	内容807,10	内容807,11	内容807,12	内容807,13	内容807,14	内容807,15	内容807,16	内容807,17	内容807,18	内容807,19	内容807,20
Vol.2	行808	内容808,1	内容808,2	内容808,3	内容808,4	内容808,5	内容808,6	内容808,7	内容808,8	内容808,9	内容808,10	内容808,11	内容808,12	内容808,13	内容808,14	内容808,15	内容808,16	内容808,17	内容808,18	内容808,19	内容808,20
Vol.2	行809	内容809,1	内容809,2	内容809,3	内容809,4	内容809,5	内容809,6	内容809,7	内容809,8	内容809,9	内容809,10	内容809,11	内容809,12	内容809,13	内容809,14	内容809,15	内容809,16	内容809,17	内容809,18	内容809,19	内容809,20
Vol.2	行810	内容810,1	内容810,2	内容810,3	内容810,4	内容810,5	内容810,6	内容810,7	内容810,8	内容810,9	内容810,10	内容810,11	内容810,12	内容810,13	内容810,14	内容810,15	内容810,16	内容810,17	内容810,18	内容810,19	内容810,20

と表示されていない全ての行を削除していきます。全て削除した結果の状況は、次の[図１２０]の画面のようになります。

[図１２０]

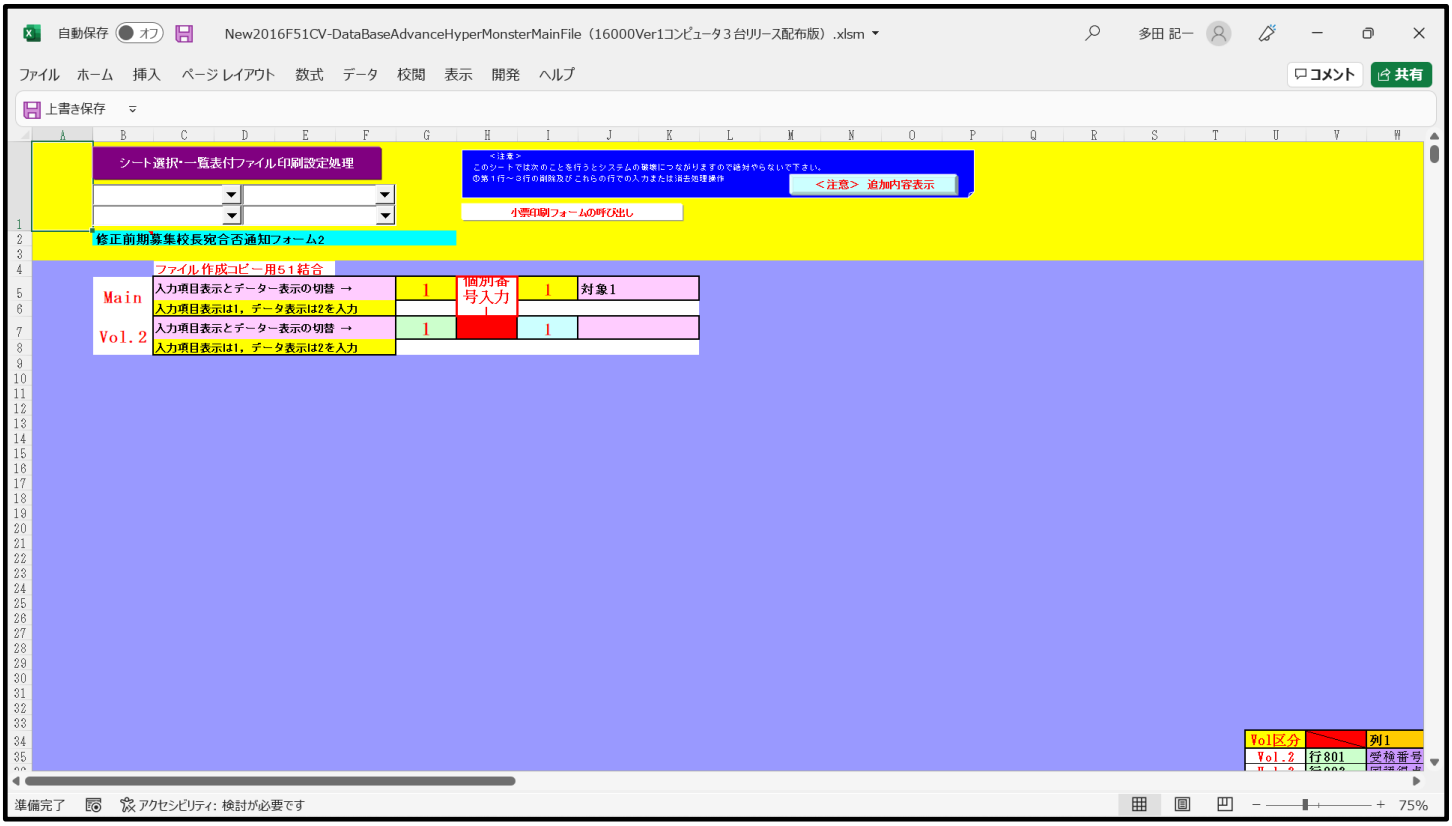


それではこれから「入力シート」における表の複数の行を、「入力シート」の １ 行当たりを「印刷フォームシート」上で複数行に配置して「入力シート」における表の複数の行を同時に表示しながら印刷、印刷範囲を PDF の添付ファイルとしてメール送信する場合の「印刷フォーム」シート等の印刷部分の様式設計をおこなってまいります。
先ず、設計をおこなうための編集部分を確保する必要があります。
上の [図１２０]の画面の

Vol.2	行801	受検番号	受験生氏名	受験生ふりがな	受験生性別	受験生中学コード	受験生出身中学校	受験生市町村	受験生学科等1	受験生学科等2	合否等	内定結果	受験生郵便番号	受験生中学校住所	メール件名	メール本文	内容801,19	内容801,20
Vol.2	行802	国語得点	数学得点	理科得点	社会得点	英語得点	得点合計	内容802,7	内容802,8	内容802,9	内容802,10	内容802,11	内容802,12	内容802,13	内容802,14	内容802,15	内容802,16	内容802,17	内容802,18	内容802,19	内容802,20
Vol.2	行803	内容803,1	内容803,2	内容803,3	内容803,4	内容803,5	内容803,6	内容803,7	内容803,8	内容803,9	内容803,10	内容803,11	内容803,12	内容803,13	内容803,14	内容803,15	内容803,16	内容803,17	内容803,18	内容803,19	内容803,20
Vol.2	行804	内容804,1	内容804,2	内容804,3	内容804,4	内容804,5	内容804,6	内容804,7	内容804,8	内容804,9	内容804,10	内容804,11	内容804,12	内容804,13	内容804,14	内容804,15	内容804,16	内容804,17	内容804,18	内容804,19	内容804,20
Vol.2	行805	内容805,1	内容805,2	内容805,3	内容805,4	内容805,5	内容805,6	内容805,7	内容805,8	内容805,9	内容805,10	内容805,11	内容805,12	内容805,13	内容805,14	内容805,15	内容805,16	内容805,17	内容805,18	内容805,19	内容805,20
Vol.2	行806	内容806,1	内容806,2	内容806,3	内容806,4	内容806,5	内容806,6	内容806,7	内容806,8	内容806,9	内容806,10	内容806,11	内容806,12	内容806,13	内容806,14	内容806,15	内容806,16	内容806,17	内容806,18	内容806,19	内容806,20
Vol.2	行807	内容807,1	内容807,2	内容807,3	内容807,4	内容807,5	内容807,6	内容807,7	内容807,8	内容807,9	内容807,10	内容807,11	内容807,12	内容807,13	内容807,14	内容807,15	内容807,16	内容807,17	内容807,18	内容807,19	内容807,20
Vol.2	行808	内容808,1	内容808,2	内容808,3	内容808,4	内容808,5	内容808,6	内容808,7	内容808,8	内容808,9	内容808,10	内容808,11	内容808,12	内容808,13	内容808,14	内容808,15	内容808,16	内容808,17	内容808,18	内容808,19	内容808,20
Vol.2	行809	内容809,1	内容809,2	内容809,3	内容809,4	内容809,5	内容809,6	内容809,7	内容809,8	内容809,9	内容809,10	内容809,11	内容809,12	内容809,13	内容809,14	内容809,15	内容809,16	内容809,17	内容809,18	内容809,19	内容809,20
Vol.2	行810	内容810,1	内容810,2	内容810,3	内容810,4	内容810,5	内容810,6	内容810,7	内容810,8	内容810,9	内容810,10	内容810,11	内容810,12	内容810,13	内容810,14	内容810,15	内容810,16	内容810,17	内容810,18	内容810,19	内容810,20

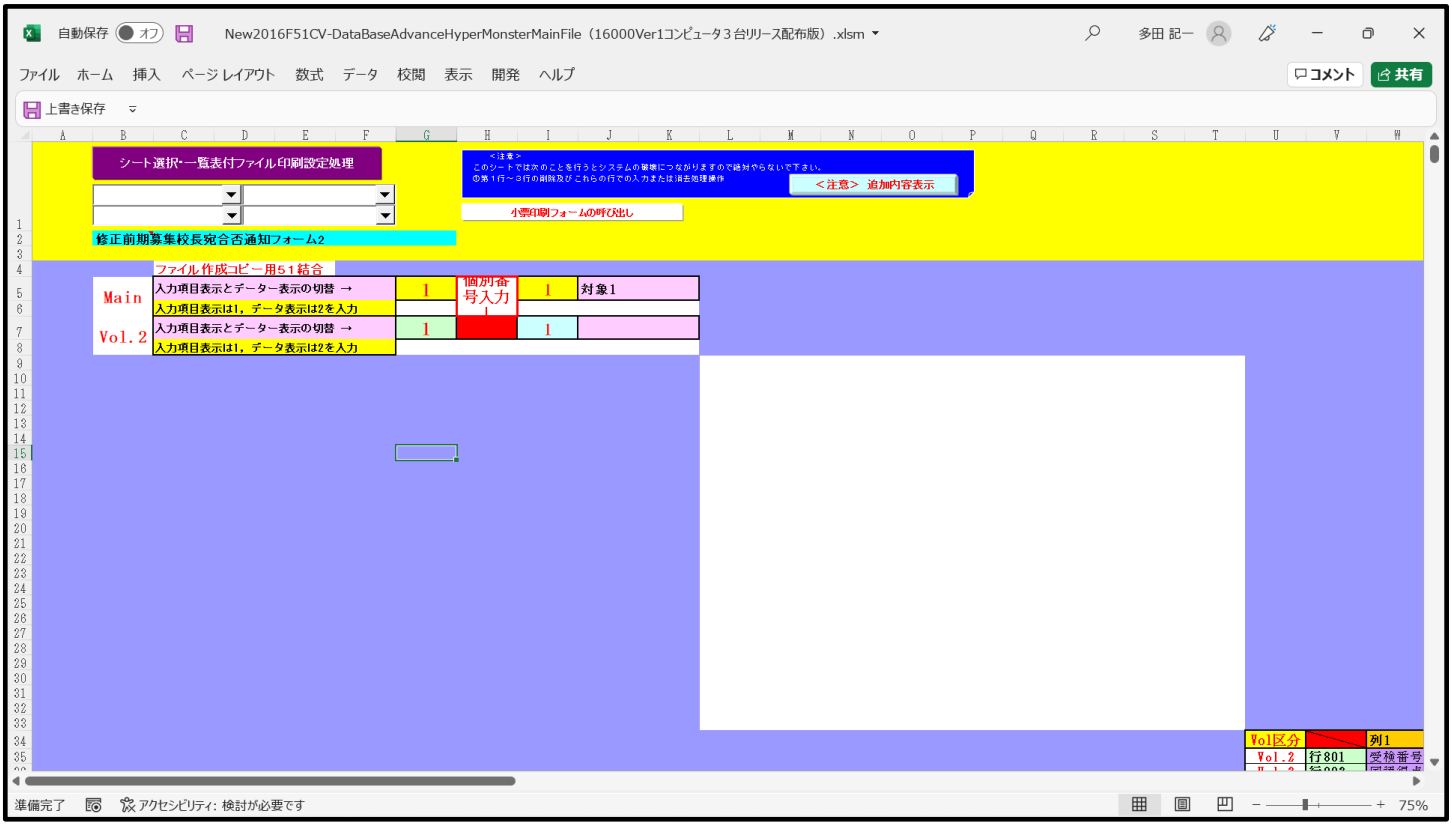
部分を切り取り、次の[図１２１]の画面の位置にとりあえず貼り付けておきます。

[図１２１]



そして上の[図１２１]の画面において、部分的にセル範囲の背景色を色抜きにしますが、色抜きにしたものを次の[図１２２]の画面に表示させます。色抜きにする範囲は後からいくらでも調整できますので、適当に範囲は選択して結構です。

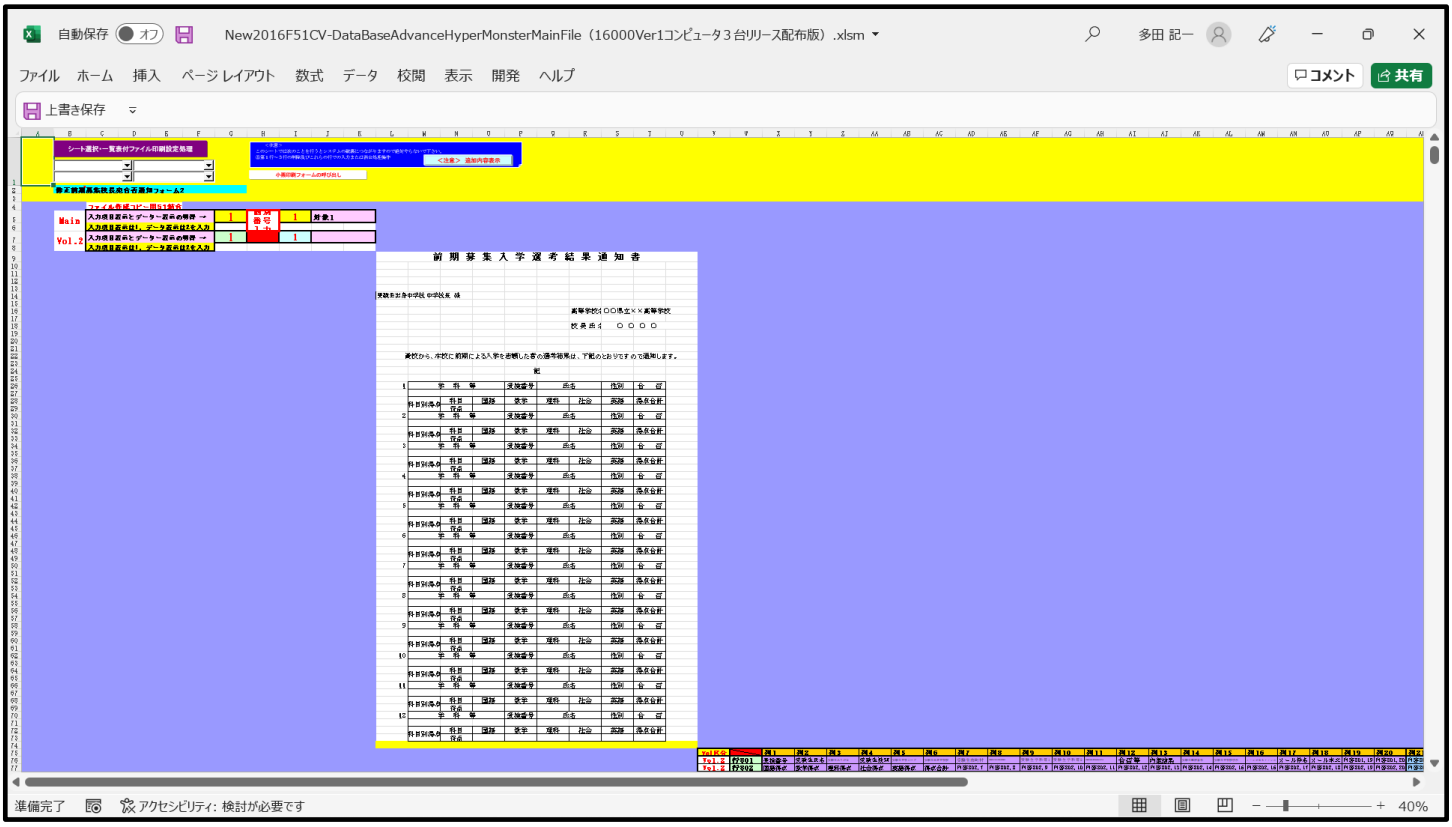
[図１２２]



上の[図１２２]の画面の背景色を色抜きにしたセル範囲の部分に、どのような様式に設計していくのかそのアウトラインを作成しておきます。アウトラインを作成したのが次の[図１２３]の画面です。但し、表示倍

率を 40%としています。

[図１２３]



そして、

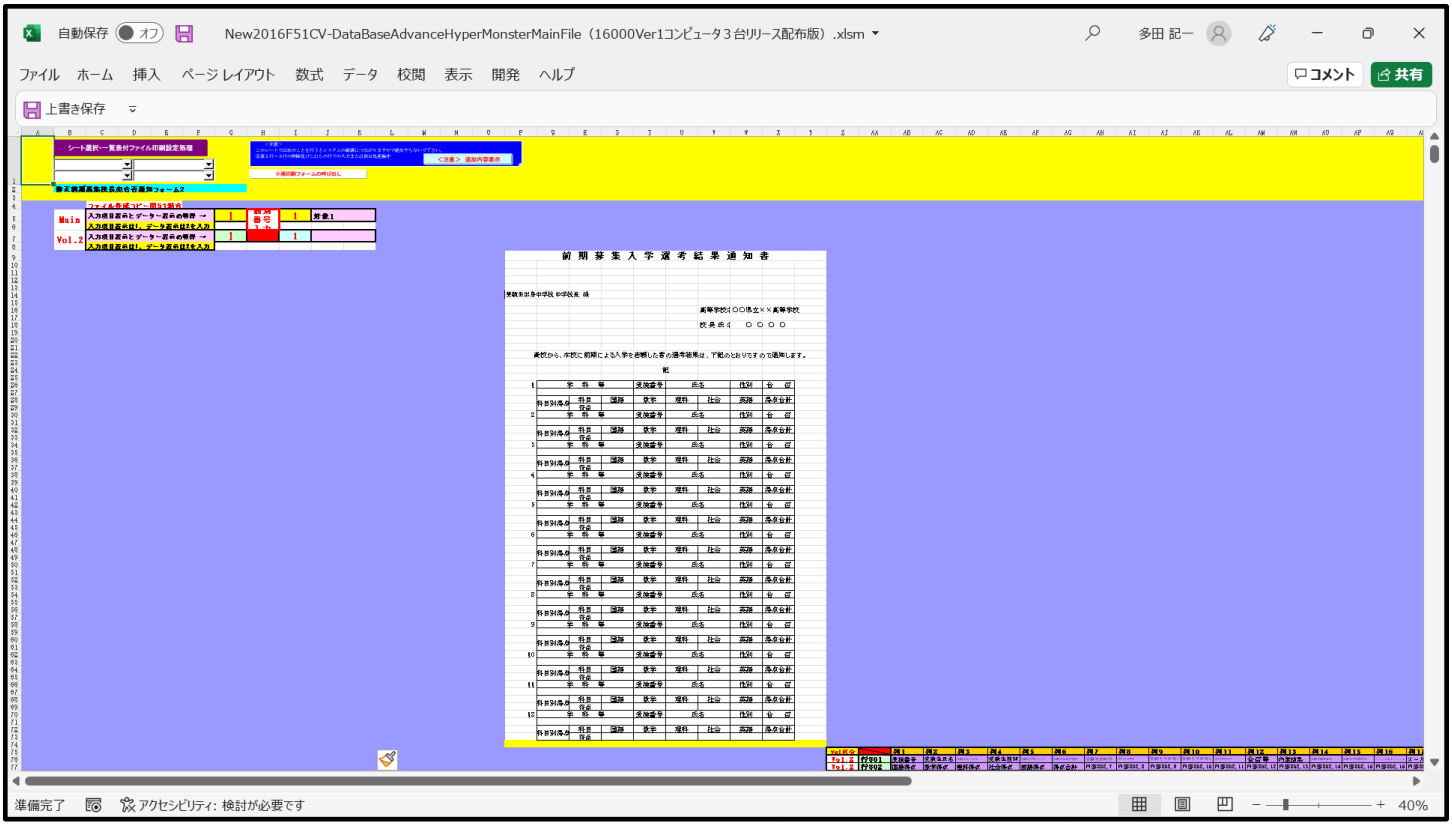
1	対象1

部分および

Vol. 2	入力項目表示とデーター表示の切替 →	1		1	対象1	
	入力項目表示は1，データ表示は2を入力					

の部分を切り取って貼り付けるため、上の[図１２３]の画面のシートの H9 から K85 のセル範囲を選択し、列を４列挿入し右方向にシフトさせ、次の[図１２４]の画面のようにします。

[図１２４]



そして、

1	対象1

部分および

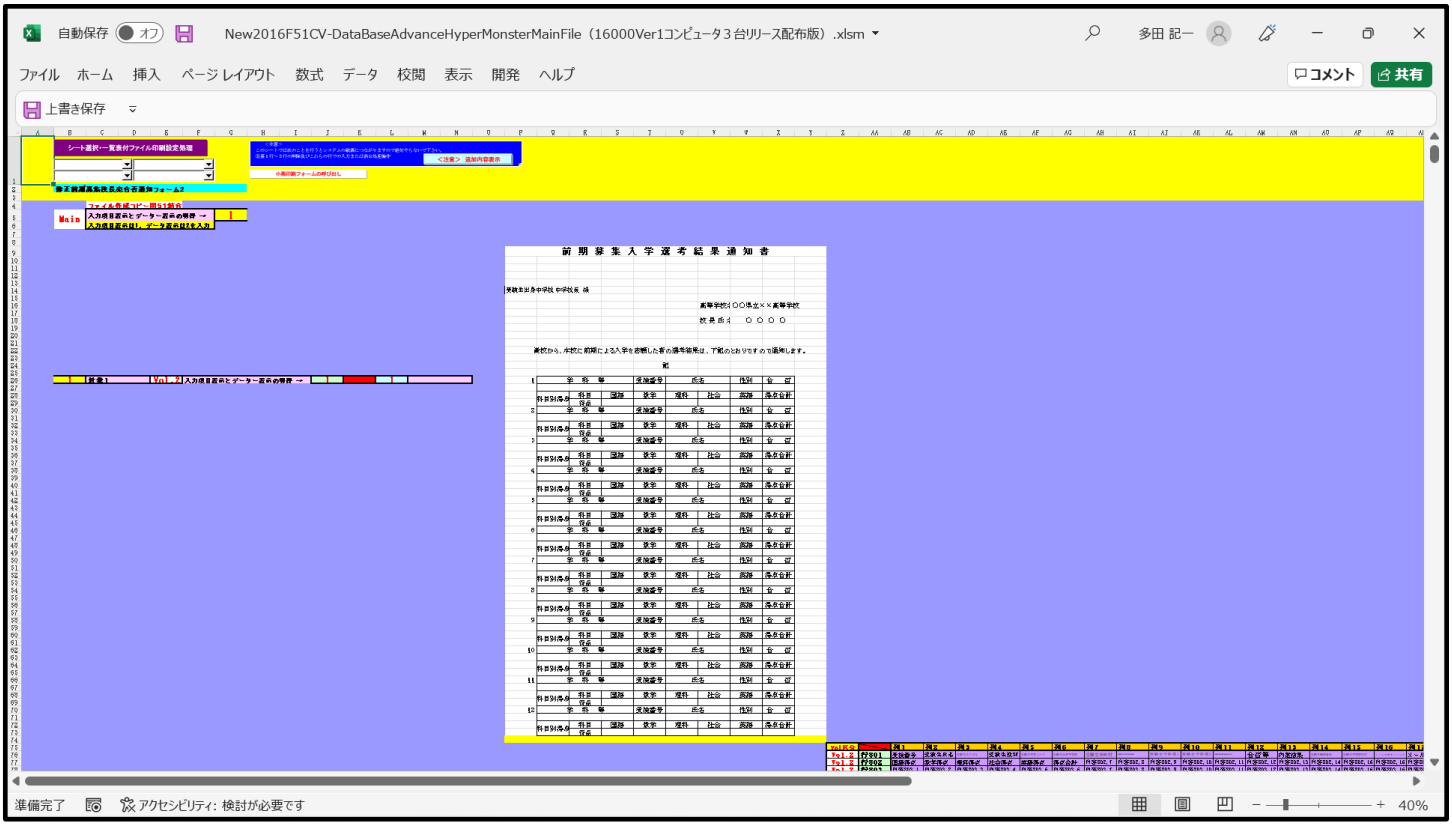
Vol. 2	入力項目表示とデーター表示の切替 →	1		1	対象1	
	入力項目表示は1，データ表示は2を入力					

の部分を切り取って、次の[図１２５]の画面のように B26 から N26 までのそれぞれの位置に貼り付けます。但し、

Vol. 2

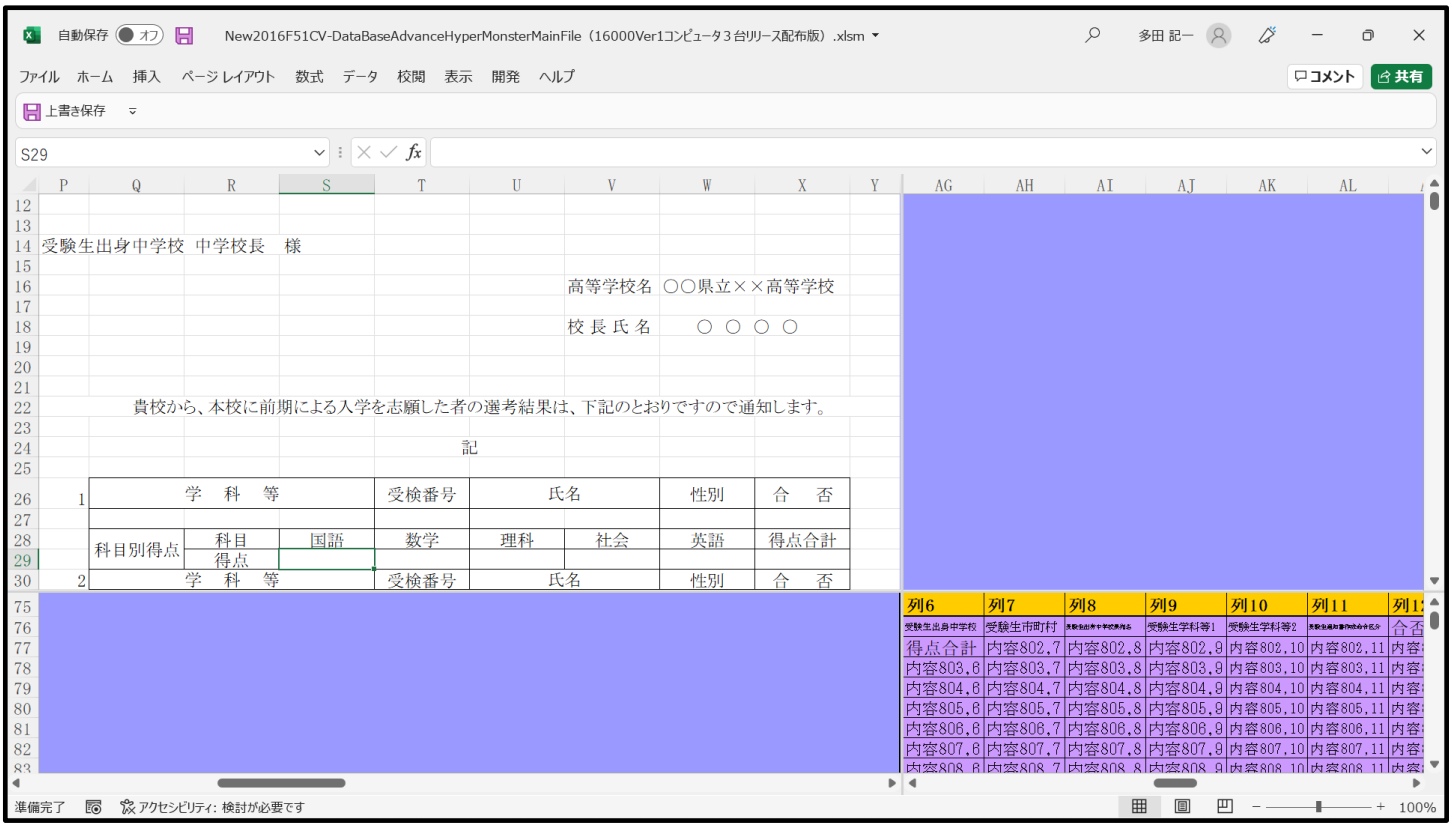
と表示されているセルは、セルが結合されているので、結合を解除する必要があります。また、必要に応じて不要なセル等を削除をし行高も変更しています。

[図１２５]



上の[図１２５]の画面の表示倍率を 100%に上げてで画面分割をおこない、次の[図１２６]の画面のように設定します。

[図１２６]

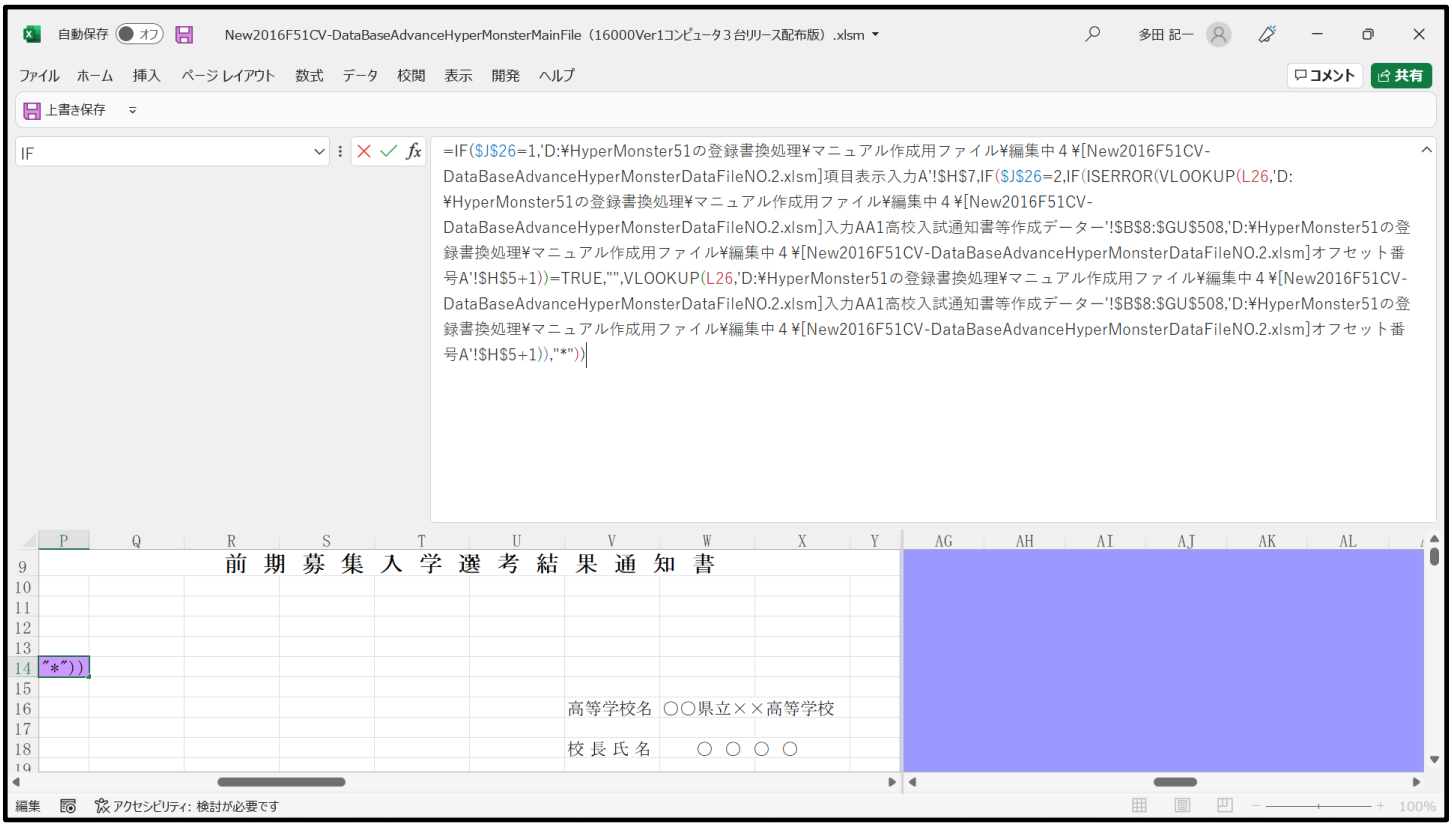


それではこれから具体的な編集作業をおこなってまいります。

先ず、上の[図１２６]の画面の右下の受験生出身中学校と表示されているセルを切り取り右上の

受験生出身中学校　中学校長　様 と表示されている最も左側のセルに貼り付けます。貼り付けたら 表示 をクリックし ☑ 数式バー とチェックを入れ、貼り付たけたセルを選択し数式バーの内容全体を表示させ次の[図１２７]の画面のように設定します。

[図１２７]

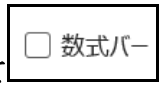


そしたら上の[図１２７]の画面の数式の表示部分

```
=IF($J$26=1,'D:¥HyperMonster51の登録書換処理¥マニュアル作成用ファイル¥編集中４¥[New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2.xlsm]項目表示入力A'!$H$7,IF($J$26=2,IF(ISERROR(VLOOKUP(L26,'D:¥HyperMonster51の登録書換処理¥マニュアル作成用ファイル¥編集中４¥[New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2.xlsm]入力AA1高校入試通知書等作成データー'!$B$8:$GU$508,'D:¥HyperMonster51の登録書換処理¥マニュアル作成用ファイル¥編集中４¥[New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2.xlsm]オフセット番号A'!$H$5+1))=TRUE,"",VLOOKUP(L26,'D:¥HyperMonster51の登録書換処理¥マニュアル作成用ファイル¥編集中４¥[New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2.xlsm]入力AA1高校入試通知書等作成データー'!$B$8:$GU$508,'D:¥HyperMonster51の登録書換処理¥マニュアル作成用ファイル¥編集中４¥[New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2.xlsm]オフセット番号A'!$H$5+1)),"*"))
```

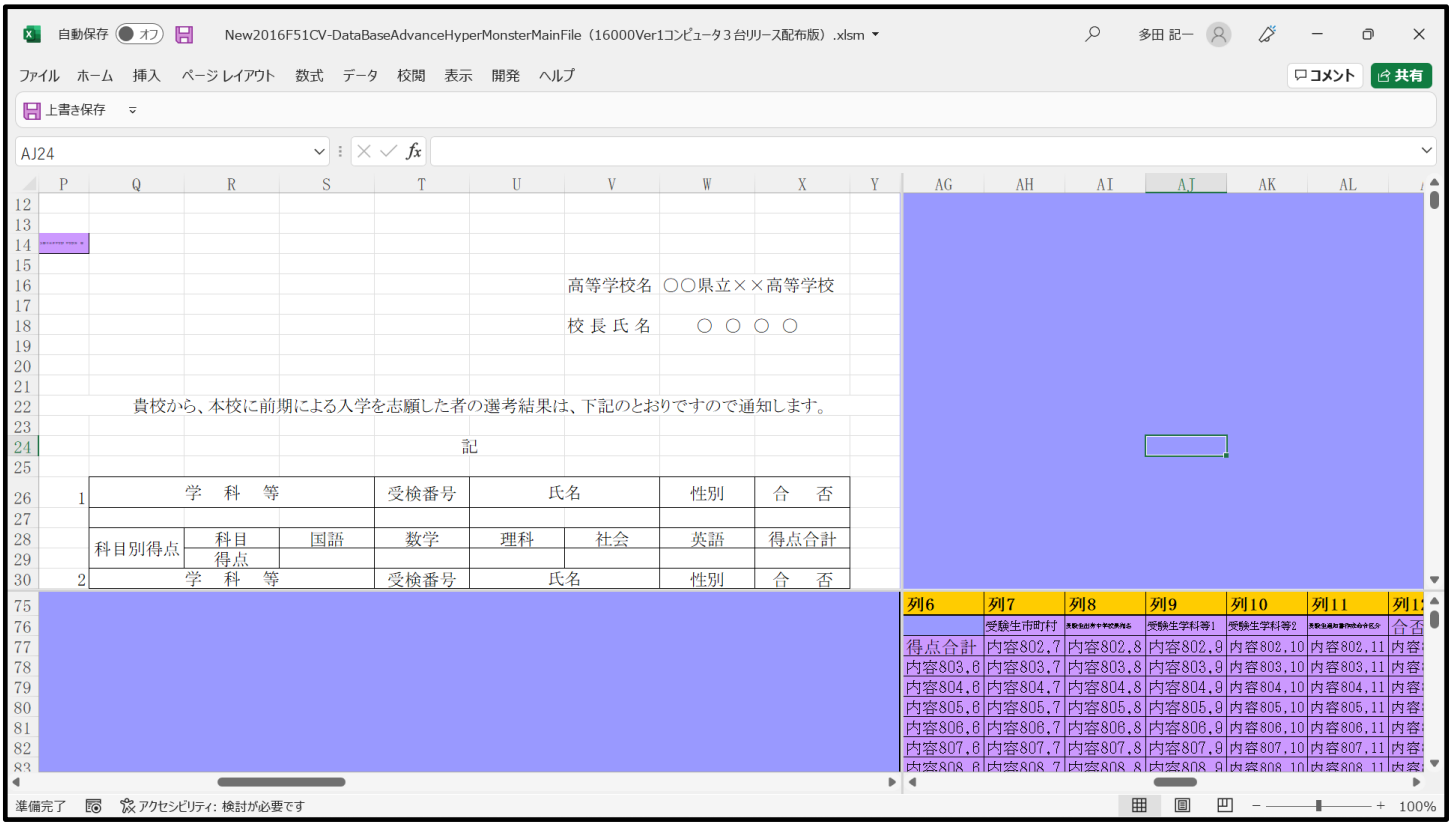
の最後の部分に「&”　中学校長　様”」と付け加えます。つまり、数式の全体は、

```
=IF($J$26=1,'D:¥HyperMonster51の登録書換処理¥マニュアル作成用ファイル¥編集中４¥[New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2.xlsm]項目表示入力A'!$H$7,IF($J$26=2,IF(ISERROR(VLOOKUP(L26,'D:¥HyperMonster51の登録書換処理¥マニュアル作成用ファイル¥編集中４¥[New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2.xlsm]入力AA1高校入試通知書等作成データー'!$B$8:$GU$508,'D:¥HyperMonster51の登録書換処理¥マニュアル作成用ファイル¥編集中４¥[New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2.xlsm]オフセット番号A'!$H$5+1))=TRUE,"",VLOOKUP(L26,'D:¥HyperMonster51の登録書換処理¥マニュアル作成用ファイル¥編集中４¥[New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2.xlsm]入力AA1高校入試通知書等作成データー'!$B$8:$GU$508,'D:¥HyperMonster51の登録書換処理¥マニュアル作成用ファイル¥編集中４¥[New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2.xlsm]オフセット番号A'!$H$5+1)),"*"))&"　中学校長　様"
```

のようになります。そして、Enter キーを押して数式のチェックを外して 

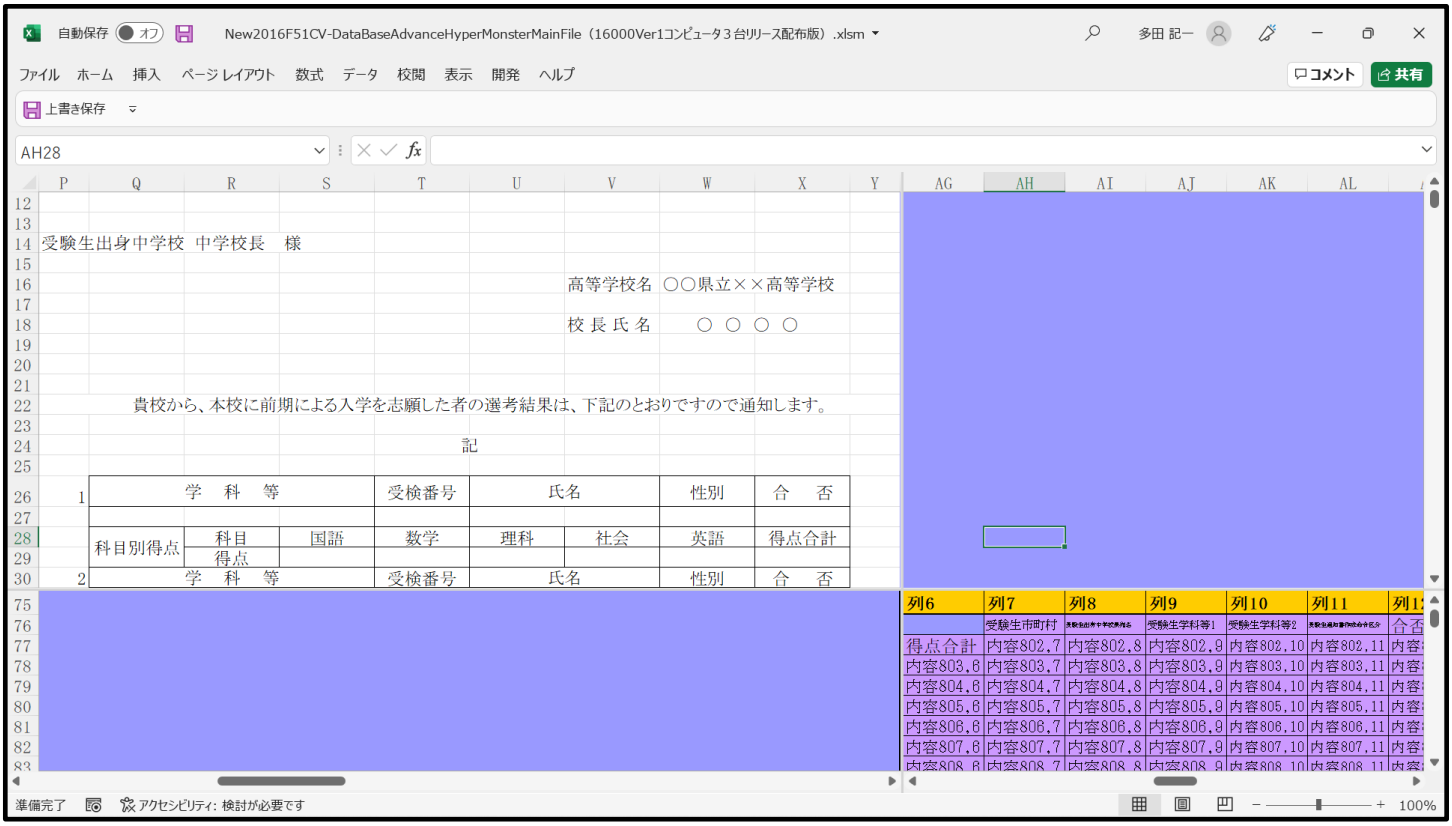
とすると上の[図１２６]の画面は次の[図１２８]の画面のようになります。

[図１２８]



そして、上の[図１２８]の画面の４個のセル を選択してセルを結合しセルの背景色を抜くと次の[図１２９]の画面のようになります。

[図１２９]

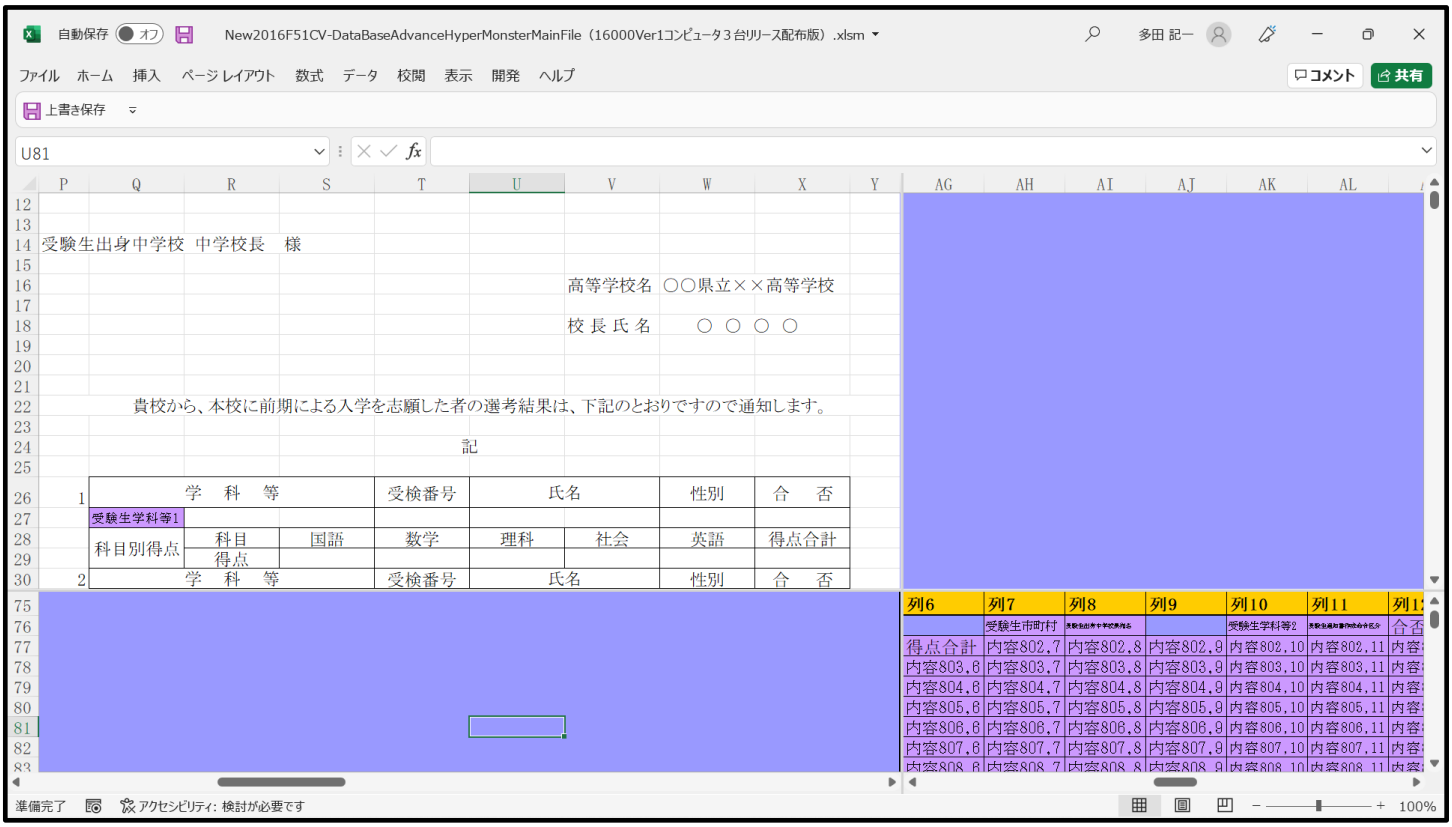


編集を続けます。上の[図１２９]の画面の右下の受験生学科等1と表示されているせるを切り取り、左上の

学 科 等		

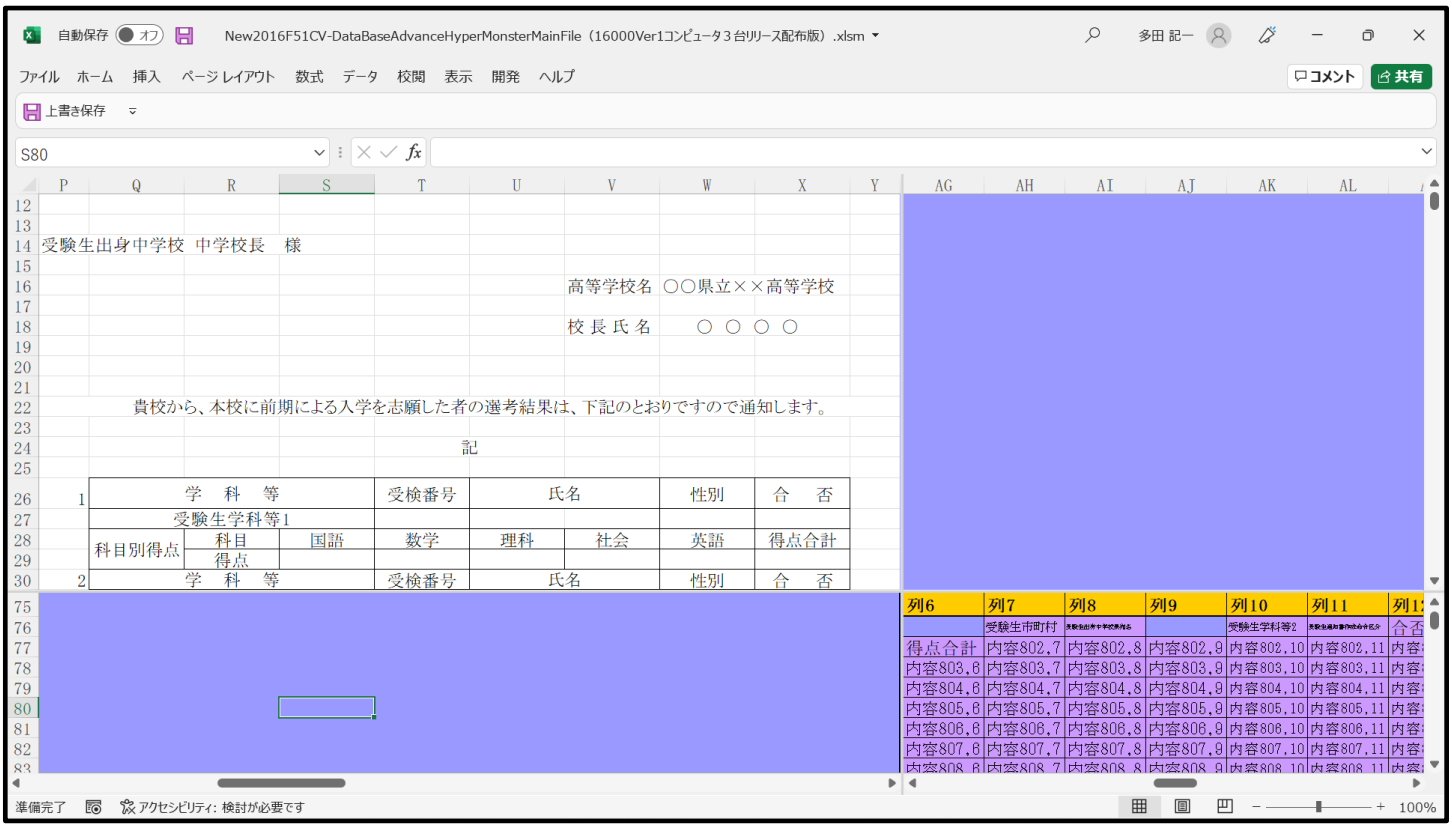
と表示されている下側の３個の空白のセルのうち最も左側のセルに貼り付けます。その結果次の[図１３０]の画面のようになります。

[図１３０]



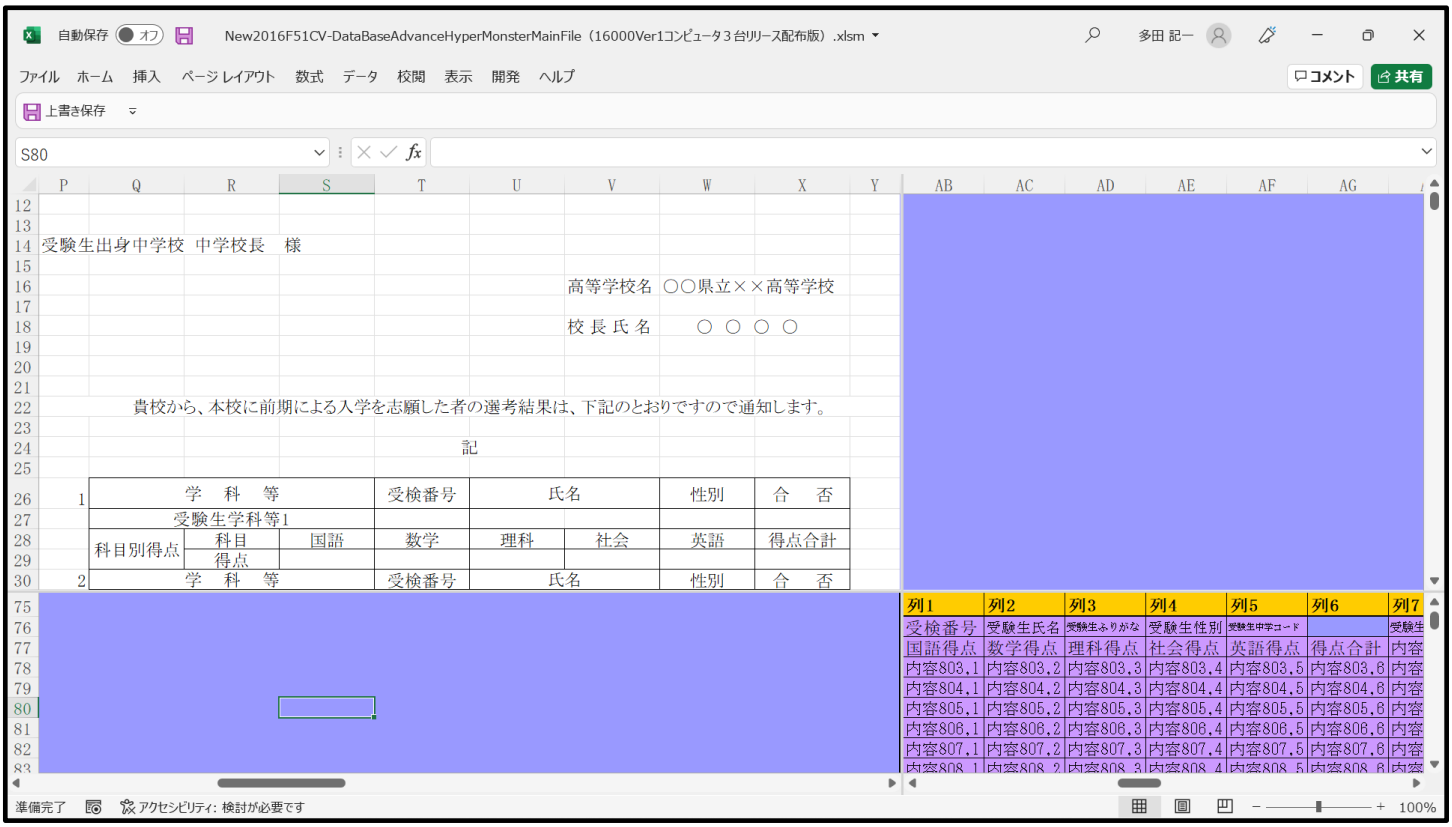
そして、上の[図１３０]の画面の受験生学科等1と表示されている３個のセルを結合し背景色を抜くと、次の上の[図１３１]の画面のようになります。

[図１３１]



次に上の[図１３１]の画面の右下の部分を左側にスライドして、次の[図１３２]の画面のようにします。

[図１３２]



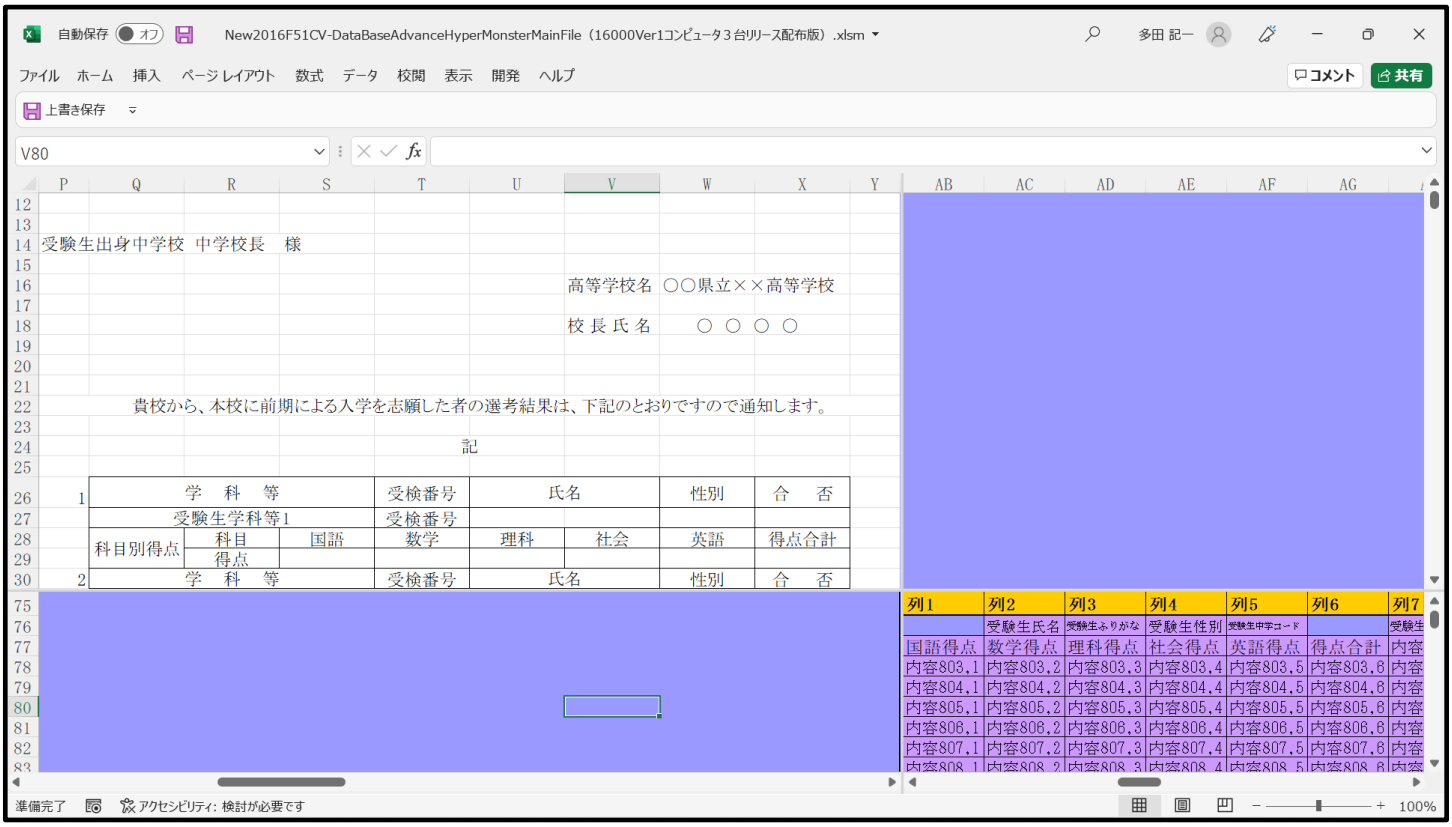
次に上の[図１３２]の画面の右の下側の受検番号と表示されているセルを切り取り、

左上の画面で

受検番号

と表示されている下側の空白のセルに貼り付けます。貼り付けたらセルの背景色抜くと次の[図１３３]の画面のようになります。

[図１３３]

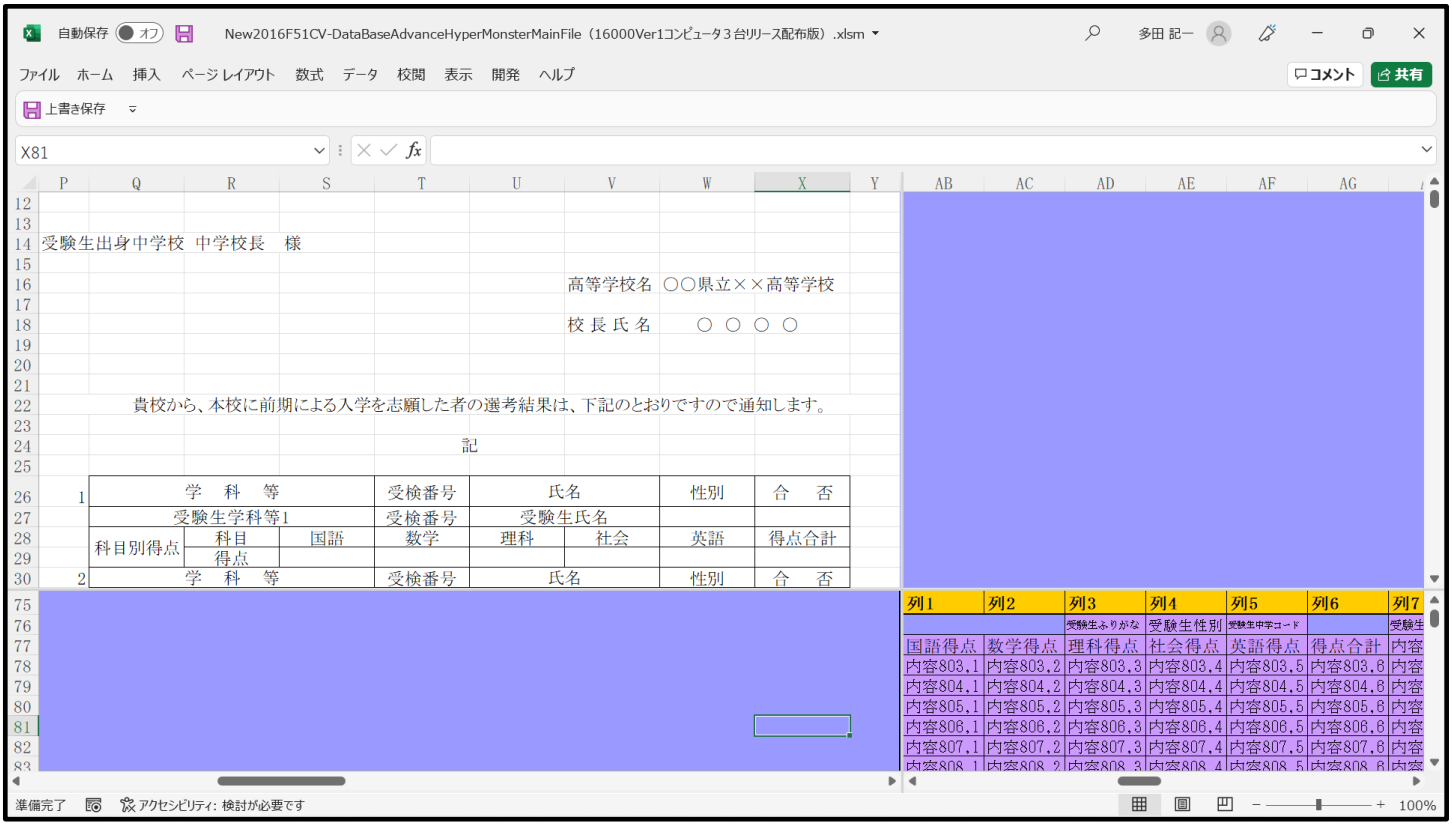


次に上の[図１３３]の画面の右下の画面で受験生氏名と表示されているセルを切り取り、左上の

氏名	

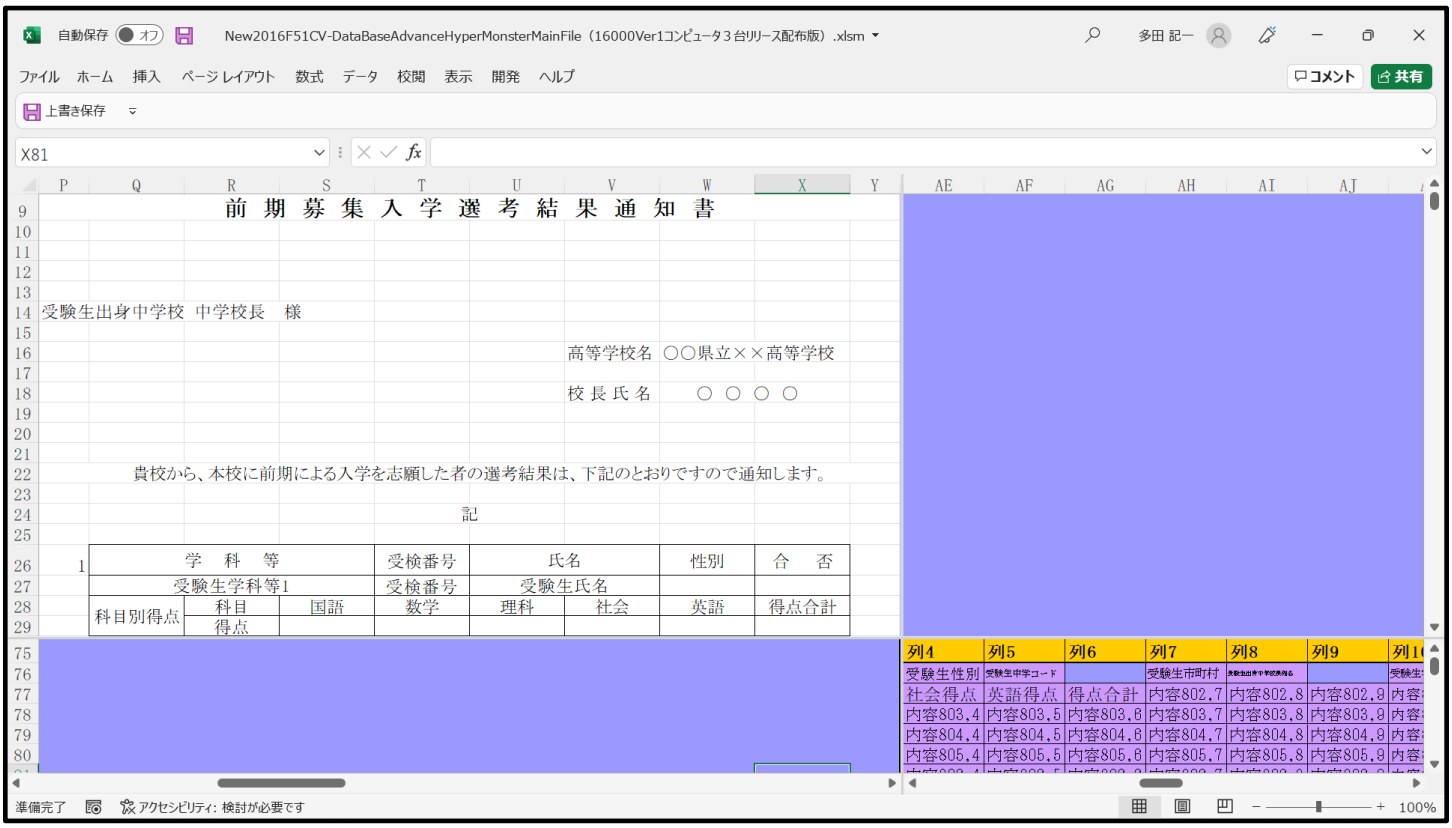
と表示されている下側の２個の空白のセルのうち左のセルに貼り付けます。貼り付けたらして側の２個のセルを結合し背景色を抜くと、次の[図１３４]の画面のようになります。

[図１３４]



次に上の[図１３４]の画面で右下の画面を右にスライドさせて、次の[図１３５]の画面のようにします。

[図１３５]

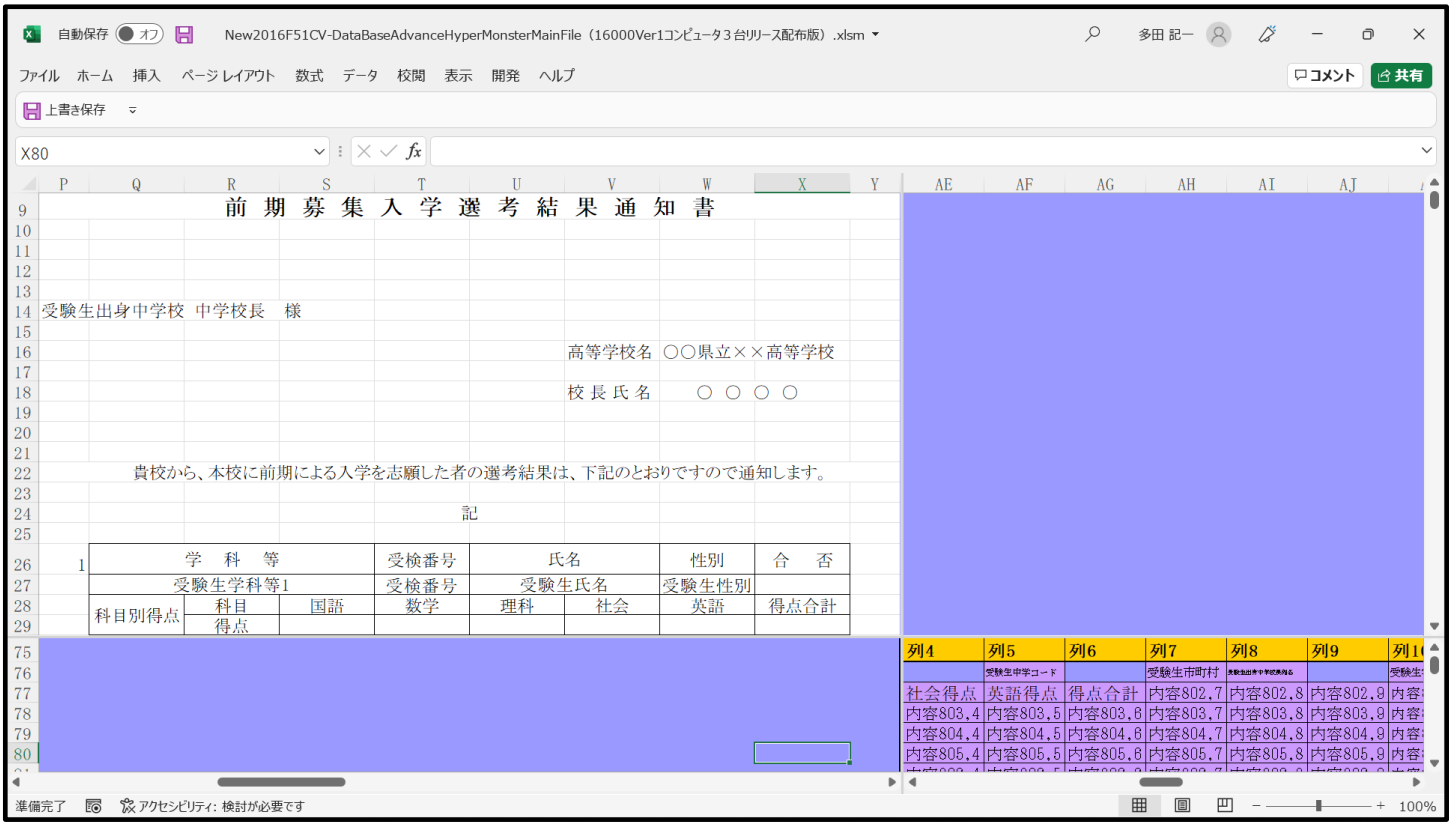


そして、上の[図１３５]の画面の右下の受験生性別と表示されているセルを切り取り、左上の

性別

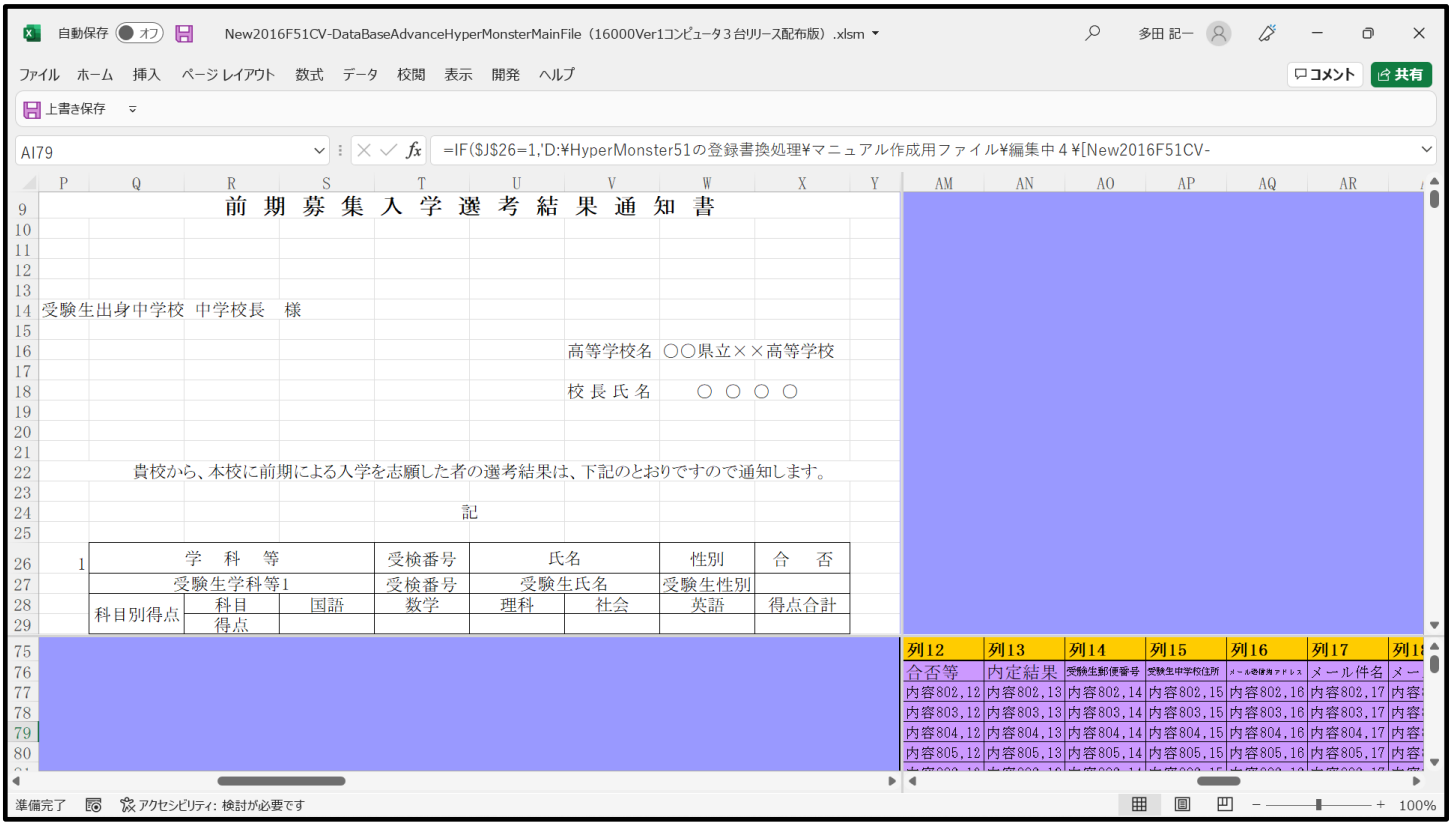
と表示されている部分の下側の空白のセルに貼り付けセルの背景色を抜くと、次の[図１３６]の画面のようになります。

[図１３６]



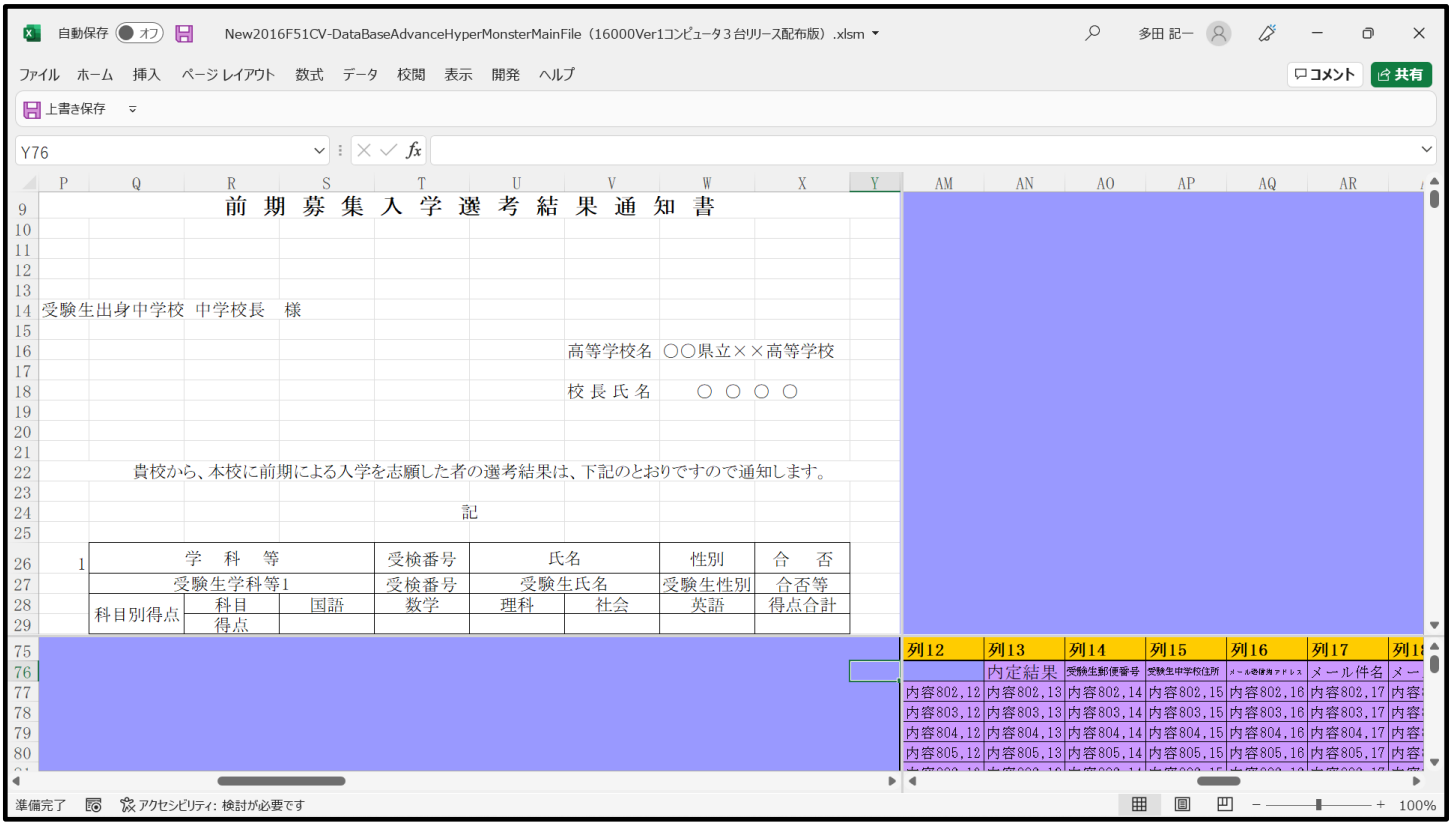
そして、上の[図１３６]の画面の右下を右にスライドさせて次の[図１３７]の画面のようにします。

[図１３７]



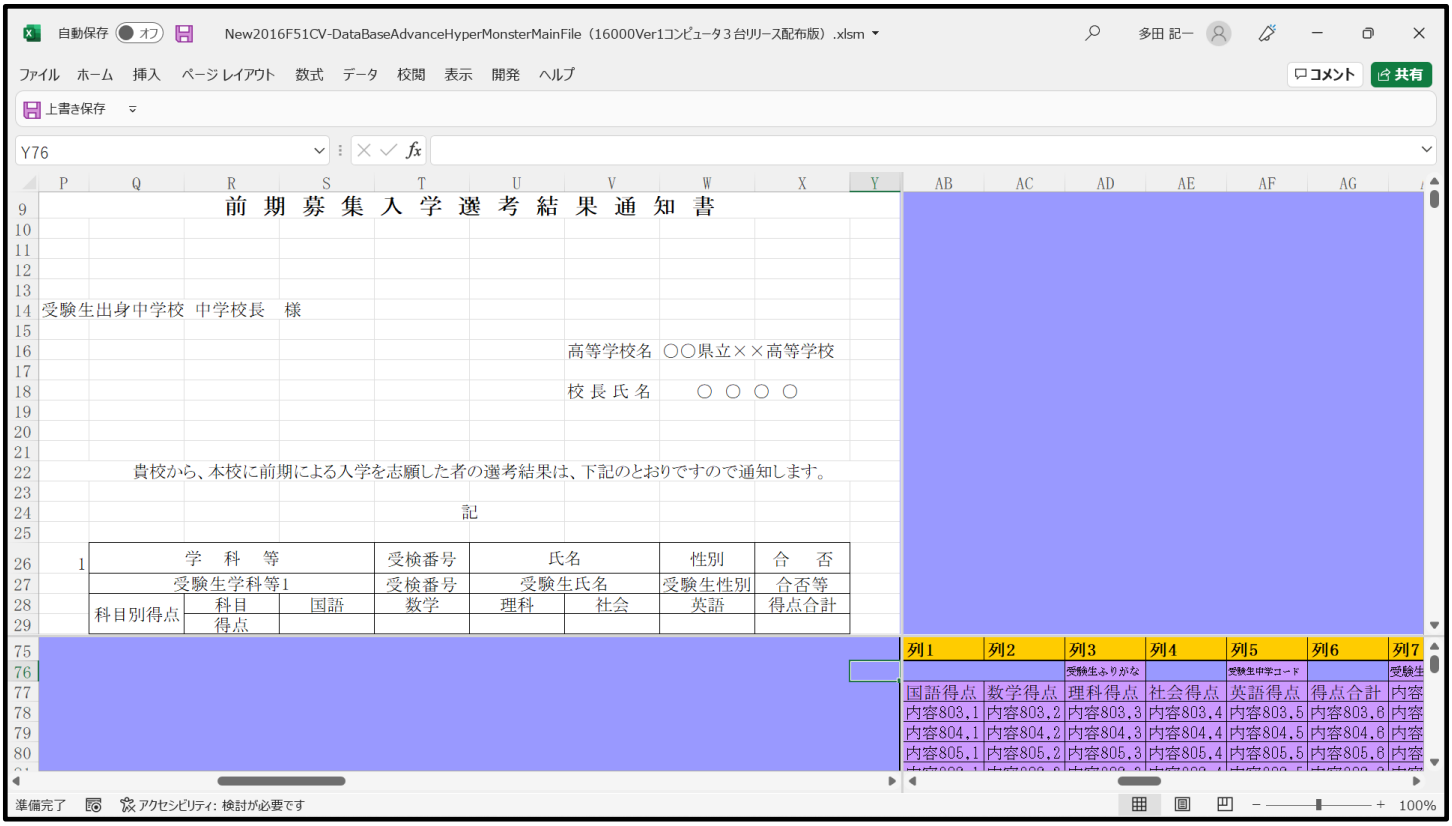
上の[図１３７]の画面の右下の合否等と表示されているセルを切り取り、左上の合　否と表示されている部分の下側の空白のセルに貼り付けます。貼り付けセルの背景色を抜くと次の[図１３８]のようになります。

[図１３８]



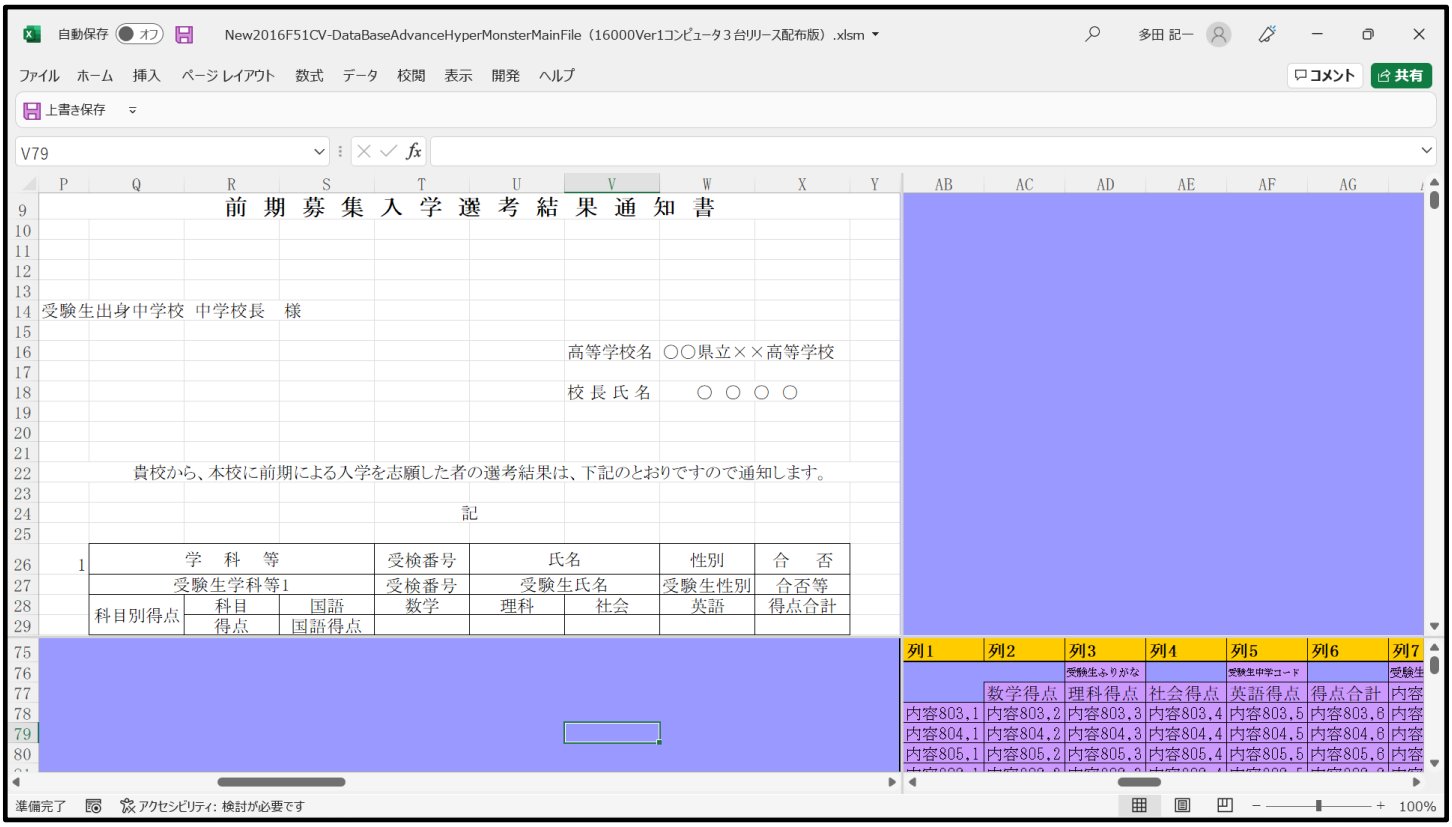
そして今度は得点の部分の編集です。上の[図１３８]の画面の右下の部分を左にスライドさせて次の[図１３９]の画面に設定します。

[図１３９]



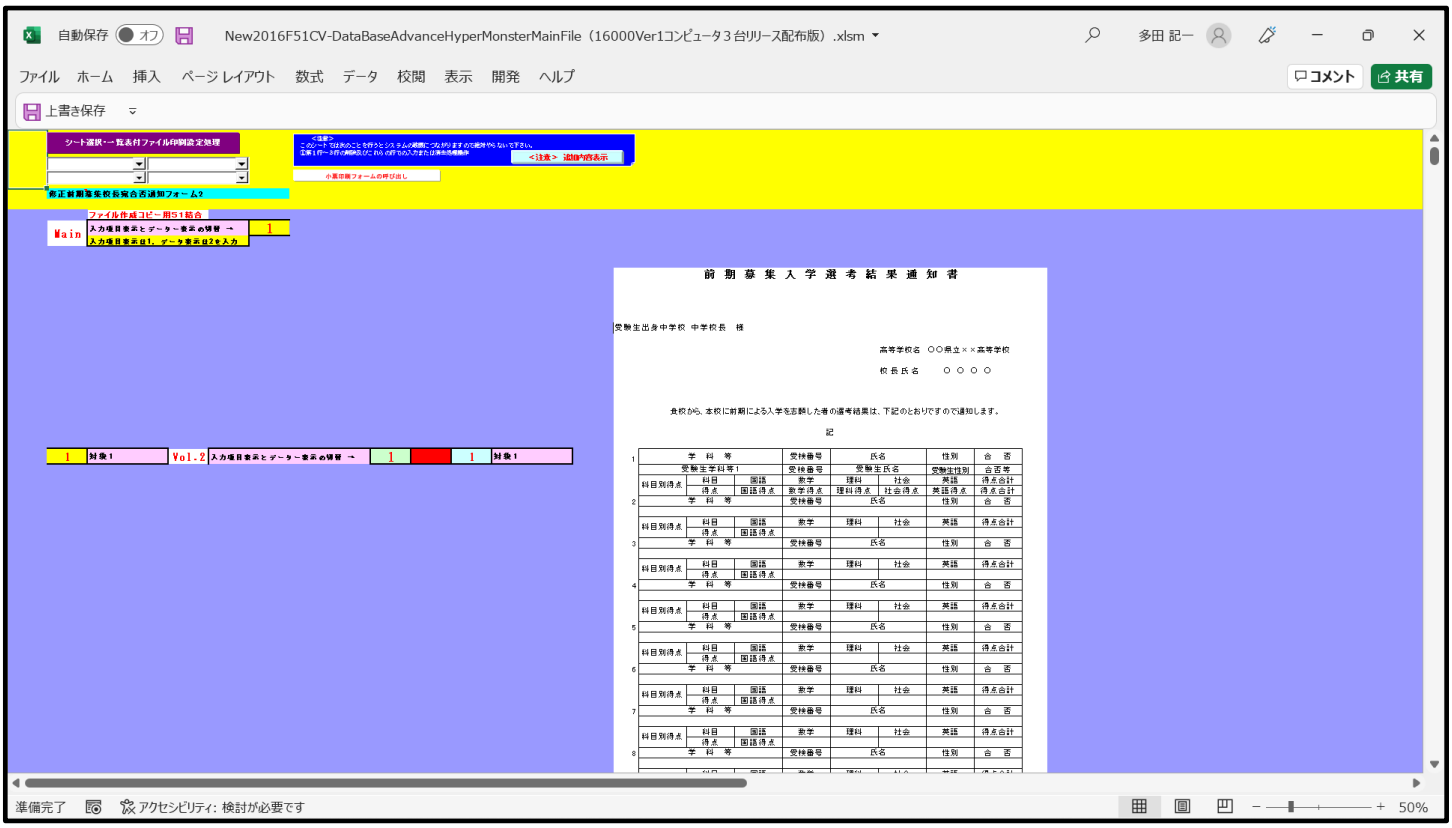
上の[図１３９]の画面の右下の国語得点のセルを切り取り、左上の国語と表示されている下側の空白のセルへ貼り付けて、貼り付けたらセルの背景色を抜くと次の[図１４０]の画面のようになります。

[図１４０]



上の「国語得点」のセルの編集と同様な手順で「数学得点」、「理科得点」、「社会得点」、「英語得点」、「得点合計」について編集行い、画面の分割を解除すると次の[図１４１]の画面のようになります。但し、表示倍率は 50%です。

[図１４１]



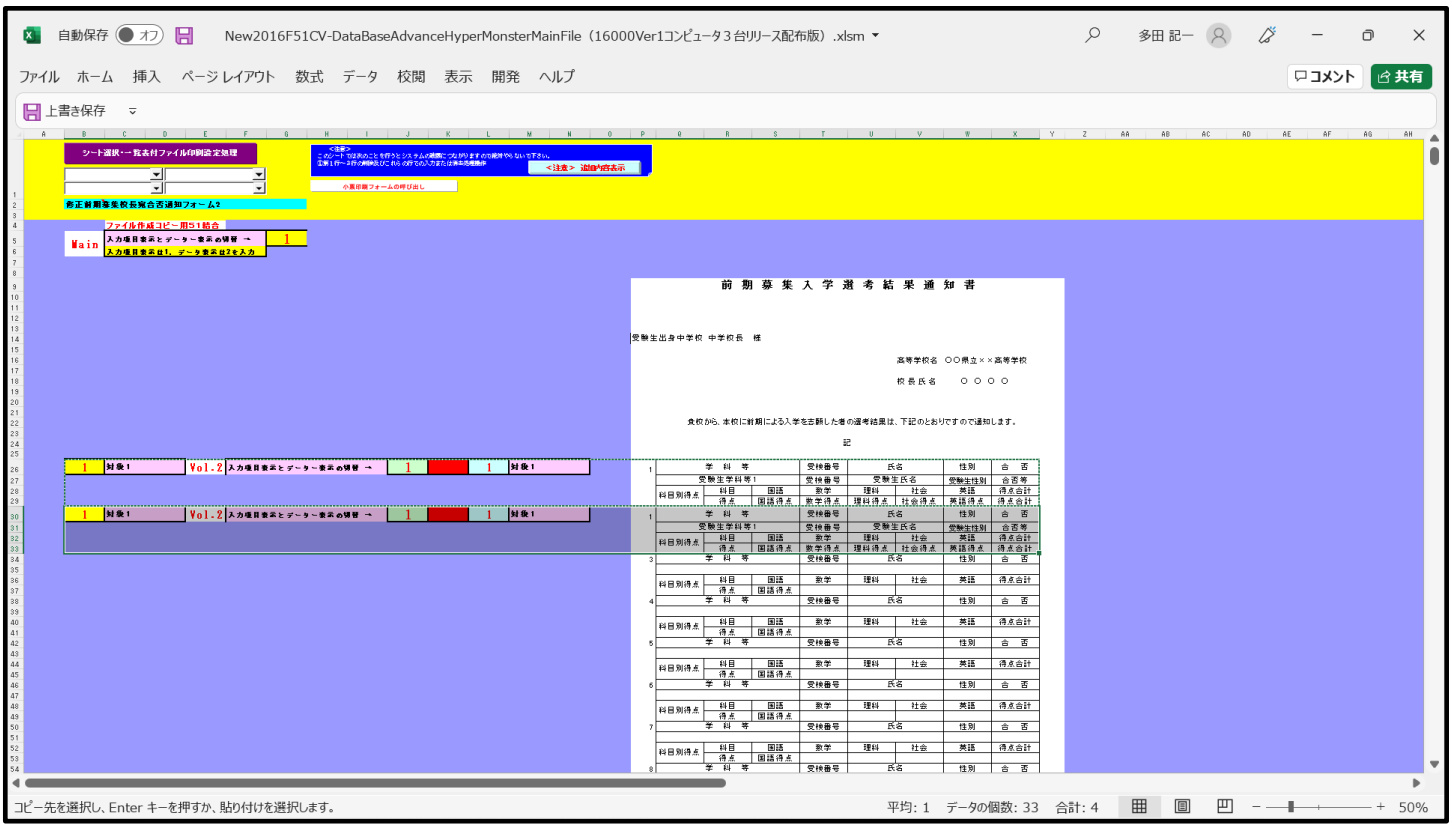
次に上の[図１４１]の画面の

の部分を選択して

の部分のすぐ下側に

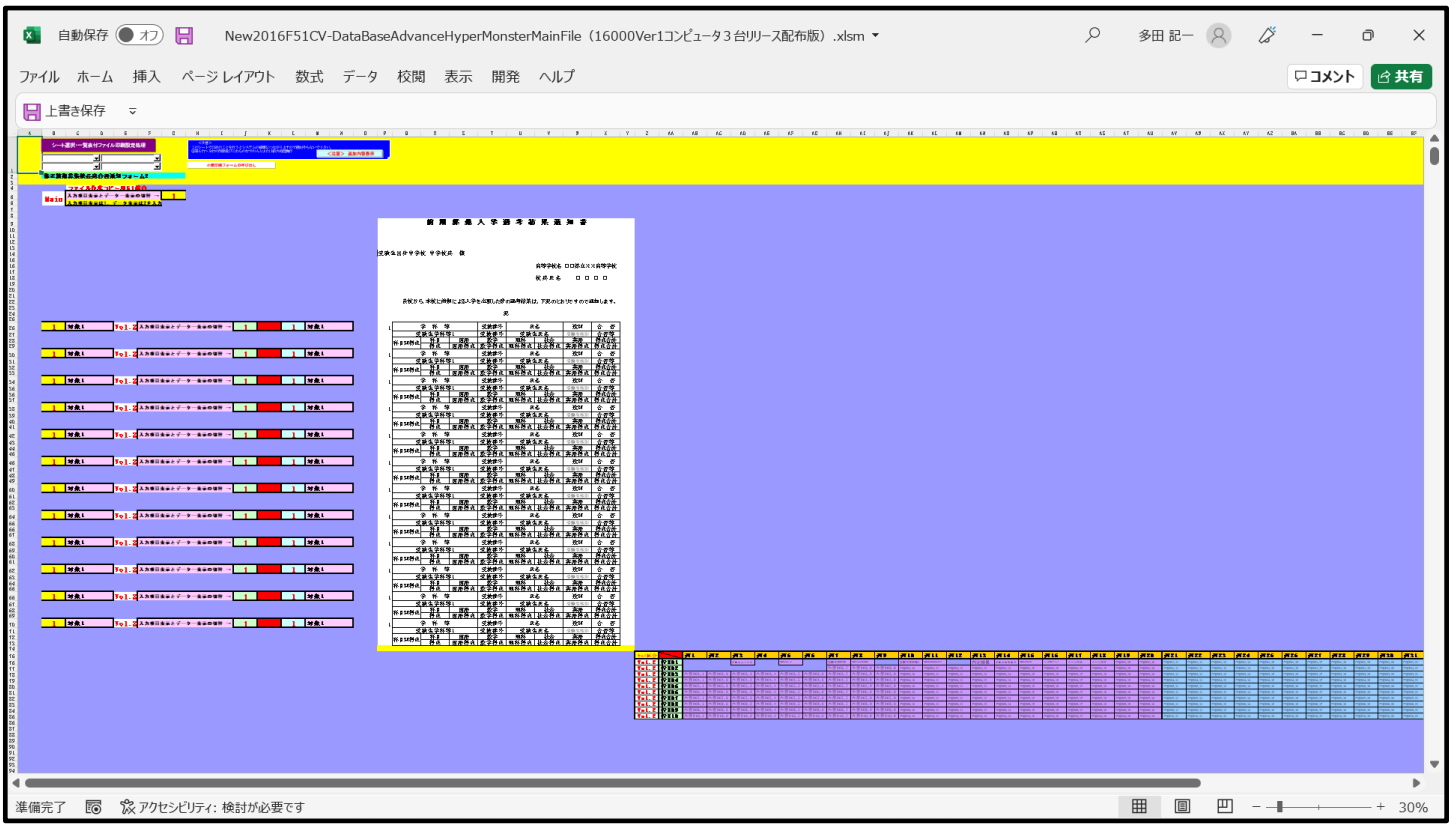
の左右の位置が同じ位置になるよう複写します。つまり、次の[図１４２]の画面のように複写します。

[図１４２]



以下このような複写操作を１０回繰り返し、次の[図１４３]の画面のようにします。但し表示倍率は30%です。

[図１４３]



次に上の[図１４３]の画面の

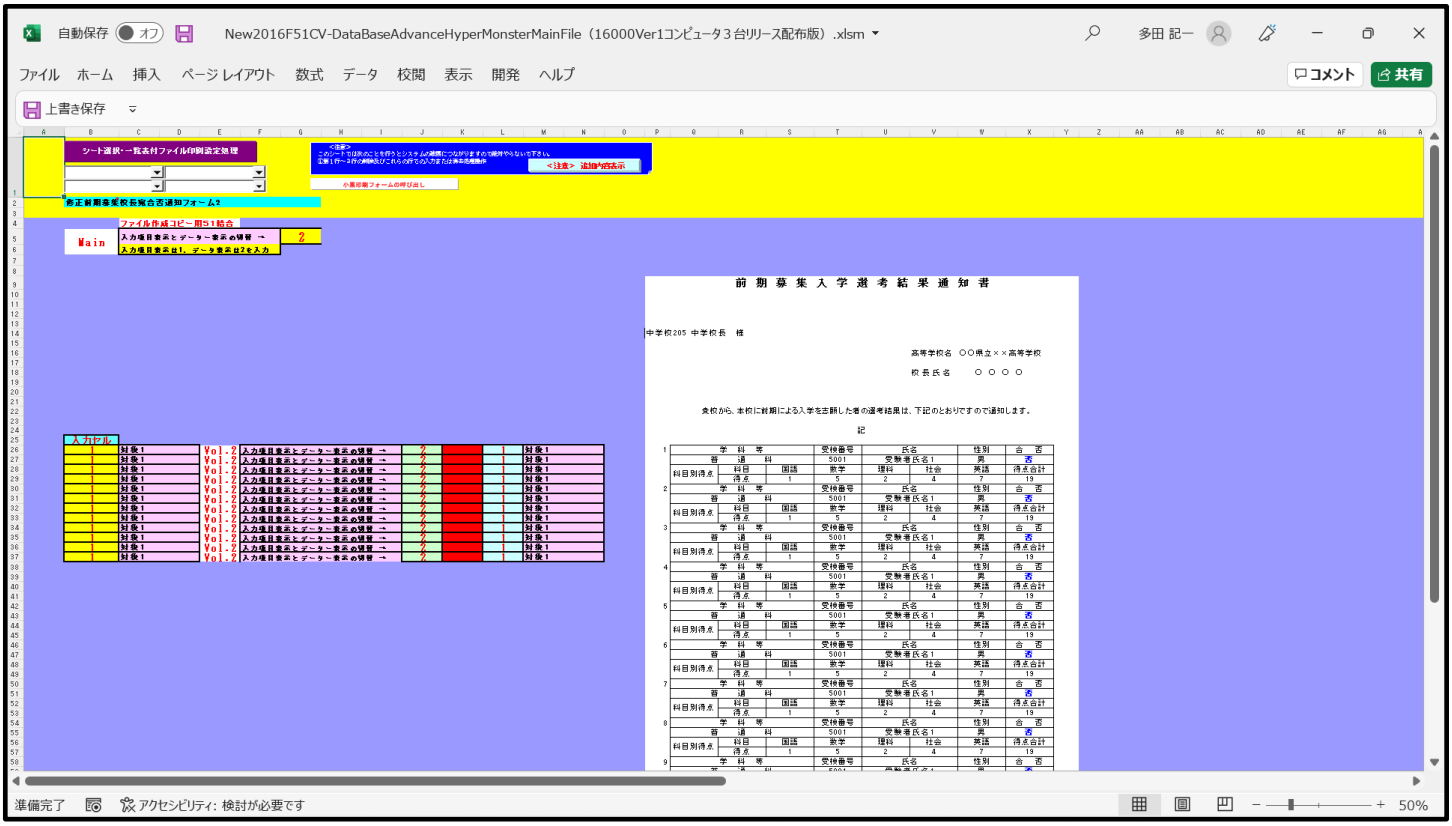
1	対象1	Vol.2	入力項目表示とデーター表示の切替 →	1		1	対象1
1	対象1	Vol.2	入力項目表示とデーター表示の切替 →	1		1	対象1
1	対象1	Vol.2	入力項目表示とデーター表示の切替 →	1		1	対象1
1	対象1	Vol.2	入力項目表示とデーター表示の切替 →	1		1	対象1
1	対象1	Vol.2	入力項目表示とデーター表示の切替 →	1		1	対象1
1	対象1	Vol.2	入力項目表示とデーター表示の切替 →	1		1	対象1
1	対象1	Vol.2	入力項目表示とデーター表示の切替 →	1		1	対象1
1	対象1	Vol.2	入力項目表示とデーター表示の切替 →	1		1	対象1
1	対象1	Vol.2	入力項目表示とデーター表示の切替 →	1		1	対象1
1	対象1	Vol.2	入力項目表示とデーター表示の切替 →	1		1	対象1
1	対象1	Vol.2	入力項目表示とデーター表示の切替 →	1		1	対象1

の部分において各

1	対象1	Vol.2	入力項目表示とデーター表示の切替 →	1		1	対象1

の部分の切り貼りを行ってかためて次の[図１４４]の画面のような状態にします。但し、色抜きの中の番号をつけ直すとともに、入力セルと表示されているセルは新たに作成したものです。

[図１４４]



上の[図１４４]の画面の

Main	入力項目表示とデータ一表示の切替 →	1
	入力項目表示は1，データ表示は2を入力	

の部分の最も右の 1 と表示されているセルの値を 2 に変更すると上の[図１４４]の画面の背景色なしの部分は次の[図１４５]の画面からその下の[図１４６]の画面に変化します。

[図１４５]

前 期 募 集 入 学 選 考 結 果 通 知 書

受験生出身中学校　中学校長　様

高等学校名　○○県立××高等学校

校 長 氏 名　　○ ○ ○ ○

貴校から、本校に前期による入学を志願した者の選考結果は、下記のとおりですので通知します。

記

1	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	受験生学科等1			受検番号	受験生氏名		受験生性別	合否等
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	国語得点	数学得点	理科得点	社会得点	英語得点	得点合計
2	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	受験生学科等1			受検番号	受験生氏名		受験生性別	合否等
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	国語得点	数学得点	理科得点	社会得点	英語得点	得点合計
3	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	受験生学科等1			受検番号	受験生氏名		受験生性別	合否等
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	国語得点	数学得点	理科得点	社会得点	英語得点	得点合計
4	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	受験生学科等1			受検番号	受験生氏名		受験生性別	合否等
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	国語得点	数学得点	理科得点	社会得点	英語得点	得点合計
5	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	受験生学科等1			受検番号	受験生氏名		受験生性別	合否等
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	国語得点	数学得点	理科得点	社会得点	英語得点	得点合計
6	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	受験生学科等1			受検番号	受験生氏名		受験生性別	合否等
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	国語得点	数学得点	理科得点	社会得点	英語得点	得点合計
7	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	受験生学科等1			受検番号	受験生氏名		受験生性別	合否等
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	国語得点	数学得点	理科得点	社会得点	英語得点	得点合計
8	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	受験生学科等1			受検番号	受験生氏名		受験生性別	合否等
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	国語得点	数学得点	理科得点	社会得点	英語得点	得点合計
9	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	受験生学科等1			受検番号	受験生氏名		受験生性別	合否等
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	国語得点	数学得点	理科得点	社会得点	英語得点	得点合計
10	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	受験生学科等1			受検番号	受験生氏名		受験生性別	合否等
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	国語得点	数学得点	理科得点	社会得点	英語得点	得点合計
11	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	受験生学科等1			受検番号	受験生氏名		受験生性別	合否等
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	国語得点	数学得点	理科得点	社会得点	英語得点	得点合計
12	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	受験生学科等1			受検番号	受験生氏名		受験生性別	合否等
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	国語得点	数学得点	理科得点	社会得点	英語得点	得点合計

[図１４６]

前 期 募 集 入 学 選 考 結 果 通 知 書

中学校205 中学校長　様

高等学校名 ○○県立××高等学校

校 長 氏 名　　○ ○ ○ ○

貴校から、本校に前期による入学を志願した者の選考結果は、下記のとおりですので通知します。

記

1	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5001	受験者氏名1		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	1	5	2	4	7	19
2	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5001	受験者氏名1		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	1	5	2	4	7	19
3	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5001	受験者氏名1		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	1	5	2	4	7	19
4	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5001	受験者氏名1		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	1	5	2	4	7	19
5	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5001	受験者氏名1		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	1	5	2	4	7	19
6	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5001	受験者氏名1		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	1	5	2	4	7	19
7	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5001	受験者氏名1		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	1	5	2	4	7	19
8	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5001	受験者氏名1		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	1	5	2	4	7	19
9	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5001	受験者氏名1		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	1	5	2	4	7	19
10	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5001	受験者氏名1		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	1	5	2	4	7	19
11	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5001	受験者氏名1		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	1	5	2	4	7	19
12	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5001	受験者氏名1		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	1	5	2	4	7	19

上の[図１４６]の画面の 1～12 の各データーはデーターファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2.xlsm
における入力シート「入力 AA1 高校入試通知書等作成データー」の表の上から１行目のデーターです。
さらに、次の[図１４７]の画面において

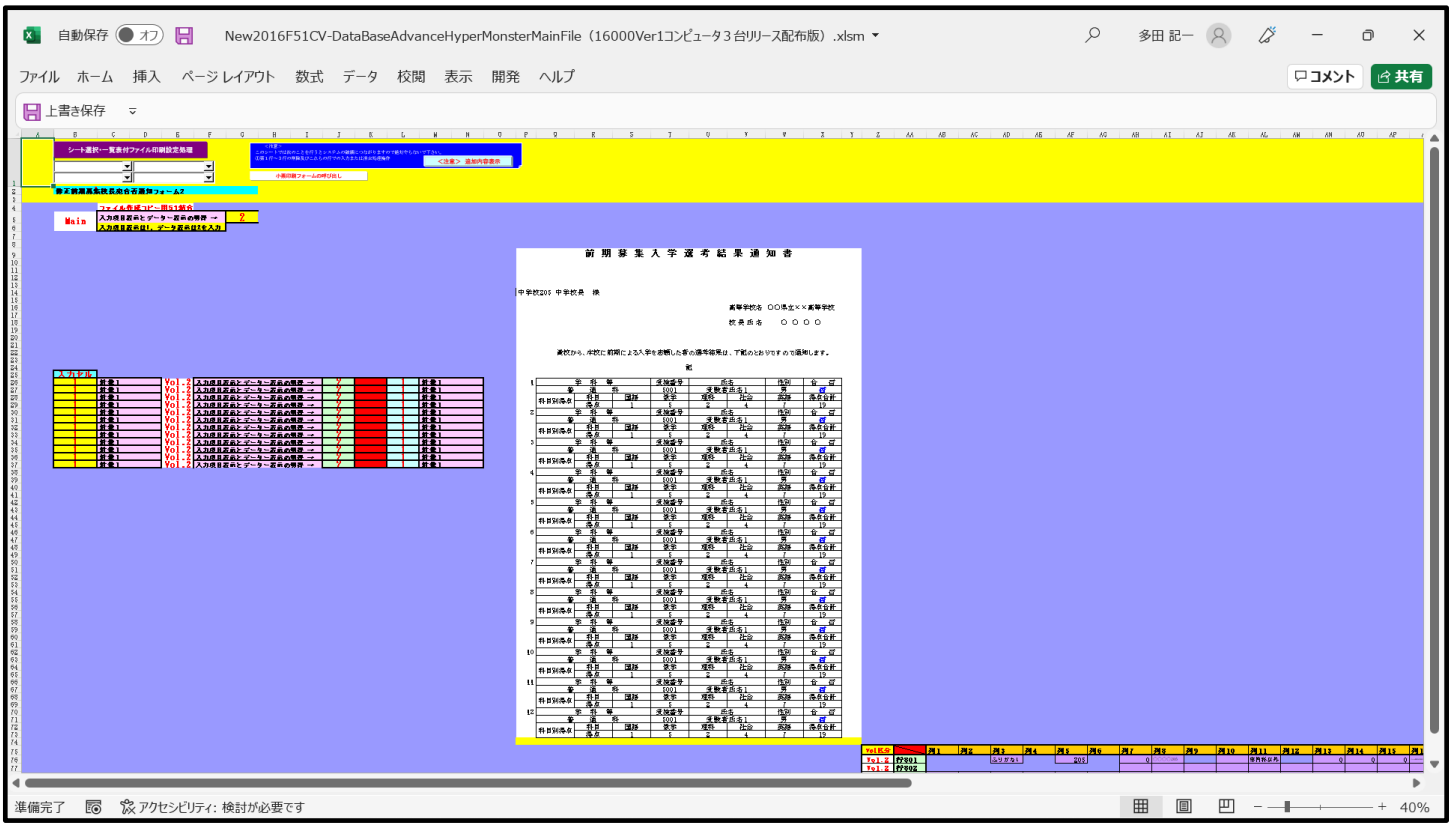
1	対象1	Vol.2	入力項目表示とデータ一表示の切替 →	2		1	対象1
1	対象1	Vol.2	入力項目表示とデータ一表示の切替 →	2		1	対象1
1	対象1	Vol.2	入力項目表示とデータ一表示の切替 →	2		1	対象1
1	対象1	Vol.2	入力項目表示とデータ一表示の切替 →	2		1	対象1
1	対象1	Vol.2	入力項目表示とデータ一表示の切替 →	2		1	対象1
1	対象1	Vol.2	入力項目表示とデータ一表示の切替 →	2		1	対象1
1	対象1	Vol.2	入力項目表示とデータ一表示の切替 →	2		1	対象1
1	対象1	Vol.2	入力項目表示とデータ一表示の切替 →	2		1	対象1
1	対象1	Vol.2	入力項目表示とデータ一表示の切替 →	2		1	対象1
1	対象1	Vol.2	入力項目表示とデータ一表示の切替 →	2		1	対象1
1	対象1	Vol.2	入力項目表示とデータ一表示の切替 →	2		1	対象1
1	対象1	Vol.2	入力項目表示とデータ一表示の切替 →	2		1	対象1

最も左側の 1 と表示されている１２個のセルの値を書き換えて

1	対象1	Vol.2	入力項目表示とデータ一表示の切替 →	2		1	対象1
2	対象2	Vol.2	入力項目表示とデータ一表示の切替 →	2		2	対象2
3	対象3	Vol.2	入力項目表示とデータ一表示の切替 →	2		3	対象3
4	対象4	Vol.2	入力項目表示とデータ一表示の切替 →	2		4	対象4
5	対象5	Vol.2	入力項目表示とデータ一表示の切替 →	2		5	対象5
6	対象6	Vol.2	入力項目表示とデータ一表示の切替 →	2		6	対象6
7	対象7	Vol.2	入力項目表示とデータ一表示の切替 →	2		7	対象7
8	対象8	Vol.2	入力項目表示とデータ一表示の切替 →	2		8	対象8
9	対象9	Vol.2	入力項目表示とデータ一表示の切替 →	2		9	対象9
10	対象10	Vol.2	入力項目表示とデータ一表示の切替 →	2		10	対象10
11	対象11	Vol.2	入力項目表示とデータ一表示の切替 →	2		11	対象11
12	対象12	Vol.2	入力項目表示とデータ一表示の切替 →	2		12	対象12

と入力すると[図１４７]の画面の背景色なしの部分は[図１４８]の画面からその下の[図１４９]の画面に変化します。
とくに、[図１４９]の画面の 1～12 の各データーはデーターファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2.xlsm
における入力シート「入力 AA1 高校入試通知書等作成データー」の表の上から 1～12 行のデーターです。

[図１４７]



[図１４８]

前 期 募 集 入 学 選 考 結 果 通 知 書

中学校205 中学校長　様

高等学校名 ○○県立××高等学校

校 長 氏 名　　○ ○ ○ ○

貴校から、本校に前期による入学を志願した者の選考結果は、下記のとおりですので通知します。

記

1	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5001	受験者氏名1		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	1	5	2	4	7	19
2	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5001	受験者氏名1		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	1	5	2	4	7	19
3	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5001	受験者氏名1		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	1	5	2	4	7	19
4	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5001	受験者氏名1		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	1	5	2	4	7	19
5	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5001	受験者氏名1		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	1	5	2	4	7	19
6	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5001	受験者氏名1		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	1	5	2	4	7	19
7	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5001	受験者氏名1		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	1	5	2	4	7	19
8	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5001	受験者氏名1		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	1	5	2	4	7	19
9	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5001	受験者氏名1		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	1	5	2	4	7	19
10	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5001	受験者氏名1		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	1	5	2	4	7	19
11	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5001	受験者氏名1		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	1	5	2	4	7	19
12	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5001	受験者氏名1		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	1	5	2	4	7	19

[図１４９]

前 期 募 集 入 学 選 考 結 果 通 知 書

中学校205 中学校長　様

高等学校名 ○○県立××高等学校

校 長 氏 名　　○ ○ ○ ○

貴校から、本校に前期による入学を志願した者の選考結果は、下記のとおりですので通知します。

記

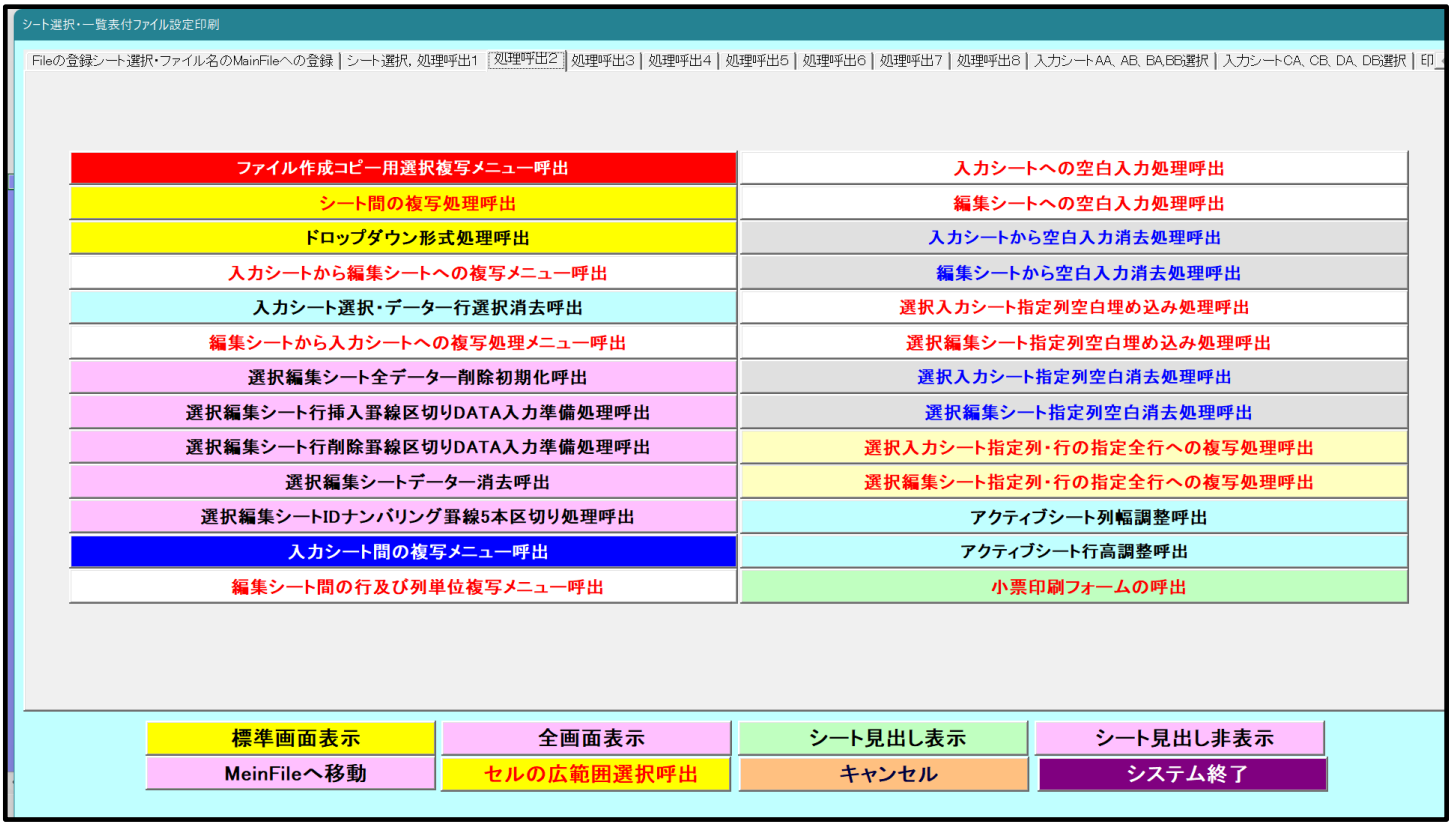
1	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5001	受験者氏名1		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	1	5	2	4	7	19
2	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5002	受験者氏名2		男	合
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	2	6	3	5	8	24
3	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5003	受験者氏名3		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	3	7	4	6	9	29
4	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5004	受験者氏名4		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	4	8	5	7	10	34
5	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5005	受験者氏名5		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	5	9	6	8	11	39
6	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5006	受験者氏名6		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	6	10	7	9	12	44
7	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5007	受験者氏名7		男	合
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	7	11	8	10	13	49
8	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5008	受験者氏名8		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	8	12	9	11	14	54
9	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5009	受験者氏名9		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	9	13	10	12	15	59
10	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5010	受験者氏名10		男	合
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	10	14	11	13	16	64
11	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5011	受験者氏名11		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	11	15	12	14	17	69
12	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5012	受験者氏名12		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	12	16	13	15	18	74

これで
「入力シート」における表の複数の行を、「入力シート」の 1 行当たりを「印刷フォームシート」上で複数行に配置して「入力シート」における表の複数の行を同時に表示しながら印刷、印刷範囲を PDF の添付ファイルとしてメール送信する場合の「印刷フォーム」シート等の印刷部分の様式設計の説明は終了いたします。

（5）シート「一覧表付ファイル作成入力設定」の入力と印刷・メール送信について：

先ず最初に、「一学期中間考査印刷フォーム 1」、「修正前期募集校長宛合否通知フォーム 2」を印刷、印刷範囲を PDF の添付ファイルとしてメール送信する場合、
シート「一覧表付ファイル作成入力設定」の入力をするには２つのシート
「一学期中間考査印刷フォーム１ソートデーター」
「修正前期募集校長宛合否通知フォーム 2 ソートデーター」
のデーターを作成する必要があります。それには、それぞれファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2.xlsm
を用いて作成いたします。
シート「一学期中間考査印刷フォーム１ソートデーター」のデーターを作成するには、ファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
を開き、ユーザーフォーム「シート選択・一覧表付ファイル印刷設定処理」のタブ 処理呼出2 を選択して次の[図１５０]の画面にします。

[図１５０]

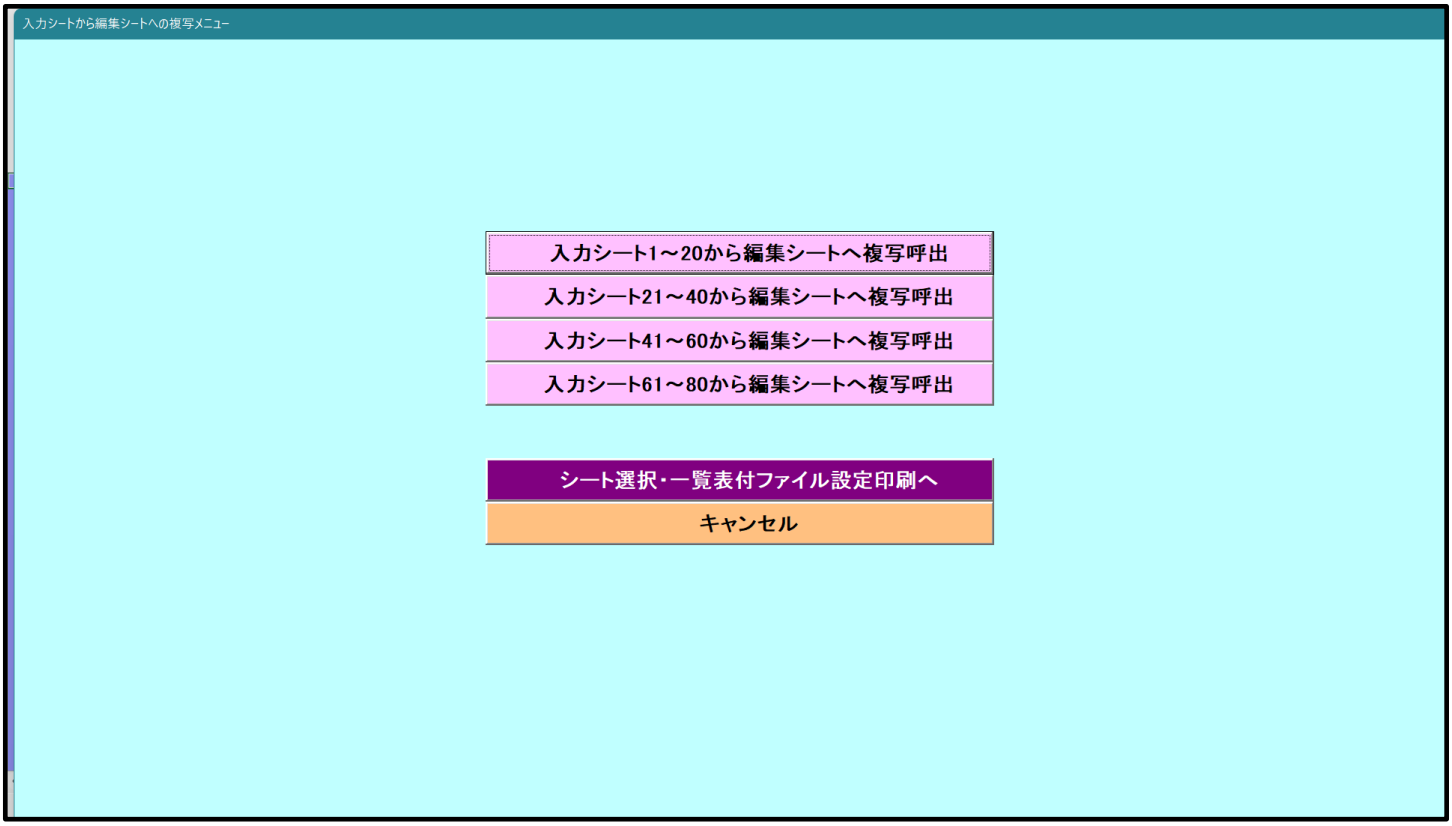


上の[図１５０]の画面のコマンド

入力シートから編集シートへの複写メニュー呼出

をクリックすると次の[図１５１]の画面になります。

[図１５１]

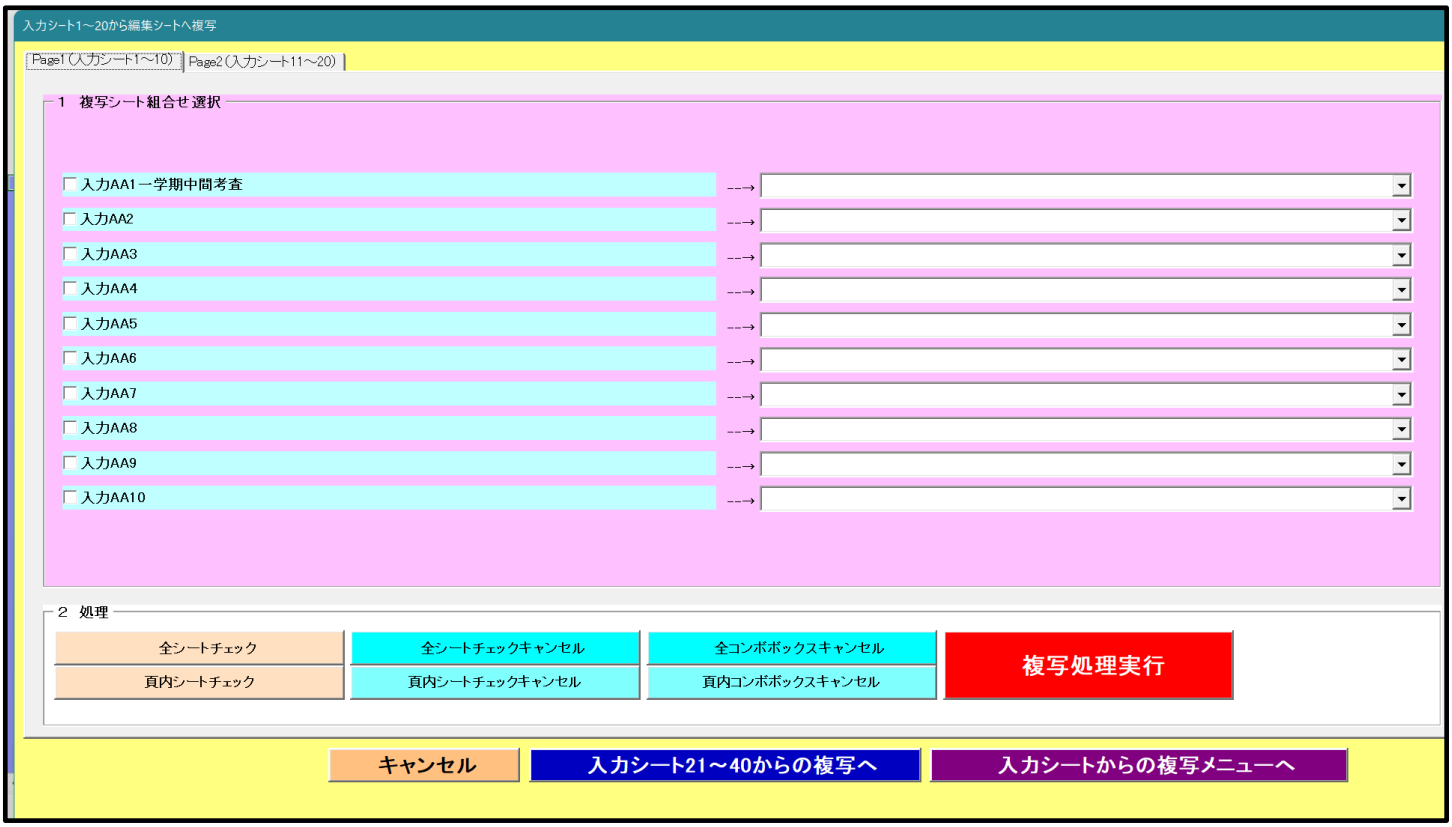


そして上の[図１５１]の画面のコマンドボタン

入力シート1～20から編集シートへ複写呼出

をクリックすると更に次の[図１５２]の画面になります。

[図１５２]



上の[図１５２]の画面のチェックボックス

☐ 入力AA1一学期中間考査

にチェックを入れて

☑ 入力AA1一学期中間考査

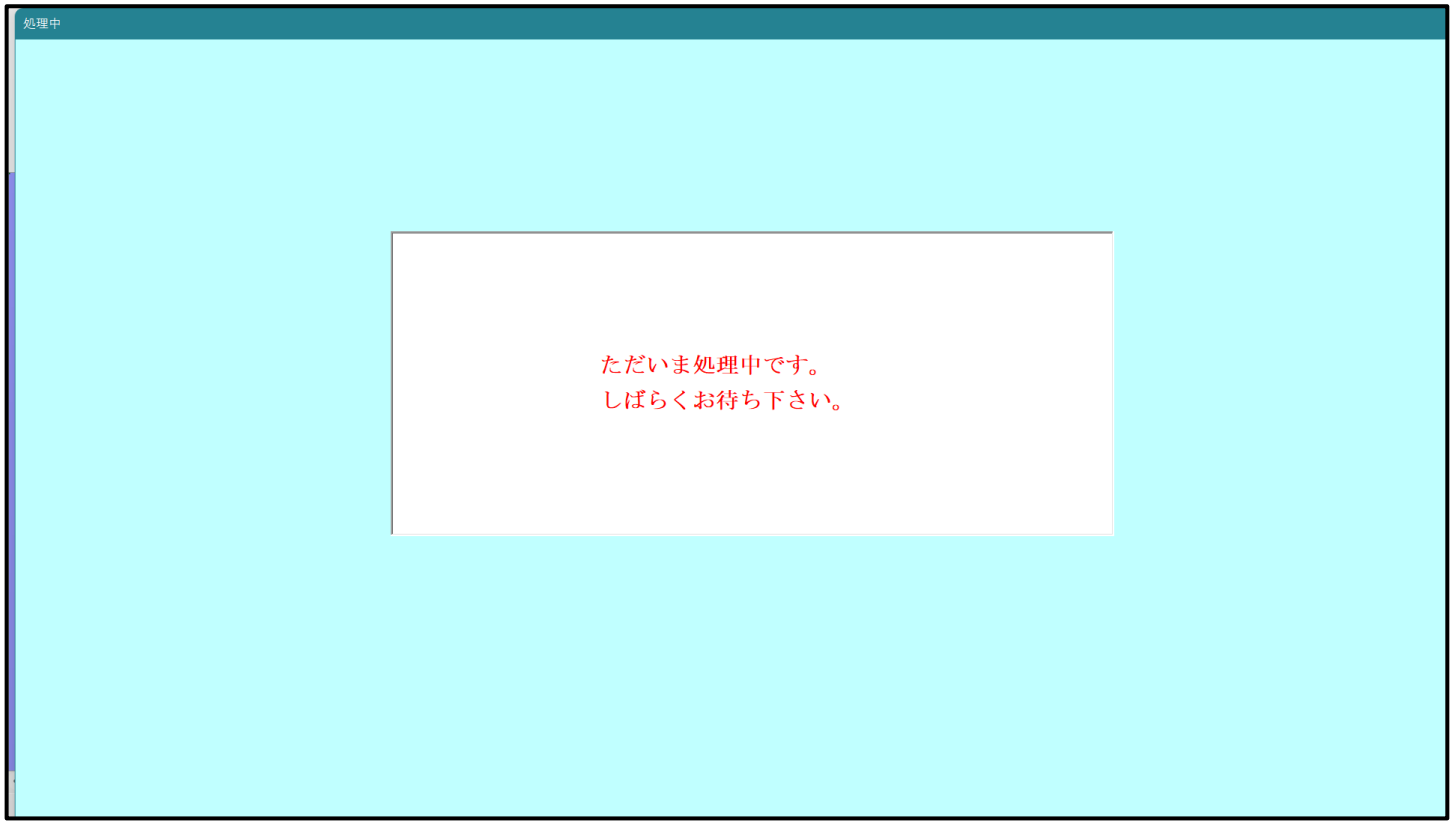
とし、この右側のコンボボックスで

印刷フォーム1ソートデーター

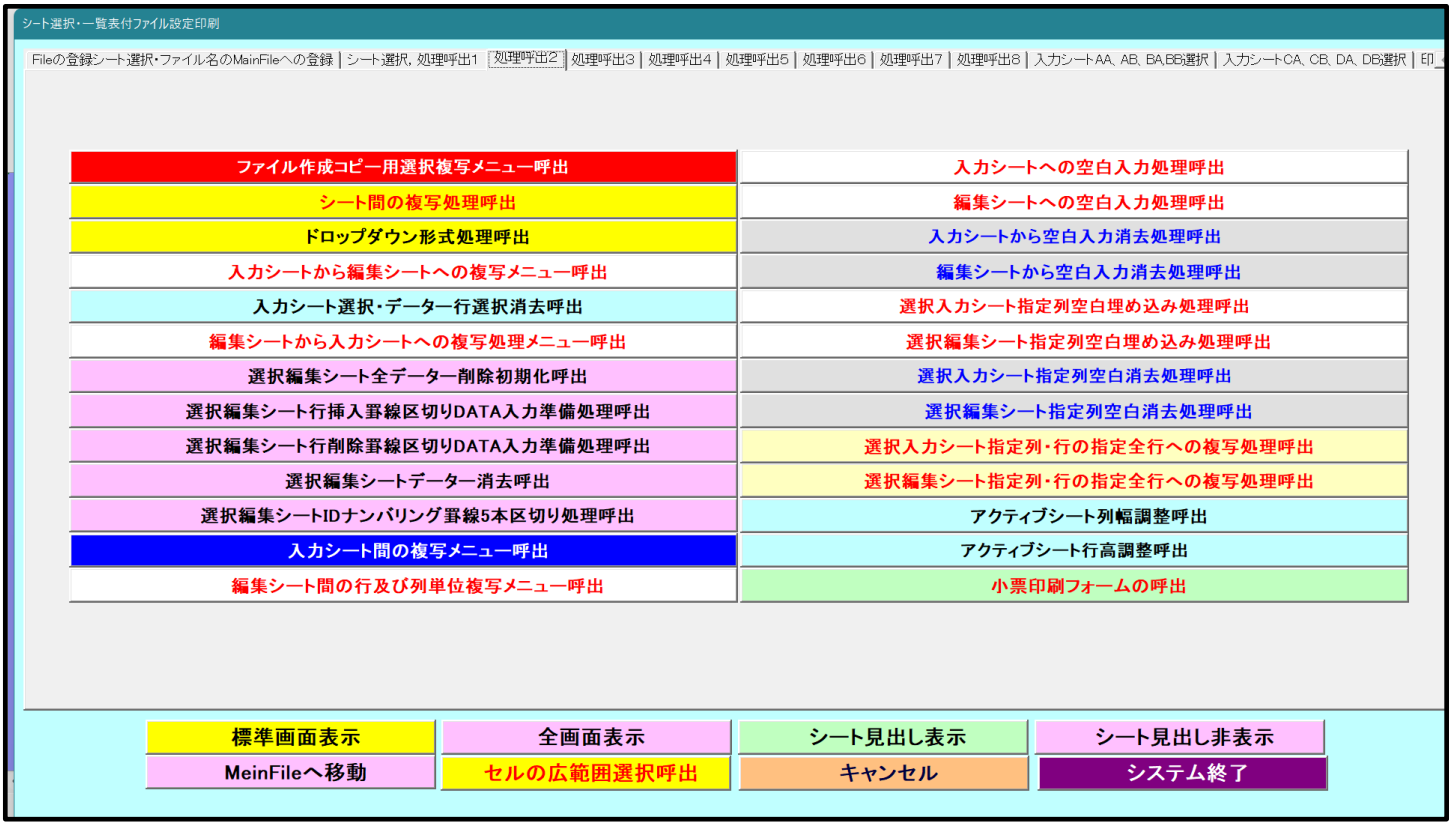
とシートを選択し、コマンドボタン 複写処理実行 をクリックすると

入力シート「入力 AA1 一学期中間考査」をシート「印刷フォーム１データー」複写する処理が開始されます。処理が開始されると途中次の[図１５３]の画面が表示され、更に[図１５４]の画面が表示されたら複写処理は完了となります。

[図１５３]

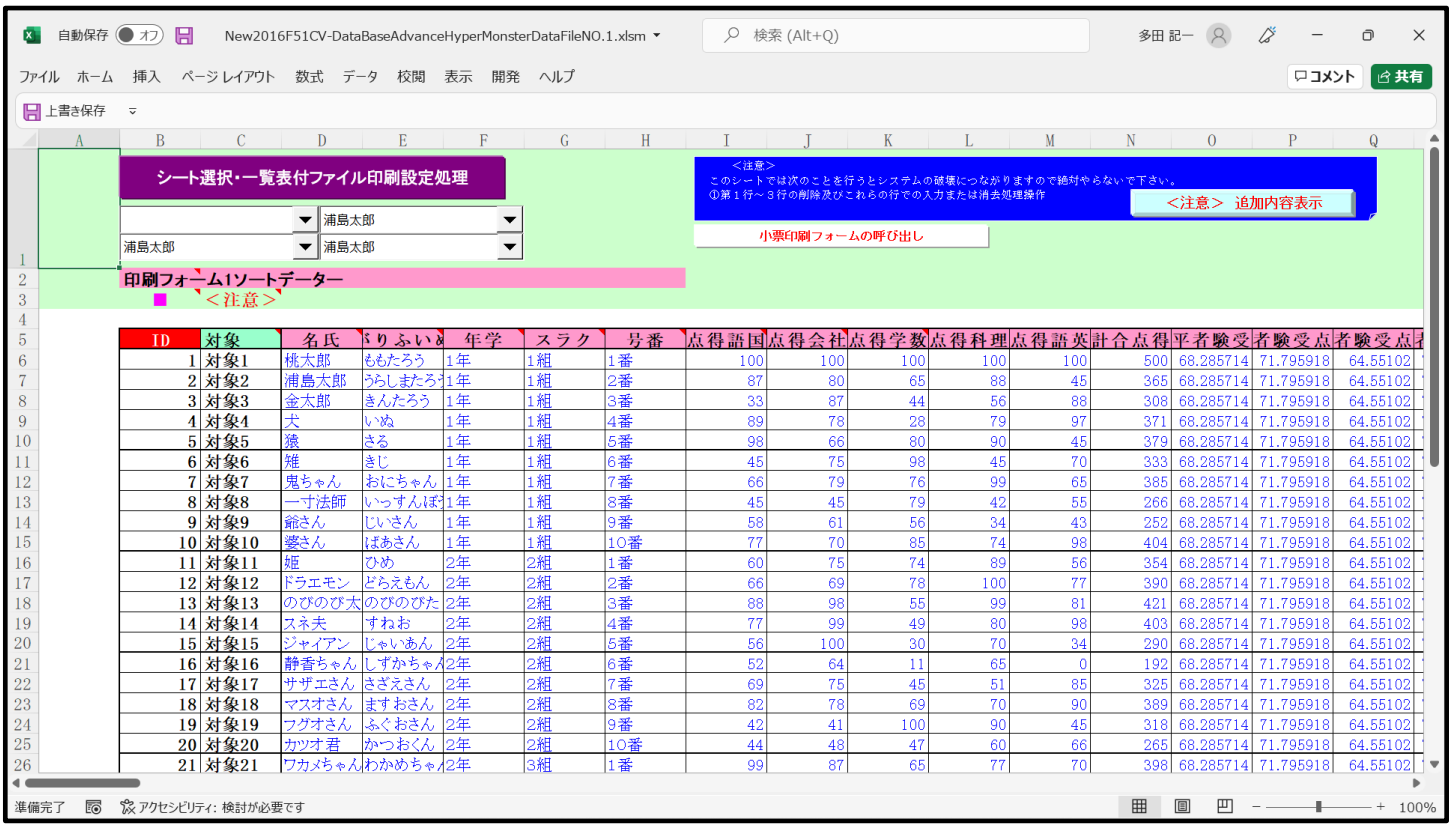


[図１５４]



シート「印刷フォーム１データー」を選択すると、次の[図１５５]の画面のようになっています。

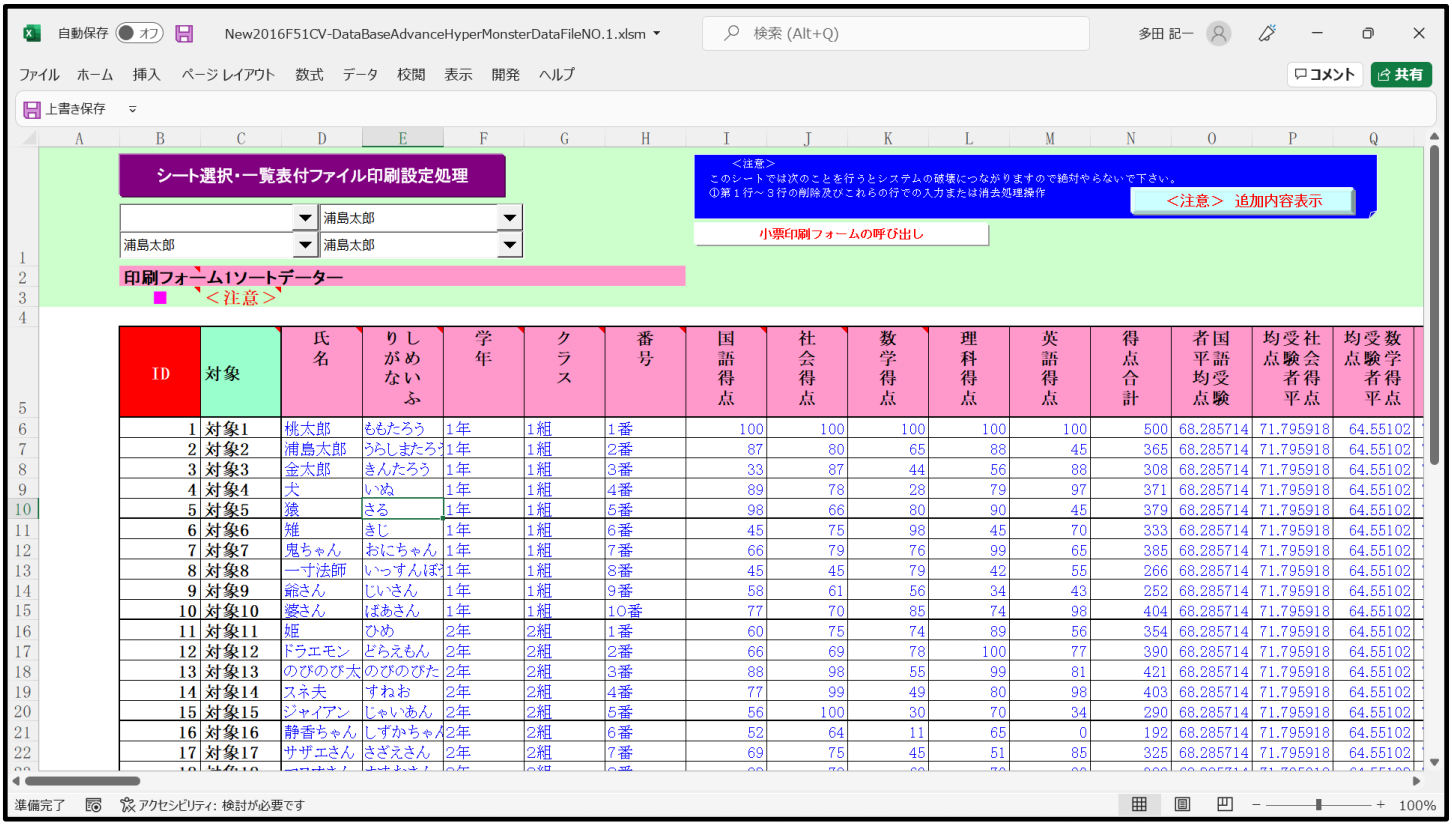
[図１５５]



ID	対象	名氏	ふりふいと	年学	スラク	号番	点得語国	点得会社	点得学数	点得科理	点得語英	計合点得	平者験受	者験受点	者験受点
1	対象1	桃太郎	ももたろう	1年	1組	1番	100	100	100	100	100	500	68.285714	71.795918	64.55102
2	対象2	浦島太郎	うらしまたろう	1年	1組	2番	87	80	65	88	45	365	68.285714	71.795918	64.55102
3	対象3	金太郎	きんたろう	1年	1組	3番	33	87	44	56	88	308	68.285714	71.795918	64.55102
4	対象4	犬	いぬ	1年	1組	4番	89	78	28	79	97	371	68.285714	71.795918	64.55102
5	対象5	猿	さる	1年	1組	5番	98	66	80	90	45	379	68.285714	71.795918	64.55102
6	対象6	雉	きじ	1年	1組	6番	45	75	98	45	70	333	68.285714	71.795918	64.55102
7	対象7	鬼ちゃん	おにちゃん	1年	1組	7番	66	79	76	99	65	385	68.285714	71.795918	64.55102
8	対象8	一寸法師	いっすんぼう	1年	1組	8番	45	45	79	42	55	266	68.285714	71.795918	64.55102
9	対象9	爺さん	じいさん	1年	1組	9番	58	61	56	34	43	252	68.285714	71.795918	64.55102
10	対象10	婆さん	ばあさん	1年	1組	10番	77	70	85	74	98	404	68.285714	71.795918	64.55102
11	対象11	姫	ひめ	2年	2組	1番	60	75	74	89	56	354	68.285714	71.795918	64.55102
12	対象12	ドラエモン	どらえもん	2年	2組	2番	66	69	78	100	77	390	68.285714	71.795918	64.55102
13	対象13	のびのび太	のびのびた	2年	2組	3番	88	98	55	99	81	421	68.285714	71.795918	64.55102
14	対象14	スネ夫	すねお	2年	2組	4番	77	99	49	80	98	403	68.285714	71.795918	64.55102
15	対象15	ジャイアン	じゃいあん	2年	2組	5番	56	100	30	70	34	290	68.285714	71.795918	64.55102
16	対象16	静香ちゃん	しずかちゃん	2年	2組	6番	52	64	11	65	0	192	68.285714	71.795918	64.55102
17	対象17	サザエさん	さざえさん	2年	2組	7番	69	75	45	51	85	325	68.285714	71.795918	64.55102
18	対象18	マスオさん	ますおさん	2年	2組	8番	82	78	69	70	90	389	68.285714	71.795918	64.55102
19	対象19	フグオさん	ふぐおさん	2年	2組	9番	42	41	100	90	45	318	68.285714	71.795918	64.55102
20	対象20	カツオ君	かつおくん	2年	2組	10番	44	48	47	60	66	265	68.285714	71.795918	64.55102
21	対象21	ワカメちゃん	わかめちゃん	2年	3組	1番	99	87	65	77	70	398	68.285714	71.795918	64.55102

見やすくするため、シートの保護を解除し、上の[図１５５]の画面の項目を表している第５行の行高を広げると、次の[図１５６]の画面のようになります。

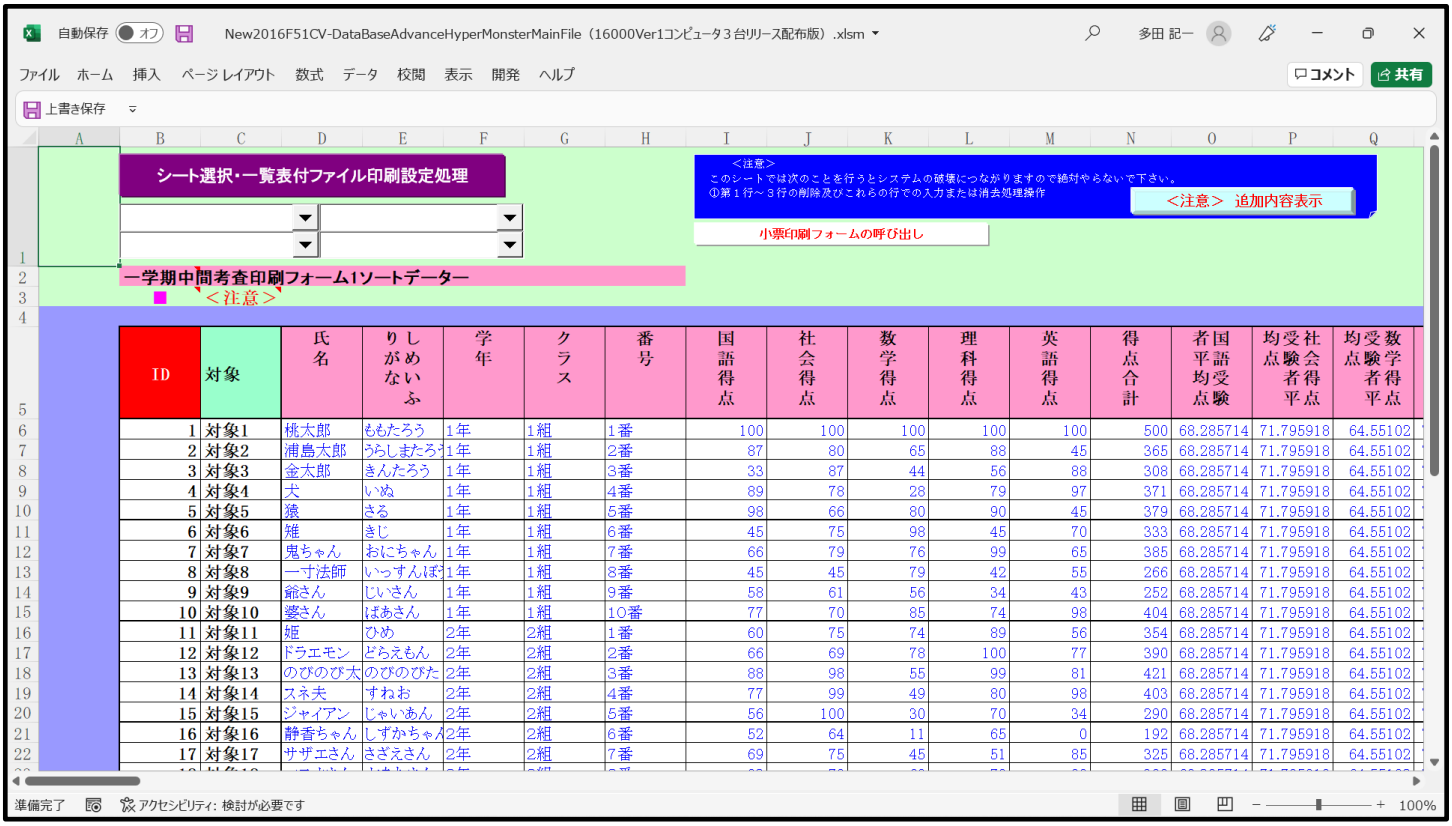
[図１５６]



ID	対象	氏名	しがないふ	学年	クラス	番号	国語得点	社会得点	数学得点	理科得点	英語得点	得点合計	国語平均点	社会受験者平均点	数学受験者平均点
1	対象1	桃太郎	ももたろう	1年	1組	1番	100	100	100	100	100	500	68.285714	71.795918	64.55102
2	対象2	浦島太郎	うらしまたろう	1年	1組	2番	87	80	65	88	45	365	68.285714	71.795918	64.55102
3	対象3	金太郎	きんたろう	1年	1組	3番	33	87	44	56	88	308	68.285714	71.795918	64.55102
4	対象4	犬	いぬ	1年	1組	4番	89	78	28	79	97	371	68.285714	71.795918	64.55102
5	対象5	猿	さる	1年	1組	5番	98	66	80	90	45	379	68.285714	71.795918	64.55102
6	対象6	雉	きじ	1年	1組	6番	45	75	98	45	70	333	68.285714	71.795918	64.55102
7	対象7	鬼ちゃん	おにちゃん	1年	1組	7番	66	79	76	99	65	385	68.285714	71.795918	64.55102
8	対象8	一寸法師	いっすんぼう	1年	1組	8番	45	45	79	42	55	266	68.285714	71.795918	64.55102
9	対象9	爺さん	じいさん	1年	1組	9番	58	61	56	34	43	252	68.285714	71.795918	64.55102
10	対象10	婆さん	ばあさん	1年	1組	10番	77	70	85	74	98	404	68.285714	71.795918	64.55102
11	対象11	姫	ひめ	2年	2組	1番	60	75	74	89	56	354	68.285714	71.795918	64.55102
12	対象12	ドラエモン	どらえもん	2年	2組	2番	66	69	78	100	77	390	68.285714	71.795918	64.55102
13	対象13	のびのび太	のびのびた	2年	2組	3番	88	98	55	99	81	421	68.285714	71.795918	64.55102
14	対象14	スネ夫	すねお	2年	2組	4番	77	99	49	80	98	403	68.285714	71.795918	64.55102
15	対象15	ジャイアン	じゃいあん	2年	2組	5番	56	100	30	70	34	290	68.285714	71.795918	64.55102
16	対象16	静香ちゃん	しずかちゃん	2年	2組	6番	52	64	11	65	0	192	68.285714	71.795918	64.55102
17	対象17	サザエさん	さざえさん	2年	2組	7番	69	75	45	51	85	325	68.285714	71.795918	64.55102

さて、次に上の[図１５６]の画面のデーターファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
のシート「印刷フォーム１ソートデーター」の内容をファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（
16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
のシート「一学期中間考査印刷フォーム１ソートデーター」に複写します。それには手動でおこないます。
まず、データーファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
のシート「印刷フォーム１ソートデーター」の表部分 B5～GU55 の範囲をを選択してコピーし、
をファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（
16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
のシート「一学期中間考査印刷フォーム１ソートデーター」の B5 の位置に貼り付けます。その結果、
ファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile
（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
のシート「一学期中間考査印刷フォーム１ソートデーター」の状況は次の[図１５７]の画面のように
なっています。ただし、第５行の行高を広げています。

[図１５７]

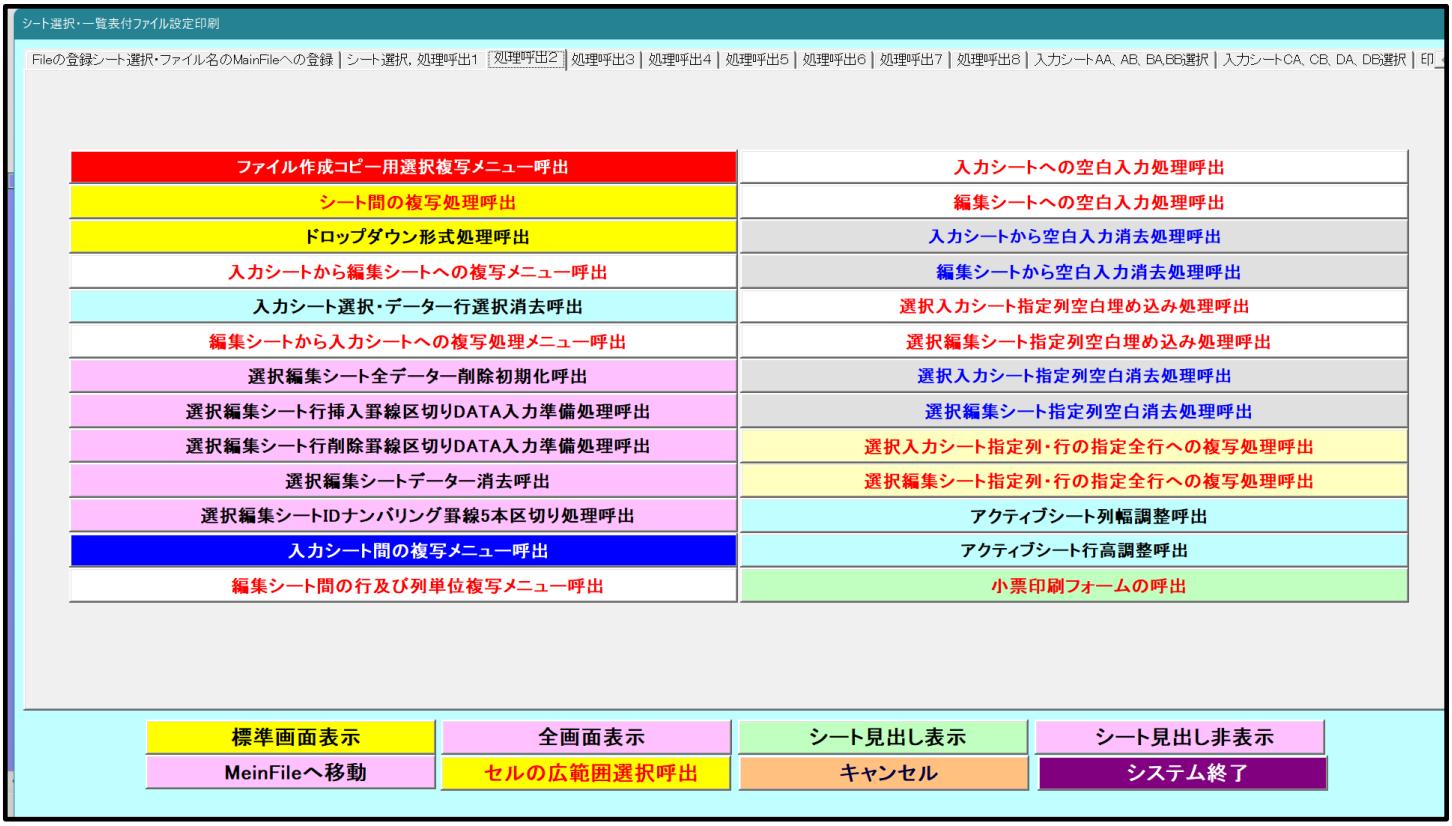


ID	対象	氏名	しがめないふ	学年	クラス	番号	国語得点	社会得点	数学得点	理科得点	英語得点	得点合計	国語平均受験者	社会得点平均	数学受験者平均
1	対象1	桃太郎	ももたろう	1年	1組	1番	100	100	100	100	100	500	68.285714	71.795918	64.55102
2	対象2	浦島太郎	うらしまたろう	1年	1組	2番	87	80	65	88	45	365	68.285714	71.795918	64.55102
3	対象3	金太郎	きんたろう	1年	1組	3番	33	87	44	56	88	308	68.285714	71.795918	64.55102
4	対象4	犬	いぬ	1年	1組	4番	89	78	28	79	97	371	68.285714	71.795918	64.55102
5	対象5	猿	さる	1年	1組	5番	98	66	80	90	45	379	68.285714	71.795918	64.55102
6	対象6	雉	きじ	1年	1組	6番	45	75	98	45	70	333	68.285714	71.795918	64.55102
7	対象7	鬼ちゃん	おにちゃん	1年	1組	7番	66	79	76	99	65	385	68.285714	71.795918	64.55102
8	対象8	一寸法師	いっすんぼう	1年	1組	8番	45	45	79	42	55	266	68.285714	71.795918	64.55102
9	対象9	爺さん	じいさん	1年	1組	9番	58	61	56	34	43	252	68.285714	71.795918	64.55102
10	対象10	婆さん	ばあさん	1年	1組	10番	77	70	85	74	98	404	68.285714	71.795918	64.55102
11	対象11	姫	ひめ	2年	2組	1番	60	75	74	89	56	354	68.285714	71.795918	64.55102
12	対象12	ドラエモン	どらえもん	2年	2組	2番	66	69	78	100	77	390	68.285714	71.795918	64.55102
13	対象13	のびのび太	ののびのびた	2年	2組	3番	88	98	55	99	81	421	68.285714	71.795918	64.55102
14	対象14	スネ夫	すねお	2年	2組	4番	77	99	49	80	98	403	68.285714	71.795918	64.55102
15	対象15	ジャイアン	じゃいあん	2年	2組	5番	56	100	30	70	34	290	68.285714	71.795918	64.55102
16	対象16	静香ちゃん	しずかちゃん	2年	2組	6番	52	64	11	65	0	192	68.285714	71.795918	64.55102
17	対象17	サザエさん	さざえさん	2年	2組	7番	69	75	45	51	85	325	68.285714	71.795918	64.55102

ここまで作業が完了したらデーターファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
のシート「印刷フォーム１ソートデーター」のデーターは削除しましょう。
次にシート「修正前期募集校長宛合否通知フォーム２ソートデーター」のデーターを作成するには、ファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2.xlsm

を開き、ユーザーフォーム「シート選択・一覧表付ファイル印刷設定処理」のタブ 処理呼出2 を選択すると次の[図１５８]の画面になります。

[図１５８]

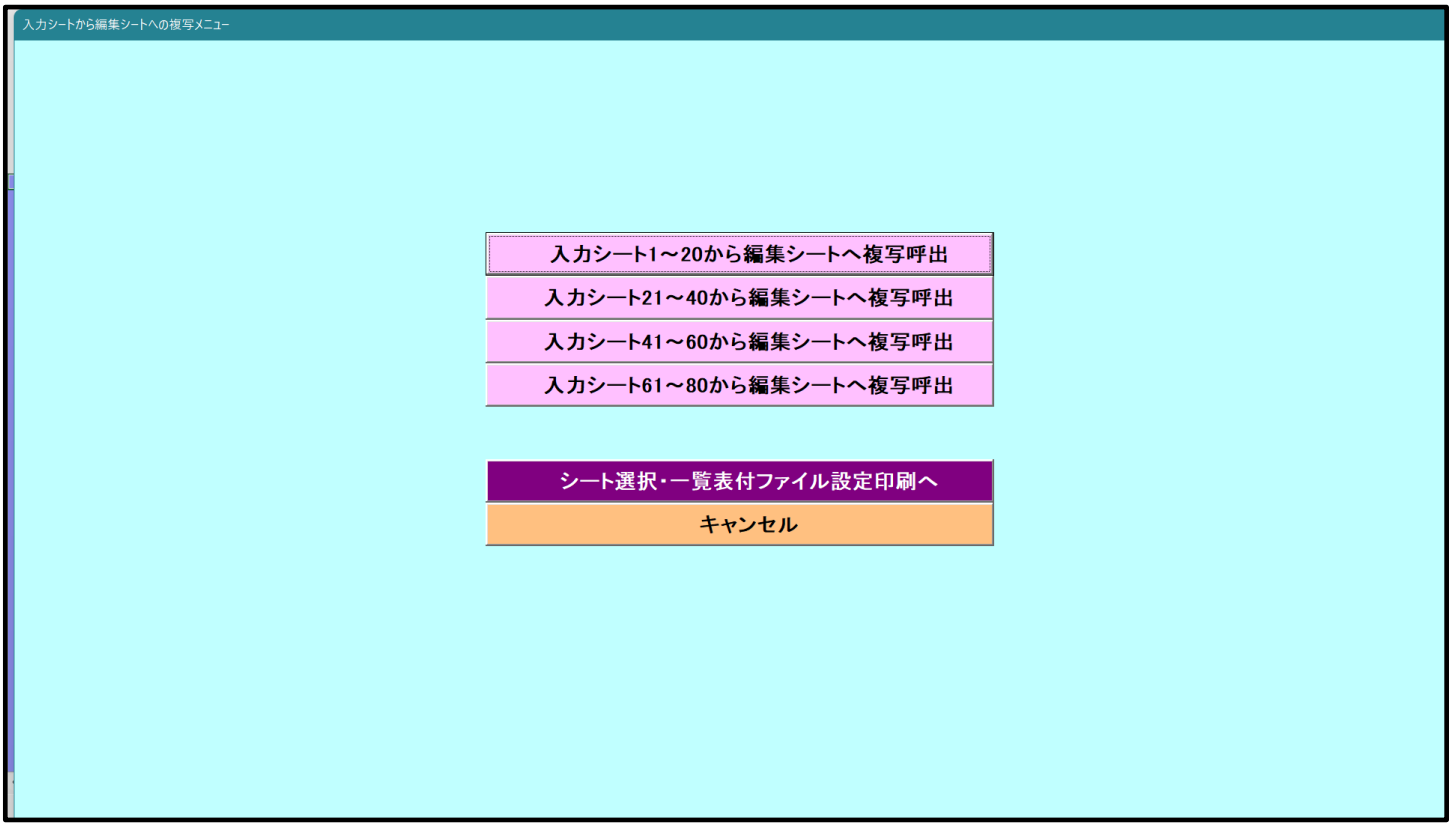


上の[図１５８]の画面のコマンド

入力シートから編集シートへの複写メニュー呼出

をクリックすると次の[図１５９]の画面になります。

[図１５９]

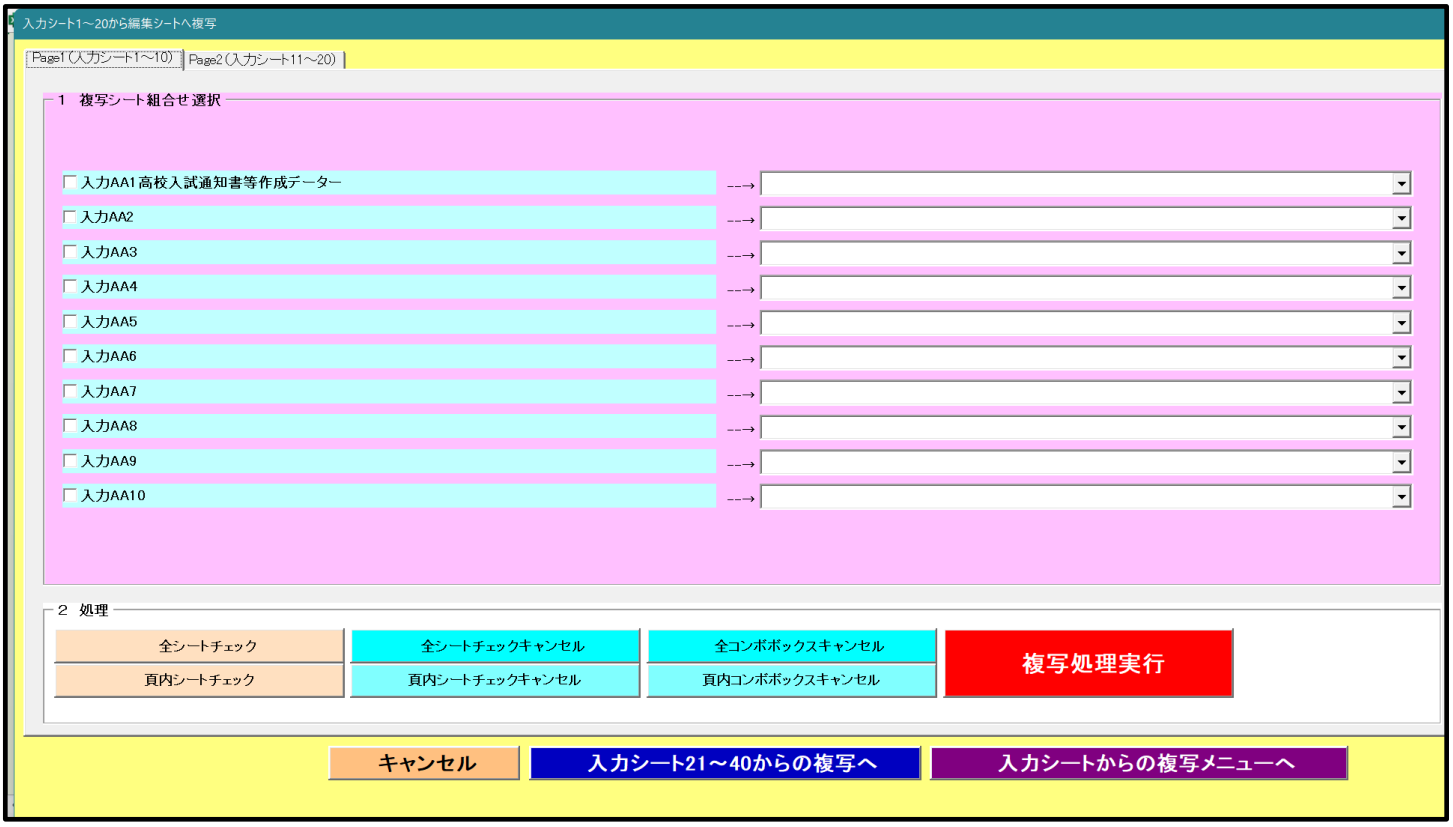


そして上の[図１５９]の画面のコマンドボタン

入力シート1～20から編集シートへ複写呼出

をクリックすると更に次の[図１６０]の画面になります。

[図１６０]



上の[図１６０]の画面のチェックボックス

☐ 入力AA1高校入試通知書等作成データー

にチェックを入れて

☑ 入力AA1高校入試通知書等作成データー

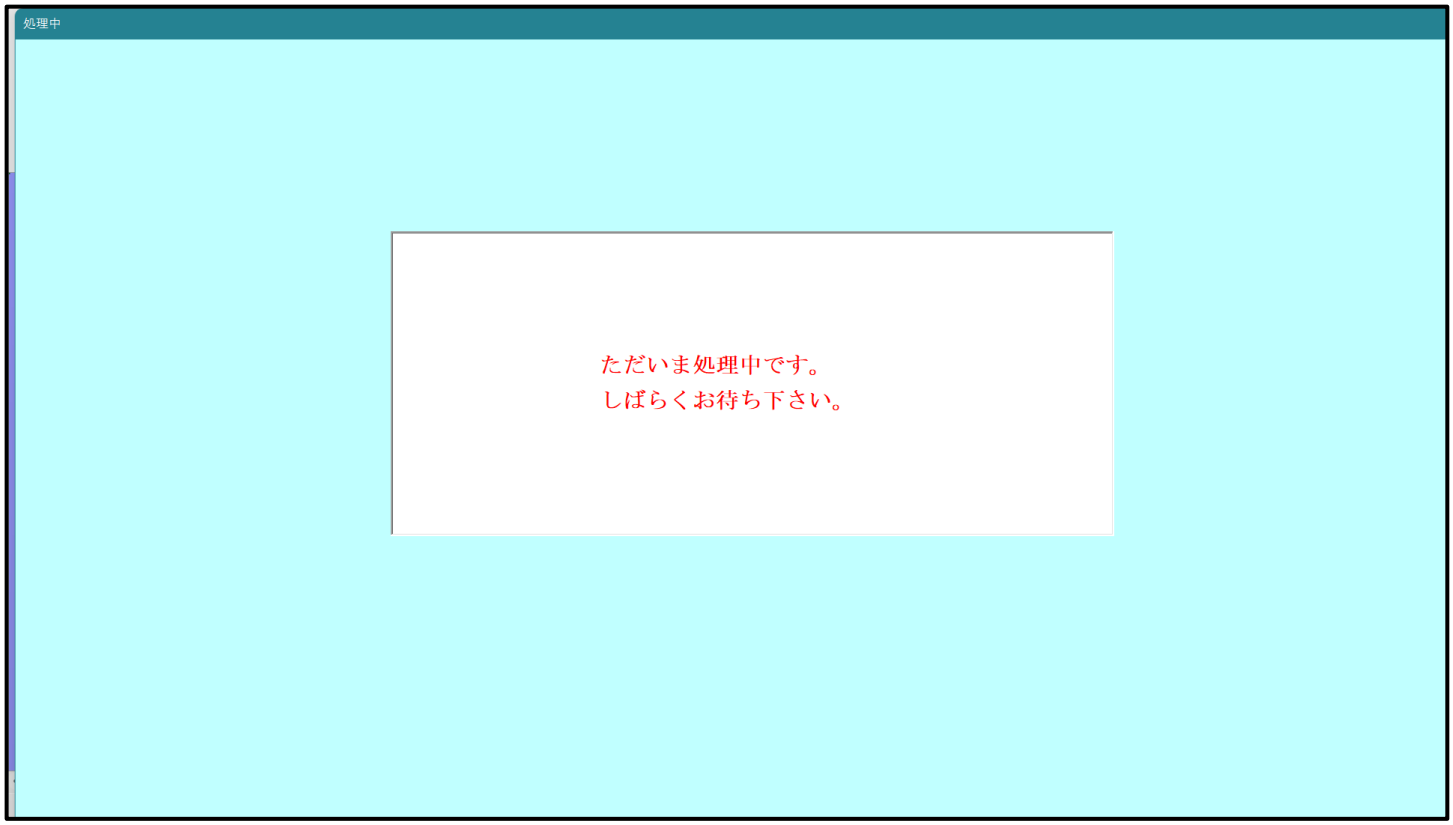
とし、この右側のコンボボックスで

印刷フォーム1ソートデーター

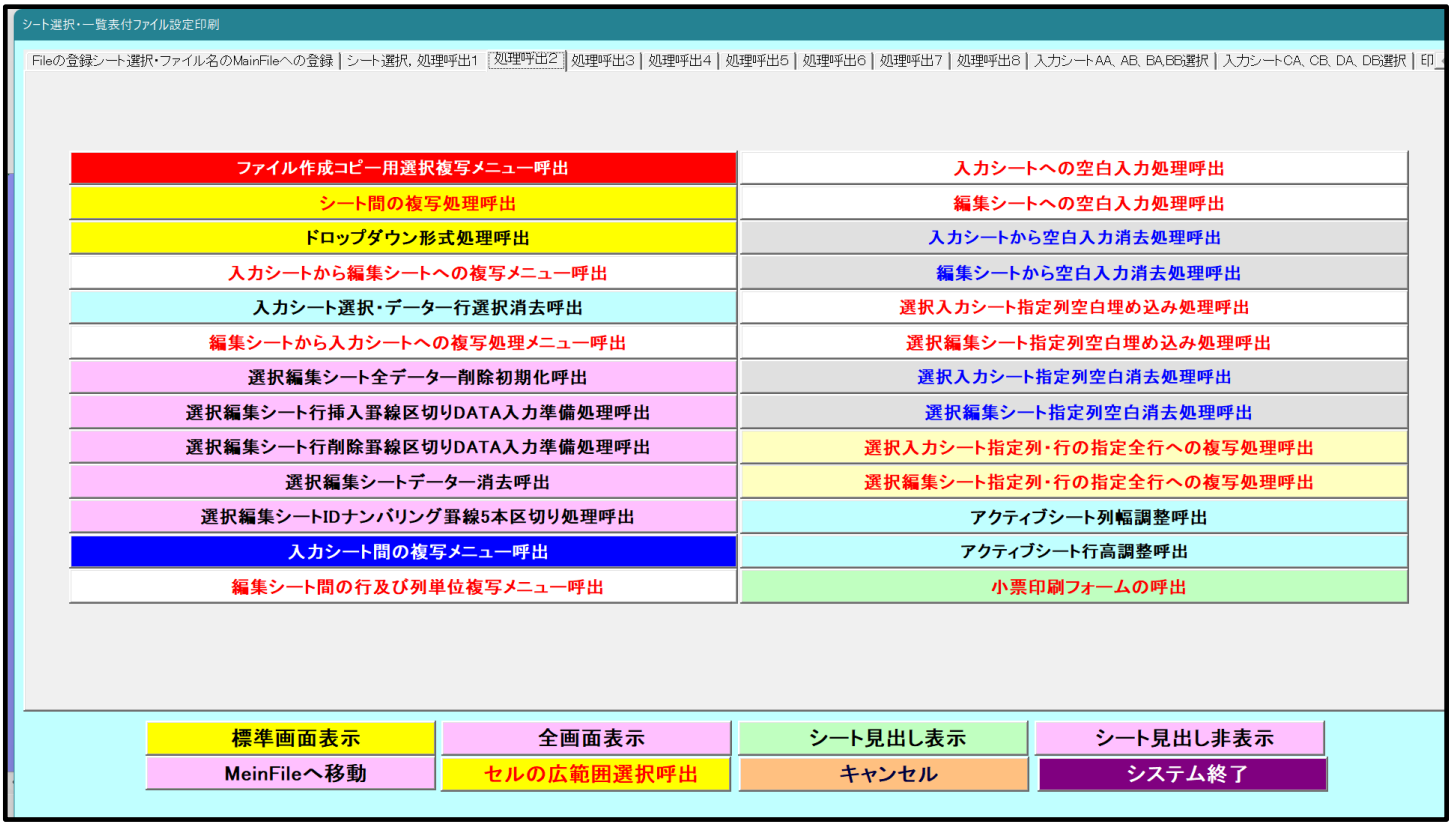
とシートを選択し、コマンドボタン **複写処理実行** をクリックすると

入力シート「入力 AA1 高校入試通知書等作成データー」をシート
「印刷フォーム１ソートデーター」に複写する処理が開始されます。
処理が開始されると途中次の[図１６１]の画面が表示され、更に[図１６２]の画面が表示されたら
複写処理は完了となります。

[図１６１]

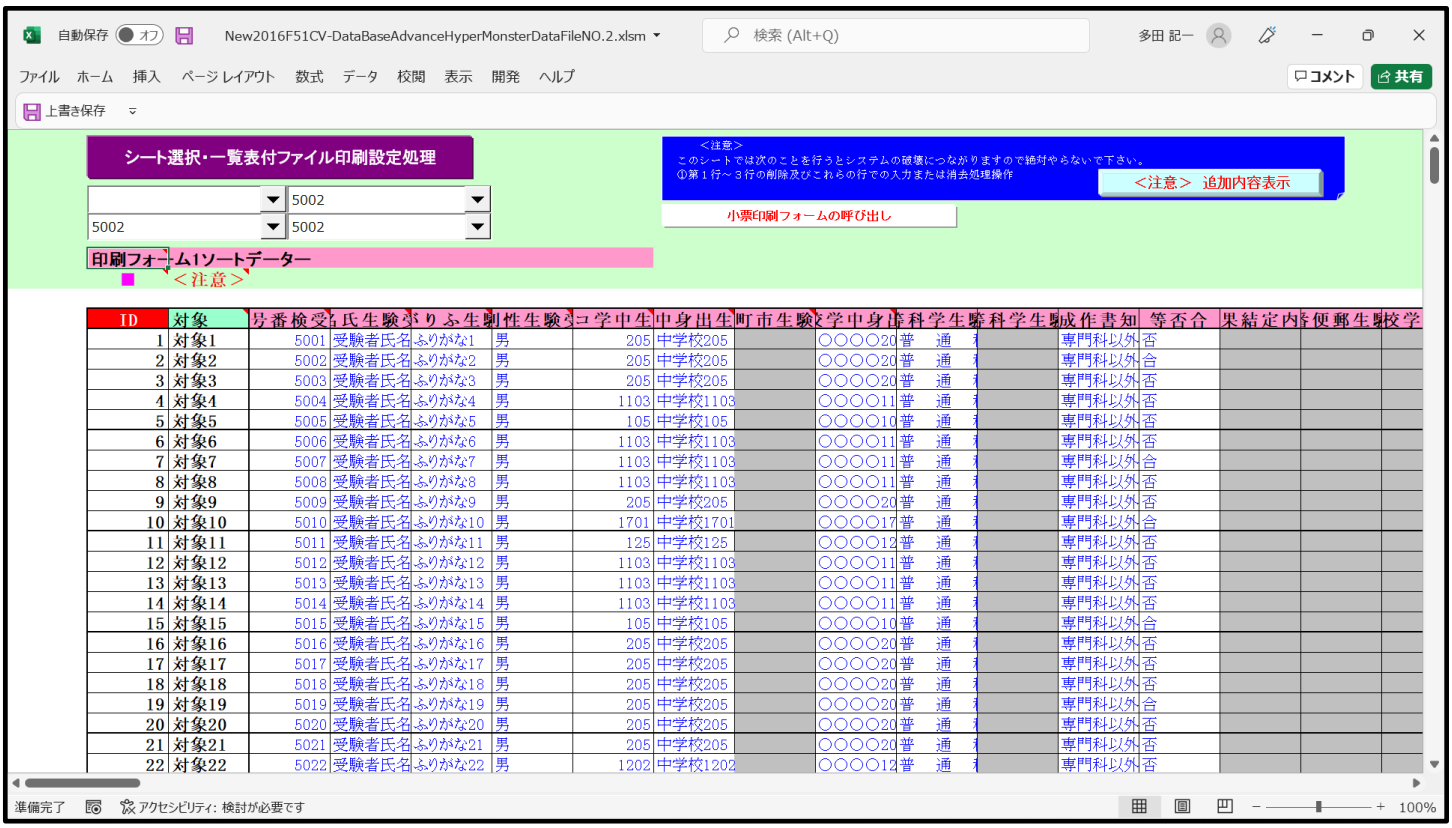


[図１６２]



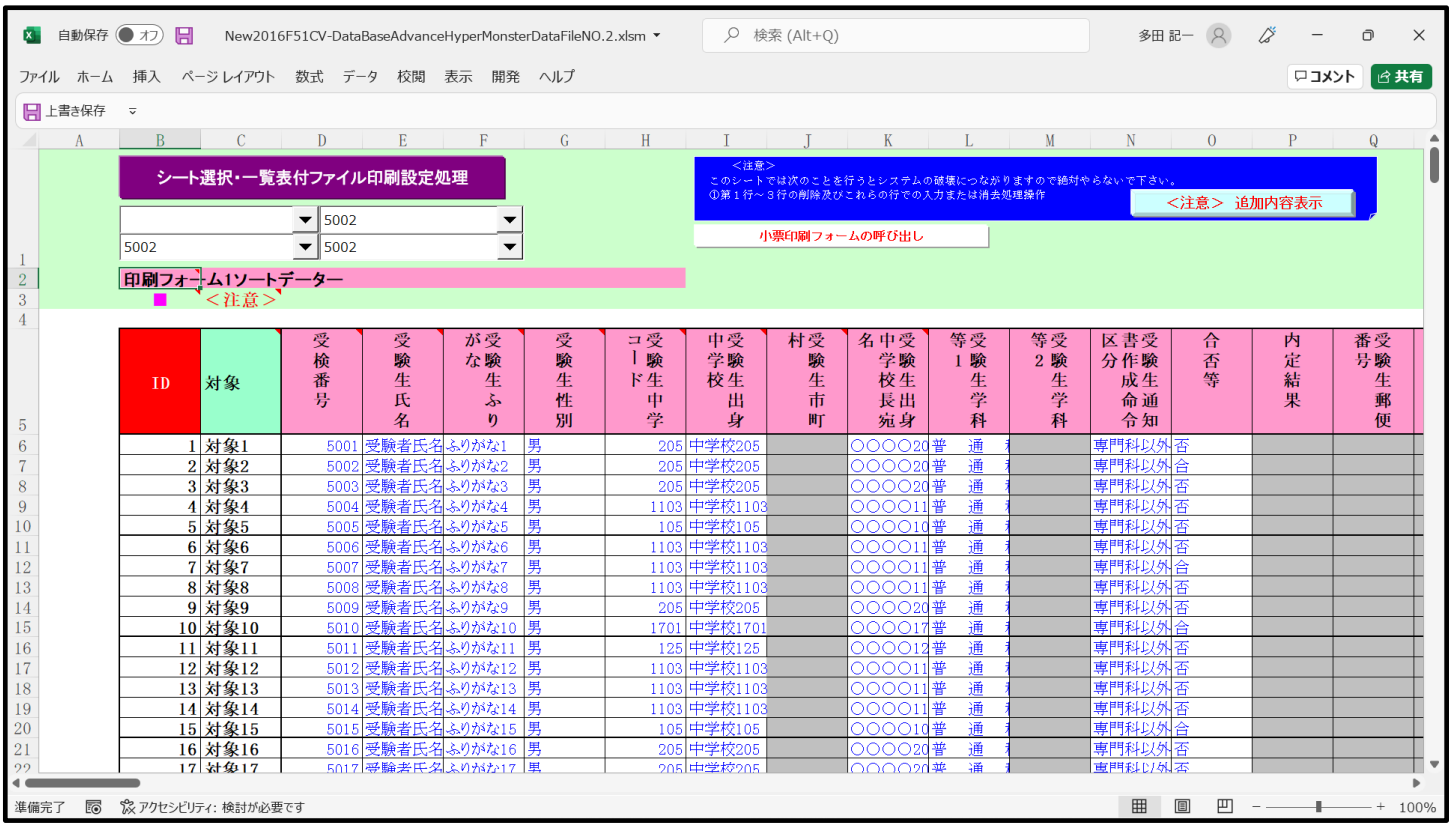
シート「印刷フォーム１ソートデーター」を選択すると、次の[図１６３]の画面のようになっています。

[図１６３]



見やすくするため、シートの保護を解除し、上の[図１６３]の画面の項目を表している第５行の行高を広げると、次の[図１６４]の画面のようになります。

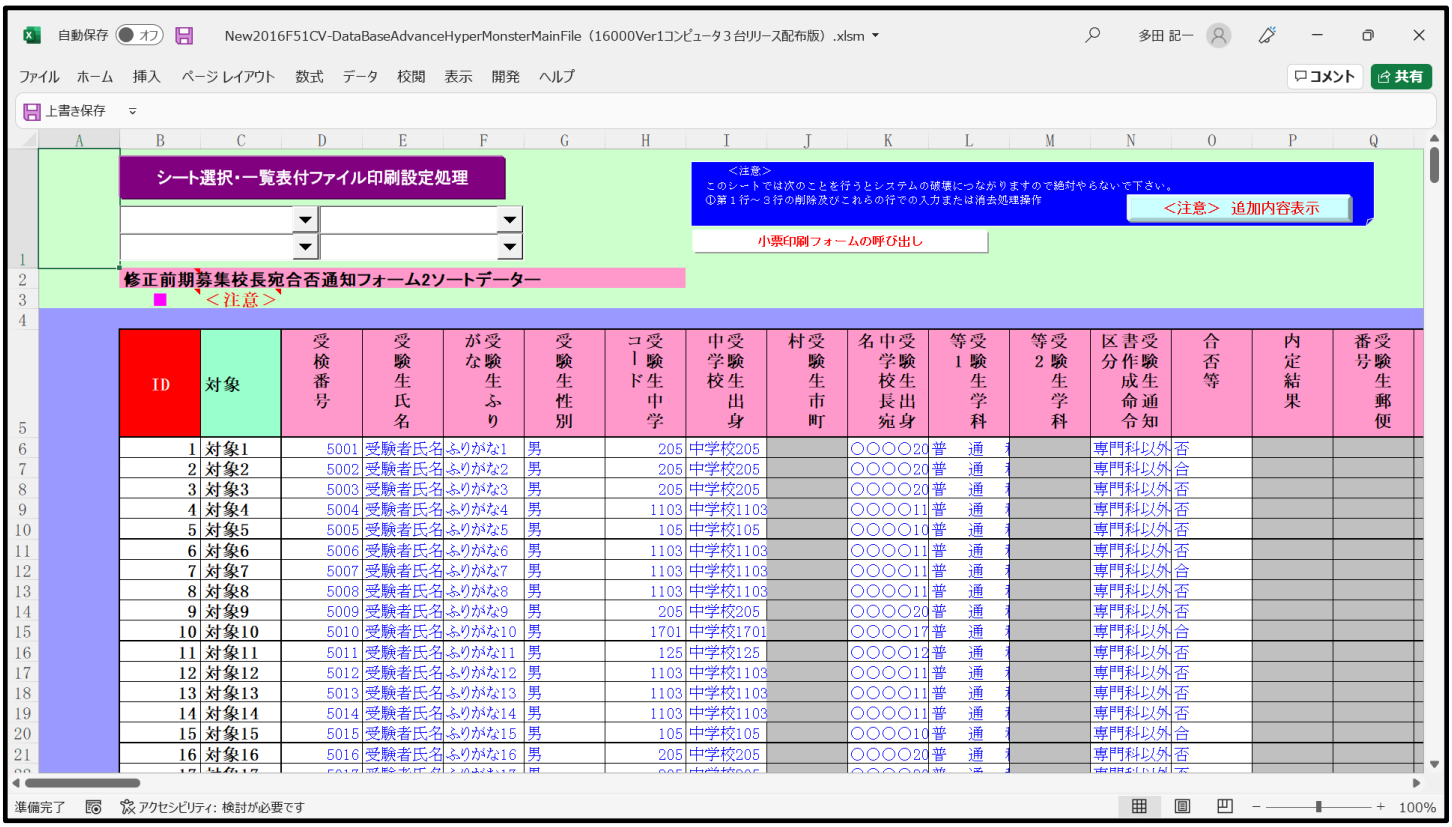
[図１６４]



さて、次に上の[図１６４]の画面のデーターファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2.xlsm
のシート「印刷フォーム１ソートデーター」の内容をファイル

New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile
（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
のシート「修正前期募集校長宛合否通知フォーム２ソートデーター」に複写します。それには手動でおこないます。
まず、データーファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2.xlsm
のシート「印刷フォーム１ソートデーター」の表部分 B5～GU505 の範囲をを選択してコピーし、をファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile
（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
のシート「修正前期募集校長宛合否通知フォーム２ソートデーター」の B5 の位置に貼り付けます。
その結果、ファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile
（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
のシート「修正前期募集校長宛合否通知フォーム２ソートデーター」の状況は次の[図１６５]の画面のようになっています。ただし、第５行の行高を広げています。

[図１６５]



ここまで作業が完了したらデーターファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2.xlsm
のシート「印刷フォーム１ソートデーター」のデーターは削除しましょう。

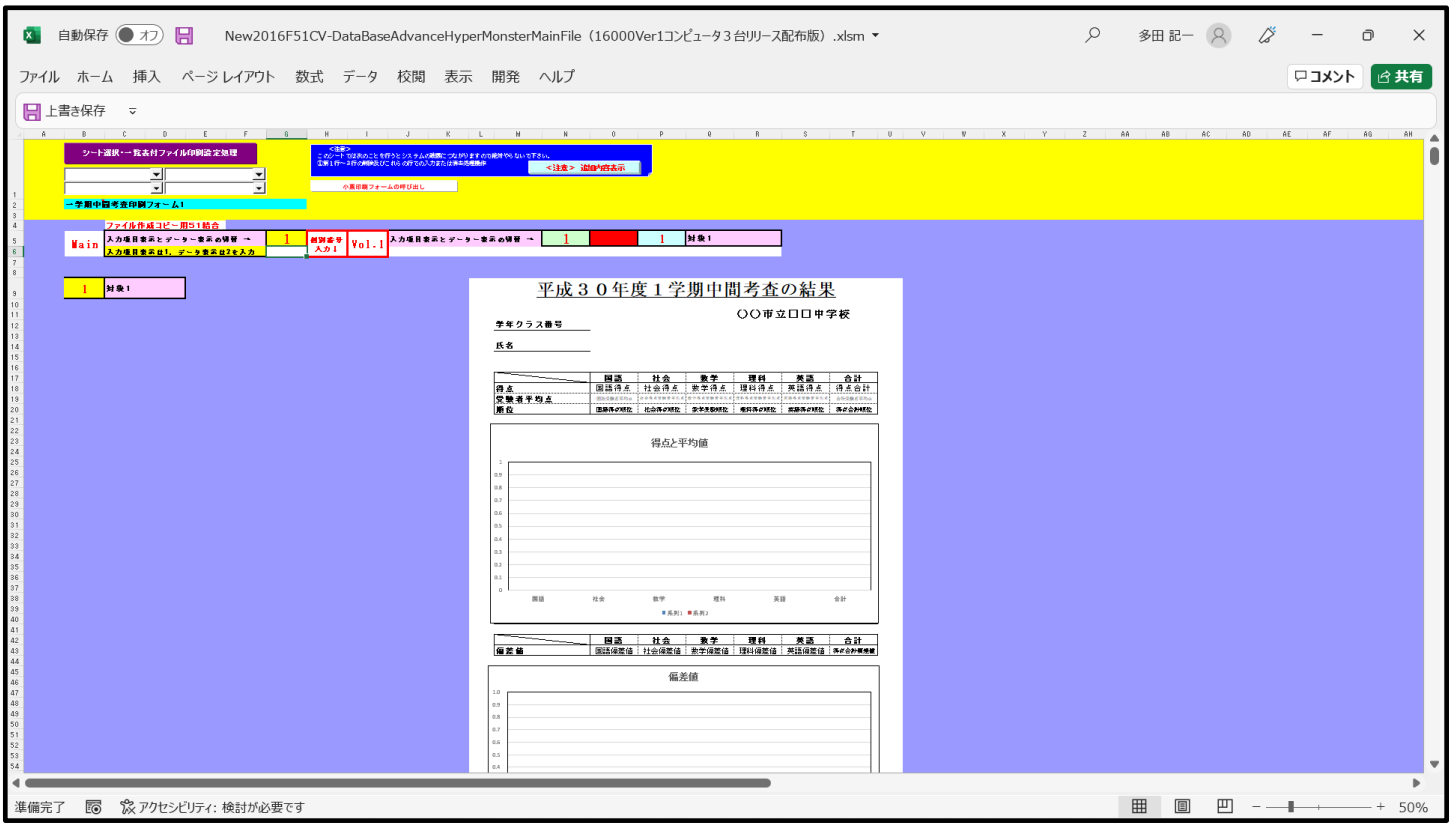
これで２つのシート
「一学期中間考査印刷フォーム１ソートデーター」
「修正前期募集校長宛合否通知フォーム２ソートデーター」
のデーターを作成する説明は終了いたします。

① 票形式の印刷の場合の入力、印刷、印刷範囲を PDF の添付ファイルとして
メール送信する場合：

ファイル New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile

（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
のシート「一学期中間考査印刷フォーム１」を印刷、印刷範囲を PDF の添付ファイルとしてメール送信する場合について、一覧表付ファイル作成入力設定シート
「一学期中間考査一覧表付ファイル作成入力設定１」
の入力設定について説明いたします。
フォームシート「一学期中間考査印刷フォーム１」について、今一度確認しておきます。
次の[図１６６]の画面は、フォームシート「一学期中間考査印刷フォーム１」の画面です。

[図１６６]



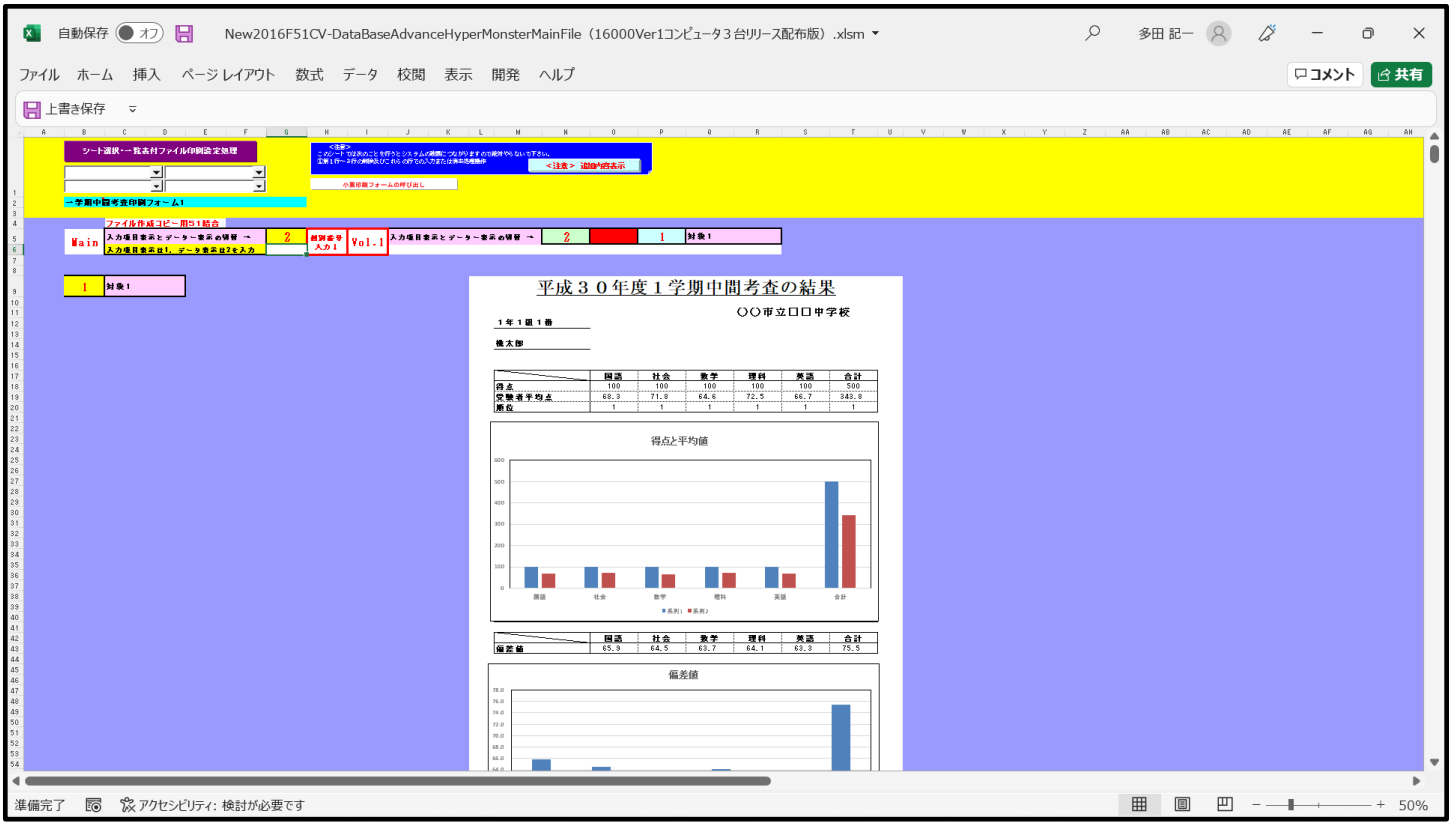
上の[図１６６]の画面の

Main	入力項目表示とデーター表示の切替 →	1
	入力項目表示は1，データ表示は2を入力	

の

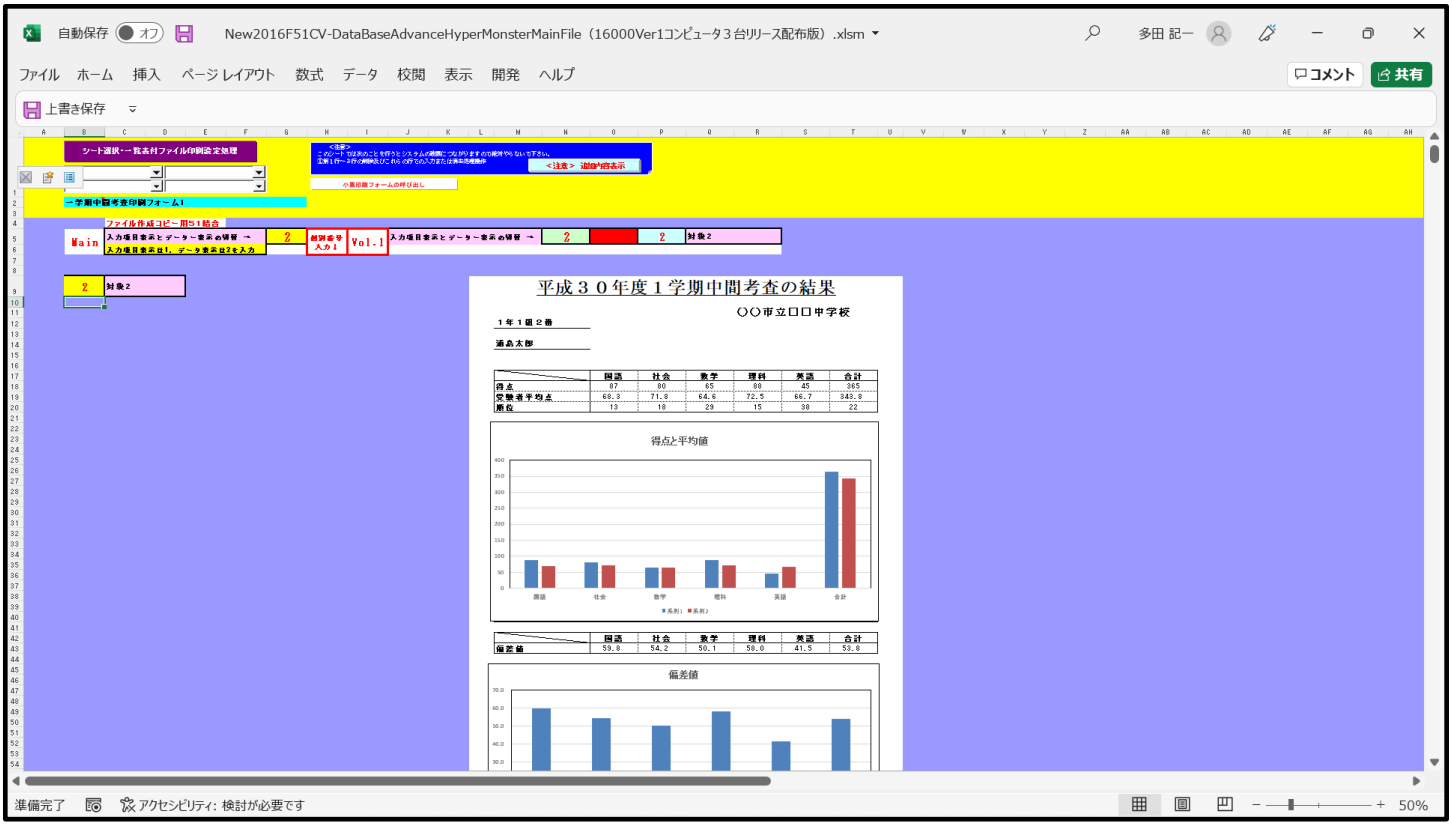
部分セル 1 の値を 2 と入力し直すと、[図１６６]の画面の背景色を抜いてある右側の部分は、データーファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm
の入力シート「入力 AA1 一学期中間考査」における表の第１行目のデーターが表示されて次の[図１６７]の画面のようになります。

[図１６７]



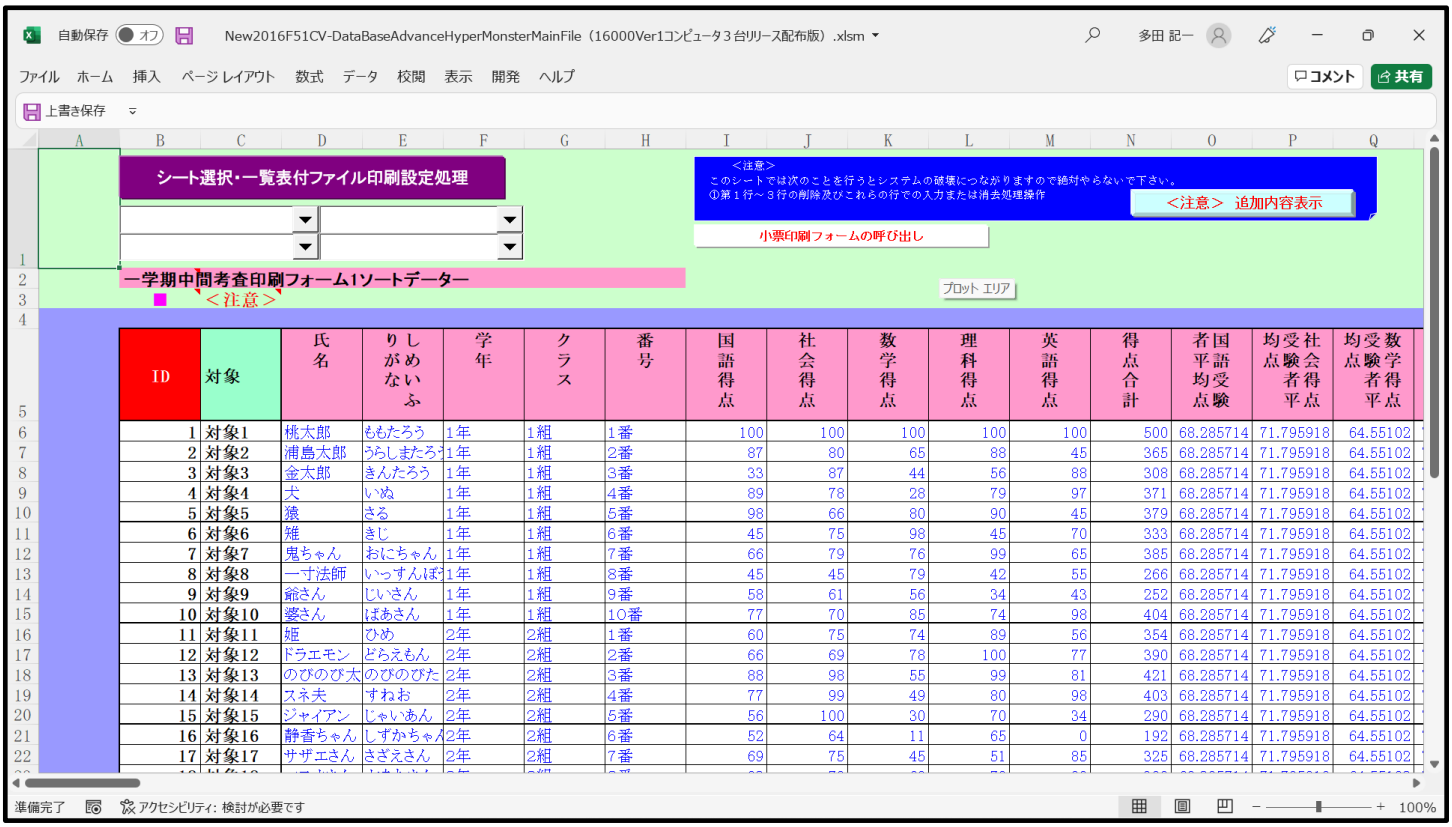
また、上の[図１６６]の画面の 1 対象1 の部分のセル 1 の値を 2 と入力し直すと[図１６７]の画面の背景色を抜いてある右側の部分は、データーファイル New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.1.xlsm 入力シート「入力 AA1 一学期中間考査」における表の第２行目のデーターが表示されて次の[図１６８]の画面のようになります。

[図１６８]



さて、ファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile（
16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
のシート「一学期中間考査印刷フォーム１ソートデーター」の状況は次の[図１６９]の画面のように
なっていました。

[図１６９]



ID	対象	氏名	りしがめないふ	学年	クラス	番号	国語得点	社会得点	数学得点	理科得点	英語得点	得点合計	者国平語均受点験	均受社点験会者得平点	均受数点験学者得平点
1	対象1	桃太郎	ももたろう	1年	1組	1番	100	100	100	100	100	500	68.285714	71.795918	64.55102
2	対象2	浦島太郎	うらしまたろう	1年	1組	2番	87	80	65	88	45	365	68.285714	71.795918	64.55102
3	対象3	金太郎	きんたろう	1年	1組	3番	33	87	44	56	88	308	68.285714	71.795918	64.55102
4	対象4	犬	いぬ	1年	1組	4番	89	78	28	79	97	371	68.285714	71.795918	64.55102
5	対象5	猿	さる	1年	1組	5番	98	66	80	90	45	379	68.285714	71.795918	64.55102
6	対象6	雉	きじ	1年	1組	6番	45	75	98	45	70	333	68.285714	71.795918	64.55102
7	対象7	鬼ちゃん	おにちゃん	1年	1組	7番	66	79	76	99	65	385	68.285714	71.795918	64.55102
8	対象8	一寸法師	いっすんぼう	1年	1組	8番	45	45	79	42	55	266	68.285714	71.795918	64.55102
9	対象9	爺さん	じいさん	1年	1組	9番	58	61	56	34	43	252	68.285714	71.795918	64.55102
10	対象10	婆さん	ばあさん	1年	1組	10番	77	70	85	74	98	404	68.285714	71.795918	64.55102
11	対象11	姫	ひめ	2年	2組	1番	60	75	74	89	56	354	68.285714	71.795918	64.55102
12	対象12	ドラエモン	どらえもん	2年	2組	2番	66	69	78	100	77	390	68.285714	71.795918	64.55102
13	対象13	のびのび太	のびのびた	2年	2組	3番	88	98	55	99	81	421	68.285714	71.795918	64.55102
14	対象14	スネ夫	すねお	2年	2組	4番	77	99	49	80	98	403	68.285714	71.795918	64.55102
15	対象15	ジャイアン	じゃいあん	2年	2組	5番	56	100	30	70	34	290	68.285714	71.795918	64.55102
16	対象16	静香ちゃん	しずかちゃん	2年	2組	6番	52	64	11	65	0	192	68.285714	71.795918	64.55102
17	対象17	サザエさん	さざえさん	2年	2組	7番	69	75	45	51	85	325	68.285714	71.795918	64.55102

上の[図１６９

ID
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23

]の画面の23の列において数値部分

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23

を上から順番にコピーし、その値を

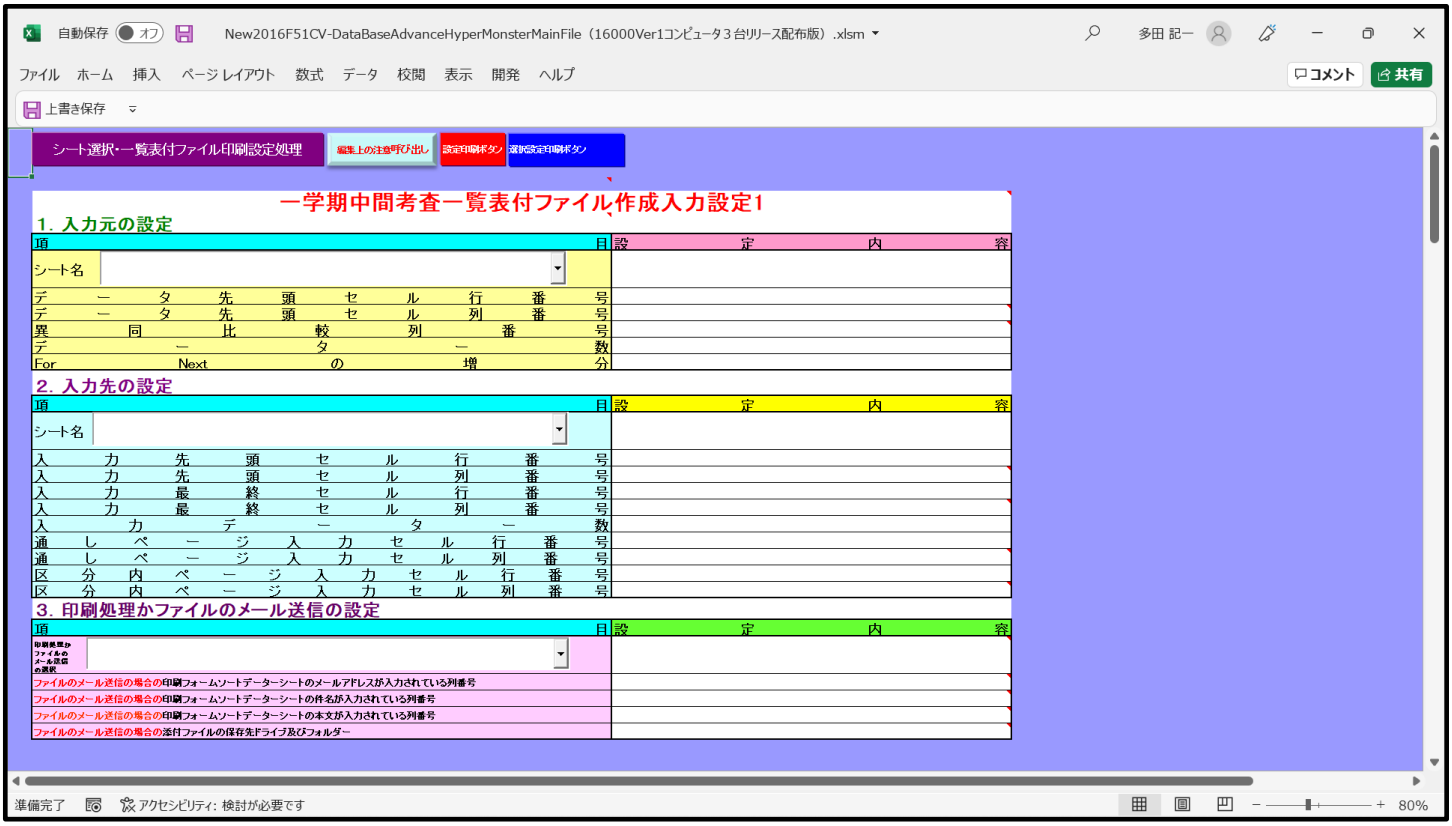
上の[図１６８]の画面の2 対象2部分のセル2の位置に貼り付けて

上の[図１６８]の画面の背景色を抜いてある右側の部分を印刷することができれば自動印刷ができるわけです。

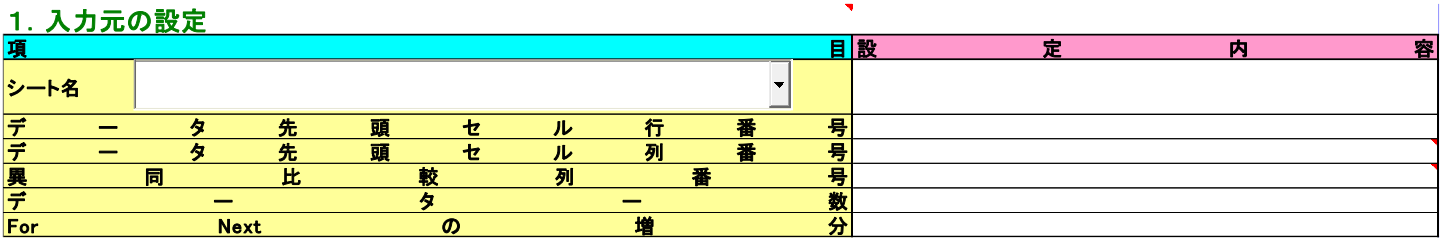
その自動印刷を行うには、一覧表付ファイル作成入力設定シートであるシート「一学期中間考査一覧表付ファイル作成入力設定１」の入力設定が必要です。

次の[図１７０]の画面は、シート「一学期中間考査一覧表付ファイル作成入力設定１」の画面です

[図１７０]

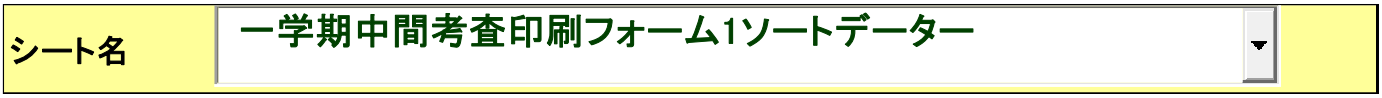


先ず最初に



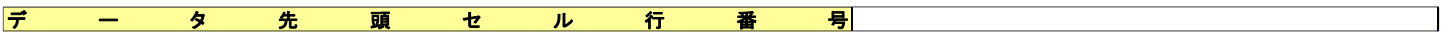
の部分についての入力設定について説明します。

については、入力元のシートは、ソートデーターシート「一学期中間考査印刷フォーム１ソートデーター」ですので、左側のコンボボックスで



と選択すると、右側のセルに

と入力されます。



ID
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23

については、右側のセルに、上の[図１６９]の画面の23の列において最も上側の1と表示されているセルの番地「B6」の行番号「6」を入力して

データ先頭セル行番号	6

とします。また、

データ先頭セル列番号	

ID
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23

の部分の右側のセルには、上の[図１６９]の画面の23の列において最も上側の1と表示されているセルの番地「B6」の列「B」の列番号「2」を入力して

データ先頭セル列番号	2

とします。
ただし、列番号は次の表のように定めています。

列	A	B	C	・・・・	Z	AA	AB	・・・・
列番号	1	2	3	・・・・	26	27	28	・・・・

異同比較列番号	

氏名
桃太郎
浦島太郎
金太郎
犬
猿
雉
鬼ちゃん
一寸法師
爺さん
婆さん
姫
ドラエモン
のびのび太
スネ夫
ジャイアン
静香ちゃん
サザエさん
マスオさん
フグオさん
カツオ君
ワカメちゃん
タラちゃん
ジャイアント

の右側のセルには、上の[図１６９]の画面の表と表示されている列「D」の列番号「4」を入力して

異同比較列番号	4

とします。

データー数	

の右側のセルには、上の[図１６９]の画面の表においてデーターをコピーするセルの個数 50 を入力して

データー数	50

とします。

For Next の増分	

の右側のセルには、For Next の増分「1」（通常は 1 です）を入力して

For Next の増分	1

とします。

次に

2. 入力先の設定

項目	設定内容
シート名	
入力先頭セル行番号	
入力先頭セル列番号	
入力最終セル行番号	
入力最終セル列番号	
入力データー数	
通しページ入力セル行番号	
通しページ入力セル列番号	
区分内ページ入力セル行番号	
区分内ページ入力セル列番号	

の部分についての入力の仕方について説明いたします。

シート名	

の左側のコンボボックスで入力先のシート名「一学期中間考査印刷フォーム 1」を選択し

シート名	一学期中間考査印刷フォーム1

とします。すると、右側のセルには

一学期中間考査印刷フォーム1

と入力されて、

シート名	一学期中間考査印刷フォーム1	一学期中間考査印刷フォーム1

となります。

入力先頭セル行番号	

の右側のセルには、上の[図１６８]の画面の 2 対象2 の部分で 2 と表示されているセルのセル番地「B9」の行番号「9」を入力して

入力先頭セル行番号	9

とします。

入力先頭セル列番号	

の右側のセルには、上の[図１６８]の画面の 2 対象2 の部分で 2 と表示されているセルのセル番地「B9」の列番号「2」を入力して

入力先頭セル列番号	2

とします。

入力最終セル行番号	

の右側のセルには、上の[図１６８]の画面の 2 対象2 の部分で 2 と表示されているセルのセル番地「B9」の行番号「9」を入力して

入力最終セル行番号	9

とします。

入力最終セル列番号	

の右側のセルには、上の[図１６８]の画面の 2 対象2 の部分で 2 と表示されているセルのセル番地「B9」の列番号「2」を入力して

入力最終セル列番号	2

とします。

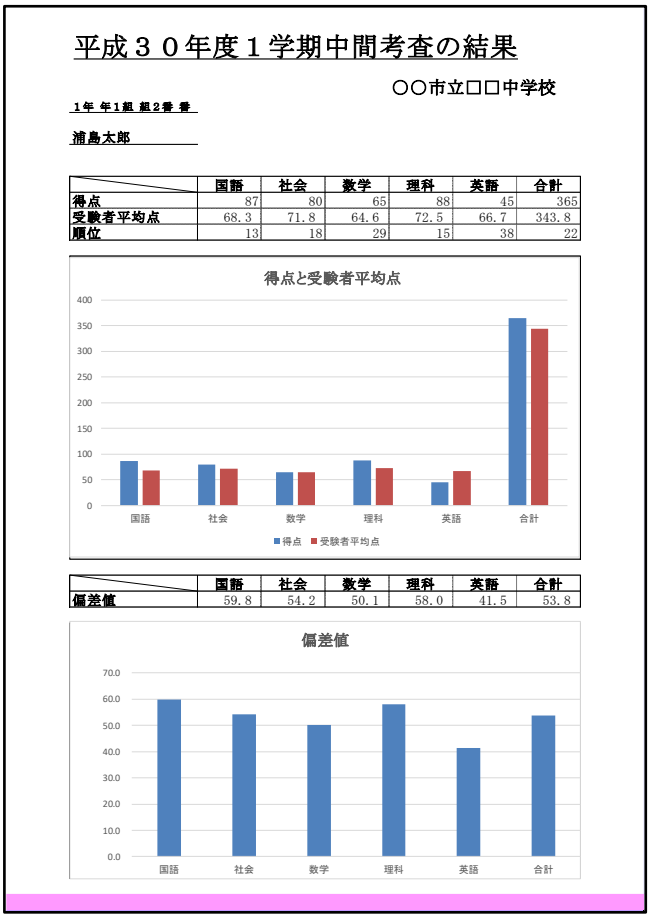
入力データー数	

の右側のセルには、上の[図１６７]の画面の 2 対象2 の部分で 2 と表示されているセル１個にコピーしたデーターを貼り付けて入力するだけなので、数値「1」を入力して

入力データー数	1

とします。

印刷フォームシートをシステム備わっているマクロ機能を用いて印刷、印刷範囲を PDF の添付ファイルとしてメール送信する場合には、印刷フォームシートに必ず通し番号と区分内番号を表示する場所を確保し、通し番号と区分内番号を表示するセルを指定しなければなりません。



平成３０年度１学期中間考査の結果

〇〇市立□□中学校

1年 年1組 組2番 番

浦島太郎

	国語	社会	数学	理科	英語	合計
得点	87	80	65	88	45	365
受験者平均点	68.3	71.8	64.6	72.5	66.7	343.8
順位	13	18	29	15	38	22

	国語	社会	数学	理科	英語	合計
偏差値	59.8	54.2	50.1	58.0	41.5	53.8

上の[図１６８]の画面の部分の下側の

の部分を確保し、通し番号と区分内番号を表示するセルを指定したいと思います。なお、このピンクのセル範囲では、シートを保護しても保護がされないように設定しておく必要があります。
通し番号を表示するセルの番地を「L62」、区分内番号を表示するセルの番地を「Q62」としたいと思います。
ということで、

通し ページ 入力 セル 行番号	

の右側のセルには、通し番号を表示するセルの番地「L62」の行番号「62」を入力して

通し ページ 入力 セル 行番号	62

とします。

通し ページ 入力 セル 列番号	

の右側のセルには、通し番号を表示するセルの番地「L62」の列番号「11」を入力して

通し ページ 入力 セル 列番号	11

とします。

区分内 ページ 入力 セル 行番号	

の右側のセルには、区分内番号を表示するセルの番地「Q62」の行番号「62」を入力して

区分内 ページ 入力 セル 行番号	62

とします。

区分内 ページ 入力 セル 列番号	

の右側のセルには、区分内番号を表示するセルの番地「Q62」の列番号「16」を入力して

区分内 ページ 入力 セル 列番号	16

とします。

そして次に、

３．印刷処理かファイルのメール送信の設定	
項　　目	設　　定　　内　　容
印刷処理かファイルのメール送信の選択	
ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートのメールアドレスが入力されている列番号	
ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートの件名が入力されている列番号	
ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートの本文が入力されている列番号	
ファイルのメール送信の場合の添付ファイルの保存先ドライブ及びフォルダー	

の部分の入力の仕方の説明をいたします。

印刷処理かファイルのメール送信の選択	

の左側のコンボボックス

印刷処理かファイルのメール送信の選択	

で

印刷処理かファイルのメール送信の選択	印刷する

を選択すると右側のセルにと

印刷する

と入力され

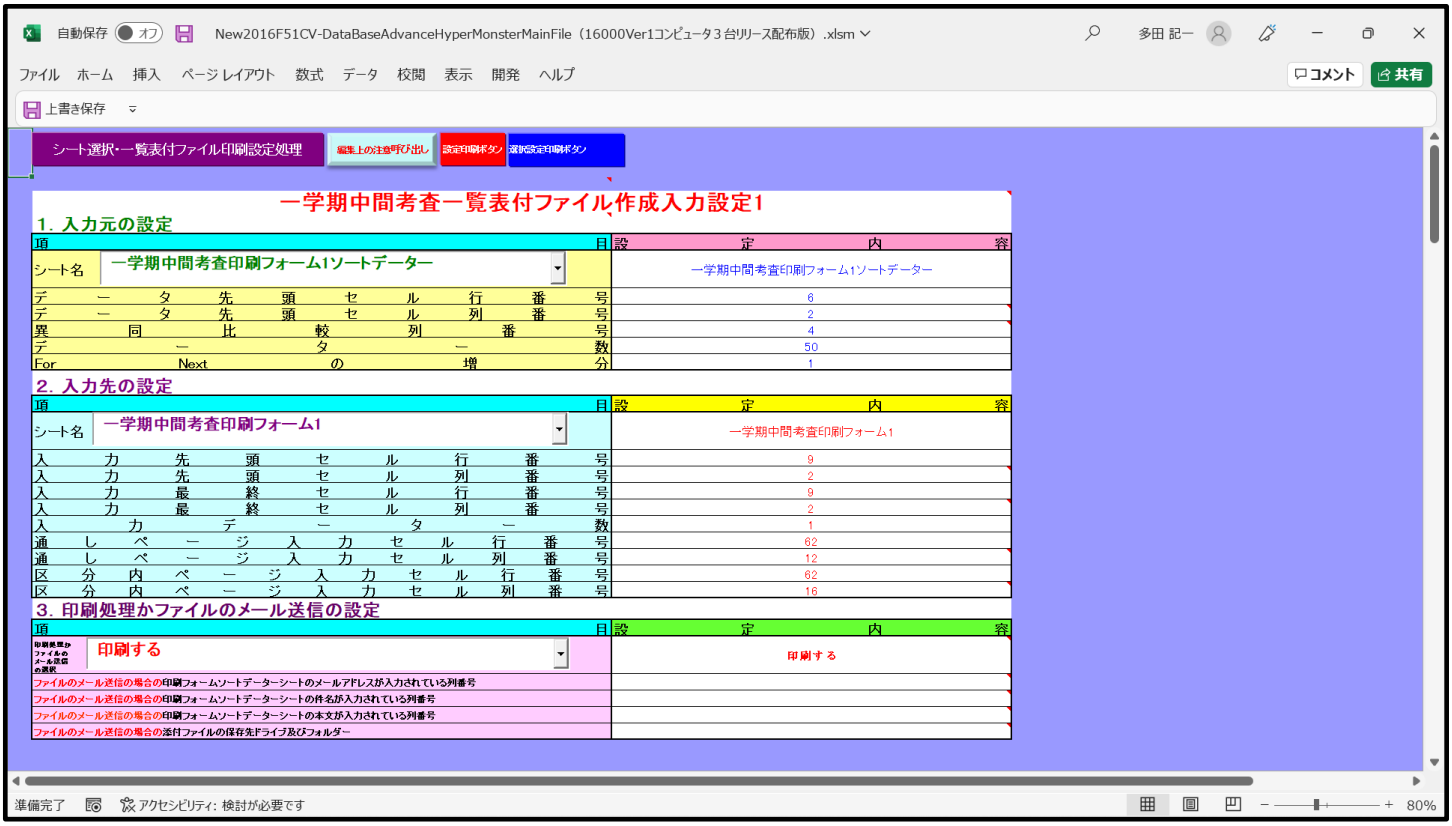
印刷処理かファイルのメール送信の選択	印刷する　　印刷する

となります。
単に印刷する場合は、

ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートのメールアドレスが入力されている列番号	
ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートの件名が入力されている列番号	
ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートの本文が入力されている列番号	
ファイルのメール送信の場合の添付ファイルの保存先ドライブ及びフォルダー	

の部分に入力する必要はありません。
つまり、単に印刷を行う場合の一覧表付ファイル作成入力設定シート
「一学期中間考査一覧表付ファイル作成入力設定１」の設定入力は、次の[図１７１]の画面の通りです。

[図１７１]



そして、印刷を実行するには、一覧表付ファイル作成入力設定シート「一学期中間考査一覧表付ファイル作成入力設定１」の画面である上の[図１７１]の画面のコマンドボタン

設定印刷ボタン

をクリックしていただければ結構です。

印刷範囲を PDF の添付ファイルとしてメール送信する場合は、

印刷処理かファイルのメール送信の選択		

の左側のコンボボックスで

印刷処理かファイルのメール送信の選択	メールで送信する

と選択すると右側のセルに

メールで送信する

と入力されて

印刷処理かファイルのメール送信の選択	メールで送信する	メールで送信する

となります。

そして、印刷範囲を PDF の添付ファイルとしてメール送信する場合には、

ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートのメールアドレスが入力されている列番号	
ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートの件名が入力されている列番号	
ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートの本文が入力されている列番号	
ファイルのメール送信の場合の添付ファイルの保存先ドライブ及びフォルダー	

の右側の５個セル全て入力する必要があります。

ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートのメールアドレスが入力されている列番号	

の右側のセルには、印刷ソートデーターシート「一学期中間考査印刷フォーム１ソートデーター」に入力されているメールの送信先のメールアドレスの列番号を入力します。その列は「AG 列」ですので列番号は「33」なので、

33

と入力し、

ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートのメールアドレスが入力されている列番号	33

とします。

ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートの件名が入力されている列番号	

の右側のセルには印刷ソートデーターシート「一学期中間考査印刷フォーム１ソートデーター」に入力されているメールの件名の列番号を入力します。その列は「AH 列」でその列番号は「34」なので

34 と入力し、

ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートの件名が入力されている列番号	34

とします。

ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートの本文が入力されている列番号	

の右側のセルには印刷ソートデーターシート「一学期中間考査印刷フォーム１ソートデーター」に入力されているメールの本文の列番号を入力します。その列は「AI 列」でその列番号は「35」なので、

35 と入力し、

ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートの本文が入力されている列番号	35

とします。

ファイルのメール送信の場合の添付ファイルの保存先ドライブ及びフォルダー	

の右側のセルには、メールを送信するに当たって、一時的に印刷範囲を PDF ファイルとして保存しておくドライブとフォルダーを入力します。「D」ドライブのフォルダー「B」に一時的に保存したいと思いますので、「D:¥B」と D:¥B に入力し、

ファイルのメール送信の場合の添付ファイルの保存先ドライブ及びフォルダー	D:¥B

とします。

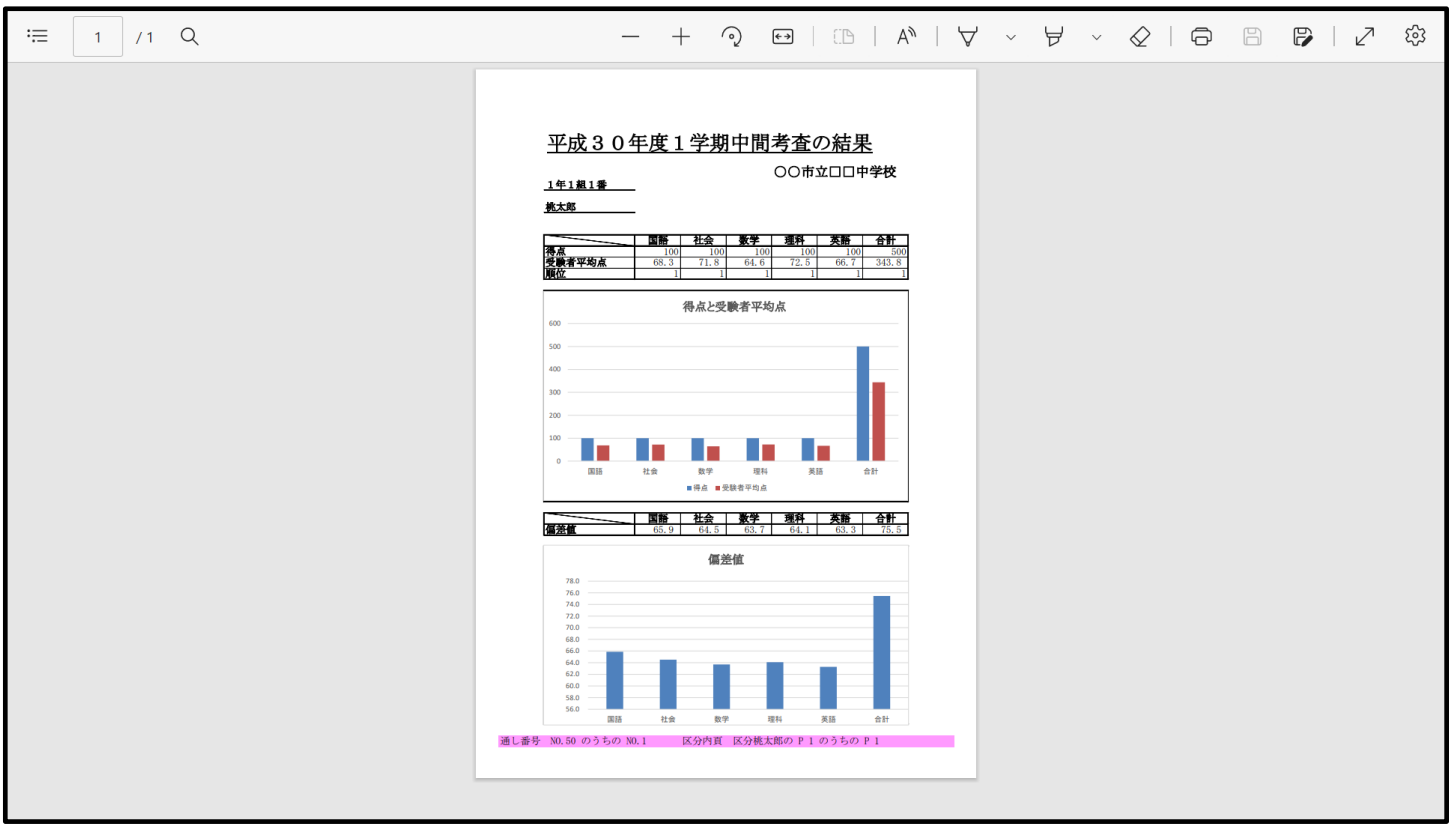
つまり、印刷範囲を PDF の添付ファイルとしてメール送信をする場合の一覧表付ファイル作成入力設定シート「一学期中間考査一覧表付ファイル作成入力設定１」の入力設定は次の[図１７２]の画面の通りです。

[図１７２]

印刷範囲を PDF の添付ファイルとしてメール送信をするには、一覧表付ファイル作成入力設定シート「一学期中間考査一覧表付ファイル作成入力設定１」の画面である上の[図１７２]の画面のコマンドボタン

設定印刷ボタンをクリックしていただければ結構です。
因みに、[図１７２]の画面の設定で印刷範囲を PDF の添付ファイルとしてメール送信した場合、メールの１件目、２件目の添付ファイルは、それぞれ次の[図１７３]、[図１７４]の画面のようになっています。

[図１７３]



平成３０年度１学期中間考査の結果

○○市立□□中学校

１年１組１番

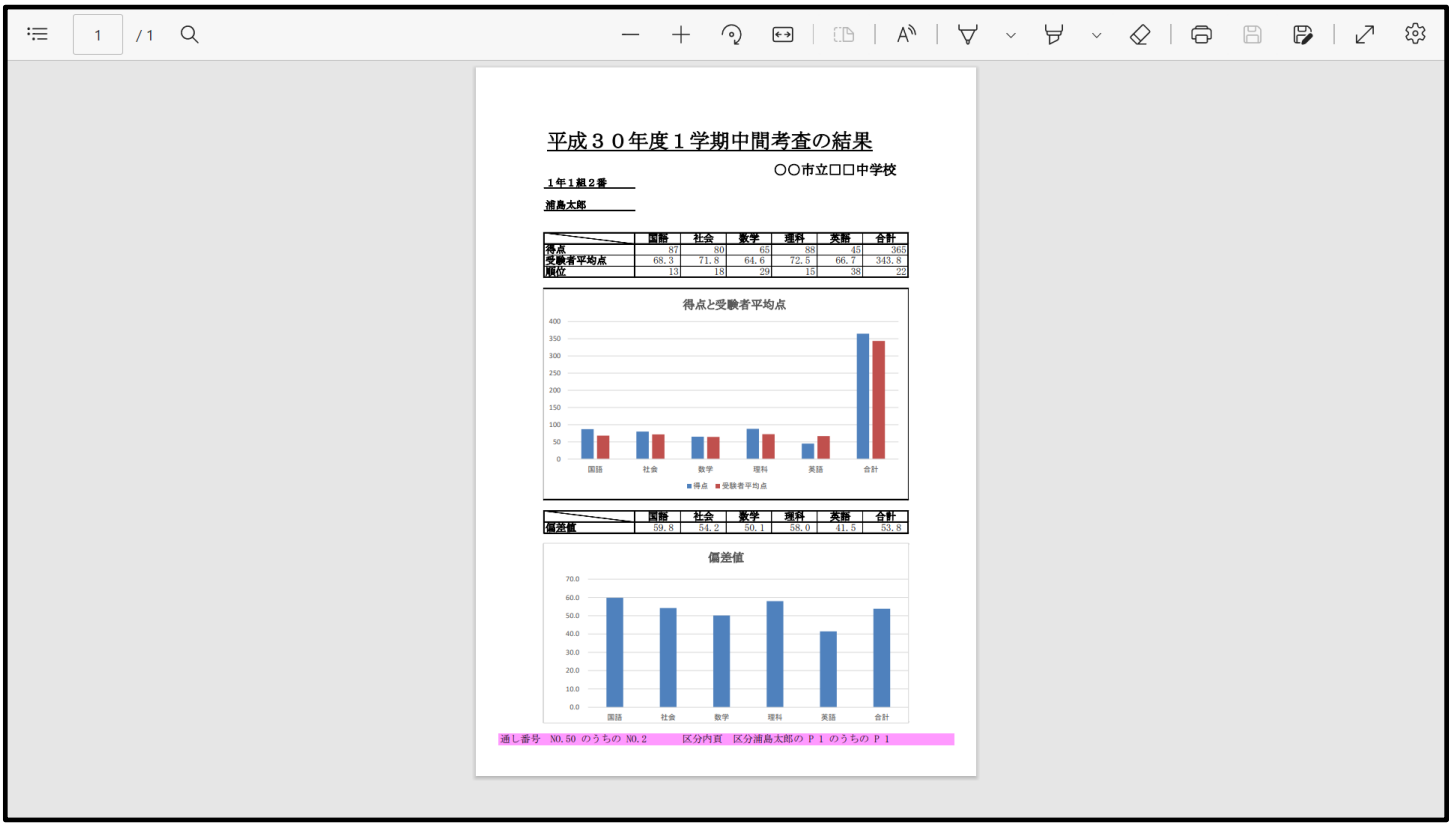
桃太郎

	国語	社会	数学	理科	英語	合計
得点	100	100	100	100	100	500
受験者平均点	68.3	71.8	64.6	72.5	66.7	343.8
順位	1	1	1	1	1	1

	国語	社会	数学	理科	英語	合計
偏差値	65.9	64.5	63.7	64.1	63.3	75.5

通し番号　N0.50 のうちの N0.1　　区分内頁　区分桃太郎の Ｐ１ のうちの Ｐ１

[図１７４]



平成３０年度１学期中間考査の結果

○○市立□□中学校

１年１組２番

浦島太郎

	国語	社会	数学	理科	英語	合計
得点	87	80	65	88	45	365
受験者平均点	68.3	71.8	64.6	72.5	66.7	343.8
順位	13	18	29	15	38	22

	国語	社会	数学	理科	英語	合計
偏差値	59.8	54.2	50.1	58.0	41.5	53.8

通し番号　N0.50 のうちの N0.2　　区分内頁　区分浦島太郎の Ｐ１ のうちの Ｐ１

添付ファイルなしで件名と本文のみのメール送信する場合は、

印刷処理か ファイルの メール送信 の選択		

の左側のセルのコンボボックスで

印刷処理か ファイルの メール送信 の選択	添付ファイルなし件名本文のみのメール

と選択します。すると

印刷処理か ファイルの メール送信 の選択	メールで送信する	メールで送信する

なります。

ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートのメールアドレスが入力されている列番号	
ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートの件名が入力されている列番号	
ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートの本文が入力されている列番号	

の右側の各セルには

ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートのメールアドレスが入力されている列番号	33
ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートの件名が入力されている列番号	34
ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートの本文が入力されている列番号	35

と入力します。

ファイルのメール送信の場合の添付ファイルの保存先ドライブ及びフォルダー	

の部分の右側のセルは、ブランクのままで結構ですし

ファイルのメール送信の場合の添付ファイルの保存先ドライブ及びフォルダー	D*¥B

と入力していただいても結構です。
添付ファイルなしで件名と本文のみのメール送信する場合についても、処理を実行するには、シート「一学期中間考査一覧表付ファイル作成入力設定１」の画面である上の[図１７２]の画面のコマンドボタン

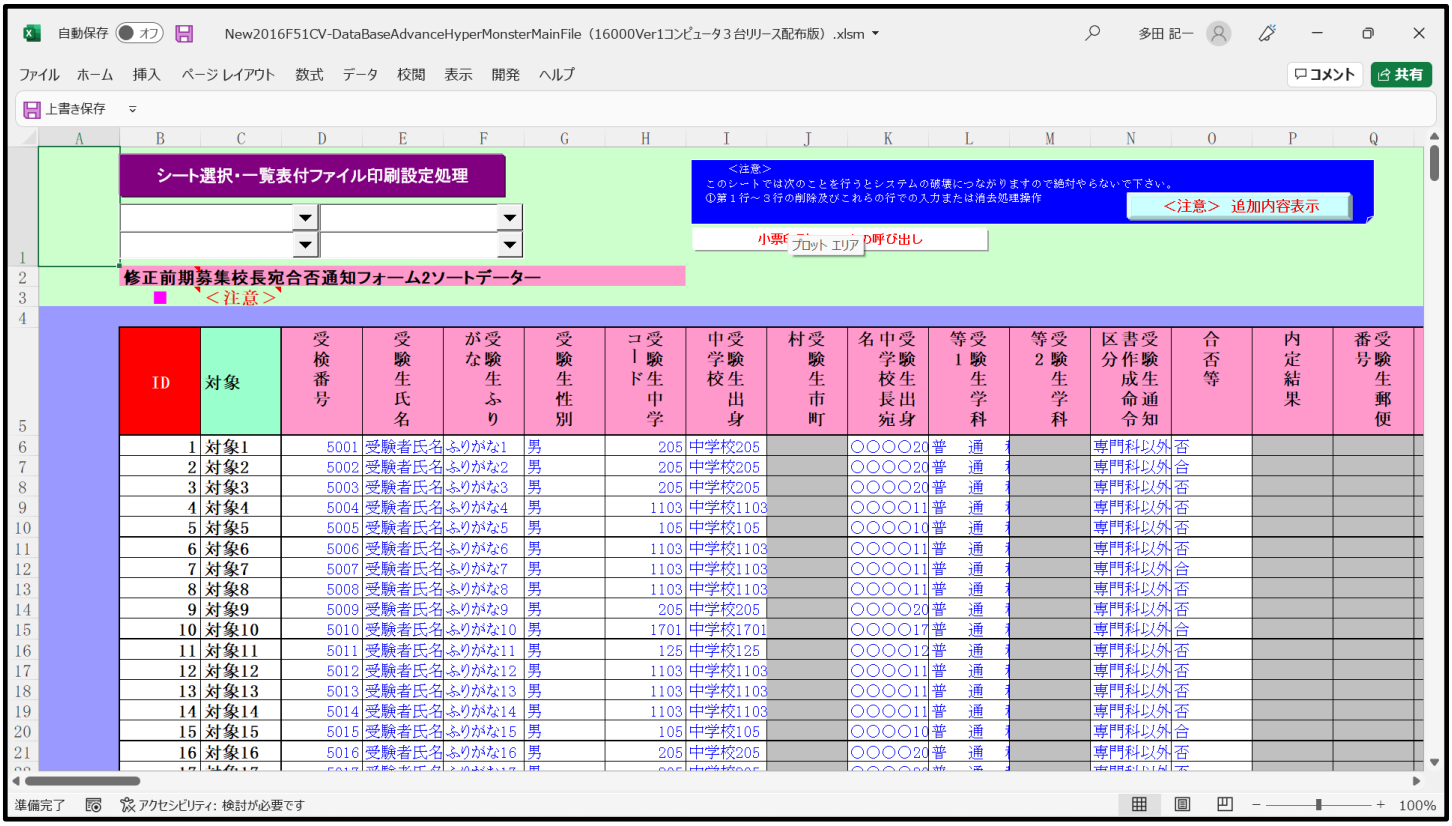
をクリックていただければ結構です。

② 「入力シート」における表の複数の行を、「入力シート」における表の１行当たりをそれぞれ「印刷フォーム」シートで横に複数列に配置して表示しながら印刷、印刷範囲を PDF の添付ファイルとしてメール送信する場合の入力、印刷、印刷範囲を PDF の添付ファイルとしてメール送信する場合：

「入力シート」における表の複数の行を、「入力シート」における表の１行当たりをそれぞれ「印刷フォーム」シートに複数列配置して表示しながら印刷、印刷範囲を PDF の添付ファイルとしてメール送信する場合の入力、印刷、印刷範囲を PDF の添付ファイルとしてメール送信する方法を説明する前に、やっておくことを説明させていただきます。

（５）シート「一覧表付ファイル作成入力設定」の入力と印刷・メール送信について
の最初の方でデーターファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2.xlsm
のシート「印刷フォーム１ソートデーター」の内容をファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile
（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
のシート「修正前期募集校長宛合否通知フォーム２ソートデーター」に複写する方法について説明いたしました。
その複写の結果、ファイル
New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile
（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
のシート「修正前期募集校長宛合否通知フォーム２ソートデーター」の様子は次の[図１７５]の画面のようになっていました。

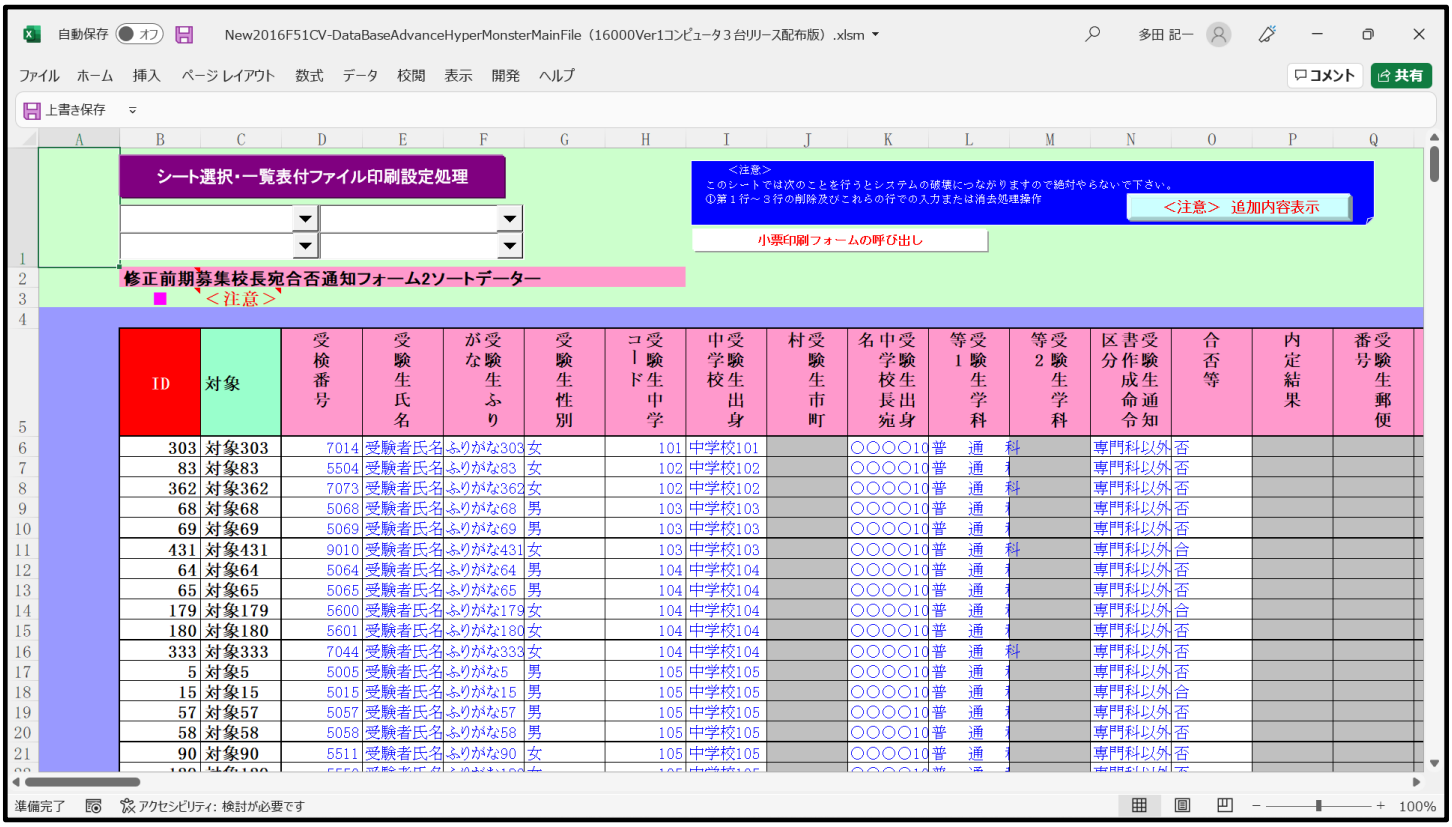
[図１７５]



ID	対象	受検番号	受験生氏名	がな受験生ふり	受験生性別	コード受験生中学	中学受験校生出身	村受験生市町	名中受学校長宛生出身	等受1験生学科	等受2験生学科	区書受作験成生命通令知	合否等	内定結果	番号受験生郵便
1	対象1	5001	受験者氏名	ふりがな1	男	205	中学校205		○○○○20	普　通		専門科以外	否		
2	対象2	5002	受験者氏名	ふりがな2	男	205	中学校205		○○○○20	普　通		専門科以外	合		
3	対象3	5003	受験者氏名	ふりがな3	男	205	中学校205		○○○○20	普　通		専門科以外	否		
4	対象4	5004	受験者氏名	ふりがな4	男	1103	中学校1103		○○○○11	普　通		専門科以外	否		
5	対象5	5005	受験者氏名	ふりがな5	男	105	中学校105		○○○○10	普　通		専門科以外	否		
6	対象6	5006	受験者氏名	ふりがな6	男	1103	中学校1103		○○○○11	普　通		専門科以外	否		
7	対象7	5007	受験者氏名	ふりがな7	男	1103	中学校1103		○○○○11	普　通		専門科以外	合		
8	対象8	5008	受験者氏名	ふりがな8	男	1103	中学校1103		○○○○11	普　通		専門科以外	否		
9	対象9	5009	受験者氏名	ふりがな9	男	205	中学校205		○○○○20	普　通		専門科以外	否		
10	対象10	5010	受験者氏名	ふりがな10	男	1701	中学校1701		○○○○17	普　通		専門科以外	合		
11	対象11	5011	受験者氏名	ふりがな11	男	125	中学校125		○○○○12	普　通		専門科以外	否		
12	対象12	5012	受験者氏名	ふりがな12	男	1103	中学校1103		○○○○11	普　通		専門科以外	否		
13	対象13	5013	受験者氏名	ふりがな13	男	1103	中学校1103		○○○○11	普　通		専門科以外	否		
14	対象14	5014	受験者氏名	ふりがな14	男	1103	中学校1103		○○○○11	普　通		専門科以外	否		
15	対象15	5015	受験者氏名	ふりがな15	男	105	中学校105		○○○○10	普　通		専門科以外	合		
16	対象16	5016	受験者氏名	ふりがな16	男	205	中学校205		○○○○20	普　通		専門科以外	否		

上の[図１７５]の画面では、表のデーターが「ID」欄において数値の低い方から高い方に並んでいます。これをソートし直します。最初にシートの保護を解除し、第１キーを「中学校コード」を選択し値の低い方から高い方に、第２キーを「受験番号」を選択し、値の低い方から高い方にそれぞれ設定してそソートします。このようにソートし直すと次の[図１７６]の画面のようになります。

[図１７６]

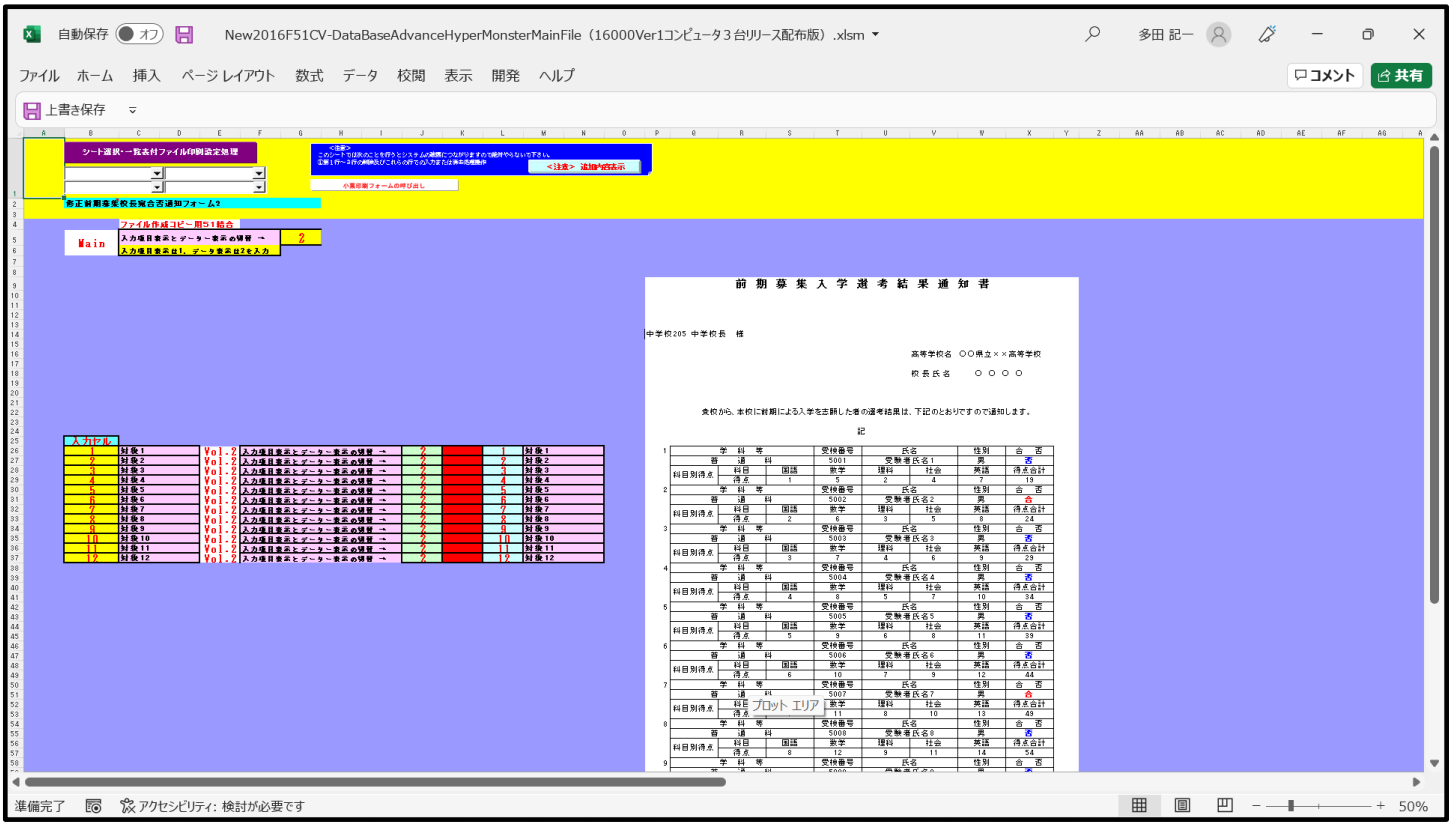


ID	対象	受検番号	受験生氏名	がな受験生ふり	受験生性別	コード受験生中学	中学受験校生出身	村受験生市町	名中受学校長宛生出身	等受1験生学科	等受2験生学科	区書受作験成生命通令知	合否等	内定結果	番号受験生郵便
303	対象303	7014	受験者氏名	ふりがな303	女	101	中学校101		○○○○10	普　通	科	専門科以外	否		
83	対象83	5504	受験者氏名	ふりがな83	女	102	中学校102		○○○○10	普　通		専門科以外	否		
362	対象362	7073	受験者氏名	ふりがな362	女	102	中学校102		○○○○10	普　通	科	専門科以外	否		
68	対象68	5068	受験者氏名	ふりがな68	男	103	中学校103		○○○○10	普　通		専門科以外	否		
69	対象69	5069	受験者氏名	ふりがな69	男	103	中学校103		○○○○10	普　通		専門科以外	否		
431	対象431	9010	受験者氏名	ふりがな431	女	103	中学校103		○○○○10	普　通	科	専門科以外	合		
64	対象64	5064	受験者氏名	ふりがな64	男	104	中学校104		○○○○10	普　通		専門科以外	否		
65	対象65	5065	受験者氏名	ふりがな65	男	104	中学校104		○○○○10	普　通		専門科以外	否		
179	対象179	5600	受験者氏名	ふりがな179	女	104	中学校104		○○○○10	普　通		専門科以外	合		
180	対象180	5601	受験者氏名	ふりがな180	女	104	中学校104		○○○○10	普　通		専門科以外	否		
333	対象333	7044	受験者氏名	ふりがな333	女	104	中学校104		○○○○10	普　通	科	専門科以外	否		
5	対象5	5005	受験者氏名	ふりがな5	男	105	中学校105		○○○○10	普　通		専門科以外	否		
15	対象15	5015	受験者氏名	ふりがな15	男	105	中学校105		○○○○10	普　通		専門科以外	合		
57	対象57	5057	受験者氏名	ふりがな57	男	105	中学校105		○○○○10	普　通		専門科以外	否		
58	対象58	5058	受験者氏名	ふりがな58	男	105	中学校105		○○○○10	普　通		専門科以外	否		
90	対象90	5511	受験者氏名	ふりがな90	女	105	中学校105		○○○○10	普　通		専門科以外	否		

ところで、ファイル

New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterMainFile
（16000Ver1 コンピュータ３台リリース配布版）.xlsm
の印刷フォームシート「修正前期募集校長宛合否通知フォーム２」は、次の[図１７７]の画面のようになっていました。但し、シートの表示倍率が 50%のものです。

[図１７７]



上の[図１７７]の画面の

1	対象1	Vol.2	入力項目表示とデーター表示の切替 →	2		1	対象1
2	対象2	Vol.2	入力項目表示とデーター表示の切替 →	2		2	対象2
3	対象3	Vol.2	入力項目表示とデーター表示の切替 →	2		3	対象3
4	対象4	Vol.2	入力項目表示とデーター表示の切替 →	2		4	対象4
5	対象5	Vol.2	入力項目表示とデーター表示の切替 →	2		5	対象5
6	対象6	Vol.2	入力項目表示とデーター表示の切替 →	2		6	対象6
7	対象7	Vol.2	入力項目表示とデーター表示の切替 →	2		7	対象7
8	対象8	Vol.2	入力項目表示とデーター表示の切替 →	2		8	対象8
9	対象9	Vol.2	入力項目表示とデーター表示の切替 →	2		9	対象9
10	対象10	Vol.2	入力項目表示とデーター表示の切替 →	2		10	対象10
11	対象11	Vol.2	入力項目表示とデーター表示の切替 →	2		11	対象11
12	対象12	Vol.2	入力項目表示とデーター表示の切替 →	2		12	対象12

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12

の 12 の部分において、各セルの値は、次の表における左の各番号を表す各データーがファイル New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2.xlsm
のシート「入力 AA1 高校入試通知書等作成データー」の表における上からの何行目データーであるかを

示す数値でした。

上の[図１７７]の画面の右側の背景色を抜いたうちの表部分

1	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5001	受験者氏名1		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	1	5	2	4	7	19
2	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5002	受験者氏名2		男	合
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	2	6	3	5	8	24
3	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5003	受験者氏名3		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	3	7	4	6	9	29
4	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5004	受験者氏名4		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	4	8	5	7	10	34
5	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5005	受験者氏名5		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	5	9	6	8	11	39
6	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5006	受験者氏名6		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	6	10	7	9	12	44
7	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5007	受験者氏名7		男	合
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	7	11	8	10	13	49
8	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5008	受験者氏名8		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	8	12	9	11	14	54
9	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5009	受験者氏名9		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	9	13	10	12	15	59
10	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5010	受験者氏名10		男	合
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	10	14	11	13	16	64
11	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5011	受験者氏名11		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	11	15	12	14	17	69
12	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5012	受験者氏名12		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	12	16	13	15	18	74

に対し、

例えば、上の[図１７７]の画面の 3 と入力されているセルに対応する上の表の

3	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5003	受験者氏名3		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	3	7	4	6	9	29

の部分のデーターは、
ファイル New2016F51CV-DataBaseAdvanceHyperMonsterDataFileNO.2.xlsm
のシート「入力 AA1 高校入試通知書等作成データー」の表における上から第３行目のデーターを表示しています。

ID
303
83
362
68
69
431
64
65
179
180
333
5
15
57
58
90
129

の

303
83
362
68
69
431
64
65
179
180
333
5
15
57
58
90
129

の部分の値を上から順にコピーし、上の[図１７７]

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12

の画面の

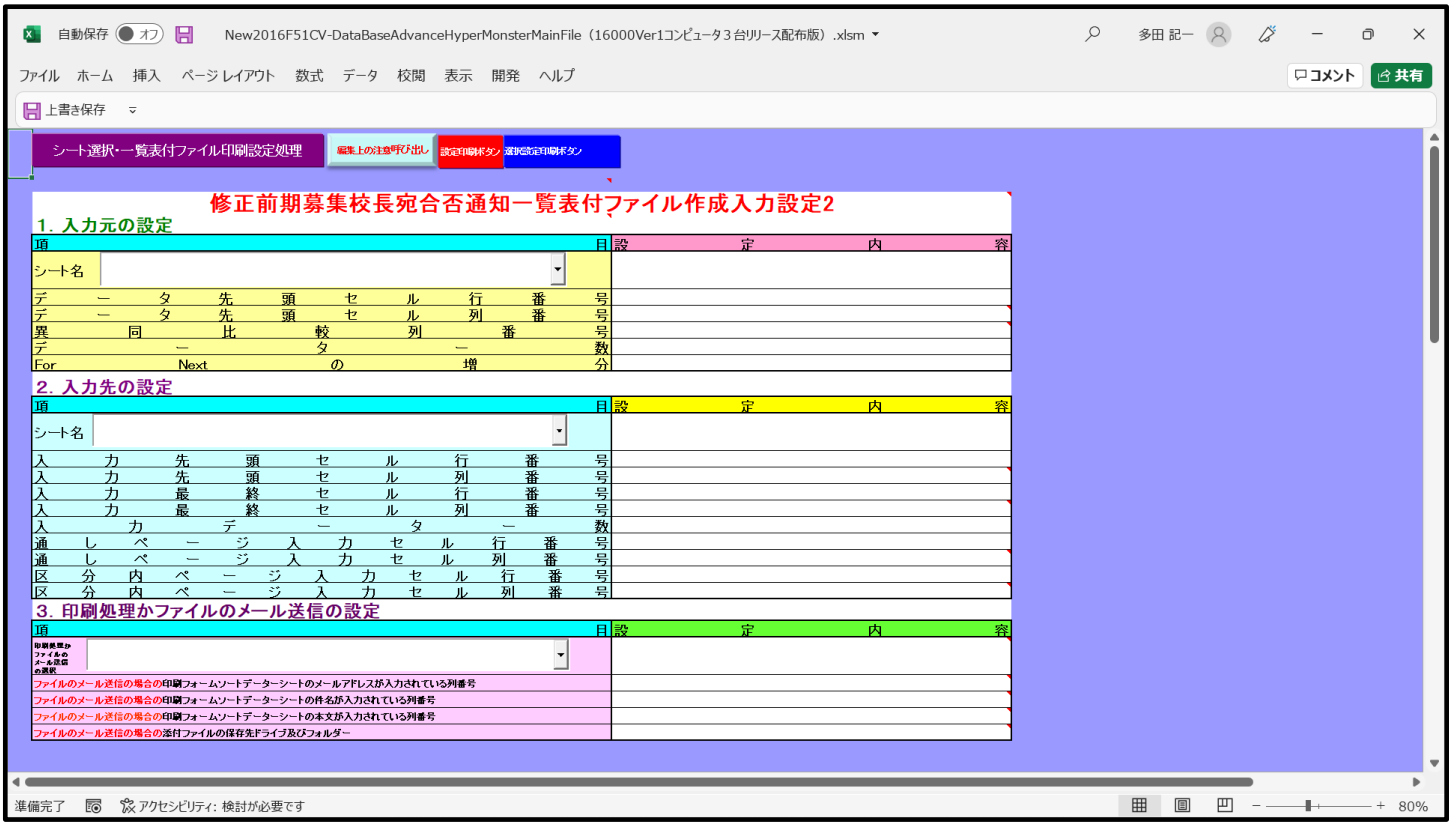
の部分の各セルに上から順に「中学区コード」の値も調べながら貼り付けて、しかも同じ中学区コードが１２個以上連続して続いている場合は１２個のデーターを貼り付けるごとに印刷または印刷範囲を自動 PDF の添付ファイルとしてメール送信し、同じ中学区コードが切り替わるごとに印刷処理および印刷範囲を 自動 PDF の添付ファイルとしてメール送信する処理ができれば自動印刷処理や印刷範囲を PDF の添付ファイルとしてメール送信する自動処理ができることになります。
実は、このような自動処理が「一覧表付ファイル作成入力設定」シートであるシート
「修正前期募集校長宛合否通知一覧表付ファイル作成入力設定 2」の入力設定を行うことによって可能です。

それでは、これから「入力シート」における表の複数の行を、「入力シート」における表の１行当たりをそれぞれ「印刷フォーム」シートに横複数列に配置して表示しながら印刷、印刷範囲を PDF の添付ファイルとしてメール送信する場合の印刷、印刷範囲を PDF の添付ファイルとしてメール送信するシート
「修正前期募集校長宛合否通知一覧表付ファイル作成入力設定 2」の入力設定の方法および印刷、印刷範囲を PDF の添付ファイルとしてメール送信する方法を説明していきたいと思います。

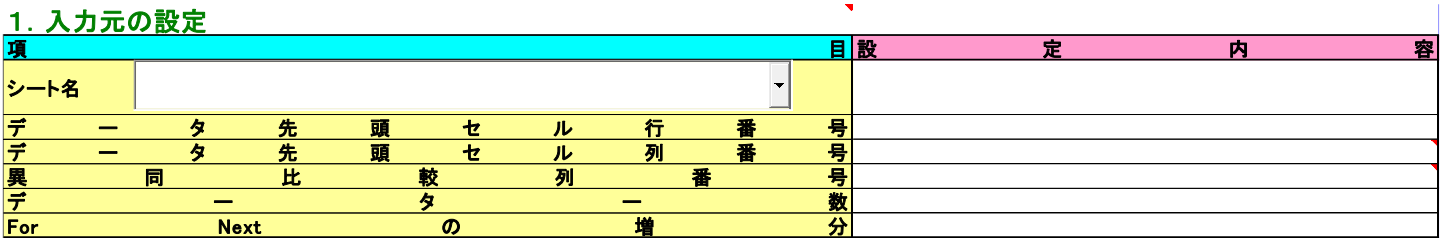
次の[図１７８]の画面はシート

「修正前期募集校長宛合否通知一覧表付ファイル作成入力設定２」の画面です。

[図１７８]

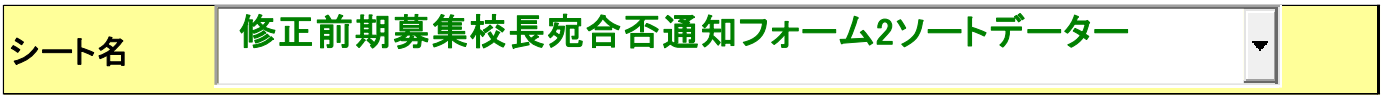


先ず、

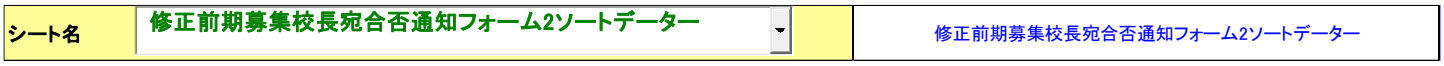


の部分の入力設定に「ついて説明いたします。

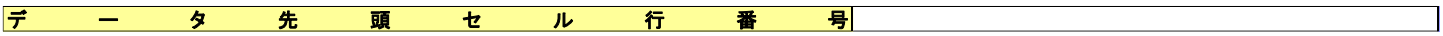
の部分の左側のコンボボックスで



と選択すると右側のセルにも入力されて



となります。



ID
303
83
362
68
69
431
64
65
179
180
333
5
15
57
58
90
129

の部分の右側のセルには、上の[図１７６]の画面の 303 の部分上側の 303 と表示されているセルの番地「B6」の行番号「6」を入力して、

データ先頭セル行番号	6

とします。また、

データ先頭セル列番号	

ID
303
83
362
68
69
431
64
65
179
180
333
5
15
57
58
90
129

の部分の右側のセルには、上の[図１７６]の画面の 303 の部分上側の 303 と表示されているセルの番地「B6」の列番号「2」を入力して

データ先頭セル列番号	2

とします。但し、列番号については、私どもでは次の表ように約束しています。

列	A	B	C	・・・・	Z	AA	AB	・・・・
列番号	1	2	3	・・・・	26	27	28	・・・・

また、

異同比較列番号	

の右側のセルには、データーが連続して続くのかそれとも異なってしまうのか調査する列の番号を入力

しますが、その列として上の[図１７６]の画面の見出し

受験生出身中学校

と表示されている列「I」の列番号「9」を入力して、

異同比較列番号	9

とします。

データー数	

の右側のセルには、上の[図１７４]の画面の表における有効な処理するデーターの個数「474」を入力して

データー数	474

とします。

For Next の増分	

部分の右側のせるには数値「1」を入力して（通常は１を入力します。）

For Next の増分	1

とします。

次に

2. 入力先の設定

項目	設定内容
シート名	
入力先頭セル行番号	
入力先頭セル列番号	
入力最終セル行番号	
入力最終セル列番号	
入力データー数	
通しページ入力セル行番号	
通しページ入力セル列番号	
区分内ページ入力セル行番号	
区分内ページ入力セル列番号	

の部分の入力設定について説明いたします。

先ず、

シート名	

については、左側のコンボボックスで

シート名	修正前期募集校長宛合否通知フォーム2

と選択すると右側のセルにも入力されて

シート名	修正前期募集校長宛合否通知フォーム2	修正前期募集校長宛合否通知フォーム2

となります。

入力先頭セル行番号	

入力セル
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12

の右側のセルには、上の[図１７７]の画面の 12 の部分で 1 と表示されているセルの番地「B26」の行番号「26」を入力して

入力先頭セル行番号	26

とします。

入力先頭セル列番号	

入力セル
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12

の右側のセルには、上の[図１７７]の画面の 12 の部分で 1 と表示されているセルの番地「B26」の列番号「2」を入力して

入力先頭セル列番号	2

とします。

入力最終セル行番号	

入力セル
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12

の右側のセルには、上の[図１７７]の画面の 12 の部分の最も下側の 12 と表示されているセルの番地「B37」の行番号「37」を入力して

入力最終セル行番号	37

とします。

入力最終セル列番号	

入力セル
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12

の右側のセルには、上の[図１７７]の画面の12の部分の最も下側の12と表示されているセルの番地「B37」の列番号「2」を入力して

入力最終セル列番号	2

とします。

入力データー数	

入力セル
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12

の右側のセルには、上の[図１７７]の画面の12の部分の12と表示されているセルの個数「12」を入力して

入力データー数	12

とします。

上の[図１７７]の画面の印刷部分は背景色なしの次の[図１７９]の画面の部分です。

[図１７９]

前 期 募 集 入 学 選 考 結 果 通 知 書

中学校205 中学校長　様

高等学校名 ○○県立××高等学校

校 長 氏 名　　○ ○ ○ ○

貴校から、本校に前期による入学を志願した者の選考結果は、下記のとおりですので通知します。

記

1	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5001	受験者氏名1		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	1	5	2	4	7	19
2	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5002	受験者氏名2		男	合
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	2	6	3	5	8	24
3	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5003	受験者氏名3		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	3	7	4	6	9	29
4	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5004	受験者氏名4		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	4	8	5	7	10	34
5	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5005	受験者氏名5		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	5	9	6	8	11	39
6	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5006	受験者氏名6		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	6	10	7	9	12	44
7	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5007	受験者氏名7		男	合
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	7	11	8	10	13	49
8	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5008	受験者氏名8		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	8	12	9	11	14	54
9	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5009	受験者氏名9		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	9	13	10	12	15	59
10	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5010	受験者氏名10		男	合
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	10	14	11	13	16	64
11	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5011	受験者氏名11		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	11	15	12	14	17	69
12	学　科　等			受検番号	氏名		性別	合　否
	普　通　科			5012	受験者氏名12		男	否
	科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
		得点	12	16	13	15	18	74

上の[図１７９]の画面の印刷部分には、シートを保護しても保護がかからない領域を確保し、そして、

その領域に印刷の通し番号と区分内ページを表示するセルを指定する必要があります。
シートを保護しても保護がかからない領域を確保し、そして、その領域に印刷の通し番号と区分内ページを表示するセルを上の[図１７９]の画面の黄色で表示されている

の領域内に指定したいと思います。
通し番号を表示するセルは上の[図１７９]の画面の のセルに、区分内ページを表示するセルは にしたいと思います。 のセル番地は「P74」で のセル番地は「U74」です。従って、

通　し　ペ　ー　ジ　入　力　セ　ル　行　番　号	

の右側のセルにはセル番地は「P74」の行番号「74」を入力して

通　し　ペ　ー　ジ　入　力　セ　ル　行　番　号	74

とし、

通　し　ペ　ー　ジ　入　力　セ　ル　列　番　号	

の右側のセルにはセル番地は「P74」の列番号「16」を入力して

通　し　ペ　ー　ジ　入　力　セ　ル　列　番　号	16

とします。
また、

区　分　内　ペ　ー　ジ　入　力　セ　ル　行　番　号	

の右側のセルにはセル番地は「U74」の行番号「74」を入力して

区　分　内　ペ　ー　ジ　入　力　セ　ル　行　番　号	74

とし、

区　分　内　ペ　ー　ジ　入　力　セ　ル　列　番　号	

の右側のセルにはセル番地は「U74」の列番号「20」を入力して

区　分　内　ペ　ー　ジ　入　力　セ　ル　列　番　号	20

とします。

最後の

３．印刷処理かファイルのメール送信の設定

項　目	設　定　内　容
印刷処理かファイルのメール送信の選択	
ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートのメールアドレスが入力されている列番号	
ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートの件名が入力されている列番号	
ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートの本文が入力されている列番号	
ファイルのメール送信の場合の添付ファイルの保存先ドライブ及びフォルダー	

の部分の入力設定について説明いたします。
単に印刷処理を行うには

印刷処理かファイルのメール送信の選択	

の左側のコンボボックスで

印刷処理かファイルのメール送信の選択	印刷する

と選択すると右側のセルに

印刷処理かファイルのメール送信の選択	印刷する　　印刷する

と入力されます。そして、

ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートのメールアドレスが入力されている列番号	
ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートの件名が入力されている列番号	
ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートの本文が入力されている列番号	
ファイルのメール送信の場合の添付ファイルの保存先ドライブ及びフォルダー	

の部分の右側のセルにはなにも入力しなくても結構です。

あとは上の[図１７８]の画面のコマンドボタン 設定印刷ボタン をクリックしていただければ印刷処理が実行できます。

しかし、印刷範囲を PDF の添付ファイルとしてメール送信する場合には、上の印刷の場合の入力設定とは異なります。この場合については、

印刷処理か ファイルの メール送信 の選択		

の左側のコンボボックスで

印刷処理か ファイルの メール送信 の選択	メールで送信する

を選択して

印刷処理か ファイルの メール送信 の選択	メールで送信する	メールで送信する

と設定し、

ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートのメールアドレスが入力されている列番号	
ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートの件名が入力されている列番号	
ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートの本文が入力されている列番号	
ファイルのメール送信の場合の添付ファイルの保存先ドライブ及びフォルダー	

の部分の右側全てののセルにも入力設定する必要があります。

ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートのメールアドレスが入力されている列番号	

の右側のセルには、「印刷フォームソートデーター」シートであるシート「修正前期募集校長宛合否通知フォーム 2 ソートデーター」におけるメールアドレスが入力されている列「S」の列番号「19」を入力して

ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートのメールアドレスが入力されている列番号	19

とします。

ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートの件名が入力されている列番号	

の右側のセルには、「印刷フォームソートデーター」シートであるシート「修正前期募集校長宛合否通知フォーム 2 ソートデーター」におけるメールアドレスが入力されている列「T」の列番号「20」を入力して

ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートの件名が入力されている列番号	20

とします。

ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートの本文が入力されている列番号	

の右側のセルには、「印刷フォームソートデーター」シートであるシート「修正前期募集校長宛合否通知フォーム 2 ソートデーター」におけるメールアドレスが入力されている列「U」の列番号「21」を入力して

ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートの本文が入力されている列番号	21

とします。

ファイルのメール送信の場合の添付ファイルの保存先ドライブ及びフォルダー	

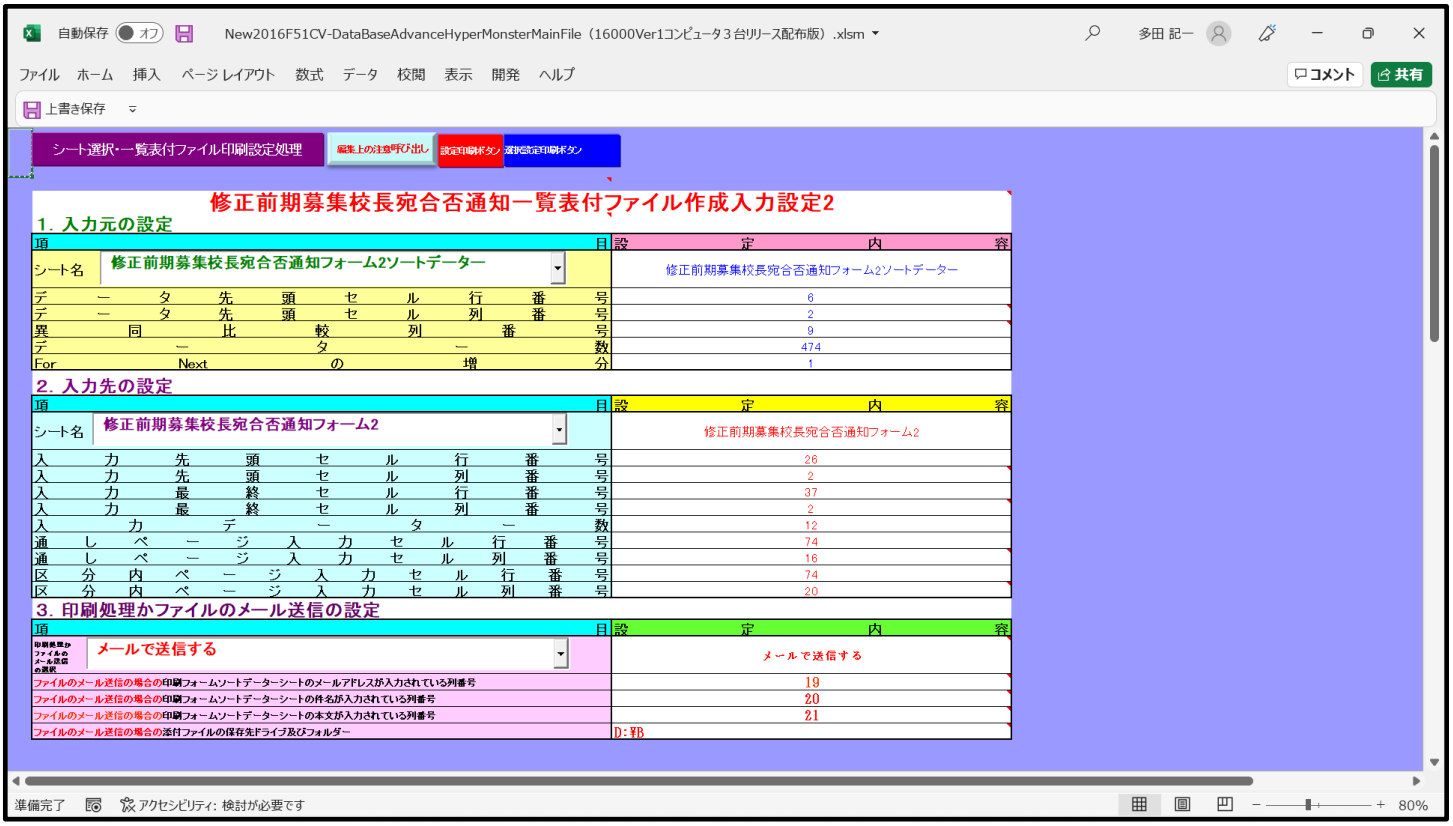
の右側のセルには、メールを送信するに当たって、一時的に印刷範囲を PDF ファイルとして保存しておくドライブとフォルダーを入力します。「D」ドライブのフォルダー「B」に一時的に保存したいと思いますので、「D:¥B」と入力して、

ファイルのメール送信の場合の添付ファイルの保存先ドライブ及びフォルダー	D:¥B

とします。

つまり、印刷範囲を PDF の添付ファイルとしてメール送信をする場合の一覧表付ファイル作成入力設定シート「修正前期募集校長宛合否通知一覧表付ファイル作成入力設定 2」の入力設定は次の[図１８０]の画面の通りです。

[図１８０]



印刷範囲を PDF の添付ファイルとしてメール送信をするには、一覧表付ファイル作成入力設定シート「修正前期募集校長宛合否通知一覧表付ファイル作成入力設定 2」の画面である上の[図１８０]の画面のコマンドボタン

をクリックしていただければ結構です。
因みに、上の[図１８０]の画面の設定で印刷範囲を PDF の添付ファイルとしてメール送信した場合、メールの５件目、６件目、７件目の添付ファイルは、それぞれ次の[図１８１]、[図１８２]、[図１８３]の画面のようになっています。これらは「中学校 105」の校長宛のメールで出願した生徒２５名の合否の結果のメールです。なお、全てのメールの送信件数は１６２件です。

[図１８１]

1 / 1

前 期 募 集 入 学 選 考 結 果 通 知 書

中学校105 中学校長　様

高等学校名 ○○県立××高等学校
校 長 氏 名　　○ ○ ○ ○

貴校から、本校に前期による入学を志願した者の選考結果は、下記のとおりですので通知します。

記

1	学　科　等		受検番号	氏名			性別	合　否
	普　通　科		5005	受験者氏名5			男	否
科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計	
	得点	5	9	6	8	11	39	
2	学　科　等		受検番号	氏名			性別	合　否
	普　通　科		5015	受験者氏名15			男	否
科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計	
	得点	15	19	16	18	21	89	
3	学　科　等		受検番号	氏名			性別	合　否
	普　通　科		5057	受験者氏名57			男	否
科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計	
	得点	57	61	58	60	63	299	
4	学　科　等		受検番号	氏名			性別	合　否
	普　通　科		5058	受験者氏名58			男	否
科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計	
	得点	58	62	59	61	64	304	
5	学　科　等		受検番号	氏名			性別	合　否
	普　通　科		5511	受験者氏名90			女	否
科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計	
	得点	90	94	91	93	96	464	
6	学　科　等		受検番号	氏名			性別	合　否
	普　通　科		5550	受験者氏名129			女	否
科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計	
	得点	129	133	130	132	135	659	
7	学　科　等		受検番号	氏名			性別	合　否
	普　通　科		5551	受験者氏名130			女	否
科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計	
	得点	130	134	131	133	136	664	
8	学　科　等		受検番号	氏名			性別	合　否
	普　通　科		5552	受験者氏名131			女	否
科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計	
	得点	131	135	132	134	137	669	
9	学　科　等		受検番号	氏名			性別	合　否
	普　通　科		5612	受験者氏名191			女	否
科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計	
	得点	191	195	192	194	197	969	
10	学　科　等		受検番号	氏名			性別	合　否
	普　通　科		5613	受験者氏名192			女	否
科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計	
	得点	192	196	193	195	198	974	
11	学　科　等		受検番号	氏名			性別	合　否
	普　通　科		5615	受験者氏名194			女	否
科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計	
	得点	194	198	195	197	200	984	
12	学　科　等		受検番号	氏名			性別	合　否
	普　通　科		6016	受験者氏名233			女	否
科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計	
	得点	233	237	234	236	239	1179	

通し番号　NO.162 のうちの NO.5　　区分内頁　区分中学校105の Ｐ３ のうちの Ｐ１

[図１８２]

1 / 1

前 期 募 集 入 学 選 考 結 果 通 知 書

中学校105 中学校長　様

高等学校名 ○○県立××高等学校
校 長 氏 名　　○ ○ ○ ○

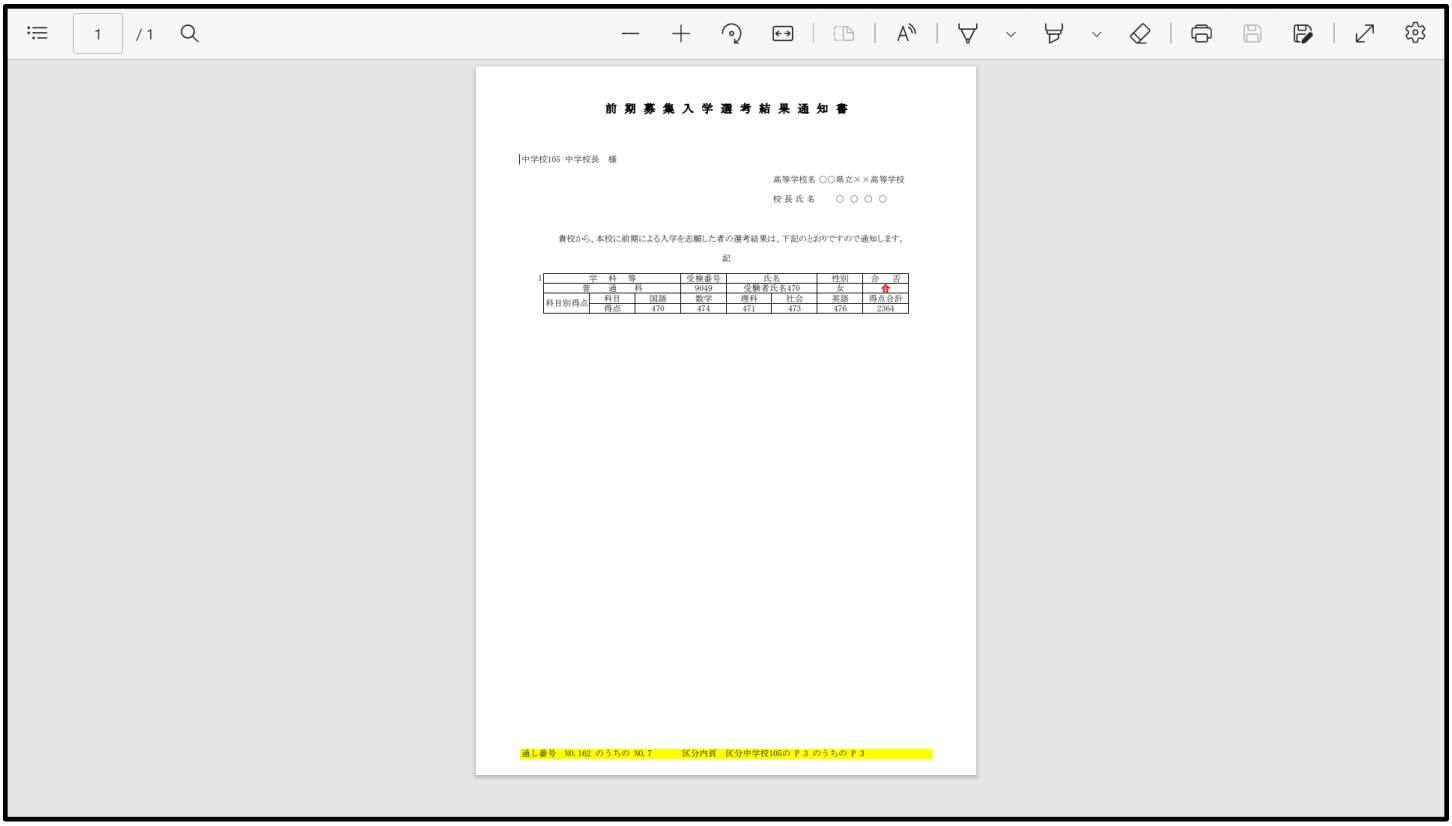
貴校から、本校に前期による入学を志願した者の選考結果は、下記のとおりですので通知します。

記

1	学　科　等		受検番号	氏名			性別	合　否
	普　通　科		6017	受験者氏名234			女	否
科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計	
	得点	234	238	235	237	240	1184	
2	学　科　等		受検番号	氏名			性別	合　否
	普　通　科		6070	受験者氏名287			女	否
科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計	
	得点	287	291	288	290	293	1449	
3	学　科　等		受検番号	氏名			性別	合　否
	普　通　科		6071	受験者氏名288			女	否
科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計	
	得点	288	292	289	291	294	1454	
4	学　科　等		受検番号	氏名			性別	合　否
	普　通　科		7001	受験者氏名290			女	否
科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計	
	得点	290	294	291	293	296	1464	
5	学　科　等		受検番号	氏名			性別	合　否
	普　通　科		7027	受験者氏名316			女	否
科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計	
	得点	316	320	317	319	322	1594	
6	学　科　等		受検番号	氏名			性別	合　否
	普　通　科		7028	受験者氏名317			女	否
科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計	
	得点	317	321	318	320	323	1599	
7	学　科　等		受検番号	氏名			性別	合　否
	普　通　科		7029	受験者氏名318			男	否
科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計	
	得点	318	322	319	321	324	1604	
8	学　科　等		受検番号	氏名			性別	合　否
	普　通　科		8015	受験者氏名395			女	否
科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計	
	得点	395	399	396	398	401	1989	
9	学　科　等		受検番号	氏名			性別	合　否
	普　通　科		8018	受験者氏名398			女	否
科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計	
	得点	398	402	399	401	404	2004	
10	学　科　等		受検番号	氏名			性別	合　否
	普　通　科		8037	受験者氏名417			女	否
科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計	
	得点	417	421	418	420	423	2099	
11	学　科　等		受検番号	氏名			性別	合　否
	普　通　科		9040	受験者氏名461			女	否
科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計	
	得点	461	465	462	464	467	2319	
12	学　科　等		受検番号	氏名			性別	合　否
	普　通　科		9044	受験者氏名465			女	否
科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計	
	得点	465	469	466	468	471	2339	

通し番号　NO.162 のうちの NO.6　　区分内頁　区分中学校105の Ｐ３ のうちの Ｐ２

[図１８３]



前期募集入学選考結果通知書

中学校105 中学校長　様

高等学校名 ○○県立××高等学校
校長氏名　○○○○

貴校から、本校に前期による入学を志願した者の選考結果は、下記のとおりですので通知します。

記

	学科等		受検番号	氏名		性別	合否
	普通科		9049	受験者氏名470		女	合
科目別得点	科目	国語	数学	理科	社会	英語	得点合計
	得点	470	474	471	473	476	2364

通し番号　N0.162 のうちの N0.7　　区分内頁　区分中学校105の Ｐ３ のうちの Ｐ３

更に、添付ファイルなしで件名と本文のみのメール送信する場合は、

印刷処理かファイルのメール送信の選択		

の左側のセルのコンボボックスで

印刷処理かファイルのメール送信の選択	添付ファイルなし件名本文のみのメール

と選択します。すると

印刷処理かファイルのメール送信の選択	メールで送信する	メールで送信する

なります。

ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートのメールアドレスが入力されている列番号	
ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートの件名が入力されている列番号	
ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートの本文が入力されている列番号	

の右側の各セルには

ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートのメールアドレスが入力されている列番号	33
ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートの件名が入力されている列番号	34
ファイルのメール送信の場合の印刷フォームソートデーターシートの本文が入力されている列番号	35

と入力します。

ファイルのメール送信の場合の添付ファイルの保存先ドライブ及びフォルダー	

の部分の右側のセルは、ブランクのままで結構ですし

ファイルのメール送信の場合の添付ファイルの保存先ドライブ及びフォルダー	D*¥B

と入力していただいても結構です。

添付ファイルなしで件名と本文のみのメール送信する場合についても、処理を実行するには、シート「修正前期募集校長宛合否通知一覧表付ファイル作成入力設定２」の画面である上の[図１８０]の画面のコマンドボタン 設定印刷ボタン をクリックしていただければ結構です。